

『第三次稲城市保健福祉総合計画』策定に 向けたアンケート調査報告書

平成 29 年 3 月

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査内容と対象、回収結果等	1
3	当報告書の見方	2
II	「地域福祉調査」の結果	3
III	「高齢者福祉調査」の結果	41
IV	「障害者福祉調査」の結果	95
V	「子育て・若者支援調査」の結果	147
VI	「ひとり親支援調査」の結果	187
VII	「保健医療調査」の結果	221

I 調査の概要

1 調査の目的

『第三次稲城市保健福祉総合計画』の策定にあたって、保健福祉に関する市民ニーズを把握し、基礎資料として活用することを目的とする。

2 調査内容と対象、回収結果等

調査の種類	調査対象者	調査対象者数 (A)	有効回収数 (B)	有効回収率 (B/A)
(1) 地域福祉調査	20歳以上の市民	3,000人	1,179人	39.3%
(2) 高齢者福祉調査	65歳以上で介護保険の 要支援・要介護認定を 受けていない方	3,000人	1,895人	63.2%
(3) 障害者福祉調査	身体障害 「身体障害者手帳」所持の方	1,799人	928人	51.6%
	知的障害 「愛の手帳（療育手帳）」 所持の方	422人	202人	47.9%
	精神障害 「精神障害者保健福祉手 帳」所持、または「自立支 援医療制度（精神通院）」 利用の方	1,010人	416人	41.2%
(4) 子育て・若者支 援調査	18歳以上60歳未満の市民	3,000人	931人	31.0%
(5) ひとり親家庭 調査	16歳以上で児童育成手当を 受給している方	500人	187人	37.4%
(6) 保健医療調査	20歳以上の市民	2,500人	1,118人	44.7%

《調査方法と時期および対象者》

調査方法…郵送配付・郵送回収法

調査時期…平成29年3月

調査対象者の抽出…無作為抽出（ただし、障害者調査を除く。）

3 当報告書の見方

- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。なお、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- グラフ中の「n」(net)とは、その質問への回答者数を表す。
- クロス集計の表の中で、上段の数字は回答者数(単位:人)を、下段の数字は割合(単位:%)を表している。
- 「障害者福祉調査」結果の分析に際しては、障害や病気の種別にかかわらず障害のある人や患者の状況や暮らし、要望などを包括的に把握するため、各調査に共通の質問項目ごとにまとめた。

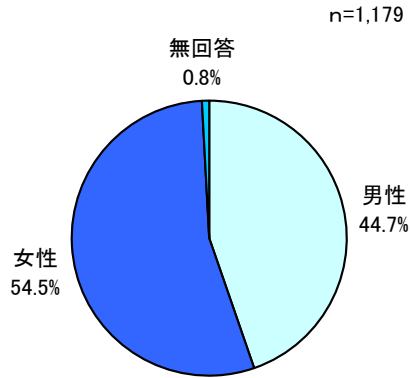
Ⅱ 「地域福祉調査」の結果

◆ 調査の結果

1 対象者自身のことについて

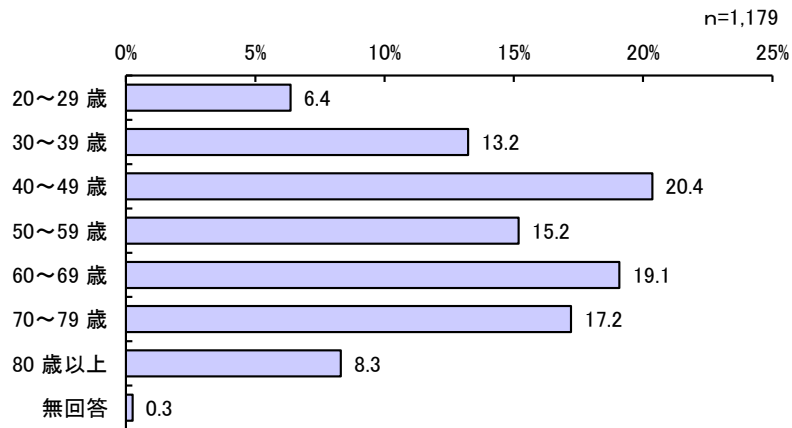
ア あなたの性別は。(1つに○)

男性が44.7%、女性が54.5%で、女性がやや多くなっている。



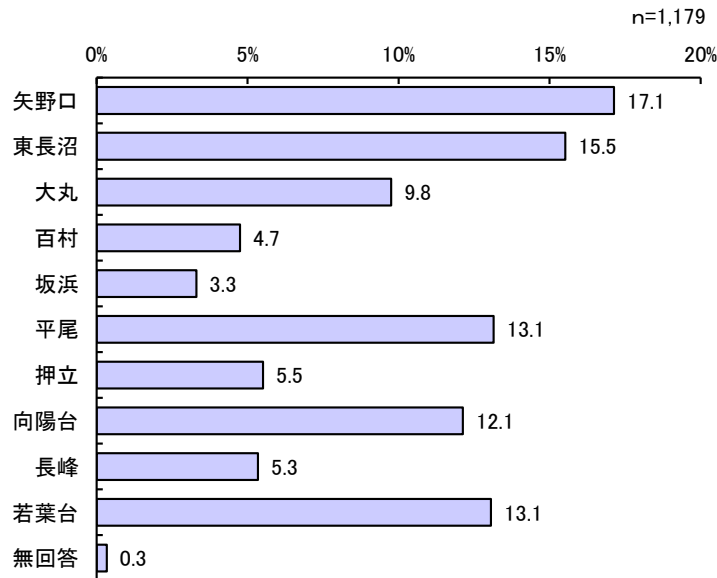
イ あなたの年齢（平成29年2月1日現在）は。(1つに○)

「40～49歳」（20.4%）が最も多く、2割を少し超えている。次いで「60～69歳」（19.1%）が多く、「70～79歳」（17.2%）、「50～59歳」（15.2%）が続いている。



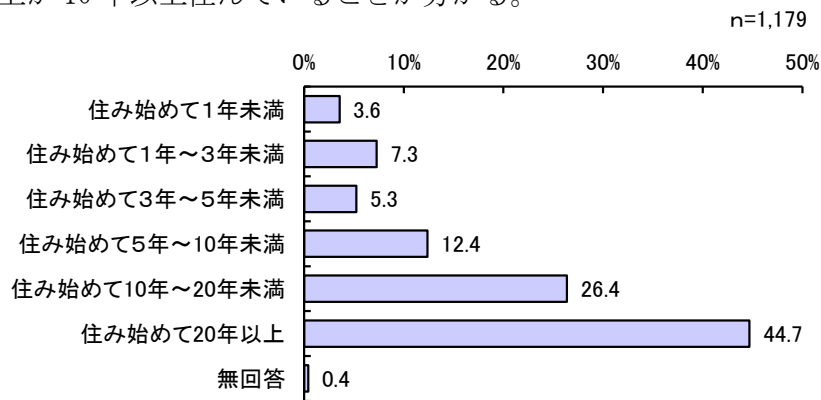
ウ あなたのお住まいの地区名は。(1つに〇)

「矢野口」(17.1%)が最も多く、次いで「東長沼」(15.5%)が多く、「平尾」(13.1%)・「若葉台」(共に13.1%)などが続く。



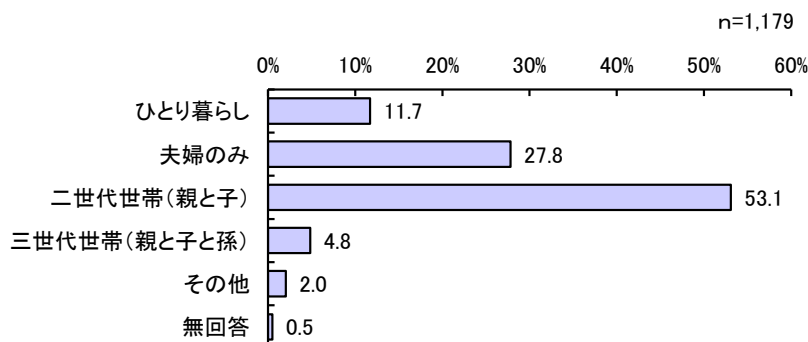
エ 稲城市に何年住んでいますか。(1つに〇)

「住み始めて20年以上」(44.7%)が最も多く、次いで多い「住み始めて10年～20年未満」(26.4%)を含めて、7割以上が10年以上住んでいることが分かる。



オ 家族構成は。(1つに〇)

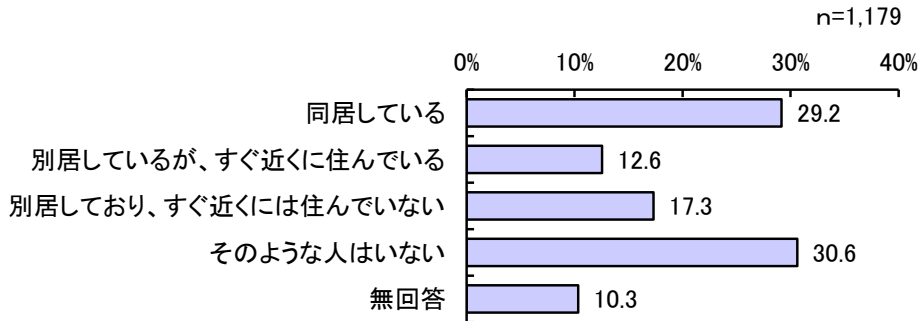
「二世帯世帯(親と子)」(53.1%)が半数を超えて最も多く、次いで「夫婦のみ」(27.8%)が多く、「ひとり暮らし」(11.7%)が続いている。



カ あなたには、次のような方が家族にいらっしゃいますか。(それぞれあてはまるもの1つに○)

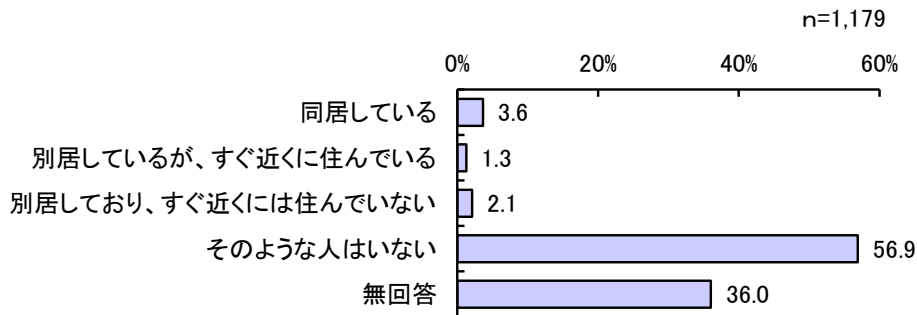
①高齢者（65歳以上）

「そのような人はいない」（30.6%）が最も多い。いる人では、「同居している」人が29.2%などとなっている。



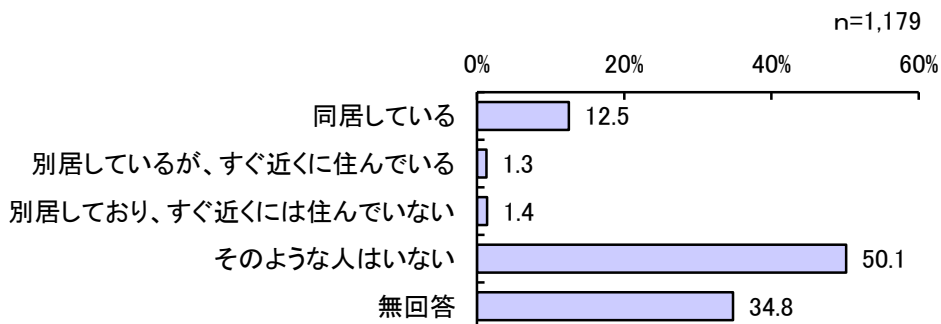
②障害のある人

「そのような人はいない」（56.9%）が過半数で最も多い。いる人では、「同居している」人が3.6%などとなっている。



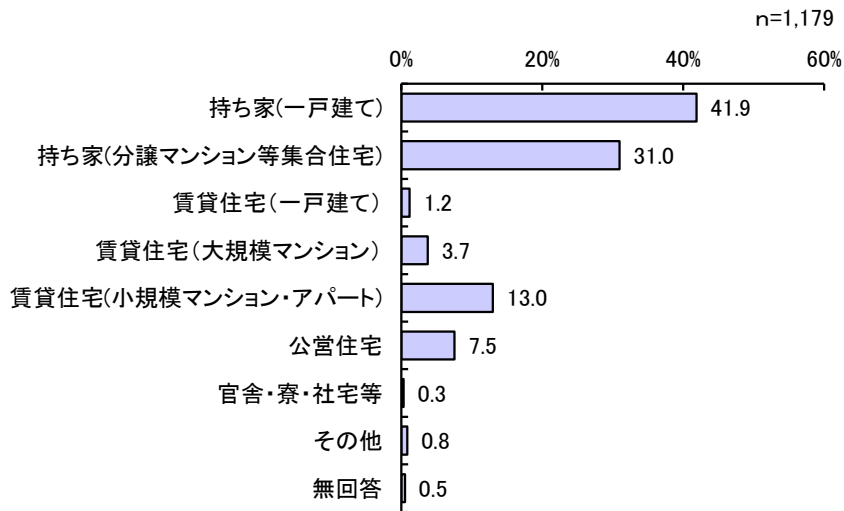
③5歳以下の人

「そのような人はいない」（50.1%）が最も多い。いる人では、「同居している」人が12.5%などとなっている。



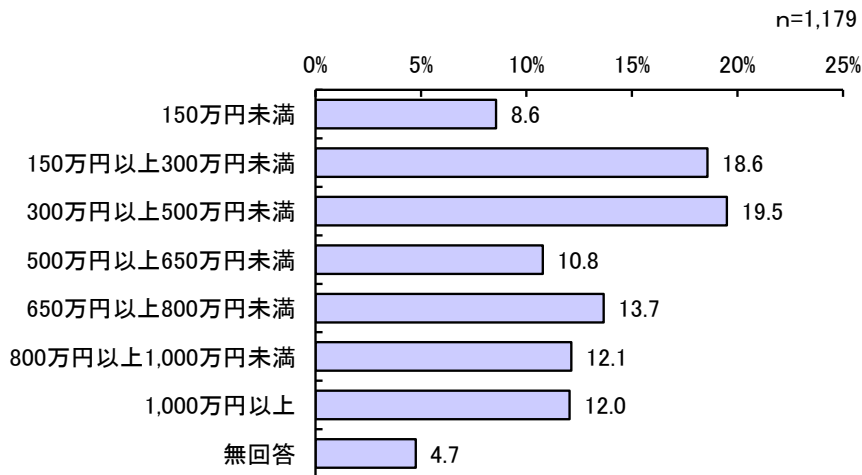
キ 住まいは次のどれにあたりますか。(1つに○)

「持ち家(一戸建て)」(41.9%)が最も多く、次いで多い「持ち家(分譲マンション等集合住宅)」(31.0%)も合わせると「持ち家」である人は7割強となっている。賃貸住宅では、「賃貸住宅(小規模マンション・アパート)」(13.0%)が最も多い。



ク あなたの世帯の世帯収入(年収)は次のどれにあたりますか。(1つに○)

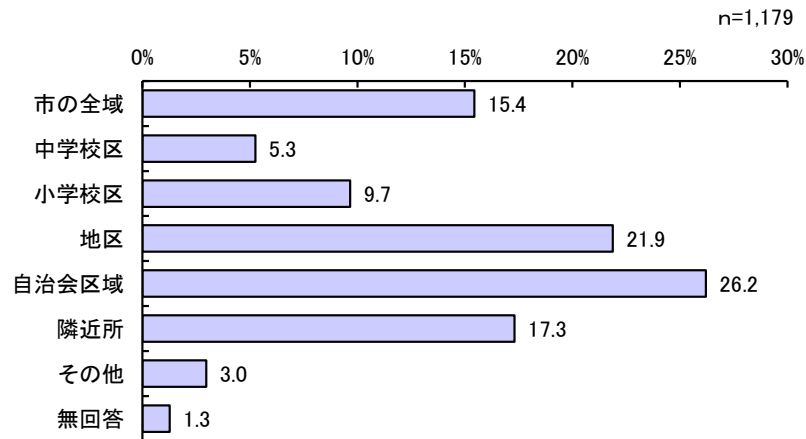
「300万円以上500万円未満」(19.5%)が最も多く、2割弱となっている。次いで「150万円以上300万円未満」(18.6%)が多く、「650万円以上800万円未満」(13.7%)等が続いている。



2 地域との関わりについて

問1 「身近な地域」と言う場合、あなたにとって「地域」とは、どの範囲ですか。(1つに○)

「自治会区域」(26.2%)が最も多く、次いで「地区(問いの10区分)」(21.9%)が多く、「隣近所」(17.3%)、「市の全域」(15.4%)等が続いている。



【年齢別、居住地区別】

年齢別でみると、20歳代では「市の全域」、30歳代から40歳代と60歳代では矢野口、東長沼、…といった「地区」、50歳代と70歳代以上の世代では「自治会区域」がそれぞれ最も多い回答となっている。比較的若い世代で「地区」が、高齢層に近づくほど「自治会区域」が多くなる傾向がみとれる。

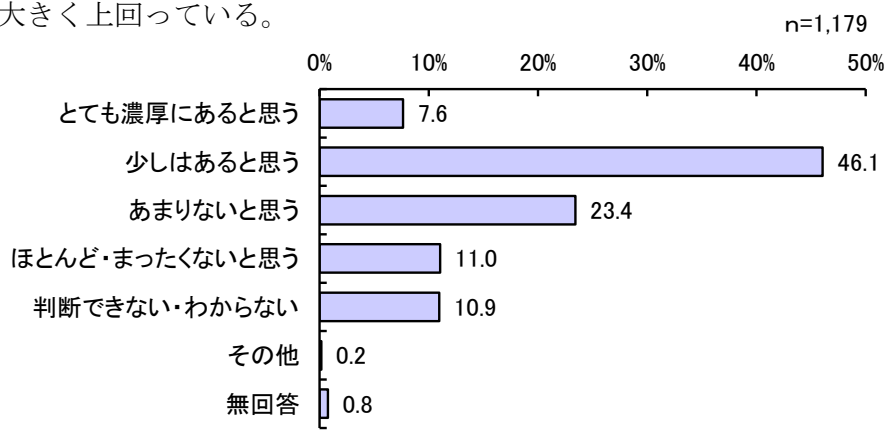
地区別では、矢野口、大丸、百村、坂浜、平尾、押立の各地区で「自治会区域」が、東長沼で「隣近所」が、向陽台と若葉台で「地区」が、長峰で「市の全域」が、それぞれ最も多くなっている。旧来の市街地区域で「自治会区域」が、ニュータウン地区で「地区」等が多い傾向がある。

	合計	市の全域	中学校区	小学校区	地区	自治会区域	隣近所	その他	無回答
全体	1179	182	62	114	258	309	204	35	15
	100.0	15.4	5.3	9.7	21.9	26.2	17.3	3.0	1.3
20~29 歳	75	25	10	9	14	9	6	1	1
	100.0	33.3	13.3	12.0	18.7	12.0	8.0	1.3	1.3
30~39 歳	156	27	14	27	33	23	26	5	1
	100.0	17.3	9.0	17.3	21.2	14.7	16.7	3.2	0.6
40~49 歳	240	47	16	47	60	44	20	5	1
	100.0	19.6	6.7	19.6	25.0	18.3	8.3	2.1	0.4
50~59 歳	179	32	13	14	40	45	28	6	1
	100.0	17.9	7.3	7.8	22.3	25.1	15.6	3.4	0.6
60~69 歳	225	28	6	12	66	64	46	2	1
	100.0	12.4	2.7	5.3	29.3	28.4	20.4	0.9	0.4
70~79 歳	203	20	3	5	34	87	39	10	5
	100.0	9.9	1.5	2.5	16.7	42.9	19.2	4.9	2.5
80 歳以上	98	3	0	0	11	37	36	6	5
	100.0	3.1	0.0	0.0	11.2	37.8	36.7	6.1	5.1
矢野口	202	30	11	13	40	64	38	4	2
	100.0	14.9	5.4	6.4	19.8	31.7	18.8	2.0	1.0
東長沼	183	30	10	17	36	39	45	6	0
	100.0	16.4	5.5	9.3	19.7	21.3	24.6	3.3	0.0
大丸	115	24	8	9	17	33	20	3	1
	100.0	20.9	7.0	7.8	14.8	28.7	17.4	2.6	0.9
百村	56	11	3	4	10	16	10	2	0
	100.0	19.6	5.4	7.1	17.9	28.6	17.9	3.6	0.0
坂浜	39	7	1	1	5	12	10	1	2
	100.0	17.9	2.6	2.6	12.8	30.8	25.6	2.6	5.1
平尾	155	10	5	14	35	50	28	7	6
	100.0	6.5	3.2	9.0	22.6	32.3	18.1	4.5	3.9
押立	65	13	4	4	8	18	15	3	0
	100.0	20.0	6.2	6.2	12.3	27.7	23.1	4.6	0.0
向陽台	143	28	8	18	36	28	21	3	1
	100.0	19.6	5.6	12.6	25.2	19.6	14.7	2.1	0.7
長峰	63	17	4	11	12	13	3	1	2
	100.0	27.0	6.3	17.5	19.0	20.6	4.8	1.6	3.2
若葉台	154	12	8	23	59	36	11	5	0
	100.0	7.8	5.2	14.9	38.3	23.4	7.1	3.2	0.0

問2 あなたは、問1で回答いただいた「地域」には、「ちょっと困ったときには、近所同士助け合
って対処していこう」というような「支え合い・助け合い」の雰囲気があると思いますか。(1
つに○)

「少しはあると思う」(46.1%)が最も多く、次いで「あまりないと思う」(23.4%)が多くなっ
ている。

また、「とても濃厚に」と「少しは」“あると思う”と回答した人が53.7%と過半数、一方、「あ
まり」と「ほとんど・まったく」を合わせた“ないと思う”は34.4%で、“あると思う”の方が
“ないと思う”を大きく上回っている。



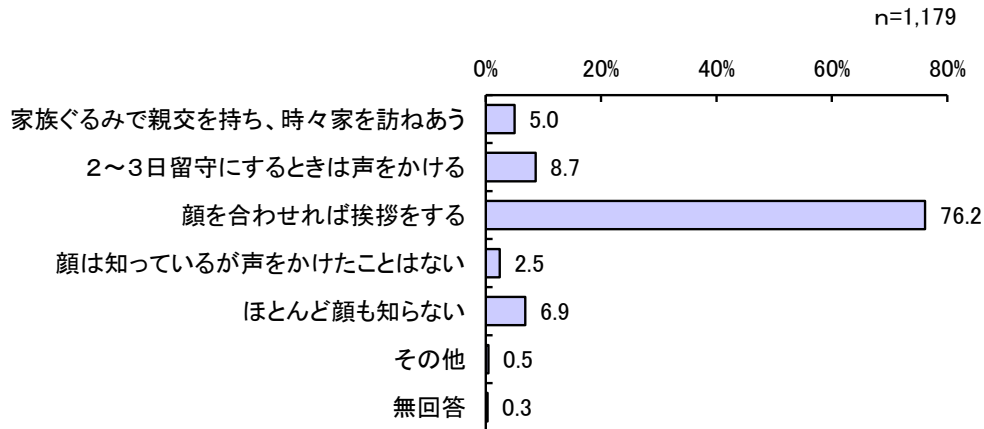
【性別、年齢別】

性別で見ると、女性では男性より「とても濃厚にあると思う」が5.4ポイント多くなっている。
男性は、女性より「あまりないと思う」や「ほとんど・まったくないと思う」が多くなっている。
年齢別で見ると、どの年代においても「少しはあると思う」が最も多いが、その具体的割合は、
20歳代から40歳代までは4割前後であるのに対して、50歳代以上の人では半数程度と多くなっ
ている。

	合計	とても濃 厚にある と思う	少しはあ ると思う	あまりな いと思う	ほとん ど・まっ たくない と思う	判断でき ない・わ からない	その他	無回答
全体	1179	90	543	276	130	129	2	9
	100.0	7.6	46.1	23.4	11.0	10.9	0.2	0.8
男性	527	23	244	134	68	55	0	3
	100.0	4.4	46.3	25.4	12.9	10.4	0.0	0.6
女性	642	63	296	140	62	73	2	6
	100.0	9.8	46.1	21.8	9.7	11.4	0.3	0.9
20~29 歳	75	3	30	16	12	14	0	0
	100.0	4.0	40.0	21.3	16.0	18.7	0.0	0.0
30~39 歳	156	6	61	36	24	28	0	1
	100.0	3.8	39.1	23.1	15.4	17.9	0.0	0.6
40~49 歳	240	12	100	73	24	30	1	0
	100.0	5.0	41.7	30.4	10.0	12.5	0.4	0.0
50~59 歳	179	12	96	36	19	13	0	3
	100.0	6.7	53.6	20.1	10.6	7.3	0.0	1.7
60~69 歳	225	18	106	53	25	23	0	0
	100.0	8.0	47.1	23.6	11.1	10.2	0.0	0.0
70~79 歳	203	21	96	46	20	16	1	3
	100.0	10.3	47.3	22.7	9.9	7.9	0.5	1.5
80 歳以上	98	17	53	15	6	5	0	2
	100.0	17.3	54.1	15.3	6.1	5.1	0.0	2.0

問3 隣近所とはどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

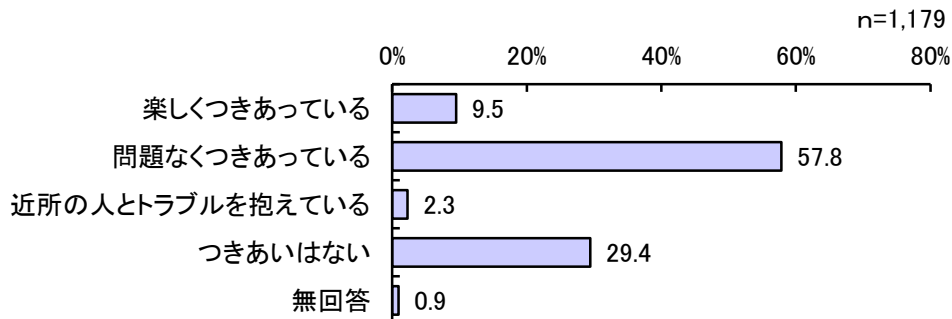
「顔を合わせれば挨拶をする」(76.2%)が最も多く、次いで、差が開いて「2～3日留守にするときは声をかける」(8.7%)が多くなっている。



問4 隣近所とのつきあいに関してどのような考えや感想をお持ちですか。(①～③の項目それぞれについて、あてはまるもの1つずつに○)

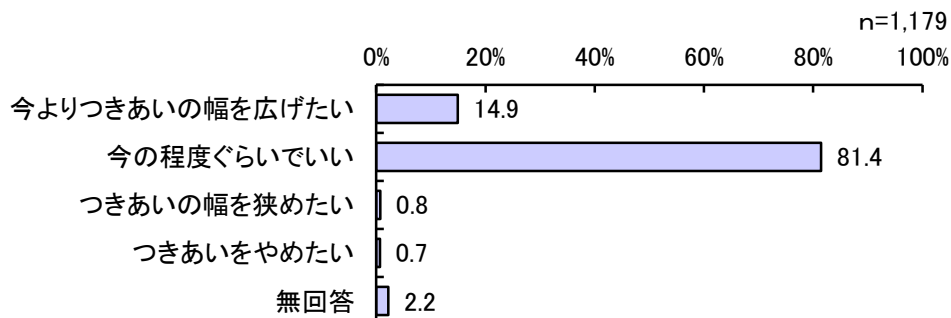
①現状の隣近所とのつきあいについて

「問題なくつきあっている」(57.8%)が最も多く、次いで「つきあいはない」(29.4%)が多くなっている。



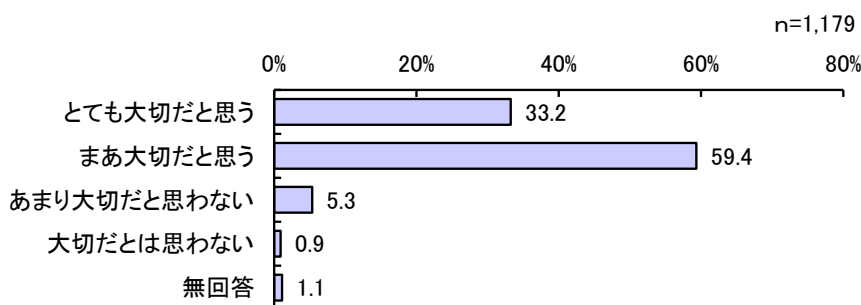
②つきあう人の範囲について

「今の程度ぐらいでいい」(81.4%)が最も多く、次いで「今よりつきあいの幅を広げたい」(14.9%)が多くなっている。



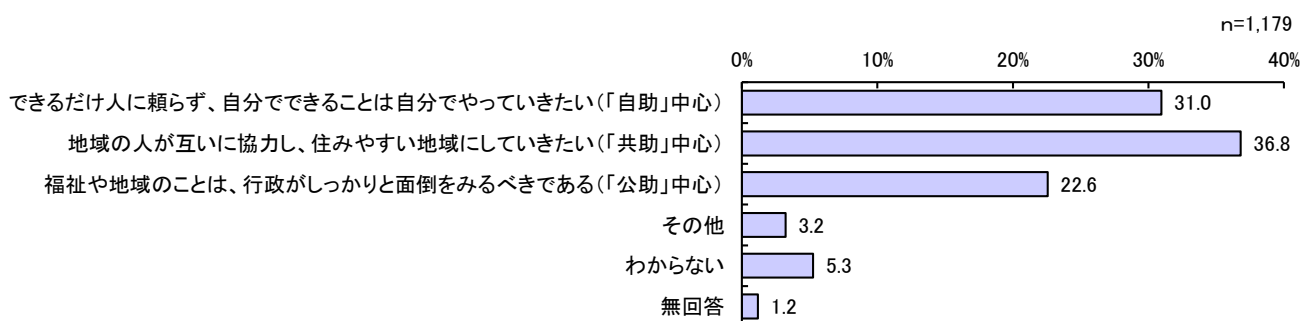
③近所づきあいについて

「まあ大切だと思う」(59.4%)が最も多く、次いで「とても大切だと思う」(33.2%)が多くなっている。



問5 地域における福祉や、地域の住民同士の支えあいについて、あなたはどのような形で進められるのが望ましいと考えますか。(1つに〇)

「地域の人が互いに協力し、住みやすい地域にしていきたい(「共助」中心)」(36.8%)との回答が最も多く、次いで「できるだけ人に頼らず、自分でできることは自分でやっていきたい(「自助」中心)」(31.0%)が多くなっている。



【性別、年齢別】

性別で見ると、男性では女性より「できるだけ人に頼らず、自分でできることは自分でやっていきたい」が4.6ポイント多くなっている。女性では、男性より「地域の人が互いに協力し、住みやすい地域にしていきたい」が4.9ポイント多くなっている。

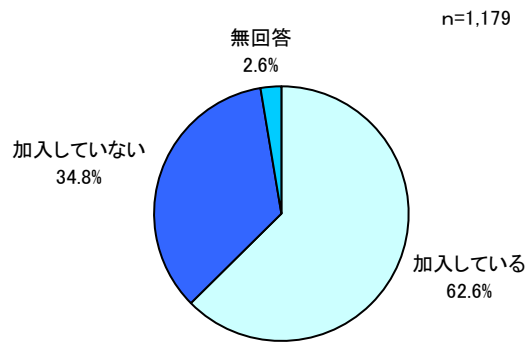
年齢別で見ると、「福祉や地域のことは、行政がしっかりと面倒をみるべきである(「公助」中心)」は20歳代~40歳代等の比較的若い層で多く、年齢が上昇するにつれて少なくなっている。また、「できるだけ人に頼らず、自分でできることは自分でやっていきたい」は年齢が上昇するとともに多くなっており、60歳代以上では最も多い回答となっている。

	合計	できるだけ人に頼らず、自分でできることは自分でやっていきたい	地域の人が互いに協力し、住みやすい地域にしていきたい	福祉や地域のことは、行政がしっかりと面倒をみるべきである	その他	わからない	無回答
全体	1179	365	434	266	38	62	14
	100.0	31.0	36.8	22.6	3.2	5.3	1.2
男性	527	177	179	125	18	23	5
	100.0	33.6	34.0	23.7	3.4	4.4	0.9
女性	642	186	250	139	20	39	8
	100.0	29.0	38.9	21.7	3.1	6.1	1.2

20～29 歳	75	9	29	27	3	7	0
	100.0	12.0	38.7	36.0	4.0	9.3	0.0
30～39 歳	156	36	55	46	6	11	2
	100.0	23.1	35.3	29.5	3.8	7.1	1.3
40～49 歳	240	46	98	71	9	15	1
	100.0	19.2	40.8	29.6	3.8	6.3	0.4
50～59 歳	179	42	75	42	10	9	1
	100.0	23.5	41.9	23.5	5.6	5.0	0.6
60～69 歳	225	89	80	39	5	8	4
	100.0	39.6	35.6	17.3	2.2	3.6	1.8
70～79 歳	203	85	73	31	4	7	3
	100.0	41.9	36.0	15.3	2.0	3.4	1.5
80 歳以上	98	57	24	8	1	5	3
	100.0	58.2	24.5	8.2	1.0	5.1	3.1

問6 あなたは地域の自治会に加入していますか。(1つに○)

「加入している」との回答が 62.6%、「加入していない」との回答が 34.8%で、「加入している」が 6割強となっている。



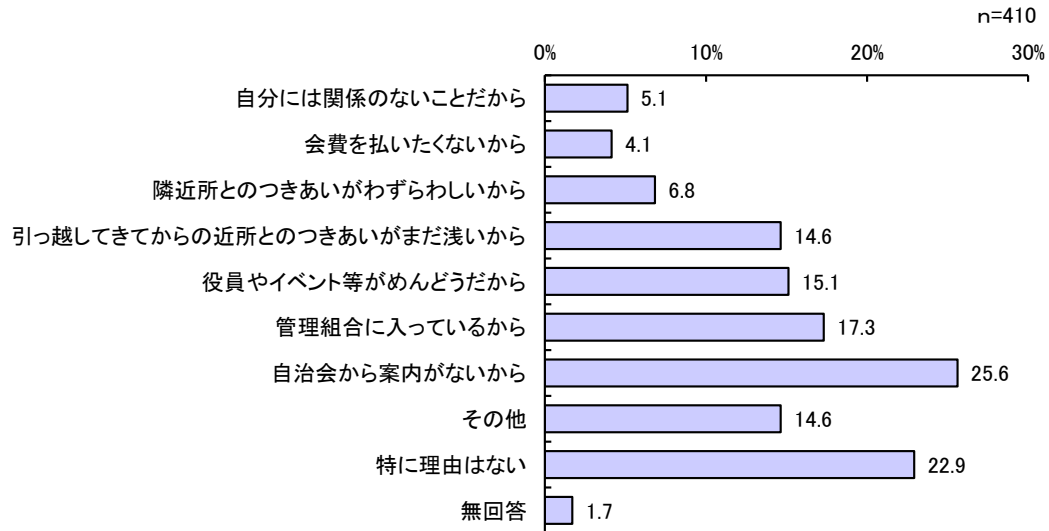
【年齢別、居住地区別、市内居住年数別】

年齢別でみると、30歳代以下では「加入していない」の方が「加入している」を上回っているが、40歳代以上では「加入している」が「加入していない」より多くなっている。居住地区別でみると、東長沼、向陽台で「加入している」が比較的少なく、順に 49.7%、52.4%となっている。市内居住年数別では、住み始めて10年未満の人では「加入していない」が「加入している」より多いが、10年以上の人では「加入している」の方が多くなっており、年数が長くなるほど加入率が高くなる傾向がみられる。

	合計	加入している	加入していない	無回答
全体	1179	738	410	31
	100.0	62.6	34.8	2.6
20～29 歳	75	27	46	2
	100.0	36.0	61.3	2.7
30～39 歳	156	62	90	4
	100.0	39.7	57.7	2.6
40～49 歳	240	125	113	2
	100.0	52.1	47.1	0.8
50～59 歳	179	125	51	3
	100.0	69.8	28.5	1.7
60～69 歳	225	169	48	8
	100.0	75.1	21.3	3.6
70～79 歳	203	157	37	9
	100.0	77.3	18.2	4.4
80 歳以上	98	71	24	3
	100.0	72.4	24.5	3.1
矢野口	202	128	71	3
	100.0	63.4	35.1	1.5
東長沼	183	91	88	4
	100.0	49.7	48.1	2.2
大丸	115	79	35	1
	100.0	68.7	30.4	0.9
百村	56	35	19	2
	100.0	62.5	33.9	3.6
坂浜	39	28	11	0
	100.0	71.8	28.2	0.0
平尾	155	106	44	5
	100.0	68.4	28.4	3.2
押立	65	45	16	4
	100.0	69.2	24.6	6.2
向陽台	143	75	65	3
	100.0	52.4	45.5	2.1
長峰	63	45	15	3
	100.0	71.4	23.8	4.8
若葉台	154	104	44	6
	100.0	67.5	28.6	3.9
住み始めて1年未満	42	12	30	0
	100.0	28.6	71.4	0.0
住み始めて1年～3年未満	86	22	62	2
	100.0	25.6	72.1	2.3
住み始めて3年～5年未満	62	24	37	1
	100.0	38.7	59.7	1.6
住み始めて5年～10年未満	146	69	73	4
	100.0	47.3	50.0	2.7
住み始めて10年～20年未満	311	212	92	7
	100.0	68.2	29.6	2.3
住み始めて20年以上	527	397	113	17
	100.0	75.3	21.4	3.2

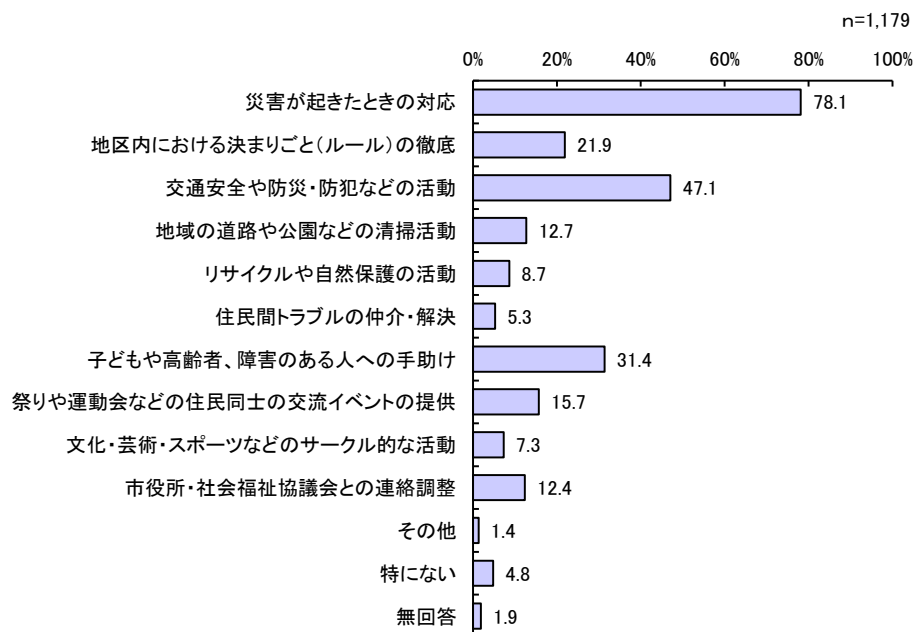
問6-1 (問6で「2」とお答えの方へ) あなたが加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「自治会から案内がないから」との回答が25.6%で最も多く、次いで「特に理由はない」(22.9%)が多く、「管理組合に入っているから」(17.3%)が続いている。



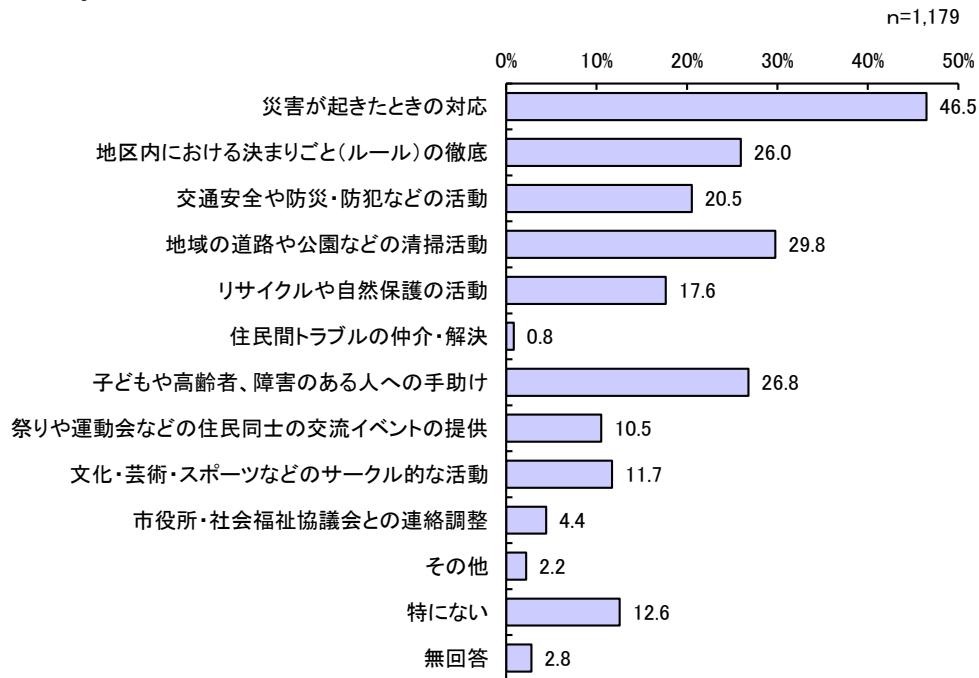
問7 ①あなたが住んでいる地区の中で安心して暮らしていくために、地区にある組織や団体に、どのような活動を期待していますか。(3つまでに○)

地区組織等に期待する活動としては、「災害が起きたときの対応」(78.1%)が最も多く、次いで「交通安全や防災・防犯などの活動」(47.1%)が多く、「子どもや高齢者、障害のある人への手助け」(31.4%)が続いている。



②また、あなた自身ができると思われることはどんなことですか。(3つまでに○)

地区組織等に対し自身ができると思うこととしては、「災害が起きたときの対応」(46.5%)が最も多く、「地域の道路や公園などの清掃活動」(29.8%)、「子どもや高齢者、障害のある人への手助け」(26.8%)が続いている。多くの項目が1割以上の回答となっているのに対して、「住民間トラブルの仲介・解決」(0.8%)、「市役所・社会福祉協議会との連絡調整」(4.4%)は1割未満となっている。

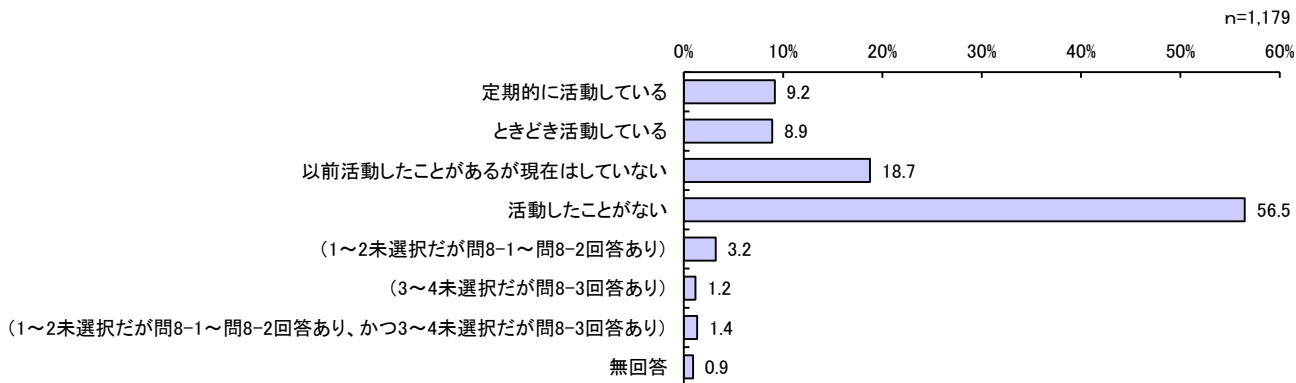


3 地域活動等について

問8 あなたは現在、地域活動やボランティア活動をしていますか。(1つに○)

「定期的に活動している」と回答した人は全体の9.2%で、「ときどき活動している」(8.9%)と合わせると、“現在活動している”人が18.1%である。

他方、最も多い「活動したことがない」人は56.5%となっている。



【性別、年齢別、市内居住年数別】

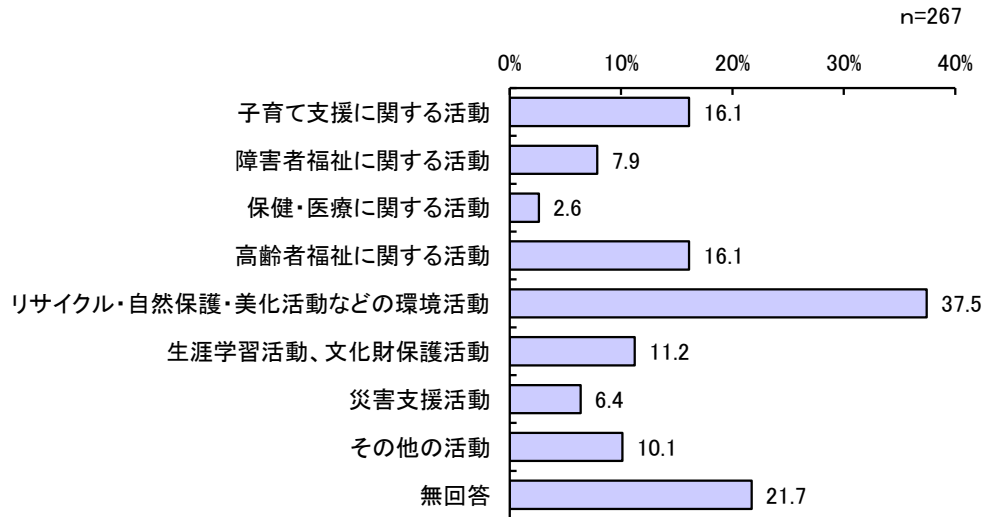
性別で見ると、「活動したことがない」で男性が女性より5.8ポイント多い。年齢別で見ると、20、30歳代の若年層では「活動したことがない」人が7割以上を占めて多いが、年齢が上がるにつれて少なくなる傾向を示している。市内居住年数別では、居住10年未満の層では「活動したことがない」が60%以上と多いが、10年以上の層では、40~50%台と比較的少ない。

	合計	定期的に活動している	ときどき活動している	以前活動したことがあるが現在はしていない	活動したことがない	無回答
全体	1179	108	105	221	666	11
	100.0	9.2	8.9	18.7	56.5	0.9
男性	527	50	37	96	315	6
	100.0	9.5	7.0	18.2	59.8	1.1
女性	642	58	66	125	347	4
	100.0	9.0	10.3	19.5	54.0	0.6
20~29歳	75	0	4	15	55	0
	100.0	0.0	5.3	20.0	73.3	0.0
30~39歳	156	9	7	24	112	0
	100.0	5.8	4.5	15.4	71.8	0.0
40~49歳	240	16	28	38	150	0
	100.0	6.7	11.7	15.8	62.5	0.0
50~59歳	179	17	22	44	87	0
	100.0	9.5	12.3	24.6	48.6	0.0
60~69歳	225	32	22	44	119	2
	100.0	14.2	9.8	19.6	52.9	0.9
70~79歳	203	29	16	33	100	6
	100.0	14.3	7.9	16.3	49.3	3.0
80歳以上	98	5	5	23	41	3
	100.0	5.1	5.1	23.5	41.8	3.1
住み始めて1年未満	42	4	2	4	31	0
	100.0	9.5	4.8	9.5	73.8	0.0
住み始めて1年~3年未満	86	4	4	11	64	0
	100.0	4.7	4.7	12.8	74.4	0.0
住み始めて3年~5年未満	62	2	10	5	40	1
	100.0	3.2	16.1	8.1	64.5	1.6
住み始めて5年~10年未満	146	10	7	18	103	2
	100.0	6.8	4.8	12.3	70.5	1.4
住み始めて10年~20年未満	311	20	31	66	180	3
	100.0	6.4	10.0	21.2	57.9	1.0
住み始めて20年以上	527	68	50	117	246	5
	100.0	12.9	9.5	22.2	46.7	0.9

問8-1 (問8で「1」または「2」とお答えの方へ)どのような活動に参加していますか。また、どのような団体での活動ですか。(活動内容、活動団体それぞれあてはまるものすべてに○)

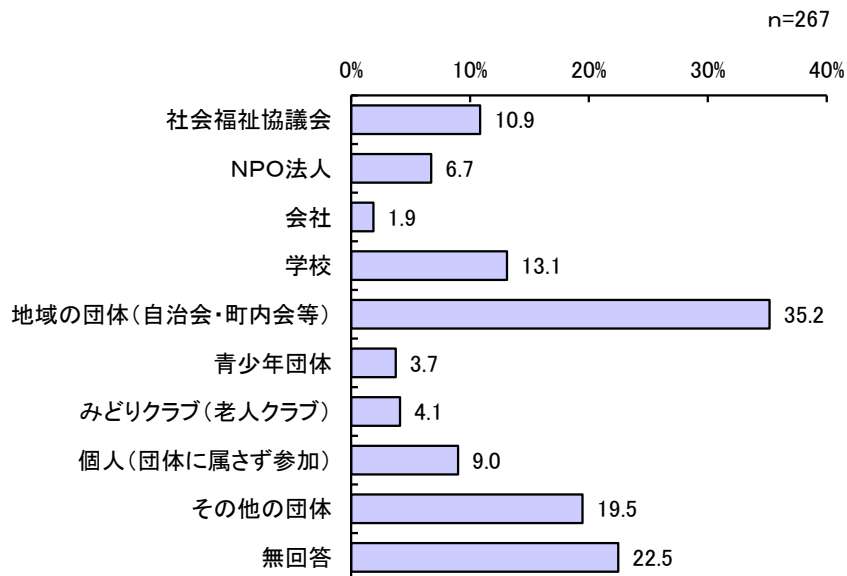
<活動内容>

「リサイクル・自然保護・美化活動などの環境活動」(37.5%)が最も多く、「無回答」(21.7%)、「子育て支援に関する活動」及び「高齢者福祉に関する活動」(ともに16.1%)が続いている。



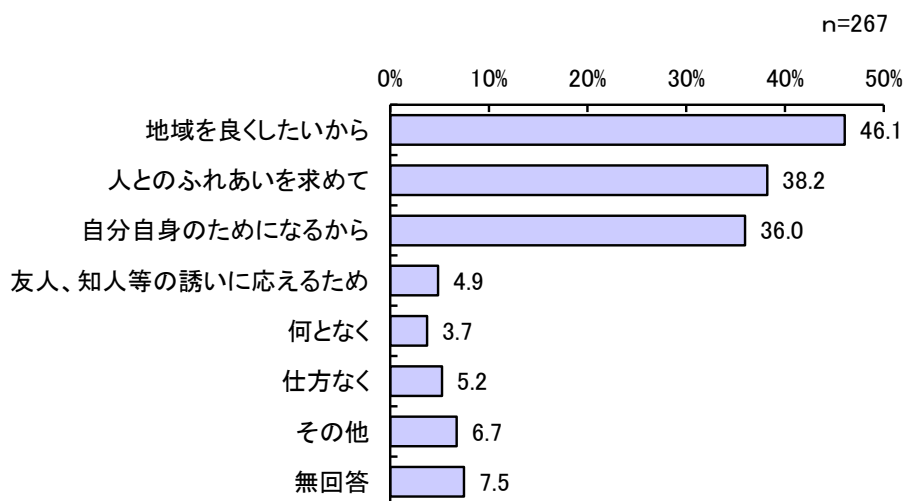
<活動団体>

「地域の団体(自治会・町内会等)」(35.2%)が最も多く、「無回答」(22.5%)、「その他の団体」(19.5%)等が続いている。



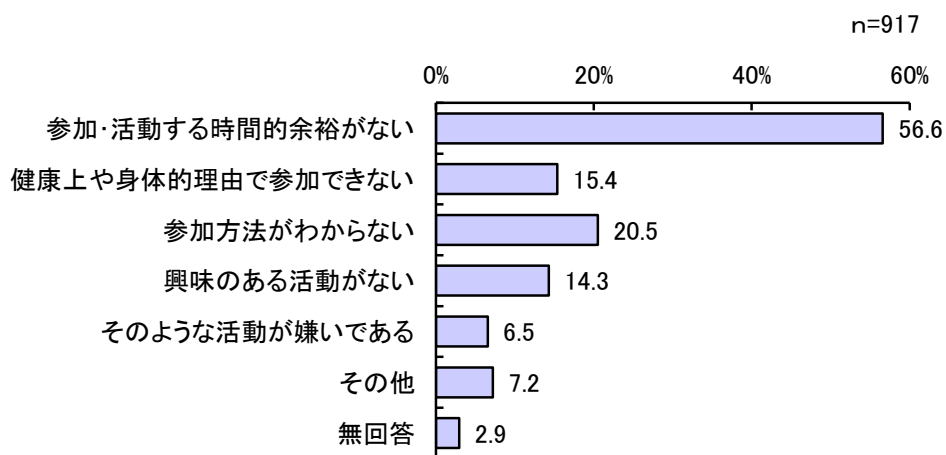
問8-2 (問8で「1」または「2」とお答えの方へ) どのような目的で活動に参加していますか。
(2つまでに○)

「地域を良くしたいから」(46.1%)が最も多く、「人とのふれあいを求めて」(38.2%)、「自分自身のためになるから」(36.0%)が続いている。



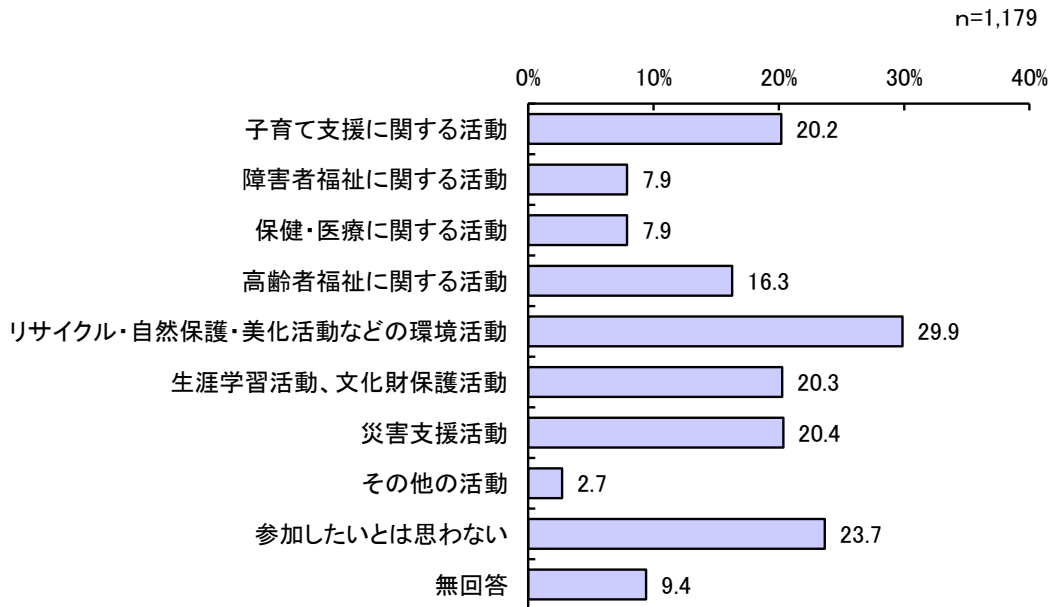
問8-3 (問8で「3」または「4」とお答えの方へ) 活動に現在参加していない理由は何ですか。
(2つまでに○)

「参加・活動する時間的余裕がない」(56.6%)が最も多く、「参加方法がわからない」(20.5%)、「健康上や身体的理由で参加できない」(15.4%)、「興味のある活動がない」(14.3%)が続いている。



問9 今後（現在の活動を引き続き、の場合も含め）、参加してみたい地域活動、ボランティア活動はありますか。（3つまでに○）

「リサイクル・自然保護・美化活動などの環境活動」（29.9%）が最も多く、次いで「参加したいとは思わない」（23.7%）が多く、「災害支援活動」（20.4%）などが続いている。



【性別、年齢別、家族構成別】

性別で見ると、「子育て支援に関する活動」では女性が男性を12.2ポイントと大きく上回り、「災害支援活動」では、反対に男性が女性を14.3ポイントと大きく上回っている。

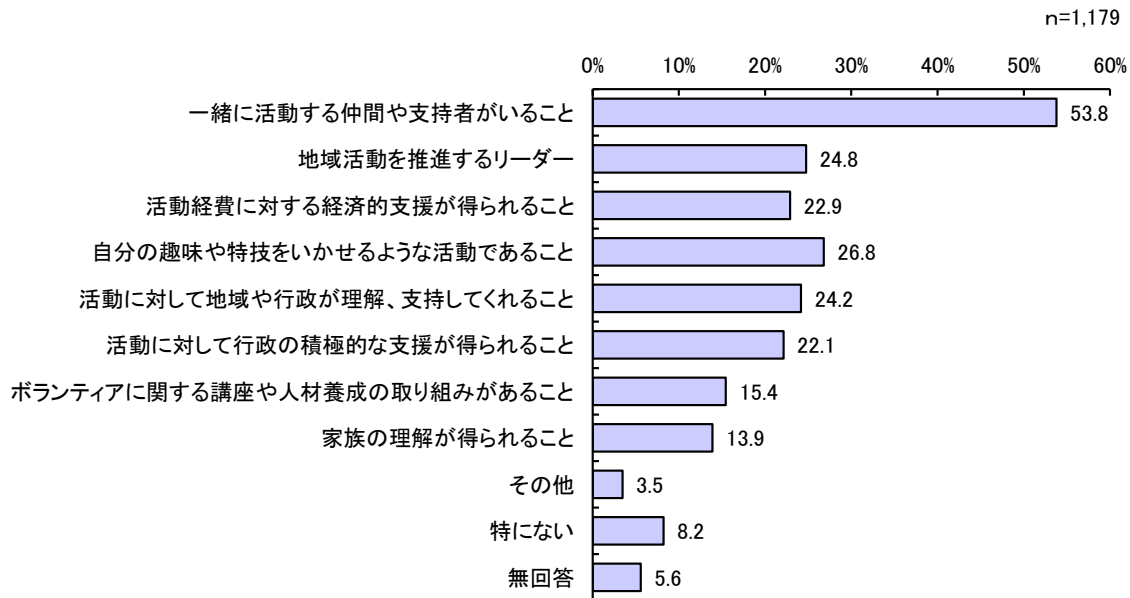
年齢別では、30歳代から70歳代まででは具体的な活動の回答が最も多いが、20歳代と80歳以上では「参加したいとは思わない」が最も多くなっている。

家族構成別では、ひとり暮らしの人で「参加したいとは思わない」が比較的多く、三世帯世帯（親と子と孫）では少なくなっている。

	合計	子育て支援に関する活動	障害者福祉に関する活動	保健・医療に関する活動	高齢者福祉に関する活動	リサイクル・自然保護・美化活動などの環境活動	生涯学習活動、文化財保護活動	災害支援活動	その他の活動	参加したいとは思わない	無回答
全体	1179	238	93	93	192	352	239	240	32	279	111
	100.0	20.2	7.9	7.9	16.3	29.9	20.3	20.4	2.7	23.7	9.4
男性	527	70	28	33	62	178	112	149	11	138	42
	100.0	13.3	5.3	6.3	11.8	33.8	21.3	28.3	2.1	26.2	8.0
女性	642	164	63	60	128	172	126	90	20	140	68
	100.0	25.5	9.8	9.3	19.9	26.8	19.6	14.0	3.1	21.8	10.6
20~29 歳	75	15	6	4	4	19	6	14	1	32	1
	100.0	20.0	8.0	5.3	5.3	25.3	8.0	18.7	1.3	42.7	1.3
30~39 歳	156	72	14	19	19	44	20	31	2	37	5
	100.0	46.2	9.0	12.2	12.2	28.2	12.8	19.9	1.3	23.7	3.2
40~49 歳	240	74	19	22	34	64	50	65	2	58	11
	100.0	30.8	7.9	9.2	14.2	26.7	20.8	27.1	0.8	24.2	4.6
50~59 歳	179	34	12	16	29	64	50	50	11	32	4
	100.0	19.0	6.7	8.9	16.2	35.8	27.9	27.9	6.1	17.9	2.2
60~69 歳	225	27	27	17	46	77	53	48	7	53	16
	100.0	12.0	12.0	7.6	20.4	34.2	23.6	21.3	3.1	23.6	7.1
70~79 歳	203	13	10	12	41	63	44	28	7	40	40
	100.0	6.4	4.9	5.9	20.2	31.0	21.7	13.8	3.4	19.7	19.7
80 歳以上	98	1	4	3	18	20	15	4	2	27	34
	100.0	1.0	4.1	3.1	18.4	20.4	15.3	4.1	2.0	27.6	34.7
ひとり暮らし	138	9	9	11	23	35	21	23	7	40	21
	100.0	6.5	6.5	8.0	16.7	25.4	15.2	16.7	5.1	29.0	15.2
夫婦のみ	328	28	24	24	60	105	77	63	7	87	33
	100.0	8.5	7.3	7.3	18.3	32.0	23.5	19.2	2.1	26.5	10.1
二世帯世帯（親と子）	626	180	53	49	94	185	123	132	13	137	46
	100.0	28.8	8.5	7.8	15.0	29.6	19.6	21.1	2.1	21.9	7.3
三世帯世帯（親と子と孫）	57	17	6	6	11	17	12	18	2	9	6
	100.0	29.8	10.5	10.5	19.3	29.8	21.1	31.6	3.5	15.8	10.5
その他	24	2	0	3	3	9	4	4	2	6	4
	100.0	8.3	0.0	12.5	12.5	37.5	16.7	16.7	8.3	25.0	16.7

問 10 今後、地域活動やボランティア活動を活発にしていくためには何が必要だと思いますか。(3つまでに○)

「一緒に活動する仲間や支持者がいること」(53.8%)が最も多く、「自分の趣味や特技をいかせるような活動であること」(26.8%)、「地域活動を推進するリーダー」(24.8%)、「活動に対して地域や行政が理解、支持してくれること」(24.2%)等が続いている。



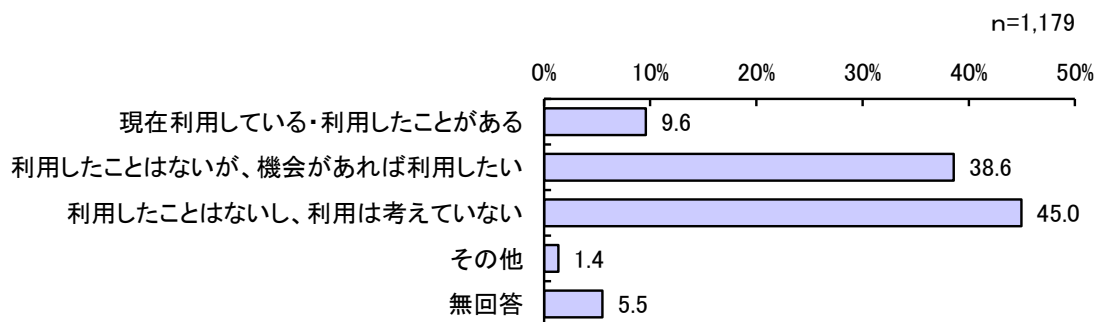
【性別】

男女別で見ると、「一緒に活動する仲間や支持者がいること」で女性が男性よりも 4.9 ポイント多く、「活動に対して行政の積極的な支援が得られること」では、反対に男性が女性より 4.8 ポイント多くなっている。

	合計	一緒に活動する仲間や支持者がいること	地域活動を推進するリーダー	活動経費に対する経済的支援が得られること	自分の趣味や特技をいかせるような活動であること	活動に対して地域や行政が理解、支持してくれること	活動に対して行政の積極的な支援が得られること	ボランティアに関する講座や人材養成の取り組みがあること	家族の理解が得られること	その他	特にない	無回答
全体	1179	634	292	270	316	285	261	182	164	41	97	66
男性	527	269	125	132	150	126	131	75	71	16	49	20
女性	642	359	166	136	163	156	129	106	92	24	47	46
	100.0	51.0	23.7	25.0	28.5	23.9	24.9	14.2	13.5	3.0	9.3	3.8
	100.0	55.9	25.9	21.2	25.4	24.3	20.1	16.5	14.3	3.7	7.3	7.2

問 11 これまでにボランティアやNPOの提供するサービスを利用したこと(*現在、利用している場合も含む)がありますか。(1つに○)

「利用したことはないし、利用は考えていない」(45.0%)が最も多く、次いで「利用したことはないが、機会があれば利用したい」(38.6%)が多く、「現在利用している・利用したことがある」(9.6%)が続いている。



【性別】

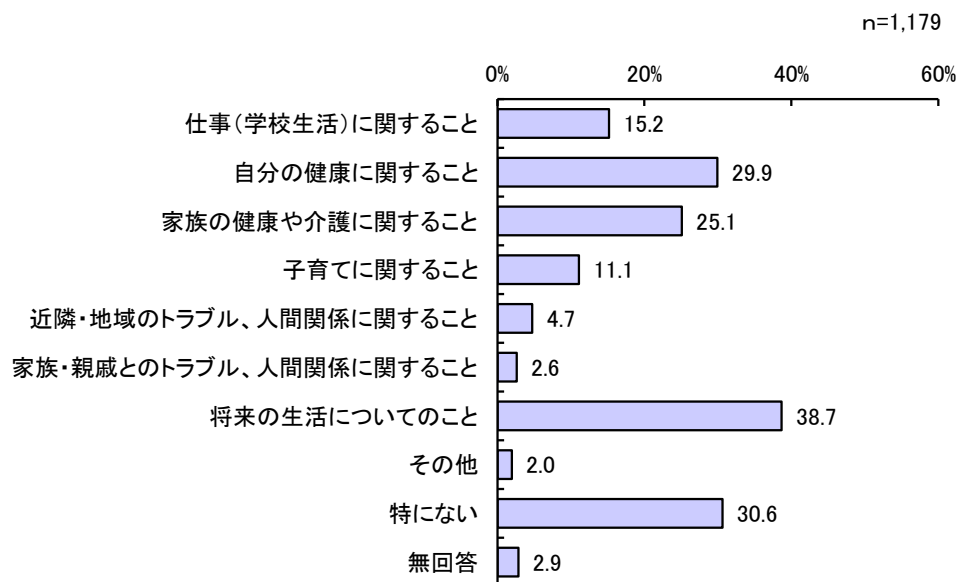
男女別でみると、「利用したことはないが、機会があれば利用したい」で女性が男性を 6.7 ポイント上回り、「利用したことはないし、利用は考えていない」では、反対に男性が女性を 10.7 ポイントと大きく上回っている。

	合計	現在利用している・利用したことがある	利用したことはないが、機会があれば利用したい	利用したことはないし、利用は考えていない	その他	無回答
全体	1179	113	455	530	16	65
	100.0	9.6	38.6	45.0	1.4	5.5
男性	527	45	184	268	8	22
	100.0	8.5	34.9	50.9	1.5	4.2
女性	642	67	267	258	8	42
	100.0	10.4	41.6	40.2	1.2	6.5

4 日常生活の課題について

問 12 あなたは、日常生活の中で日ごろ困っていること、悩みを感じていることはありますか。(3 つまでに○)

「将来の生活についてのこと」(38.7%) が最も多く、「特にない」(30.6%)、「自分の健康に関すること」(29.9%) が続いている。



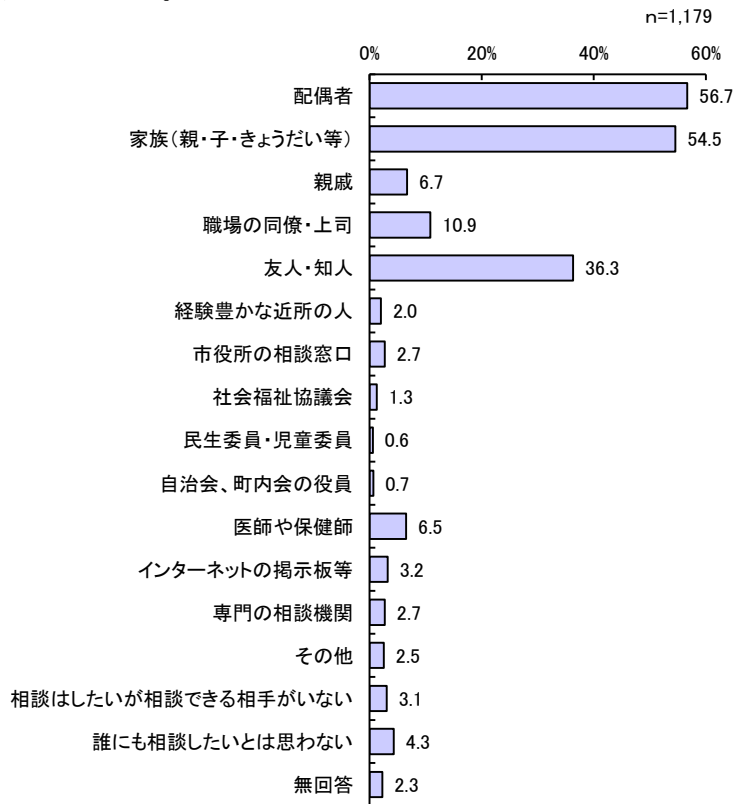
【年齢別、家族構成別】

年齢別で見ると、20歳代から50歳代までは「将来の生活についてのこと」が、60歳代では「特にない」が、70歳代以上では「自分の健康に関すること」が、それぞれ最も多くなっている。また、家族構成別では、ひとり暮らしの人で「自分の健康に関すること」と「将来の生活についてのこと」がともに半数に達し、ほかの家族構成の人と比べて特に多くなっている。

	合計	仕事(学 校生活) に関する こと	自分の健 康に関す ること	家族の健 康や介護 に関する こと	子育てに 関するこ と	近隣・地域 のトラブ ル、人間関 係に関する こと	家族・親戚 とのトラブ ル、人間関 係に関する こと	将来の生 活につい てのこと	その他	特にない	無回答
全体	1179 100.0	179 15.2	353 29.9	296 25.1	131 11.1	56 4.7	31 2.6	456 38.7	23 2.0	361 30.6	34 2.9
20~29 歳	75 100.0	29 38.7	14 18.7	11 14.7	5 6.7	7 9.3	4 5.3	38 50.7	0 0.0	23 30.7	1 1.3
30~39 歳	156 100.0	44 28.2	29 18.6	30 19.2	53 34.0	10 6.4	7 4.5	65 41.7	2 1.3	32 20.5	2 1.3
40~49 歳	240 100.0	65 27.1	44 18.3	66 27.5	58 24.2	10 4.2	7 2.9	97 40.4	9 3.8	63 26.3	2 0.8
50~59 歳	179 100.0	30 16.8	45 25.1	58 32.4	11 6.1	7 3.9	6 3.4	75 41.9	4 2.2	56 31.3	3 1.7
60~69 歳	225 100.0	8 3.6	82 36.4	49 21.8	3 1.3	9 4.0	1 0.4	82 36.4	0 0.0	91 40.4	7 3.1
70~79 歳	203 100.0	2 1.0	89 43.8	53 26.1	1 0.5	10 4.9	4 2.0	71 35.0	4 2.0	70 34.5	11 5.4
80 歳以上	98 100.0	0 0.0	49 50.0	27 27.6	0 0.0	2 2.0	2 2.0	28 28.6	4 4.1	26 26.5	8 8.2
ひとり暮らし	138 100.0	22 15.9	69 50.0	14 10.1	0 0.0	9 6.5	2 1.4	69 50.0	2 1.4	40 29.0	3 2.2
夫婦のみ	328 100.0	20 6.1	117 35.7	87 26.5	4 1.2	17 5.2	3 0.9	116 35.4	10 3.0	120 36.6	10 3.0
二世帯世帯(親と 子)	626 100.0	124 19.8	140 22.4	168 26.8	117 18.7	25 4.0	22 3.5	237 37.9	7 1.1	179 28.6	17 2.7
三世帯世帯(親と 子と孫)	57 100.0	5 8.8	15 26.3	18 31.6	9 15.8	2 3.5	3 5.3	22 38.6	2 3.5	17 29.8	2 3.5
その他	24 100.0	6 25.0	10 41.7	5 20.8	1 4.2	1 4.2	1 4.2	11 45.8	2 8.3	5 20.8	2 8.3

問 13 現在、日常生活の困りごとや悩みは誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者」(56.7%)、「家族(親・子・きょうだい等)」(54.5%)が多く、次いで「友人・知人」(36.3%)が多くなっている。



【性別、年齢別】

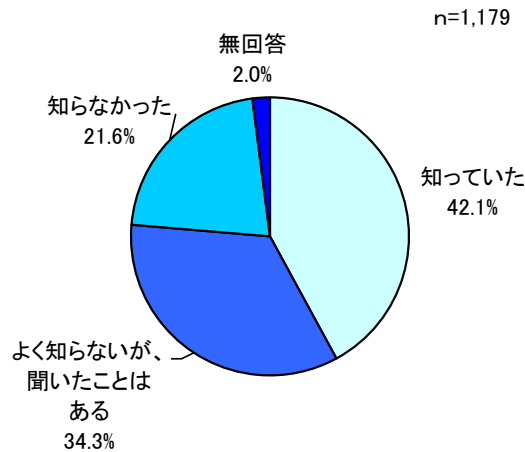
性別でみると、「友人・知人」では 24.4 ポイント、「家族(親・子・きょうだい等)」では 19.4 ポイント、女性の回答が男性よりも多くなっている。

年齢別では、20 歳代と 80 歳以上では「家族」が、30 歳代から 70 歳代までは「配偶者」が、最も多くなっている。「友人・知人」は、20 歳代を最高に、年代が上がるにつれて回答の割合が減少する傾向にあり、80 歳以上では 1 割台半ばとなっている。「医師や保健師」については、70 歳代 (13.3%)、80 歳以上等の高年齢で回答が多くなっている。

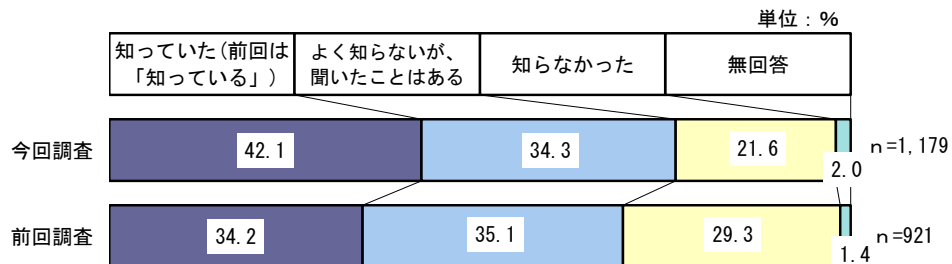
	合計	配偶者	家族 (親・子・ きょうだい 等)	親戚	職場の同 僚・上司	友人・知 人	経験豊か な近所 の人	市役所の 相談窓口	社会福祉 協議会	民生委 員・児童 委員	自治会、 町内会 の役員	医師や保 健師	インター ネットの 掲示板等	専門の相 談機関	その他	相談はし たいが相 談でき る相手 がない	誰にも 相談し たい とは思 わな い	無回答
全体	1179	668	643	79	128	428	24	32	15	7	8	77	38	32	30	36	51	27
	100.0	56.7	54.5	6.7	10.9	36.3	2.0	2.7	1.3	0.6	0.7	6.5	3.2	2.7	2.5	3.1	4.3	2.3
男性	527	300	231	35	58	121	9	11	6	3	2	33	19	13	14	20	38	15
	100.0	56.9	43.8	6.6	11.0	23.0	1.7	2.1	1.1	0.6	0.4	6.3	3.6	2.5	2.7	3.8	7.2	2.8
女性	642	366	406	44	70	304	14	20	9	4	5	42	19	18	16	16	13	12
	100.0	57.0	63.2	6.9	10.9	47.4	2.2	3.1	1.4	0.6	0.8	6.5	3.0	2.8	2.5	2.5	2.0	1.9
20～29 歳	75	16	52	1	15	47	0	1	0	0	0	2	2	1	2	0	3	0
	100.0	21.3	69.3	1.3	20.0	62.7	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	2.7	2.7	1.3	2.7	0.0	4.0	0.0
30～39 歳	156	108	107	8	31	68	4	3	0	0	1	6	8	0	1	7	5	1
	100.0	69.2	68.6	5.1	19.9	43.6	2.6	1.9	0.0	0.0	0.6	3.8	5.1	0.0	0.6	4.5	3.2	0.6
40～49 歳	240	153	138	12	44	107	5	2	2	1	0	12	10	10	5	5	14	1
	100.0	63.8	57.5	5.0	18.3	44.6	2.1	0.8	0.8	0.4	0.0	5.0	4.2	4.2	2.1	2.1	5.8	0.4
50～59 歳	179	114	79	17	30	60	1	3	0	3	1	6	8	4	7	7	7	5
	100.0	63.7	44.1	9.5	16.8	33.5	0.6	1.7	0.0	1.7	0.6	3.4	4.5	2.2	3.9	3.9	3.9	2.8
60～69 歳	225	141	101	15	6	75	2	6	7	0	2	14	7	7	3	4	10	3
	100.0	62.7	44.9	6.7	2.7	33.3	0.9	2.7	3.1	0.0	0.9	6.2	3.1	3.1	1.3	1.8	4.4	1.3
70～79 歳	203	106	104	20	2	56	11	10	4	1	3	27	3	8	7	5	9	12
	100.0	52.2	51.2	9.9	1.0	27.6	5.4	4.9	2.0	0.5	1.5	13.3	1.5	3.9	3.4	2.5	4.4	5.9
80 歳以上	98	30	60	6	0	14	1	6	2	2	0	10	0	2	5	8	3	5
	100.0	30.6	61.2	6.1	0.0	14.3	1.0	6.1	2.0	2.0	0.0	10.2	0.0	2.0	5.1	8.2	3.1	5.1

問 14 あなたは「成年後見制度」をご存知でしたか。(1つに○)

「知っていた」(42.1%)が4割を超え、最も多くなっている。



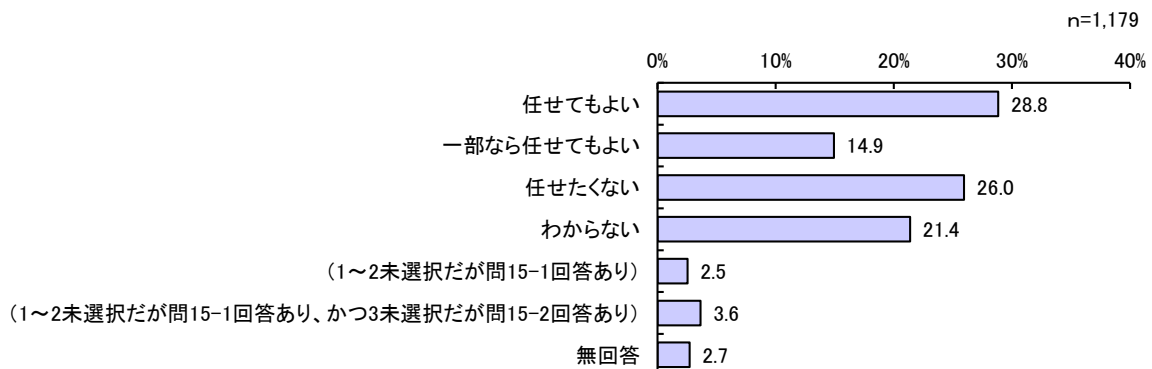
【前回比較】



今回調査では、前回調査(平成22年度実施、以下同様)結果に比べて、「知っていた」が7.9ポイント増加し、「知らなかった」が7.7ポイント減少している。

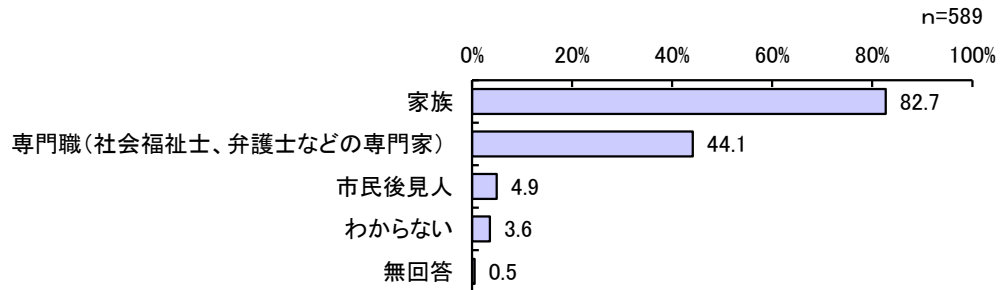
問 15 あなたは、財産の管理や契約などについて万一自分自身では判断ができなくなった場合、「成年後見人」に財産管理などを任せることについて、どう思いますか。(1つに○)

「任せてもよい」(28.8%)が最も多く、次いで「任せたくない」(26.0%)が多くなっている。また、「任せてもよい」と「一部なら任せてもよい」(14.9%)を合わせると、「任せることに肯定的な姿勢をみせている」人は43.7%で、4割台の前半である。



問 15-1 (問 15 で「1」または「2」とお答えの方へ) 成年後見人には、下記の選択肢のような人になることができます。誰になら、任せても良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

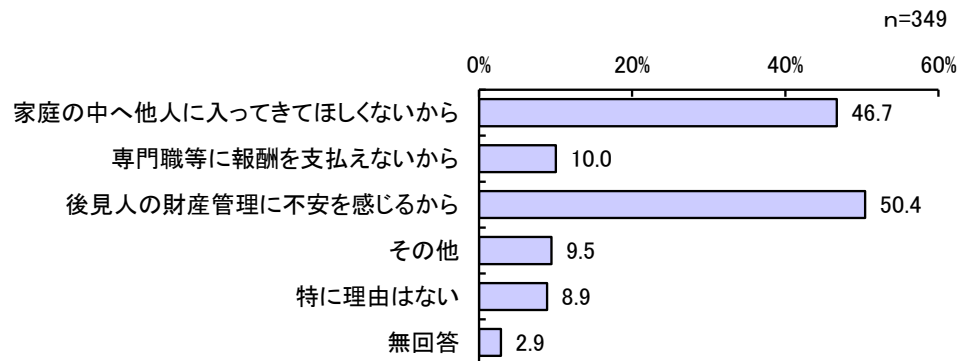
「家族」(82.7%) が8割強に達して最も多く、次いで「専門職(社会福祉士、弁護士などの専門家)」(44.1%) が多くなっている。「市民後見人」は4.9%となっている。



問 15-2 (問 15 で「3」とお答えの方へ) 任せたくないと思う理由は何ですか。(2つまでに○)

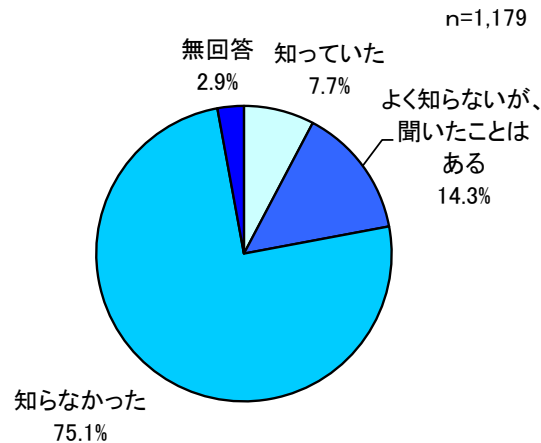
「後見人の財産管理に不安を感じるから」(50.4%) が最も多く、次いで「家庭の中へ他人に入ってきてほしくないから」(46.7%) が多くなっている。

また、「専門職等に報酬を支払えないから」(10.0%) は1割となっている。



問 16 あなたは、「成年後見制度」を補完する、稲城市社会福祉協議会（権利擁護センターあんしん・いなぎ）が行っている「福祉サービス利用援助事業」をご存知でしたか。（1つに○）

「知らなかった」（75.1%）が最も多く、次いで「よく知らないが、聞いたことはある」（14.3%）が多くなっている。



【性別、年齢別、居住地区別】

性別でみると、「知っていた」や「よく知らないが、聞いたことはある」では女性の回答割合が男性より多く、「知らなかった」では男性が女性よりも多くなっている。

年齢別では、「知らなかった」が、20歳代から50歳代までは約8～9割を占めて相対的に多いが、年齢層の上昇とともに割合が減少し、70歳代や80歳以上では半数強となっている。

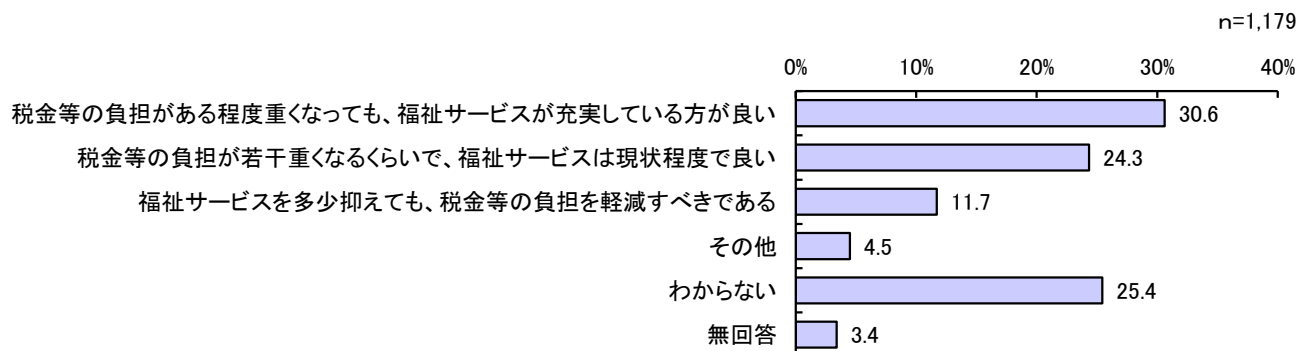
居住地区別では、若葉台と向陽台で「知らなかった」が8割台を占めて多くなっている。

	合計	知っていた	よく知らないが、聞いたことはある	知らなかった	無回答
全体	1179	91	169	885	34
	100.0	7.7	14.3	75.1	2.9
男性	527	29	60	420	18
	100.0	5.5	11.4	79.7	3.4
女性	642	61	104	461	16
	100.0	9.5	16.2	71.8	2.5
20～29 歳	75	2	4	68	1
	100.0	2.7	5.3	90.7	1.3
30～39 歳	156	10	8	138	0
	100.0	6.4	5.1	88.5	0.0
40～49 歳	240	11	16	209	4
	100.0	4.6	6.7	87.1	1.7
50～59 歳	179	14	19	143	3
	100.0	7.8	10.6	79.9	1.7
60～69 歳	225	16	40	164	5
	100.0	7.1	17.8	72.9	2.2
70～79 歳	203	25	58	111	9
	100.0	12.3	28.6	54.7	4.4
80 歳以上	98	13	23	50	12
	100.0	13.3	23.5	51.0	12.2
矢野口	202	16	39	142	5
	100.0	7.9	19.3	70.3	2.5
東長沼	183	15	19	145	4
	100.0	8.2	10.4	79.2	2.2
大丸	115	12	18	83	2
	100.0	10.4	15.7	72.2	1.7
百村	56	6	9	40	1
	100.0	10.7	16.1	71.4	1.8
坂浜	39	5	10	23	1
	100.0	12.8	25.6	59.0	2.6
平尾	155	13	29	105	8
	100.0	8.4	18.7	67.7	5.2
押立	65	8	11	43	3
	100.0	12.3	16.9	66.2	4.6
向陽台	143	8	15	118	2
	100.0	5.6	10.5	82.5	1.4
長峰	63	4	8	50	1
	100.0	6.3	12.7	79.4	1.6
若葉台	154	4	10	134	6
	100.0	2.6	6.5	87.0	3.9

5 福祉サービスについて

問 17 福祉サービスの充実と税金等の負担について、どのように考えますか。(1つに○)

「税金等の負担がある程度重くなっても、福祉サービスが充実している方が良い」(30.6%) という回答が最も多く、「わからない」(25.4%)、「税金等の負担が若干重くなるくらいで、福祉サービスは現状程度で良い」(24.3%)が続いている。



【性別】

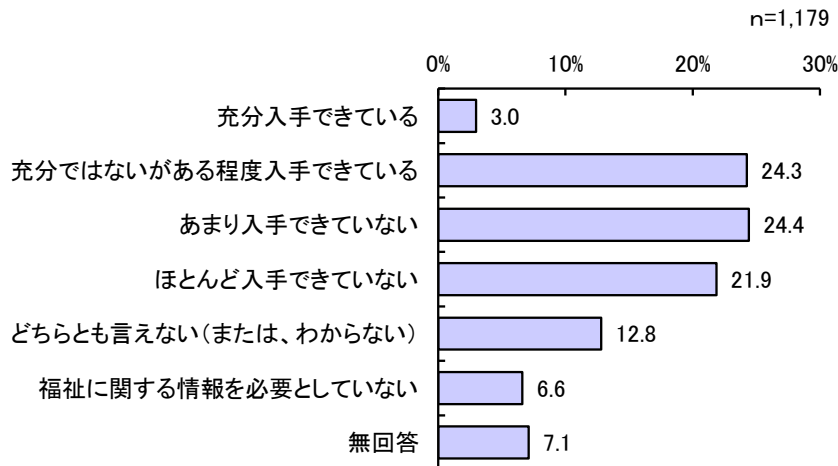
男女別でみると、「税金等の負担が若干重くなるくらいで、福祉サービスは現状程度で良い」では、男性が女性よりも6.6ポイント多い。また、「わからない」では、女性が男性より10ポイント多くなっている。

	合計	福祉サービスが充実している方が良い	福祉サービスは現状程度で良い	サービスを抑えても、税金等の負担を軽減すべき	その他	わからない	無回答
全体	1179	361	287	138	53	300	40
	100.0	30.6	24.3	11.7	4.5	25.4	3.4
男性	527	166	148	64	25	105	19
	100.0	31.5	28.1	12.1	4.7	19.9	3.6
女性	642	193	138	72	27	192	20
	100.0	30.1	21.5	11.2	4.2	29.9	3.1

問 18 あなたは、福祉サービスに関して必要な情報をどの程度入手できていると思いますか。(1つに○)

「あまり入手できていない」(24.4%)と「充分ではないがある程度入手できている」(24.3%)が多く、「ほとんど入手できていない」(21.9%)が続いている。

「充分入手できている」との回答は3.0%である。



【年齢別】

年齢別では、「ほとんど入手できていない」は、20歳代、30歳代の若い世代が3割前後が多い。他方、「充分ではないがある程度入手できている」は、60歳代、70歳代、80歳以上の年齢の高い世代で3割前後と多くなっている。

	合計	充分入手できている	充分ではないがある程度入手できている	あまり入手できていない	ほとんど入手できていない	どちらとも言えない(または、わからない)	福祉に関する情報を必要としていない	無回答
全体	1179	35	286	288	258	151	78	83
	100.0	3.0	24.3	24.4	21.9	12.8	6.6	7.1
20~29歳	75	2	6	11	23	19	12	2
	100.0	2.7	8.0	14.7	30.7	25.3	16.0	2.6
30~39歳	156	2	33	38	45	19	10	9
	100.0	1.3	21.2	24.4	28.8	12.2	6.4	5.8
40~49歳	240	9	41	61	63	38	21	7
	100.0	3.8	17.1	25.4	26.3	15.8	8.8	2.9
50~59歳	179	4	40	58	36	22	15	4
	100.0	2.2	22.3	32.4	20.1	12.3	8.4	2.3
60~69歳	225	4	63	51	51	34	11	11
	100.0	1.8	28.0	22.7	22.7	15.1	4.9	4.9
70~79歳	203	10	74	48	29	11	8	23
	100.0	4.9	36.5	23.6	14.3	5.4	3.9	11.3
80歳以上	98	4	28	21	9	8	1	33
	100.0	4.1	28.6	21.4	9.2	8.2	1.0	27.5

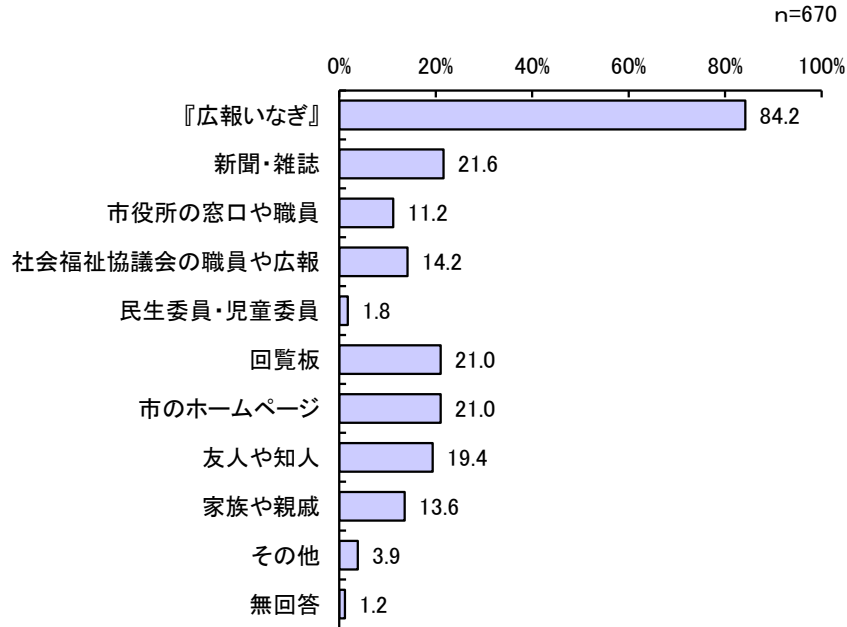
【前回比較】

		単位：%						
	n	充分入手できている	充分ではないがある程度入手できている	あまり入手できていない	ほとんど入手できていない	は、どちらとも言えない（または、わからない）	福祉に関する情報を必要としない	無回答
今回調査	1,179	3.0	24.3	24.4	21.9	12.8	6.6	7.1
前回調査	921	2.5	21.9	17.7	25.3	16.9	8.5	7.2

前回調査結果では「ほとんど入手できていない」が最も多い回答だったが、今回調査では「あまり入手できていない」が最も多くなっており、「あまり入手できていない」は前回より6.7ポイント増加している。

問 18-1 (問 18 で「1」から「3」とお答えの方へ) あなたは、福祉サービスに関して必要な情報を、主としてどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

『広報いなぎ』(84.2%)で最も多く、「新聞・雑誌」(21.6%)、「回覧板」及び「市のホームページ」(ともに21.0%)などが続いている。



【性別】

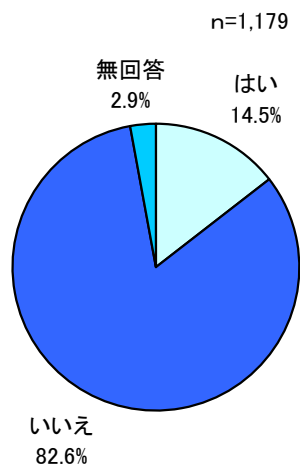
男女別では、「市のホームページ」について、男性が女性よりも9ポイント多く、「友人や知人」では、反対に女性が男性よりも7.1ポイント多い。

	合計	『広報いなぎ』	新聞・雑誌	市役所の窓口や職員	社会福祉協議会の職員や広報	民生委員・児童委員	回覧板	市のホームページ	友人や知人	家族や親戚	その他	無回答
全体	670	564	145	75	95	12	141	141	130	91	26	8
	100.0	84.2	21.6	11.2	14.2	1.8	21.0	21.0	19.4	13.6	3.9	1.2
男性	275	225	68	38	42	3	54	73	42	43	7	2
	100.0	81.8	24.7	13.8	15.3	1.1	19.6	26.5	15.3	15.6	2.5	0.7
女性	388	334	75	37	52	9	85	68	87	48	19	5
	100.0	86.1	19.3	9.5	13.4	2.3	21.9	17.5	22.4	12.4	4.9	1.3

6 生活困窮時の支援について

問 19 あなたは、生活に困っていますか。(1つに○)

「いいえ」との回答が82.6%で多く、「はい」は14.5%となっている。



【家族構成別、世帯年収別】

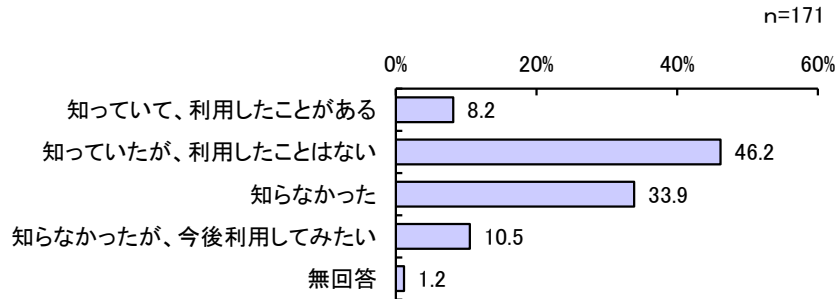
家族構成別でみると、ひとり暮らしやその他の人で「はい」が全体平均よりも10ポイント以上多く、二世帯世帯（親と子）の人では少なくなっている。

世帯年収別では、年収300万円未満の層で「はい」が、全体平均よりも10ポイント以上多くなっている。

	合計	はい	いいえ	無回答
全体	1179	171	974	34
	100.0	14.5	82.6	2.9
ひとり暮らし	138	34	96	8
	100.0	24.6	69.6	5.8
夫婦のみ	328	45	272	11
	100.0	13.7	82.9	3.4
二世帯世帯（親と子）	626	72	544	10
	100.0	11.5	86.9	1.6
三世帯世帯（親と子と孫）	57	9	44	4
	100.0	15.8	77.2	7.0
その他	24	9	14	1
	100.0	37.5	58.3	4.2
150万円未満	101	44	52	5
	100.0	43.6	51.5	5.0
150万円以上300万円未満	219	56	150	13
	100.0	25.6	68.5	5.9
300万円以上500万円未満	230	21	204	5
	100.0	9.1	88.7	2.2
500万円以上650万円未満	127	11	113	3
	100.0	8.7	89.0	2.4
650万円以上800万円未満	161	10	151	0
	100.0	6.2	93.8	0.0
800万円以上1,000万円未満	143	12	130	1
	100.0	8.4	90.9	0.7
1,000万円以上	142	5	137	0
	100.0	3.5	96.5	0.0

問 19-1 (問 19 で「1」とお答えの方へ) 生活に困っている方のための相談窓口(「福祉くらしの相談窓口」)が市役所(生活福祉課)にあることを、あなたはご存知でしたか。(1つに○)

「知っていたが、利用したことはない」(46.2%)が最も多く、次いで「知らなかった」(33.9%)が多くなっている。



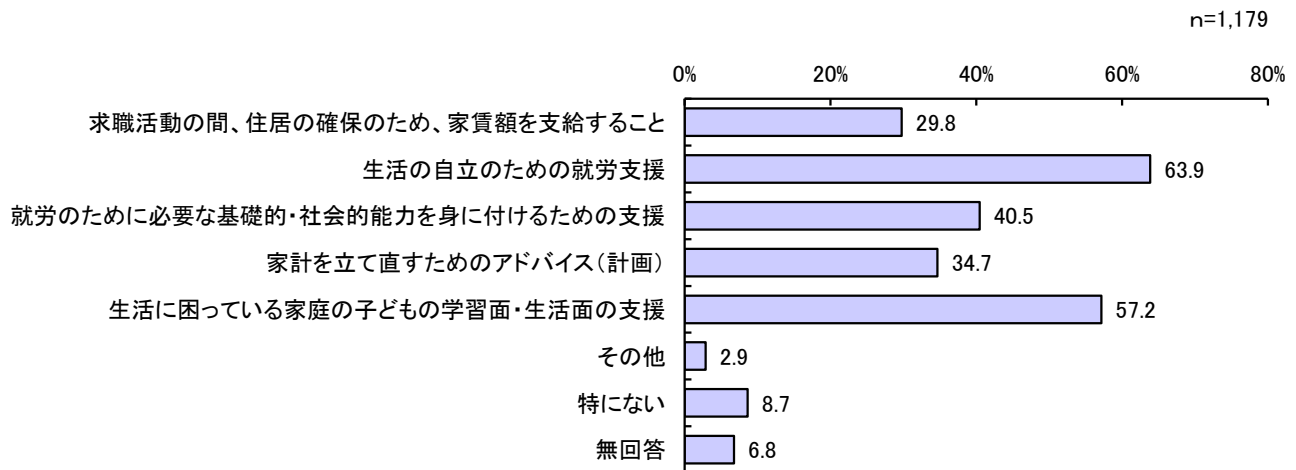
【居住地区別】

居住地区別で見ると、押立、向陽台、若葉台で「知らなかった」が多くなっている。

	合計	知っていて、利用したことがある	知っていたが、利用したことはない	知らなかった	知らなかったが、今後利用してみたい	無回答
全体	171	14	79	58	18	2
	100.0	8.2	46.2	33.9	10.5	1.2
矢野口	32	1	15	10	6	0
	100.0	3.1	46.9	31.3	18.8	0.0
東長沼	27	2	17	6	2	0
	100.0	7.4	63.0	22.2	7.4	0.0
大丸	24	1	13	9	1	0
	100.0	4.2	54.2	37.5	4.2	0.0
百村	8	1	3	3	0	1
	100.0	12.5	37.5	37.5	0.0	12.5
坂浜	6	2	4	0	0	0
	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
平尾	24	2	13	5	4	0
	100.0	8.3	54.2	20.8	16.7	0.0
押立	10	2	3	4	1	0
	100.0	20.0	30.0	40.0	10.0	0.0
向陽台	17	0	3	13	1	0
	100.0	0.0	17.6	76.5	5.9	0.0
長峰	11	2	5	3	1	0
	100.0	18.2	45.5	27.3	9.1	0.0
若葉台	11	1	2	5	2	1
	100.0	9.1	18.2	45.5	18.2	9.1

問 20 平成 27 年度から開始された「生活困窮者自立支援制度」では、各市による生活に困っている方のための次のような取り組みが想定されていますが、これらの取り組みの中で必要だと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

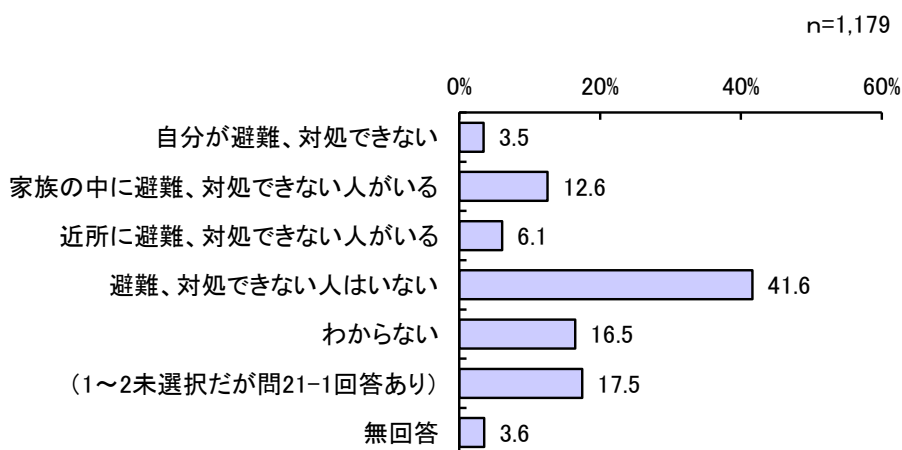
「生活の自立のための就労支援」(63.9%) という回答が最も多く、次いで「生活に困っている家庭の子どもの学習面・生活面の支援」(57.2%) が多く、「就労のために必要な基礎的・社会的能力を身に付けるための支援」(40.5%) 等が続いている。



7 災害時の避難などについて

問 21 あなたまたはあなたのご家族、およびご近所の方に、災害時にひとりで避難（または対処）することができない人はいらっしゃいますか。（あてはまるものすべてに○）

「避難、対処できない人はいない」（41.6%）という回答が最も多く、「わからない」（16.5%）、「家族の中に避難、対処できない人がいる」（12.6%）等が続いている。

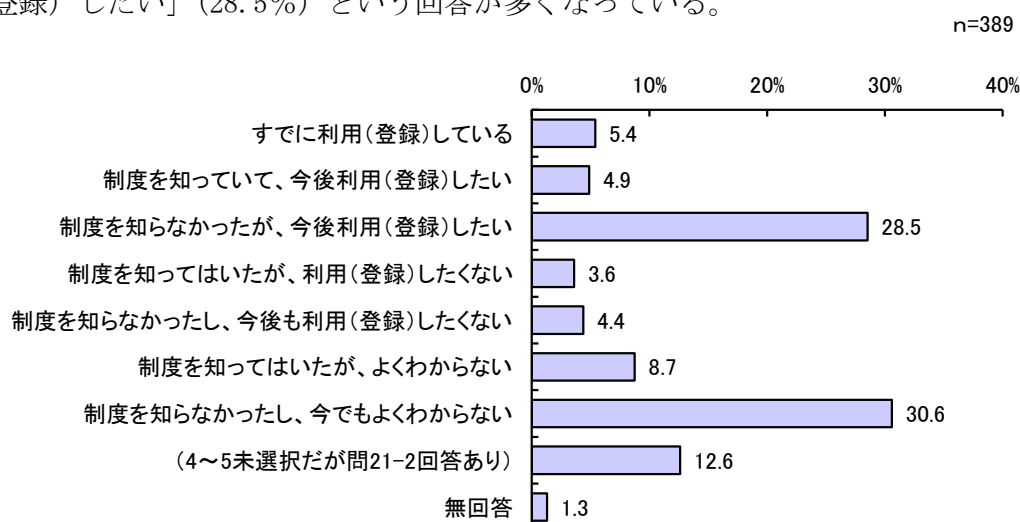


問 21-1 (問 21 で「1」または「2」とお答えの方へ) 市では、支援（手助け）が必要な高齢者や障害のある人など（「災害時要援護者/避難行動要支援者」）の申請に基づいた登録名簿を作成しています。

災害発生時等における安否確認や迅速な支援活動を地域で行うため、この登録名簿を関係支援団体で共有するしくみ（『稲城市災害時要援護者市民相互支援ネットワーク』）を平成 15 年から運用しています。

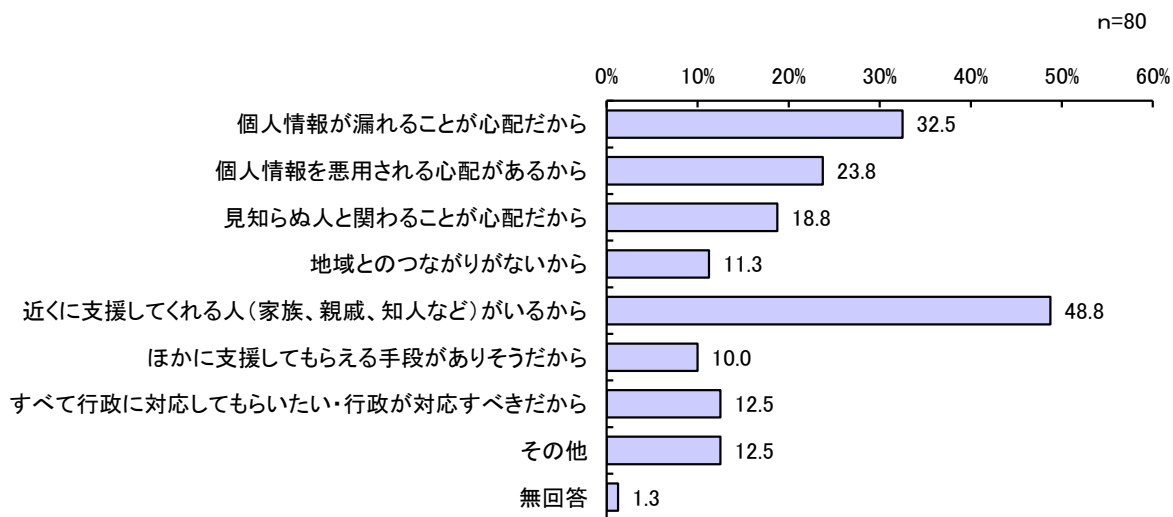
あなたはこのしくみをご存知でしたか。また、利用（登録）したい、あるいは家族に利用させたいと思いますか。（1つに○）

「制度を知らなかったし、今でもよくわからない」（30.6%）と「制度を知らなかったが、今後利用（登録）したい」（28.5%）という回答が多くなっている。



問 21-2 (問 21-1で「4」または「5」とお答えの方へ)利用(登録)したくないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

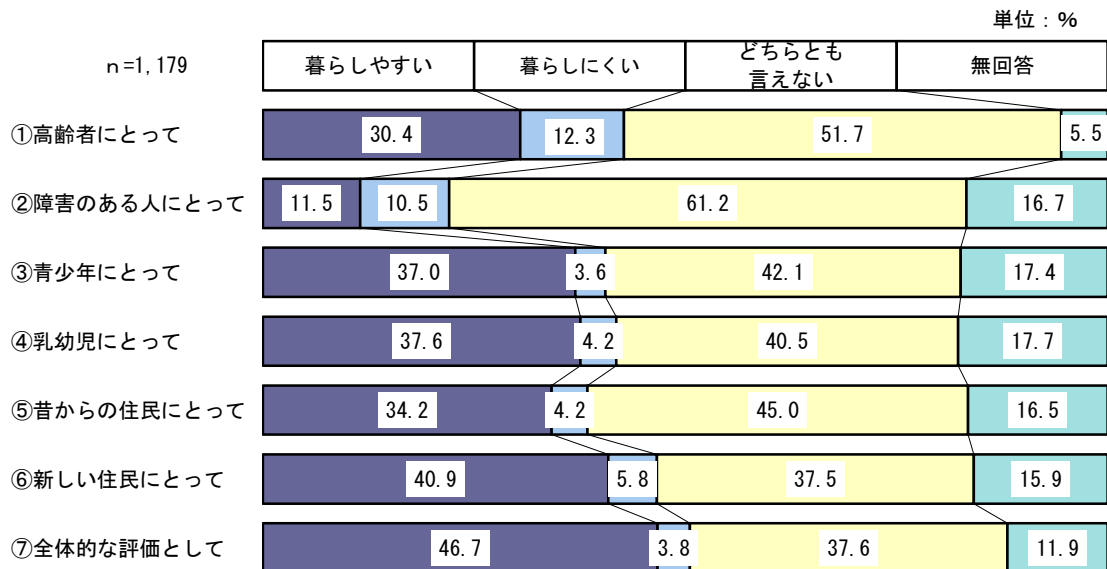
「近くに支援してくれる人(家族、親戚、知人など)がいるから」(80人中39人)が最も多く、「個人情報が漏れることが心配だから」(同26人)、「個人情報を悪用される心配があるから」(同19人)等が続いている。(※nが100未満であるため、実数を用いて分析している。)



8 今後望むことなどについて

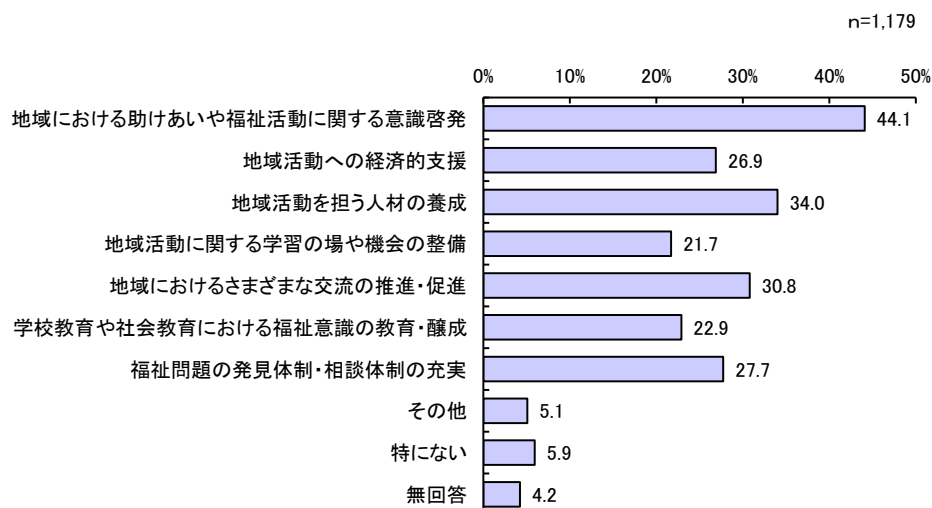
問 22 あなたからみて、稲城市の暮らしやすさの評価はどの程度ですか。①～⑦について、「暮らしやすい」、「暮らしにくい」、「どちらとも言えない」のどれか1つに○印をつけてください。また、その理由についても簡単に教えてください。

市の暮らしやすさについては、全体的な評価として「暮らしやすい」と回答した人が46.7%となっている。他方で、「暮らしやすい」は、障害のある人にとっては11.5%、高齢者にとっては30.4%にとどまり、比較的低い評価になっている。



問 23 地域で互いに助けあえるまちになるためには、稲城市には何が重要だと思いますか。(3つまでに○)

「地域における助けあいや福祉活動に関する意識啓発」(44.1%)が最も多く、次いで「地域活動を担う人材の養成」(34.0%)が多く、「地域におけるさまざまな交流の推進・促進」(30.8%)が続いている。



【性別】

男女別でみると、「福祉問題の発見体制・相談体制の充実」、「地域における助けあいや福祉活動に関する意識啓発」では、女性が男性よりも、順に4.7ポイント、4.4ポイント多くなっている。

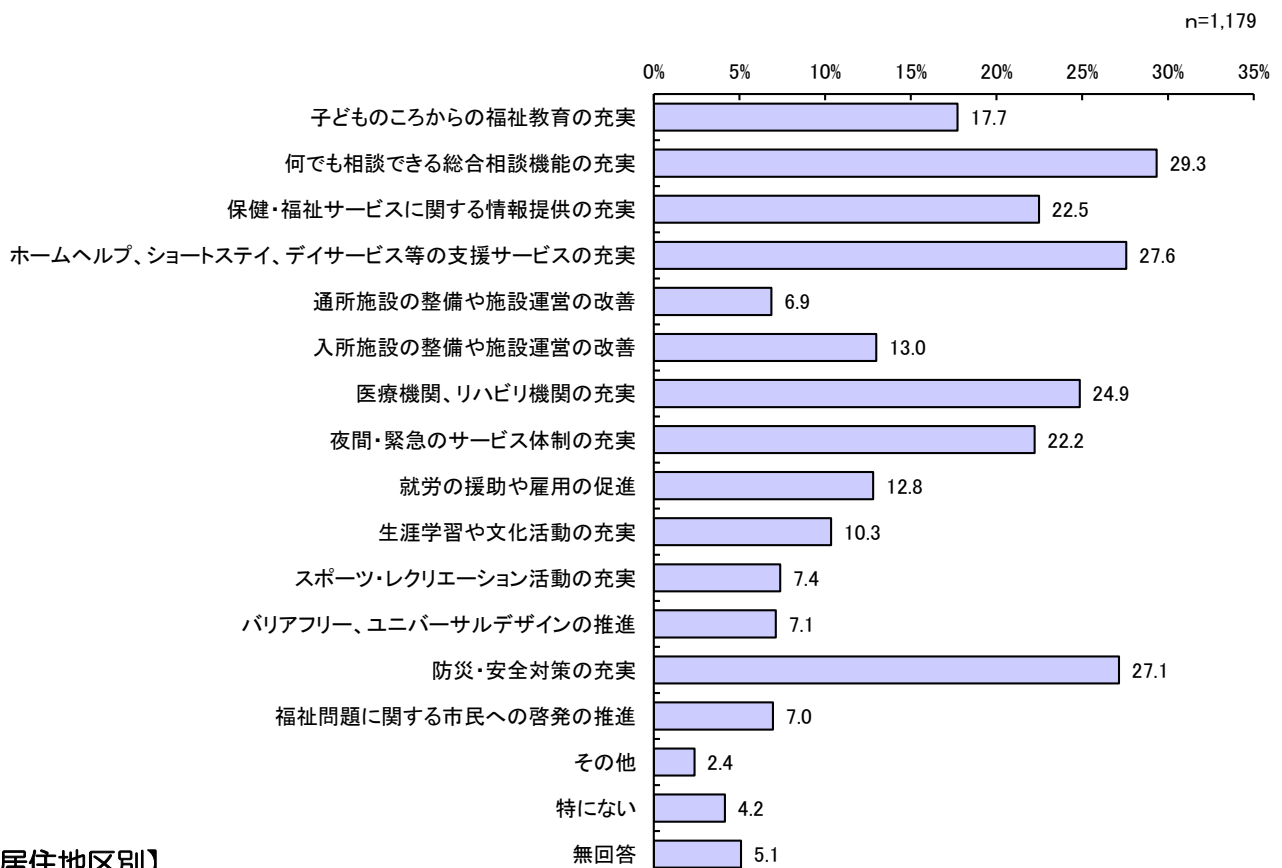
「学校教育や社会教育における福祉意識の教育・醸成」では、反対に男性が女性よりも4.3ポイント多くなっている。

	合計	地域における助けあいや福祉活動に関する意識啓発	地域活動への経済的支援	地域活動を担う人材の養成	地域活動に関する学習の場や機会の整備	地域におけるさまざまな交流の推進・促進	学校教育や社会教育における福祉意識の教育・醸成	福祉問題の発見体制・相談体制の充実	その他	特にない	無回答
全体	1179	520	317	401	256	363	270	327	60	70	50
	100.0	44.1	26.9	34.0	21.7	30.8	22.9	27.7	5.1	5.9	4.2
男性	527	220	151	187	109	163	133	134	32	30	18
	100.0	41.7	28.7	35.5	20.7	30.9	25.2	25.4	6.1	5.7	3.4
女性	642	296	164	210	147	197	134	193	27	39	31
	100.0	46.1	25.5	32.7	22.9	30.7	20.9	30.1	4.2	6.1	4.8

問 24 稲城市において、今後特に重要だと思われる福祉・保健施策は何ですか。（3つまでに○）

「何でも相談できる総合相談機能の充実」（29.3%）が最も多く、「ホームヘルプ、ショートステイ、デイサービス等の支援サービスの充実」（27.6%）、「防災・安全対策の充実」（27.1%）、「医療機関、リハビリ機関の充実」（24.9%）等が続いている。

ほかには、「保健・福祉サービスに関する情報提供の充実」（22.5%）や「夜間・緊急のサービス体制の充実」（22.2%）が、2割を超える回答となっている。



【居住地区別】

居住地区別では、10地区のうち半数に当たる東長沼、大丸、坂浜、平尾、押立の5地区で「何で

も相談できる総合相談機能の充実」が最も多くなっており、また、矢野口と若葉台の2地区では「ホームヘルプ等の支援サービスの充実」が最も多くなっている。
 上位の回答は全地区共通の多いが、大丸と坂浜では「子どものころからの福祉教育の充実」が上位の回答に入っている。

(*上位5回答、単位：%、nが100未満の場合は実人数)

地区名 回答者数(人)						
矢野口	ホームヘルプ等の支援サービスの充実	何でも相談できる総合相談機能の充実	医療機関、リハビリ機関の充実	保健・福祉サービスに関する情報提供の充実	防災・安全対策の充実	
202	30.2	27.7	27.2	26.7	24.3	
東長沼	何でも相談できる総合相談機能の充実	防災・安全対策の充実	保健・福祉サービスに関する情報提供の充実	夜間・緊急のサービス体制の充実	医療機関、リハビリ機関の充実	
183	30.1	29.0	26.8	24.6	24.0	
大丸	何でも相談できる総合相談機能の充実	防災・安全対策の充実	ホームヘルプ等の支援サービスの充実	子どものころからの福祉教育の充実	夜間・緊急のサービス体制の充実	
115	39.1	25.2	22.6		21.7	
百村	夜間・緊急のサービス体制の充実	何でも相談できる総合相談機能の充実	防災・安全対策の充実	ホームヘルプ等の支援サービスの充実	医療機関、リハビリ機関の充実	
56	16人	15人	14人	12人	11人	
坂浜	何でも相談できる総合相談機能の充実	子どものころからの福祉教育の充実	ホームヘルプ等の支援サービスの充実	医療機関、リハビリ機関の充実	保健・福祉サービスに関する情報提供の充実	防災・安全対策の充実
39	15人	11人		10人		9人
平尾	何でも相談できる総合相談機能の充実	ホームヘルプ等の支援サービスの充実	夜間・緊急のサービス体制の充実	防災・安全対策の充実	保健・福祉サービスに関する情報提供の充実	医療機関、リハビリ機関の充実
155	32.3	30.3		23.9		22.6
押立	何でも相談できる総合相談機能の充実	夜間・緊急のサービス体制の充実	防災・安全対策の充実	ホームヘルプ等の支援サービスの充実	医療機関、リハビリ機関の充実	
65	23人		20人		18人	
向陽台	防災・安全対策の充実	ホームヘルプ等の支援サービスの充実	医療機関、リハビリ機関の充実	何でも相談できる総合相談機能の充実	保健・福祉サービスに関する情報提供の充実	
143	33.6		25.2	23.1	20.3	
長峰	医療機関、リハビリ機関の充実	何でも相談できる総合相談機能の充実	ホームヘルプ等の支援サービスの充実	防災・安全対策の充実	夜間・緊急のサービス体制の充実	
63	20人			17人	12人	
若葉台	ホームヘルプ等の支援サービスの充実	医療機関、リハビリ機関の充実	防災・安全対策の充実	何でも相談できる総合相談機能の充実	保健・福祉サービスに関する情報提供の充実	夜間・緊急のサービス体制の充実
154	39.0		27.9	23.4		22.7

9 自由記入内容のまとめ

市の今後の「地域福祉」施策への意見等を、自由記入方式でたずねた。その内容を項目別にまとめると、以下のようになる。

福祉のまちづくり（交差点、歩道等）	9件
「ふれあいカフェ」の設置	2件
幼児や高齢者が交流できる場や居場所等づくり	6件
相談体制の整備	4件
総合（相談）窓口について	2件
地域でのちょっとした手助け	11件
福祉に関する情報について	6件
駅ビルの増設と多目的活用	1件
高齢者デイサービスについて	2件
保育園・学童保育・幼稚園について	8件
出産から子育てまでの一貫した支援	1件
環境保全について	9件
放課後子ども教室	2件
学校教育について	4件
iバス（路線等）の充実	8件
まちのハード面の整備など	8件
「地域福祉」政策の推進について	6件
市社会福祉協議会（存在、事業等）のPR	1件
バスの増便	3件
医療（市民病院等）についての希望	6件
自宅で最期を迎えられるような医療体制	1件
介護保険のサービスについて	1件
民生委員・児童委員について	1件
自治会（町内会）について	3件
地域での諸活動（*ボランティア活動を含む。）	4件
地域での見守り・声掛け	1件
防災、緊急時対応等	5件
障害児療育体制への要望	1件
行政の、地域への支援	2件
公共施設の活用法	3件
空き家対策について	1件
アンケート調査自体について	8件
市の福祉に対する感想	19件
市行政への希望・要望	46件
その他	36件

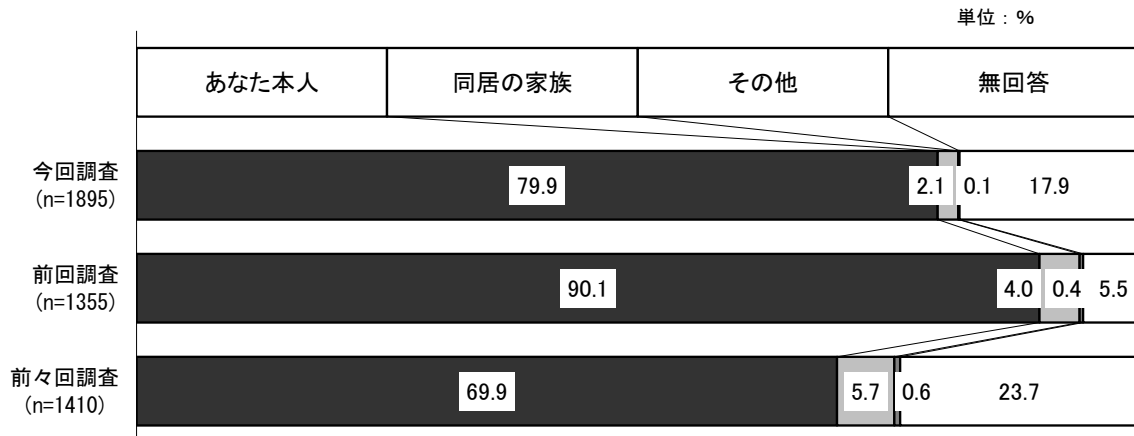
Ⅲ 「高齢者福祉調査」の結果

◆ 調査の結果

1. 回答者の属性

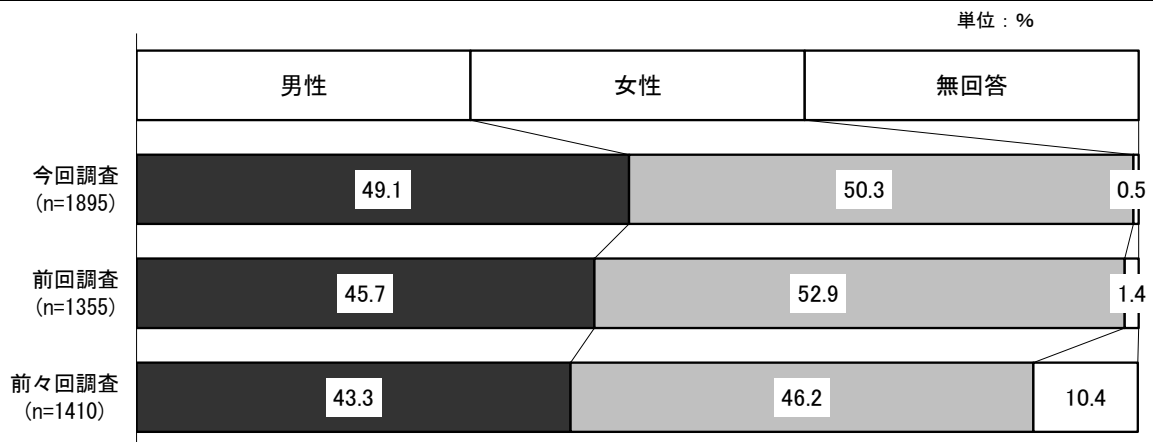
(1) 記入者

問1 この調査票に回答されている方はどなたですか。(1つに○)



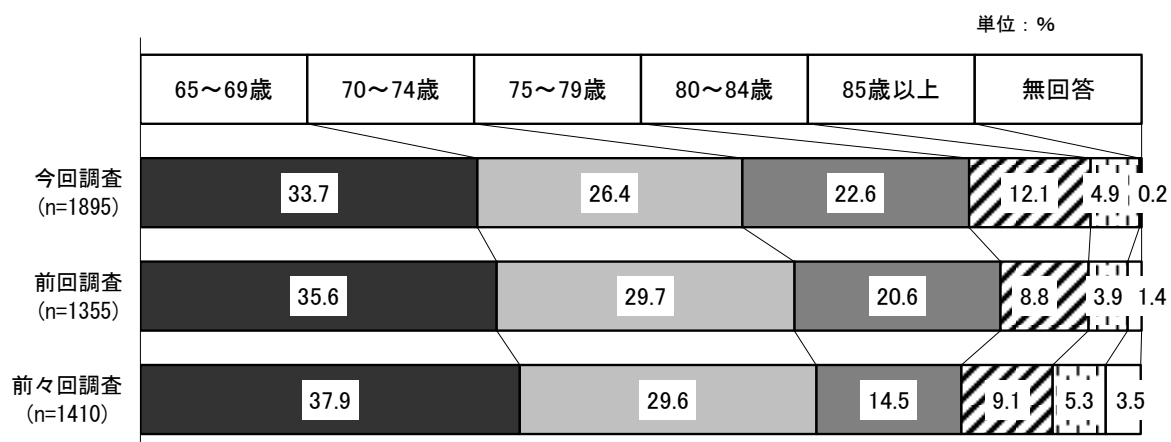
(2) 性別

問2 あなたの性別は。(1つに○)



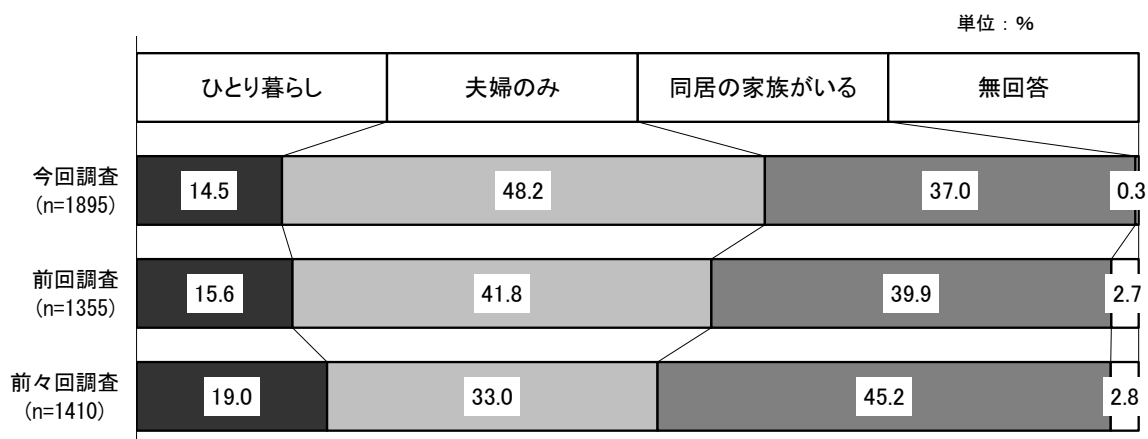
(3) 年齢

問3 あなたの年齢（平成29年2月1日現在）は。（1つに○）



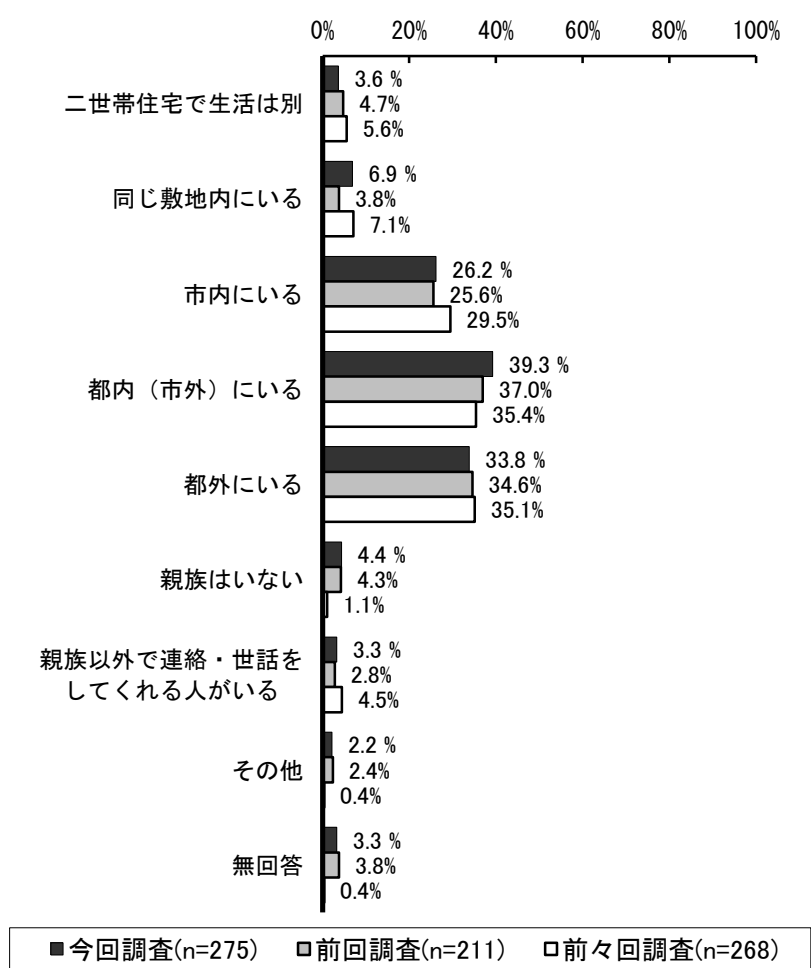
(4) 家族構成

問4 家族構成は。（1つに○）



(5) 親族の居場所

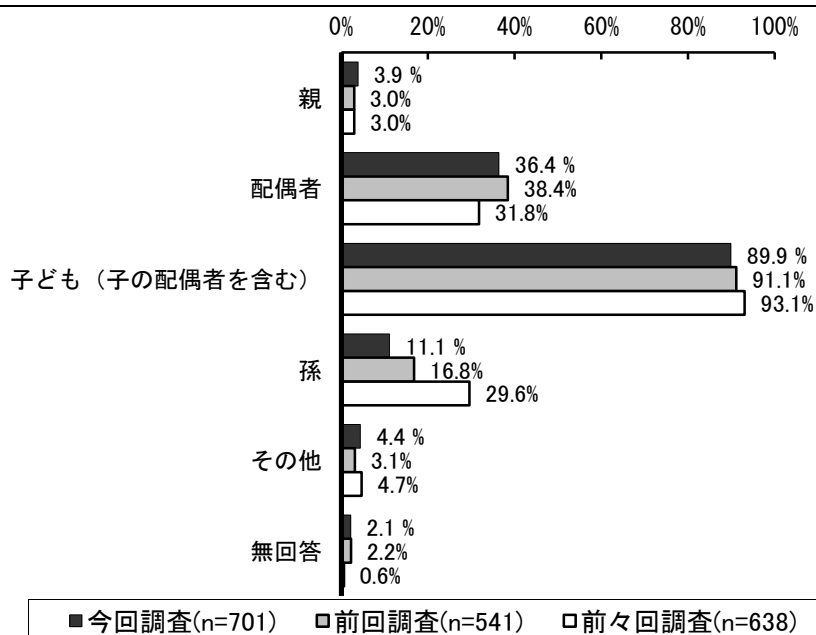
問5 (問4で「1」とお答えの方へ) 親族の方はどこにいますか。(あてはまるものすべてに○)



(6) 同居の家族

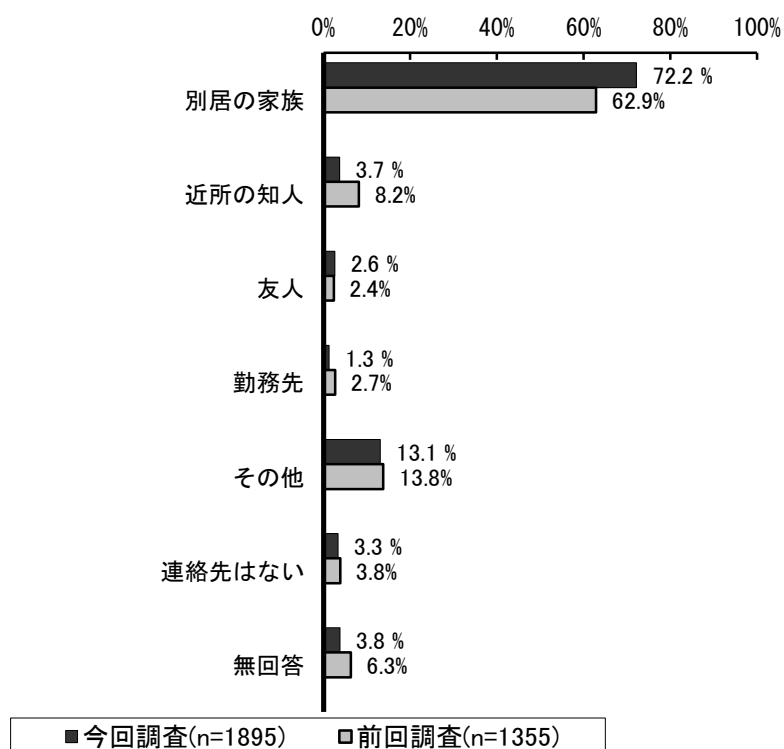
問6 (問4で「3」とお答えの方へ) 同居している方はどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)



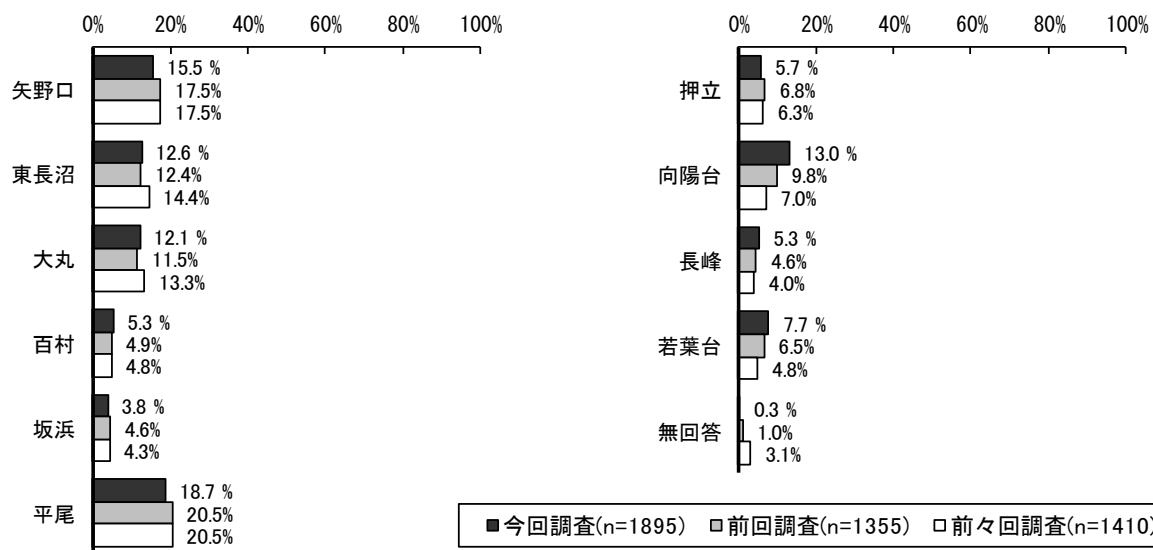
(7) 緊急時の連絡先

問7 緊急の際に同居家族以外に連絡を取るとしたら、どなた宛になりますか。(1つに○)



(8) 居住地区

問8 あなたのお住まいの地区名は。(1つに○)



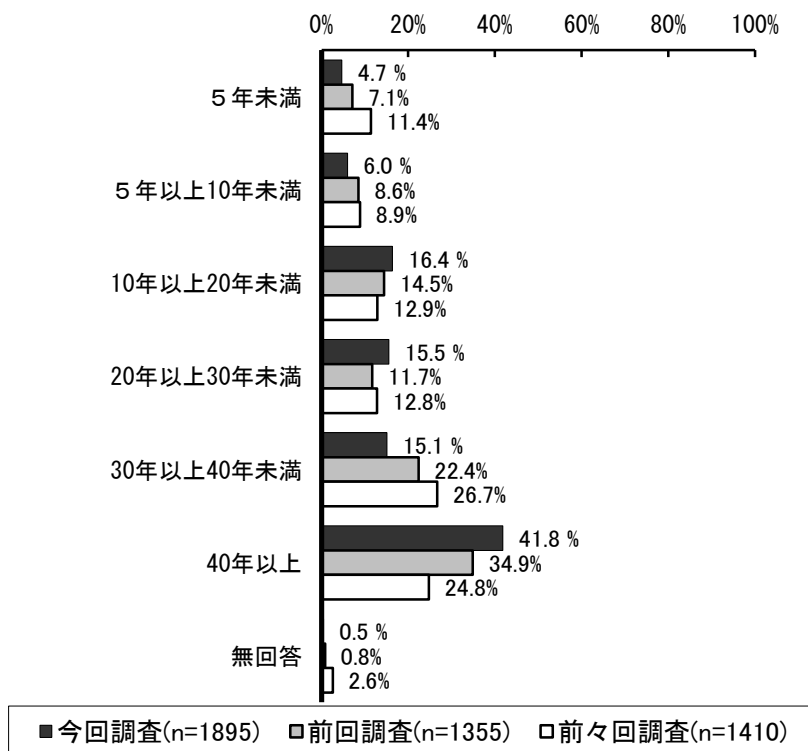
◇地区別の傾向について

地区別の傾向を見る際には、市が設定している日常生活圏域に基づき、以下の4地区に分類します。

- ・第1地区：坂浜、平尾 (n=427)
- ・第2地区：押立・矢野口 (n=402)
- ・第3地区：大丸、東長沼、百村 (n=568)
- ・第4地区：向陽台、長峰、若葉台 (n=493)

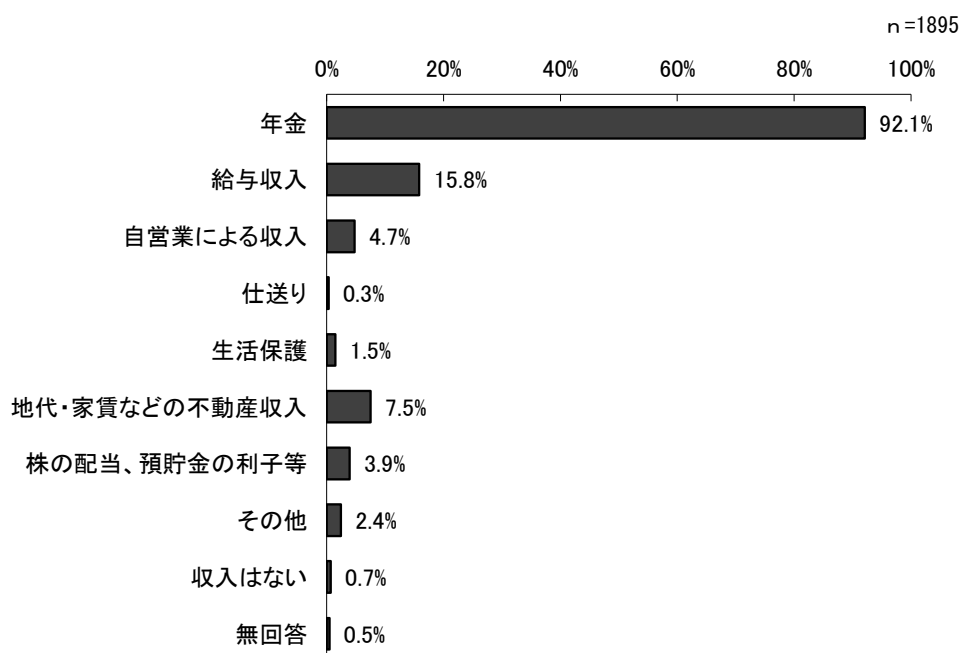
(9) 居住年数

問9 稲城市に何年住んでいますか。(1つに○)



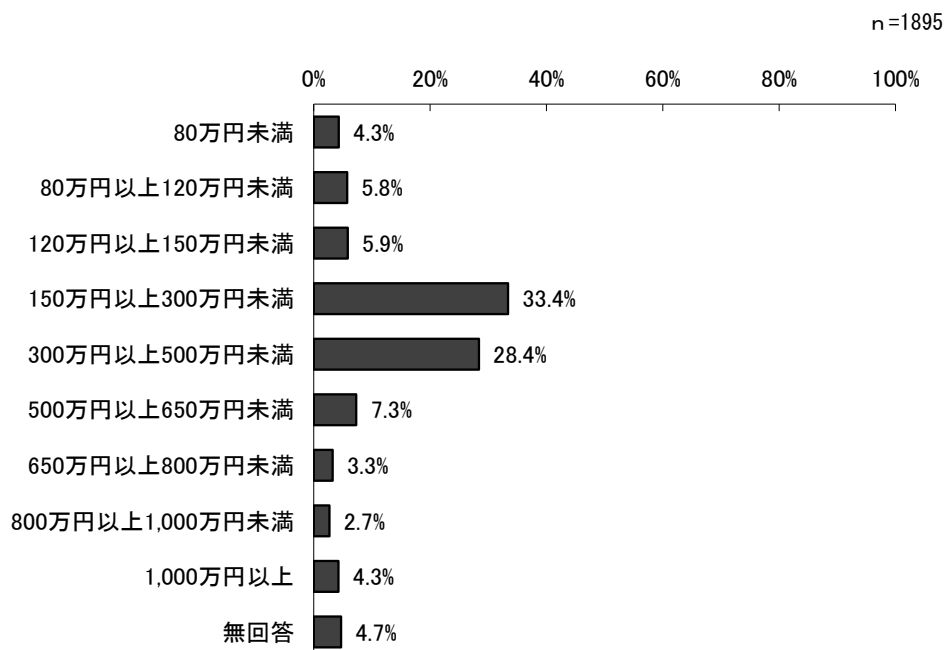
(10) 主たる収入源

問10 あなた個人の主たる収入源はどれですか。(3つまでに○)



(11) 世帯の収入

問 11 あなたの世帯の世帯収入(年収)は次のどれにあたりますか。(1つに○)



◇世帯の収入別の傾向について

世帯の収入別の傾向を見る際には、回答者の比率等から、以下の4つに分類します。

- ・ 150万円未満 (n=302)
- ・ 150万円以上 300万円未満 (n=633)
- ・ 300万円以上 500万円未満 (n=538)
- ・ 500万円以上 (n=333)

(12) 地区別に見た回答者の傾向

以下に挙げる傾向については、今回の調査の回答者の傾向であり、実際の母集団の傾向とは必ずしも一致しない場合もあります。

◇地区別の年齢の傾向

	回答者数(n)	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
全体	1895	33.7	26.4	22.6	12.1	4.9	0.2
第1地区	427	28.3	30.0	23.7	11.9	5.9	0.2
第2地区	402	30.8	22.9	27.1	13.9	5.2	0.0
第3地区	568	33.3	27.5	23.8	11.3	3.9	0.4
第4地区	493	41.0	24.9	16.8	12.0	5.1	0.2

地区別の年齢の傾向としては、第4地区で「65～69歳」との回答が41.0%と高くなっています。

◇地区別の家族構成の傾向

	回答者数(n)	ひとり暮らし	夫婦のみ	同居の家族がいる	無回答
全体	1895	14.5	48.2	37.0	0.3
第1地区	427	20.8	47.1	31.6	0.5
第2地区	402	14.9	46.0	39.1	0.0
第3地区	568	14.8	44.7	40.0	0.5
第4地区	493	8.1	55.0	36.7	0.2

地区別の家族構成の傾向としては、第1地区で「ひとり暮らし」との回答が20.8%、第4地区では「夫婦のみ」との回答が55.0%と高くなっています。

◇地区別の居住年数の傾向

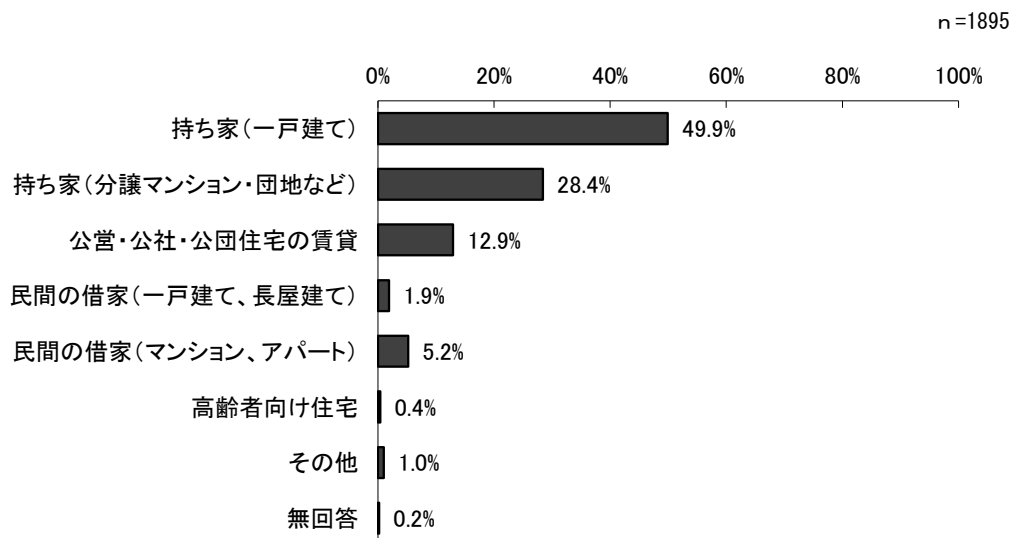
	回答者数(n)	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上	無回答
全体	1895	4.7	6.0	16.4	15.5	15.1	41.8	0.5
第1地区	427	4.4	5.9	9.8	6.8	26.2	46.8	0.0
第2地区	402	2.0	3.5	7.2	10.9	14.7	61.2	0.5
第3地区	568	5.6	4.0	8.3	12.5	15.3	53.7	0.5
第4地区	493	6.1	10.3	38.9	30.2	5.7	8.5	0.2

地区別の居住年数の傾向としては、「40年以上」との回答が第1地区で46.8%、第2地区で61.2%、第3地区で53.7%と高くなっているのに対し、第4地区では「10年以上20年未満」が38.9%、「20年以上30年未満」との回答が30.2%と高くなっています。

2. 住まいについて

(1) 住まい

問 12 現在お住まいの住宅は、次のどれにあたりますか。(1つに○)



住まいについては、「持ち家（一戸建て）」が 49.9%と最も高く、次いで、「持ち家（分譲マンション・団地など）」が 28.4%、「公営・公社・公団住宅の賃貸」が 12.9%となっています。

「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（分譲マンション・団地など）」を合わせた『持ち家』の方は 78.3%となっています。

◇家族構成別に見た住まい

	回答者数 (n)	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (分譲マン ション・団地など)	公営・公社・ 公団住宅の賃貸	民間の借家 (一戸 建て、長屋建て)	民間の借家 (マン ション、アパー ト)	高齢者向け住宅	その他	無回答
全体	1895	49.9	28.4	12.9	1.9	5.2	0.4	1.0	0.2
ひとり暮らし	275	27.6	24.7	26.5	4.0	12.4	2.5	1.5	0.7
夫婦のみ	913	48.7	33.2	11.1	1.5	4.3	0.1	1.0	0.1
同居の家族がいる	701	60.3	23.8	9.7	1.4	3.7	0.0	0.9	0.1

家族構成別に見ると、ひとり暮らしでは「公営・公社・公団住宅の賃貸」（26.5%）や「民間の借家（マンション、アパート）」（12.4%）との回答が、同居の家族がいる方では「持ち家（一戸建て）」との回答が 60.3%と高くなっています。

◇地区別に見た住まい

	回答者数 (n)	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (分譲マン ション・団地など)	公営・公社・ 公団住宅の賃貸	民間の借家(一戸 建て、長屋建て)	民間の借家(マン ション、アパート)	高齢者向け住宅	その他	無回答
全体	1895	49.9	28.4	12.9	1.9	5.2	0.4	1.0	0.2
第1地区	427	43.3	23.2	28.1	0.7	3.3	0.2	1.2	0.0
第2地区	402	73.9	14.2	0.7	4.0	5.2	0.5	1.2	0.2
第3地区	568	60.4	18.3	7.4	2.8	10.0	0.2	0.9	0.0
第4地区	493	24.5	56.0	16.2	0.2	1.4	0.8	0.8	0.0

地区別に見ると、第1地区では「公営・公社・公団住宅の賃貸」が28.1%、第2地区では「持ち家（一戸建て）」が73.9%、第3地区でも「持ち家（一戸建て）」が60.4%、第4地区では「持ち家（分譲マンション、団地など）」が56.0%と高くなっています。

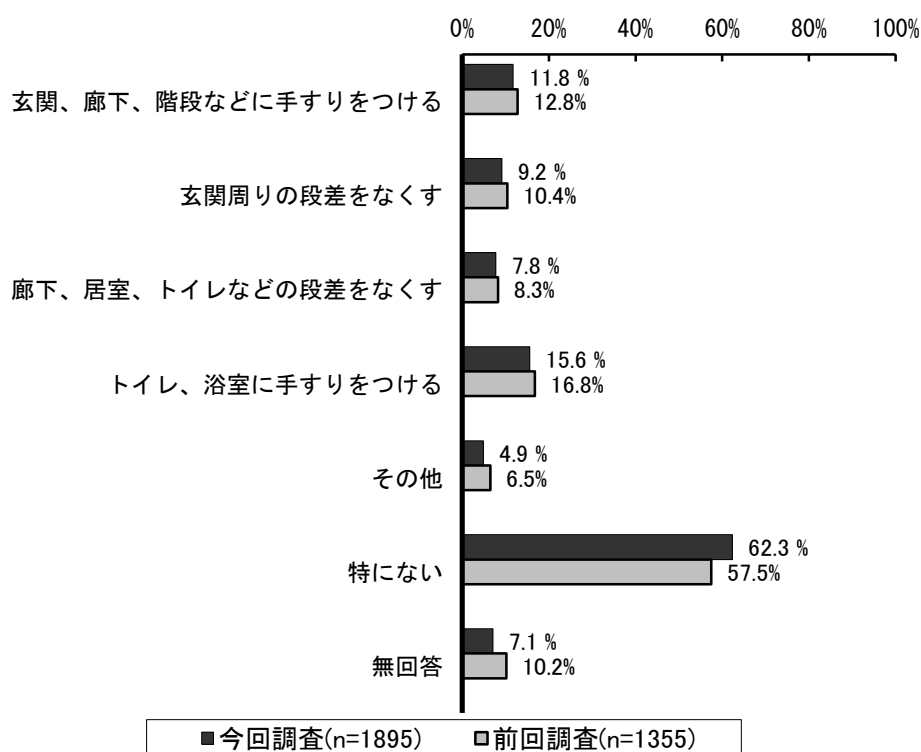
◇年収別に見た住まい

	回答者数 (n)	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (分譲マン ション・団地など)	公営・公社・ 公団住宅の賃貸	民間の借家(一戸 建て、長屋建て)	民間の借家(マン ション、アパート)	高齢者向け住宅	その他	無回答
全体	1895	49.9	28.4	12.9	1.9	5.2	0.4	1.0	0.2
150万円未満	302	43.0	15.9	27.8	4.0	6.0	1.0	2.0	0.3
150万円以上 300万円未満	633	46.1	28.9	14.5	1.6	7.3	0.6	0.9	0.0
300万円以上 500万円未満	538	53.7	33.5	8.0	1.1	3.0	0.2	0.6	0.0
500万円以上	333	58.0	33.3	4.2	0.9	3.3	0.0	0.3	0.0

年収別に見ると、150万円未満では「公営・公社・公団住宅の賃貸」が27.8%、300万円以上500万円未満では「持ち家（分譲マンション、団地など）」が33.5%、500万円以上では「持ち家（一戸建て）」が58.0%とそれぞれ高くなっています。

(2) 増築・改造の意向

問 13 お住まいで、あなたや介助者のために増築、改造したいと思うところがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

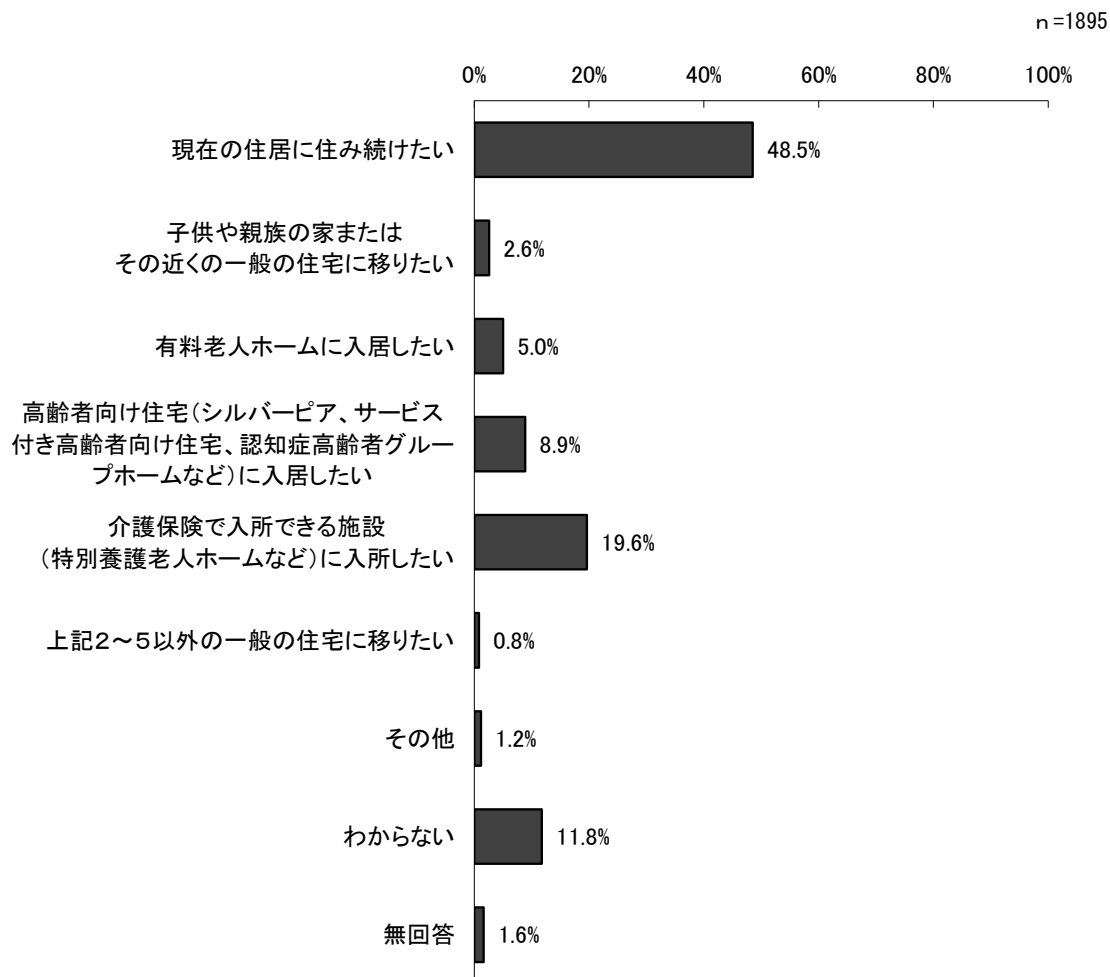


増築、改造したいところとしては、「特にない」が62.3%で最も高くなっています。増築、改造したいところがある、とした回答では、「トイレ、浴室に手すりをつける」が15.6%で最も高くなっています。

経年変化としては、大きな変化は見られません。

(3) 介護が必要な時の住まい

問 14 あなたは、介護が必要になったときの高齢期の住まいについて、どのようにしたいと思いますか。(1つに○)

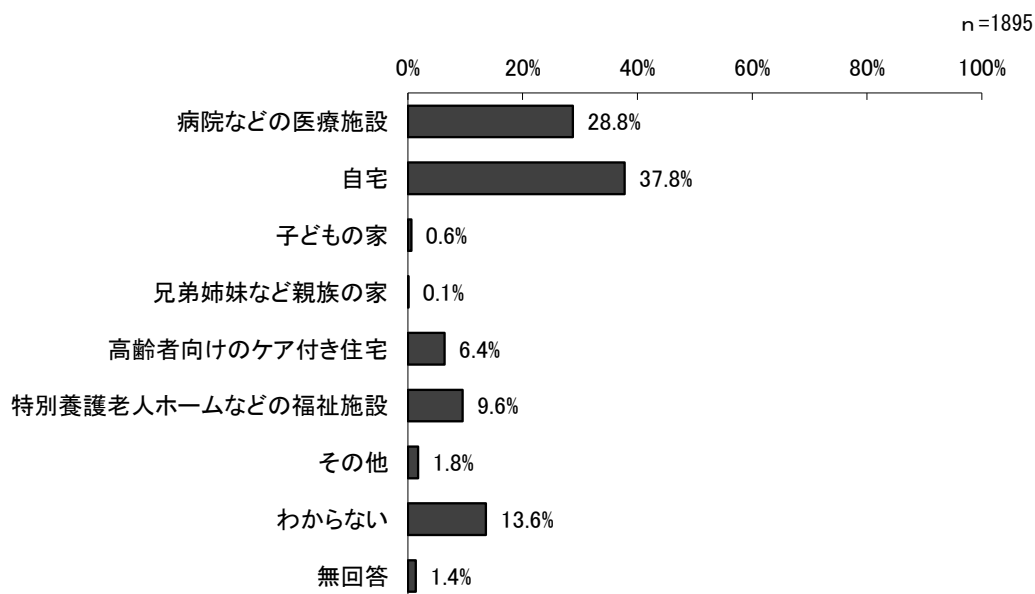


介護が必要になったときの高齢期の住まいについては、「現在の住居に住み続けたい」が48.5%で最も高くなっており、次いで「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が19.6%、「わからない」が11.8%などとなっています。

(4) 終末期の住まい

問 15 万一、あなたが治る見込みがない病気になった場合、最期はどこで迎えたいですか。

(1つに○)

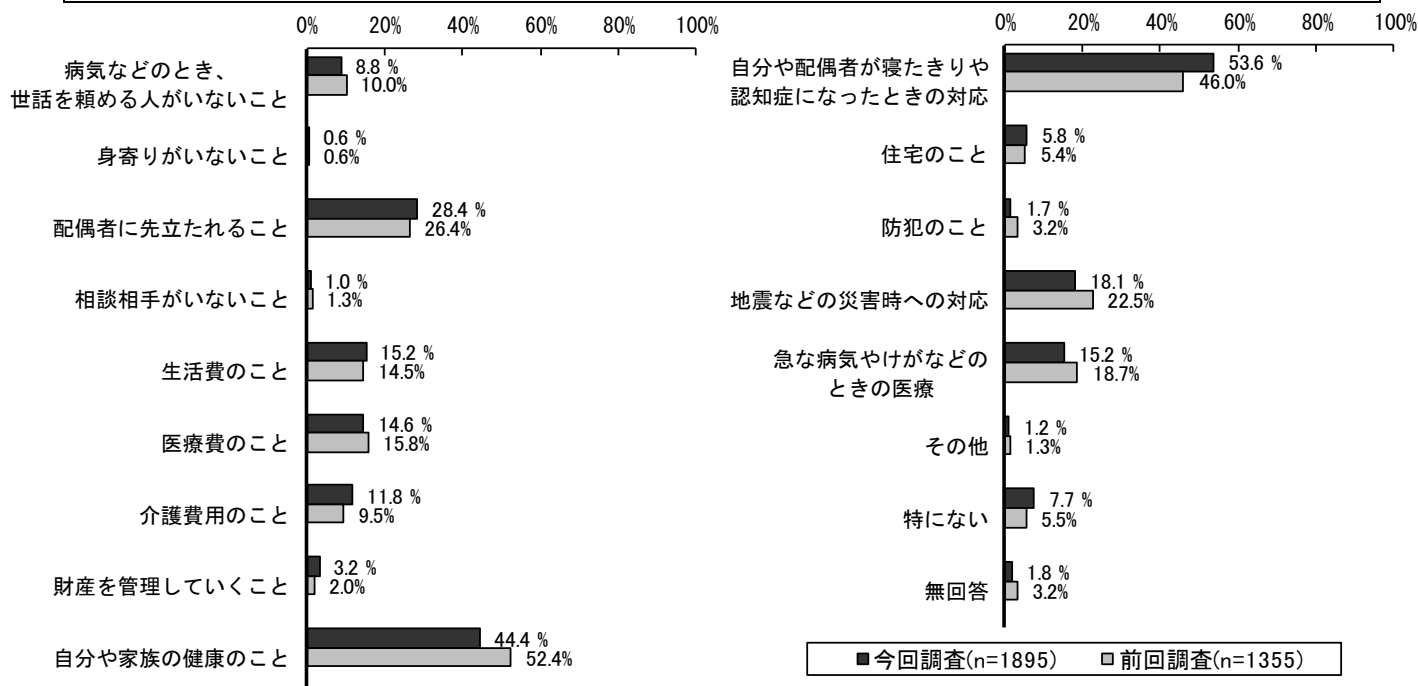


終末期の住まいとしては、「自宅」との回答が37.8%で最も高く、次いで「病院などの医療施設」が28.8%、「わからない」が13.6%などとなっています。

3. 日常生活について

(1) 不安に思っていること

問 16 あなたが今不安に思っていることは、どんなことですか。(3つまで○)



今不安に思っていることについては、「自分や配偶者が寝たきりや認知症になったときの対応」が53.6%と最も高く、次いで「自分や家族の健康のこと」が44.4%、「配偶者に先立たれること」が28.4%などとなっています。

経年比較としては、「自分や配偶者が寝たきりや認知症になったときの対応」が前回に比べ7.6ポイント増加し、「自分や家族の健康のこと」が8.0ポイント減少して、この2項目の順位が入れ替わっています。

◇家族構成別に見た不安に思っていること（上位5回答、単位：％）

	回答者数 (n)	1 番目	2 番目	3 番目	4 番目	5 番目
全体	1895	自分や配偶者が寝たきりや認知症になったときの対応	自分や家族の健康のこと	配偶者に先立たれること	地震などの災害時への対応	生活費のこと／急な病気やけがなどのときの医療
		53.6	44.4	28.4	18.1	15.2
ひとり暮らし	275	自分や家族の健康のこと	病気などのとき、世話を頼める人がいないこと	急な病気やけがなどのときの医療	地震などの災害時への対応	自分や配偶者が寝たきりや認知症になったときの対応
		27.6	26.2	25.5	21.8	19.6
夫婦のみ	913	自分や配偶者が寝たきりや認知症になったときの対応	自分や家族の健康のこと	配偶者に先立たれること	地震などの災害時への対応	生活費のこと
		67.6	44.4	38.7	17.3	13.9
同居の家族がいる	701	自分や家族の健康のこと	自分や配偶者が寝たきりや認知症になったときの対応	配偶者に先立たれること	医療費のこと	地震などの災害時への対応
		50.8	49.1	25.1	19.3	17.5

家族構成別に、不安に思っていることを見ると、どのカテゴリでも「自分や家族の健康のこと」が1番目または2番目となっています。

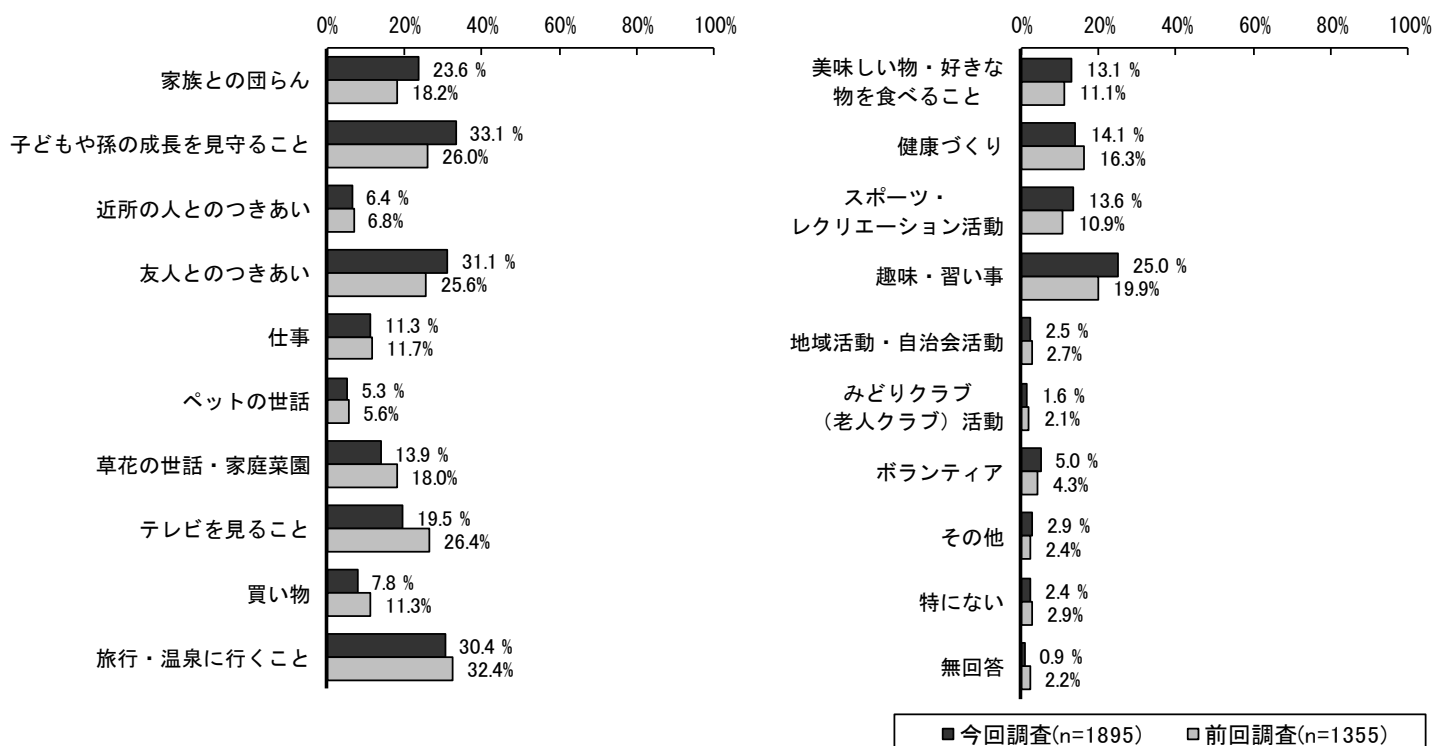
ひとり暮らしの方では、「病気などのとき、世話を頼める人がいないこと」（26.2%）、「急な病気やけがなどのときの医療」（25.5%）と、病気になったときの対応への不安が上位となっています。夫婦のみの方では、「自分や配偶者が寝たきりや認知症になったときの対応」が67.6%、「配偶者に先立たれること」が38.7%と全体より高く、自分が面倒を看る立場となったり、独居となったりすることへの不安がうかがえます。

(2) 現在の楽しみや生きがいと今後やってみたいこと

問 17 現在の楽しみや生きがい、今後やってみたいことはどのようなことですか。

(それぞれ3つまで○)

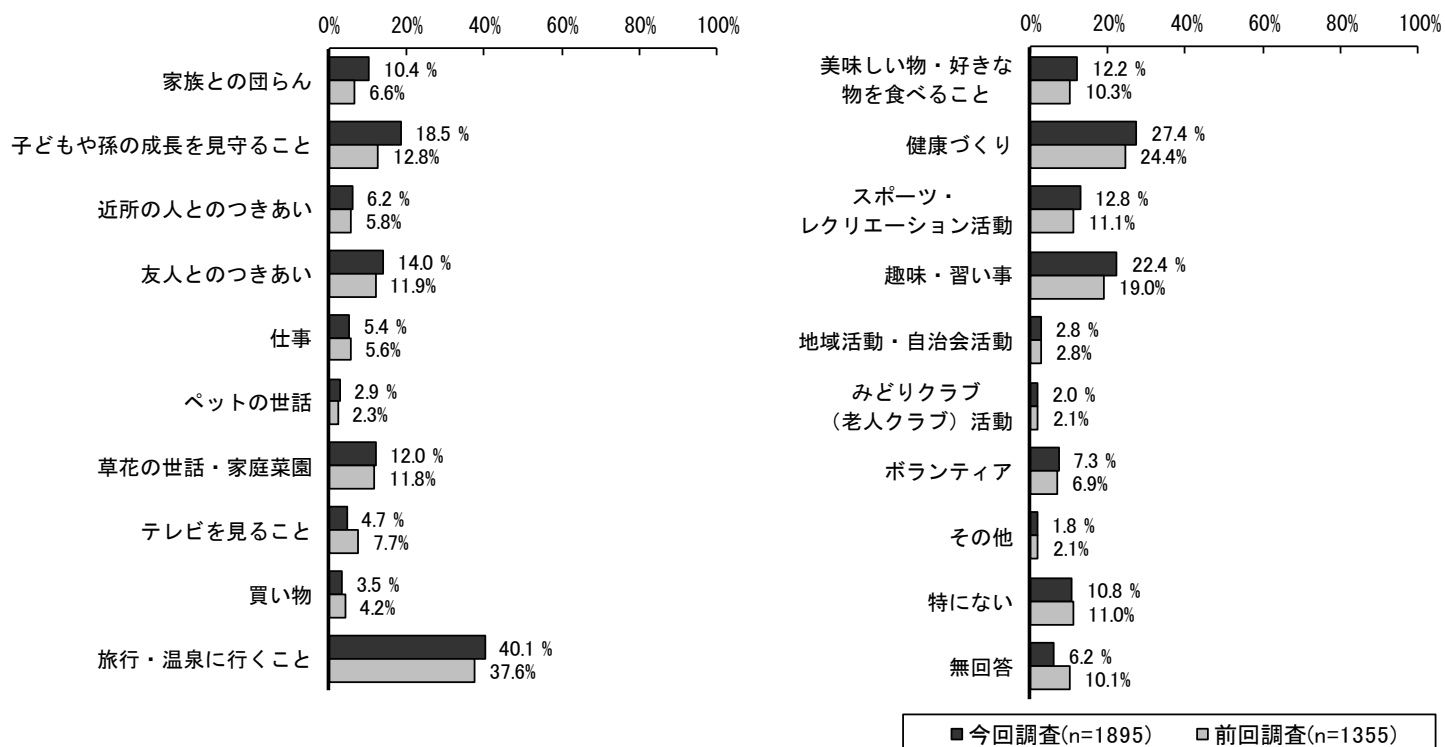
①現在の楽しみや生きがい



現在の楽しみや生きがいとしては、「子どもや孫の成長を見守ること」が33.1%で最も高く、次いで、「友人とのつきあい」が31.1%、「旅行・温泉に行くこと」が30.4%などとなっています。経年比較としては、前回と比べ「子どもや孫の成長を見守ること」が7.1ポイント、「友人とのつきあい」が5.5ポイントそれぞれ高くなっており、その結果今回調査では「旅行・温泉に行くこと」より順位も高くなっています。

また、「家族との団らん」が5.4ポイント、「趣味・習い事」が5.1ポイント高くなっています。一方、「テレビを見ること」は前回より6.9ポイント低くなっています。

②今後やってみたいこと



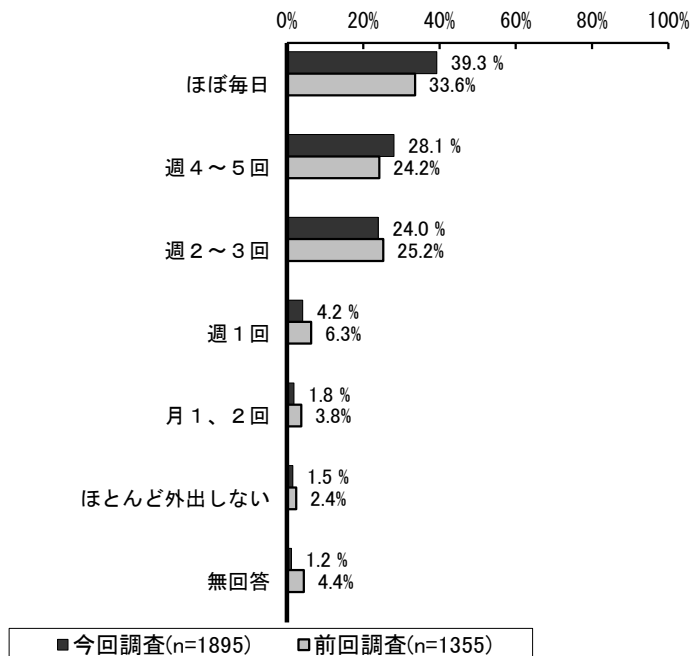
今後やってみたいこととしては、「旅行・温泉に行くこと」が40.1%と高くなっています。次いで、「健康づくり」が27.4%、「趣味・習い事」が22.4%などとなっています。

経年変化としては、前回に続いて今回も「旅行・温泉に行くこと」が最も高くなっており、次いで、「健康づくり」、「趣味・習い事」となっている点も前回同様となっています。「子どもや孫の成長を見守ること」については前回に比べ5.8ポイント高くなっています。

4. 外出の状況について

(1) 外出の頻度

問 18 あなたは1週間にどの程度、外出しますか。(1つに○)

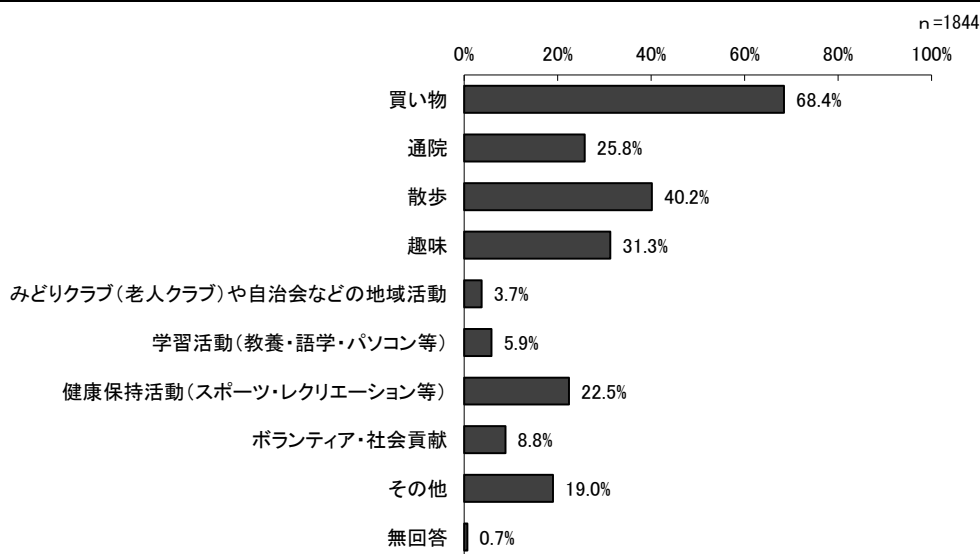


外出の頻度としては、「ほぼ毎日」が39.3%と最も高くなっています。次いで「週4～5回」が28.1%、「週2～3回」が24.0%となっています。

(2) 外出の目的

問 19 (問 18 で「1」～「5」とお答えの方へ) 外出の主な目的は次のどれですか。

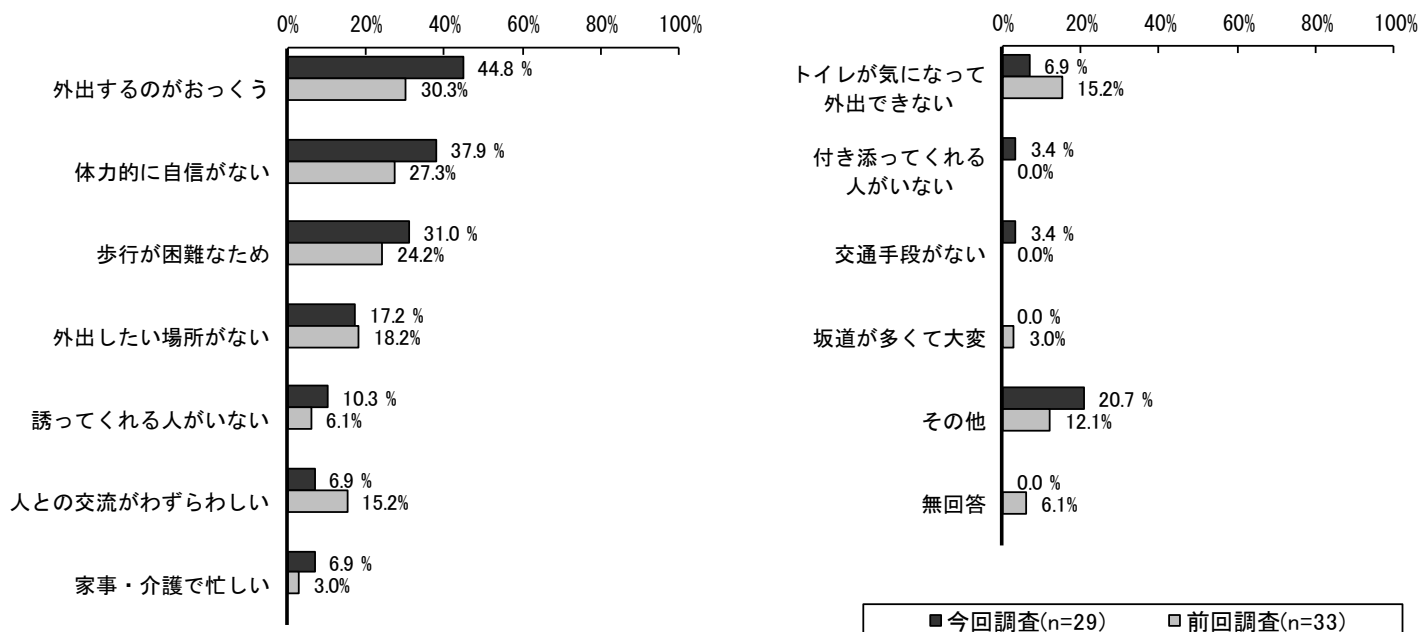
(あてはまるものに○)



外出の主な目的としては、「買い物」が68.4%で最も高く、次いで、「散歩」が40.2%、「趣味」が31.3%となっています。

(3) 外出しない理由

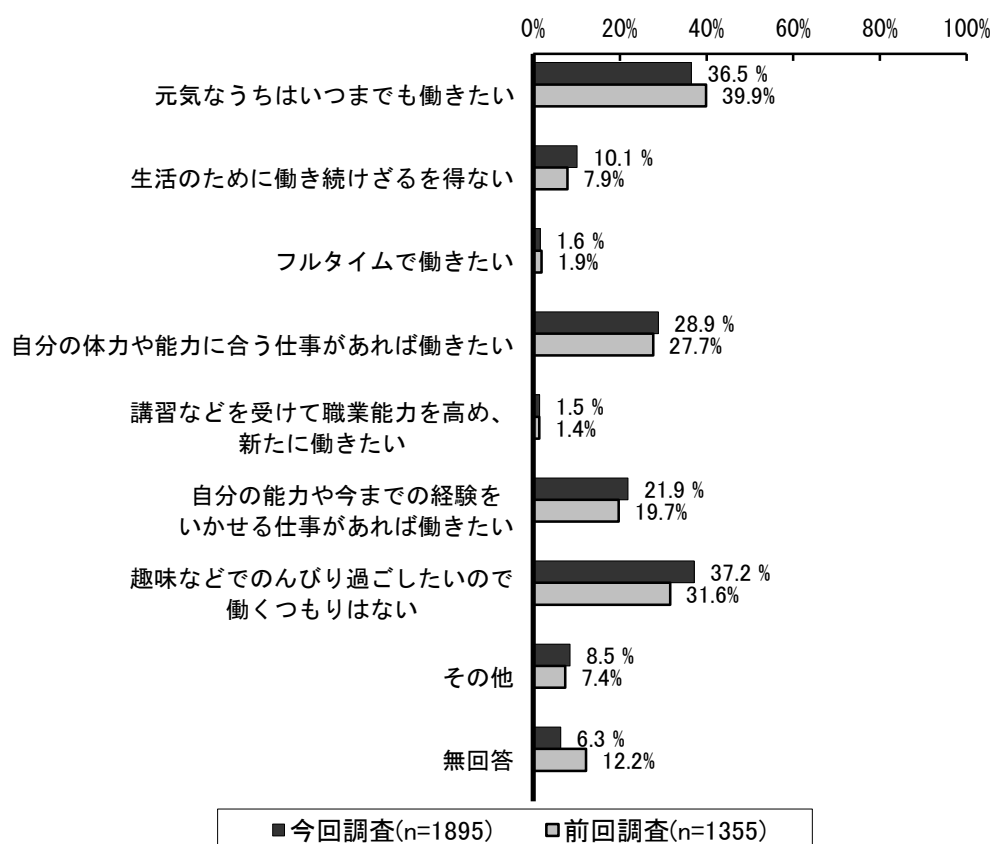
問 20 (問 18 で「6」とお答えの方へ) 外出しない理由は何ですか。(3つまで○)



外出をしない理由については、設問の該当者数が 29 名と少ないものの、「外出するのがおっくう」が 13 名 (44.8%)、「体力的に自信がない」が 11 名 (37.9%)、「歩行が困難なため」が 9 名 (31.0%) などとなっています。

(4) 働き方についての考え方

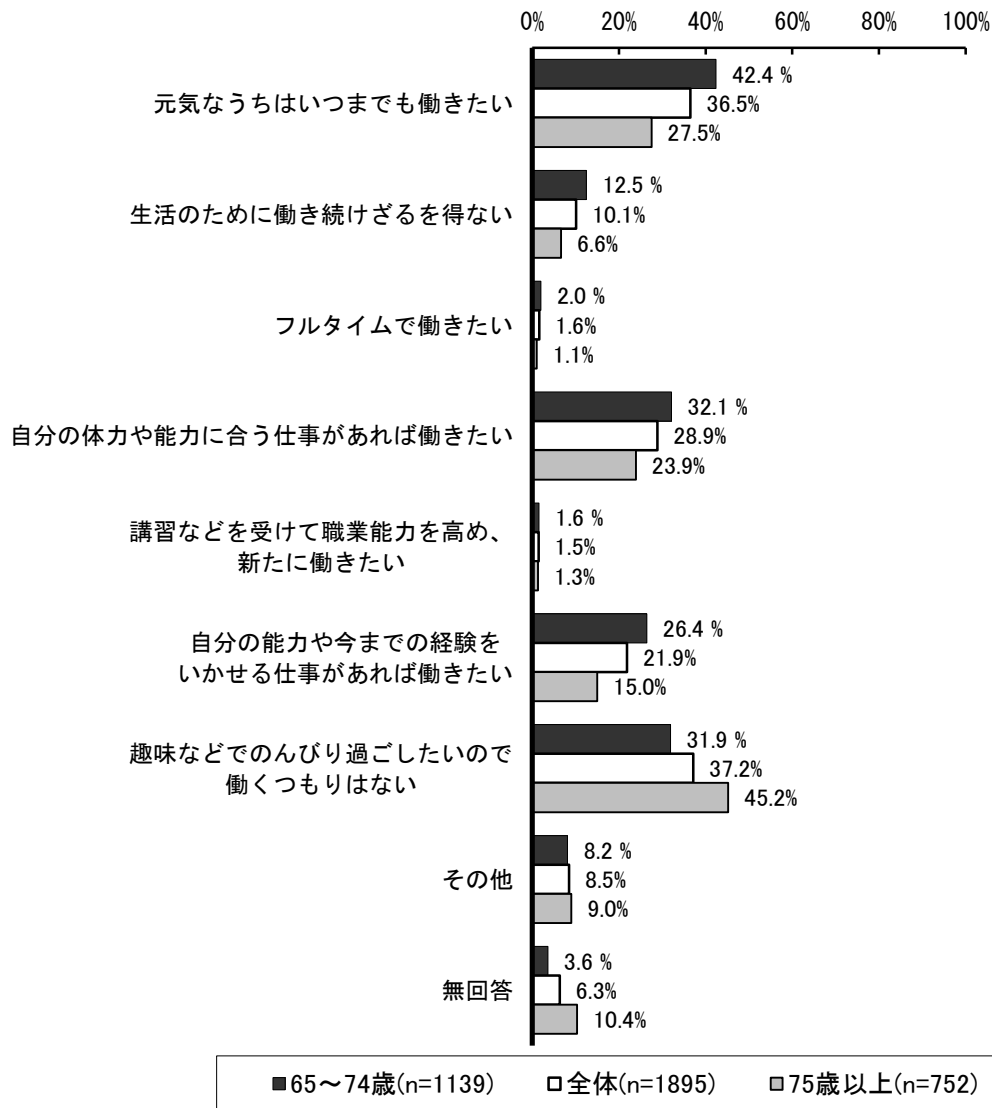
問 21 あなたの、「働くこと」や「働き方」についてのお考えに近いのはどれですか。(3つまで○)



働き方についての考え方としては、「趣味などでのんびり過ごしたいので働くつもりはない」との回答が37.2%で最も高く、次いで「元気なうちはいつまでも働きたい」が36.5%、「自分の体力や能力に合う仕事があれば働きたい」が28.9%などとなっています。

経年比較としては、「趣味などでのんびり過ごしたいので働くつもりはない」との回答が前回に比べ5.6ポイント高くなっており、その結果、前回から「元気なうちはいつまでも働きたい」との順位が入れ替わっています。

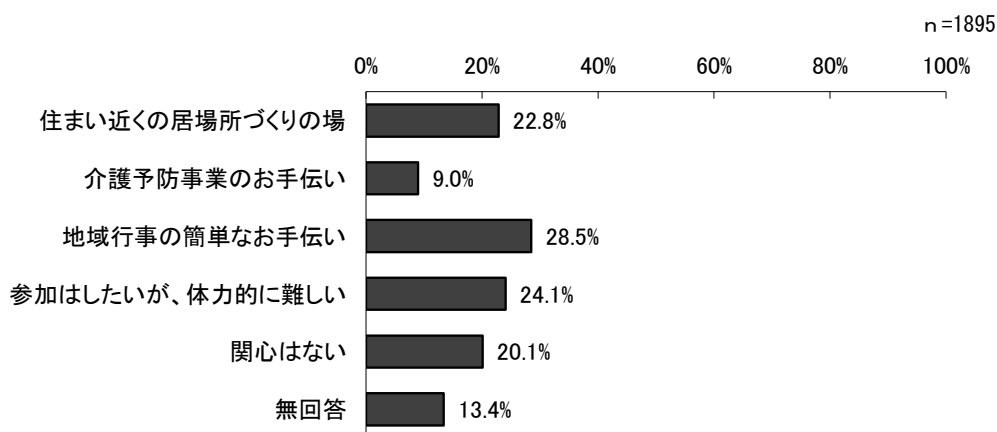
◇年齢別に見た不安に思っていること



年齢別に不安に思っていることを見ると、65～74歳では75歳以上に比べ『働く意思がある』回答がいずれも上回っています。その一方で、75歳以上では「趣味などでのんびり過ごしたいので働くつもりはない」との回答が高くなっています。

(5) 参加したい活動

問 22 稲城市では、いつまでも安心して暮らせるように、地域で支え、生活を支援する「生活支援体制整備事業」を展開しています。地域包括支援センターが事務局を担い地域の民生・児童委員、各種団体の皆さんが知恵を出し合って活動しています。次の活動に参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

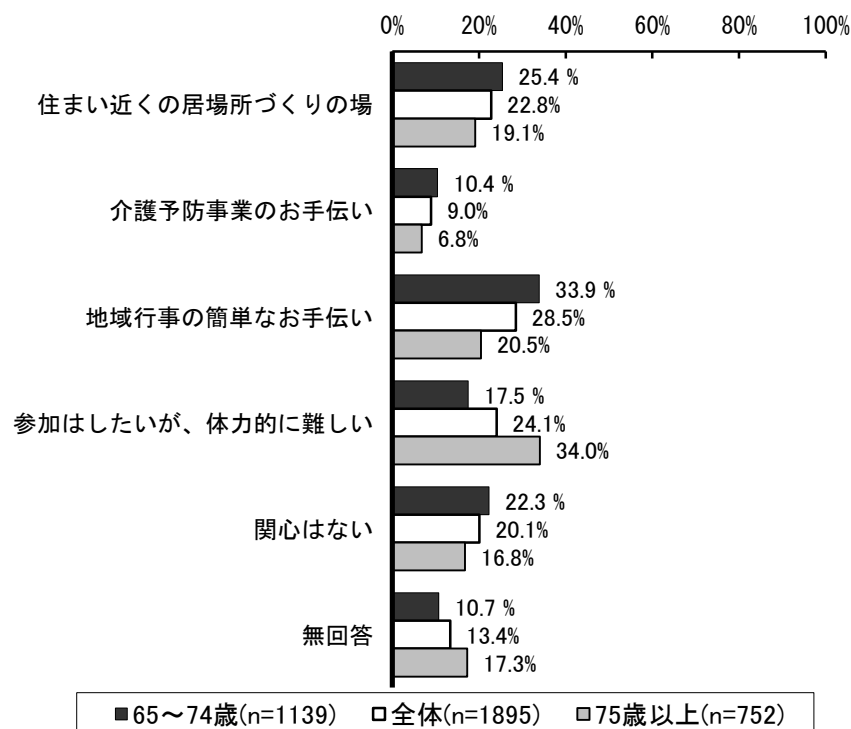


「生活支援体制整備事業」への参加については、「地域行事の簡単なお手伝い」が28.5%で最も高くなっています。また、「住まい近くの居場所づくりの場」は22.8%、「介護予防事業のお手伝い」は9.0%となっています。

一方、参加について消極的な選択肢である「参加はしたいが、体力的に難しい」と回答した方は24.1%、「関心はない」と回答した方は20.1%となっています。

◇年齢別に見た参加したい活動

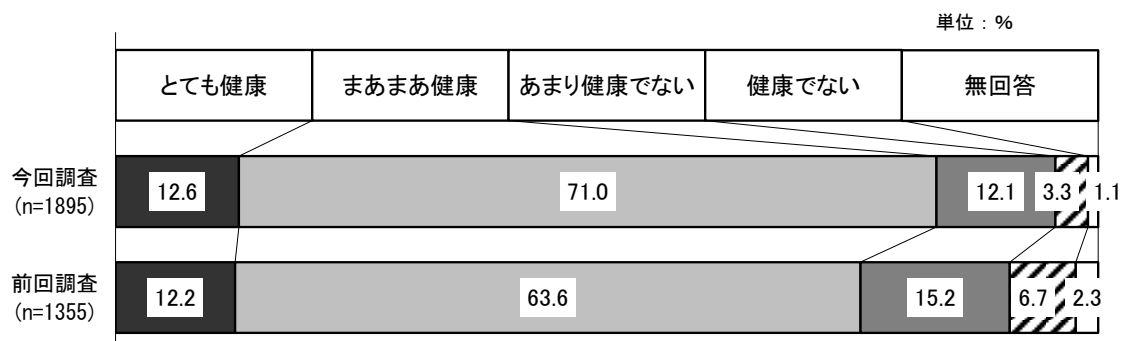
年齢別に参加したい活動について見ると、75歳以上では「参加はしたいが、体力的に難しい」との回答が34.0%と全体と比べて高くなっています。



5. 身体 の 状 況 ・ 健 康 に つ い て

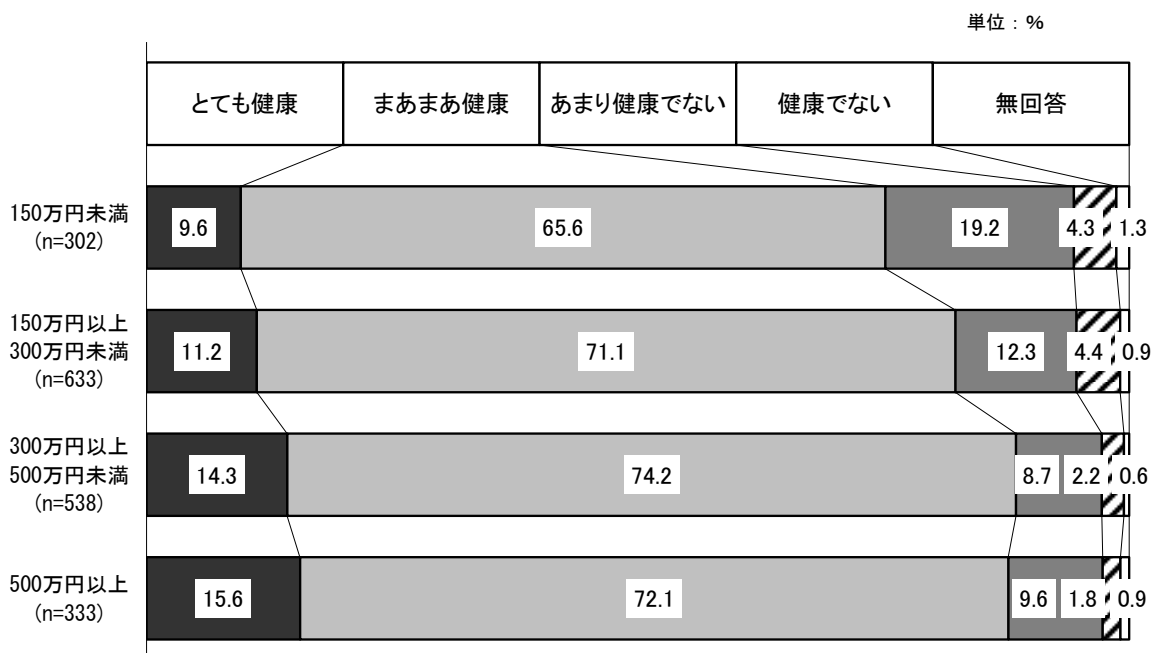
(1) 主 観 的 健 康 観

問 23 普 段、ご 自 分 で 健 康 だ と 思 い ます か。(1 つ に ○)



健康の度合いについては、「まあまあ健康」との回答が71.0%と最も高くなっています。経年変化でも、「まあまあ健康」との回答が前回に比べ7.4ポイント高くなっています。

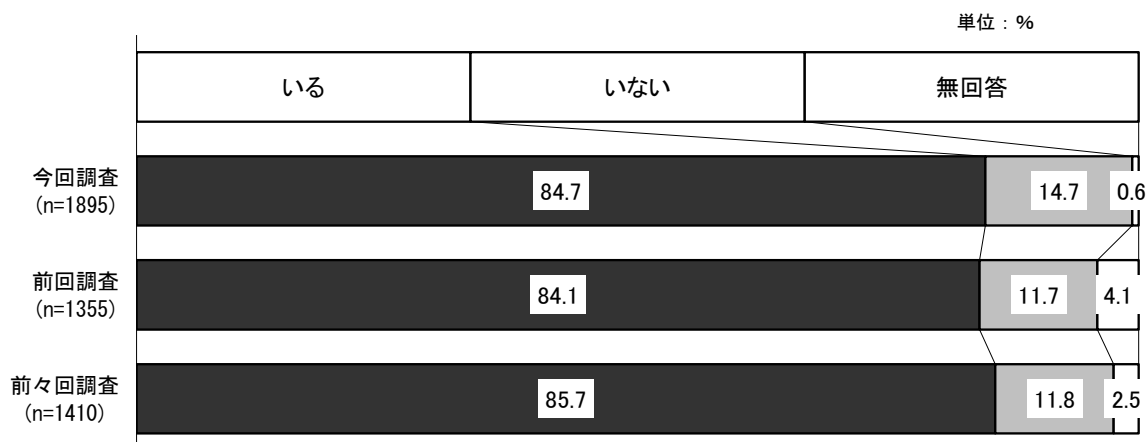
◇ 世帯の収入別に見た健康観



年収別に健康の度合いを見ると、150万円未満では「あまり健康でない」との回答が19.2%と高くなっています。

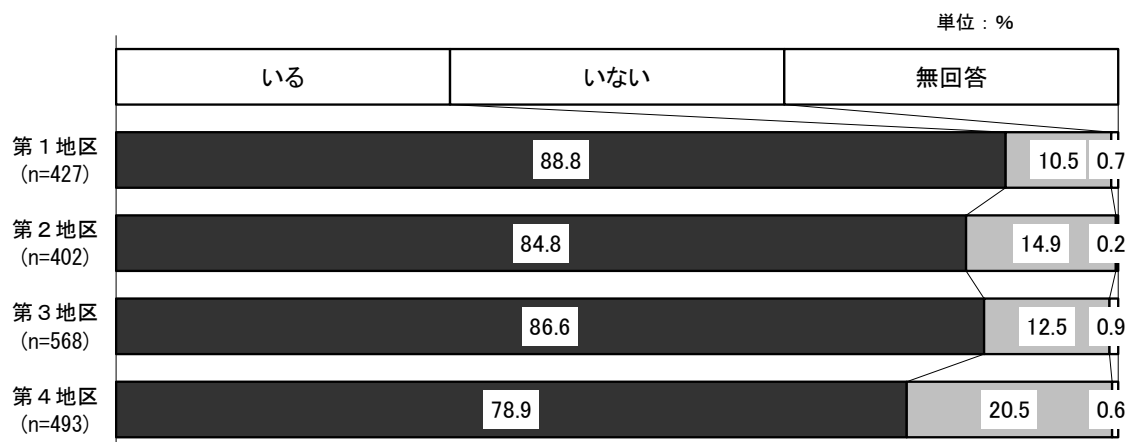
(2) かかりつけ医

問 24 あなたは、かかりつけのお医者さん（主治医）がいますか。（1つに○）



かかりつけ医については、「いる」との回答が84.7%で最も高くなっています。
経年変化では、大きな変化は見られません。

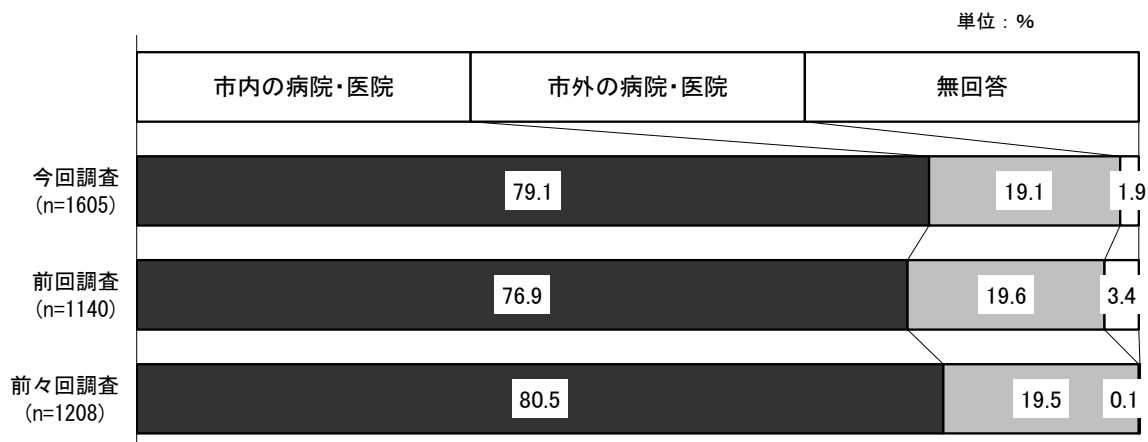
◇地区別に見たかかりつけ医の有無



地区別にかかりつけ医の有無について見ると、第4地区で「いない」との回答が20.5%と高くなっています。

(3) かかりつけ医の場所

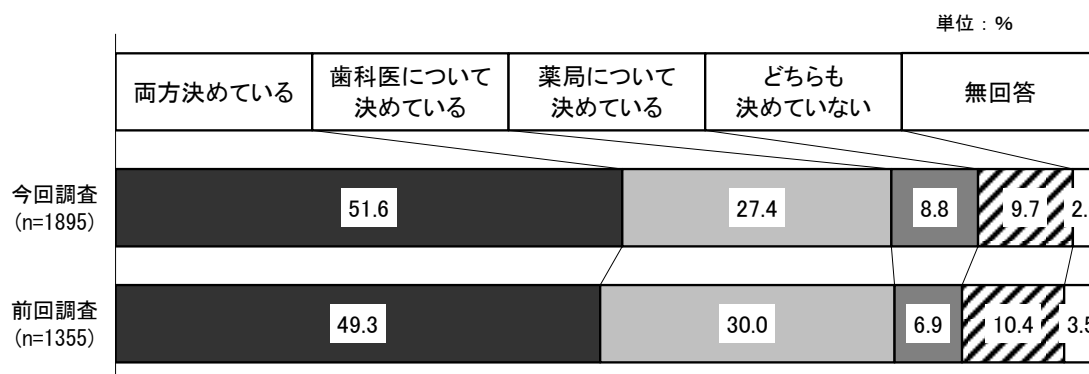
問 25 (問 24 で「1」とお答えの方へ) そのお医者さんは、どちらの病院・医院ですか。(1つに○)



かかりつけ医の場所については、「市内の病院・医院」との回答が 79.1%と高くなっています。経年比較については、大きな変化は見られません。

(4) かかりつけの歯科医や薬局

問 26 あなたは、かかりつけの歯科医や薬局を決めていますか。(1つに○)



かかりつけの歯科医や薬局については、「両方決めている」との回答が 51.6%で最も高くなっています。

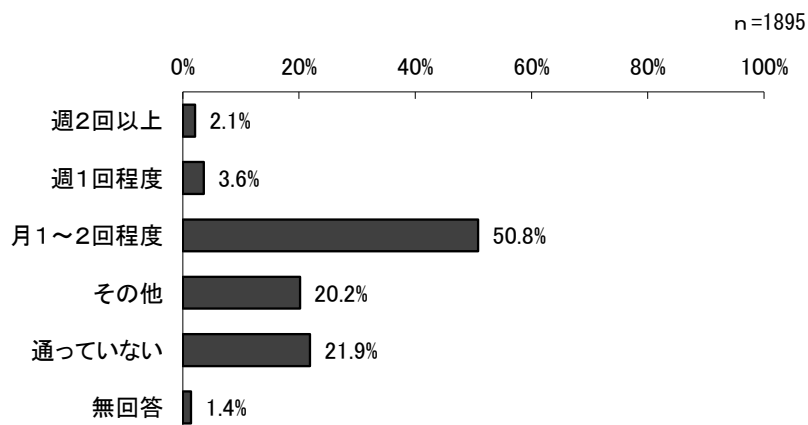
「両方決めている」と「歯科医について決めている」を合わせた『かかりつけ歯科医を決めている』人の割合は 79.0%となっています。

「両方決めている」と「薬局について決めている」を合わせた『かかりつけ薬局を決めている』人の割合は 60.4%となっています。

経年変化については、大きな変化は見られません。

(5) 定期的な通院

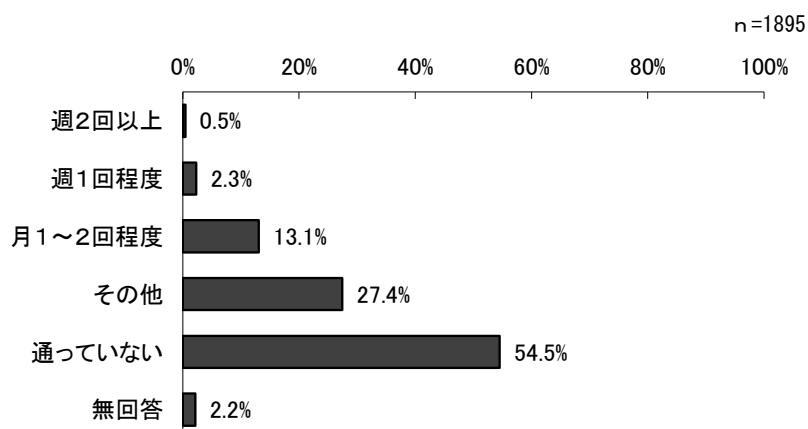
問 27 あなたは現在、定期的（定期健診は除く）に病院や医院に通っていますか。（1つに○）



定期的な通院については、「月1~2回程度」との回答が50.8%で最も高くなっています。次いで「通っていない」が21.9%、「その他」が20.2%となっています。

(6) 定期的な歯科への通院

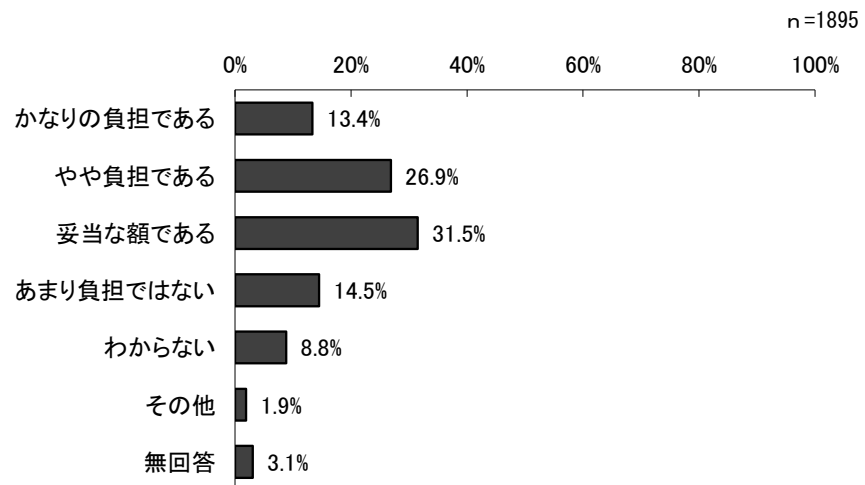
問 28 あなたは現在、定期的（定期健診は除く）に歯科医院に通っていますか。（1つに○）



定期的な歯科への通院については、「通っていない」との回答が54.5%と高く、次いで「その他」が27.4%、「月1~2回程度」との回答が13.1%となっています。

(7) 医療費の負担感

問 29 医療費の支払額について、どのようにお感じになりますか。(1つに○)

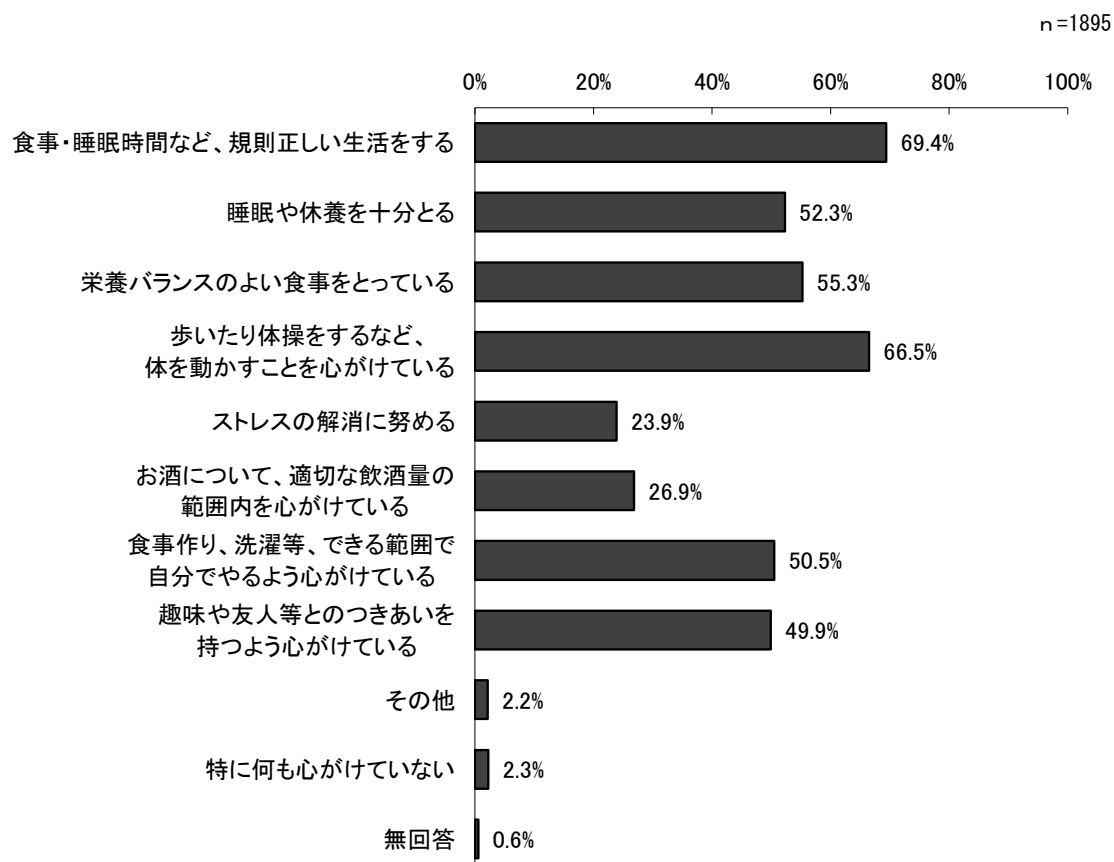


医療費の負担感については「妥当な額である」との回答が31.5%と最も高くなっています。

「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせた『負担を感じる層』は40.3%となっています。

(8) 健康で心がけていること

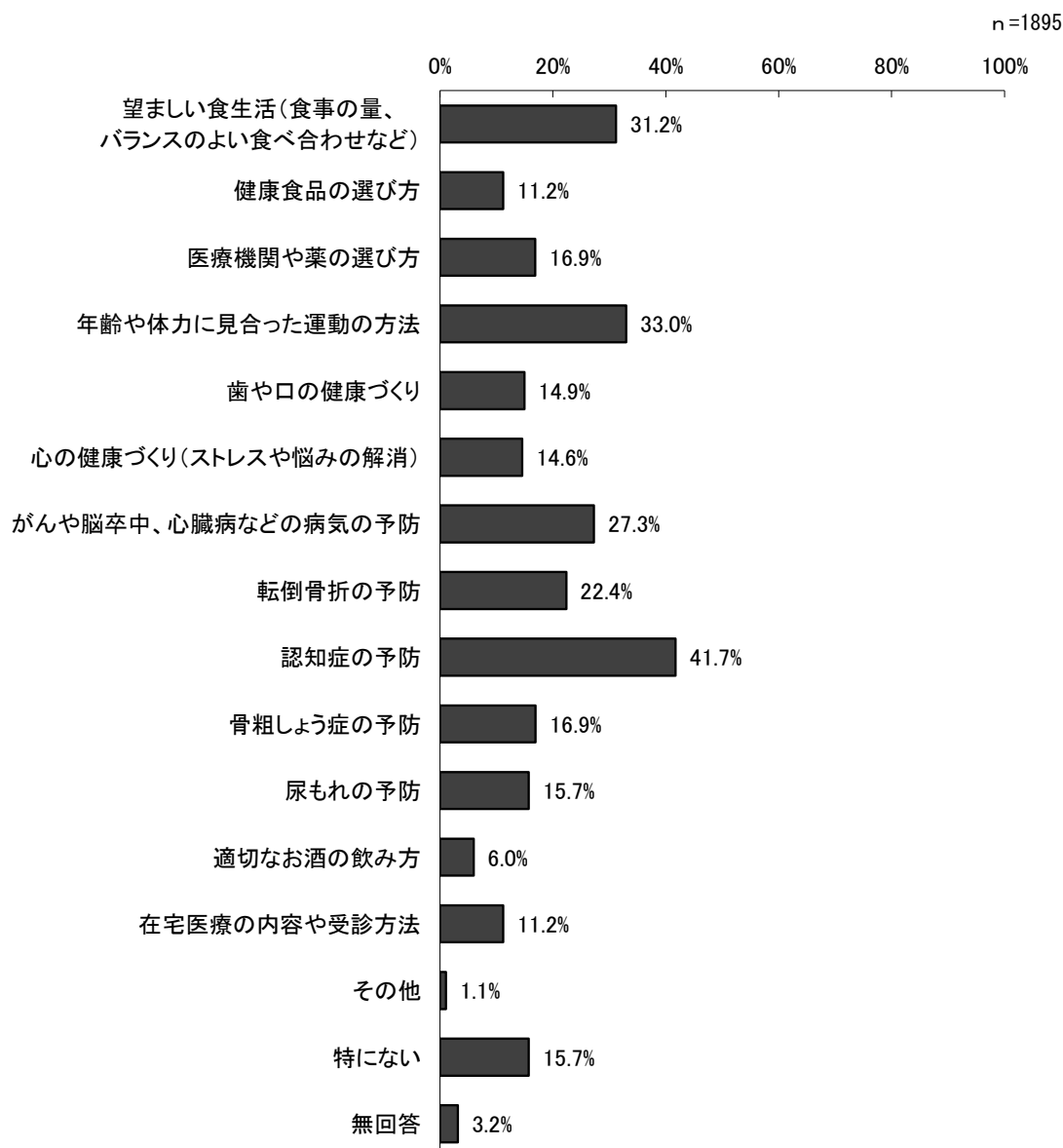
問 30 あなたは、健康のために心がけていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)



健康のために心がけていることとしては、「食事・睡眠時間など、規則正しい生活をする」が 69.4%で最も高く、次いで「歩いたり体操をするなど、体を動かすことを心がけている」が 66.5%、「栄養バランスのよい食事をとっている」が 55.3%などとなっています。

(9) 健康で知りたいこと

問 31 あなたが健康について知りたいことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

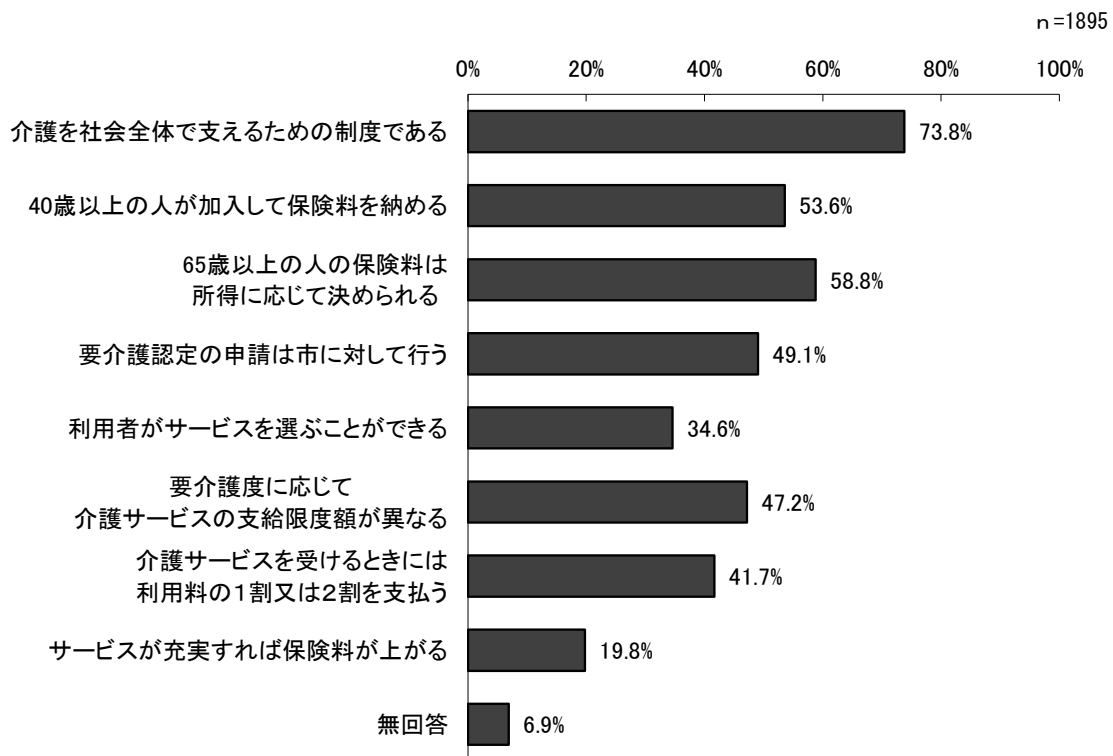


健康で知りたいことについては、「認知症の予防」が41.7%で最も高くなっており、次いで、「年齢や体力に見合った運動の方法」が33.0%、「望ましい食生活（食事の量、バランスのよい食べ合わせなど）」が31.2%などとなっています。

6. 介護や介護保険制度について

(1) 介護保険制度の内容についての認知度

問 32 あなたが介護保険制度について知っているのは次のうち、どのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)



介護保険制度の内容についての認知度としては、「介護を社会全体で支えるための制度である」との回答が 73.8%で最も高く、次いで、「65 歳以上の人の保険料は所得に応じて決められる」が 58.8%、「40 歳以上の人が入会して保険料を納める」が 53.6%となっており、この3項目で半数を超えています。

一方で「サービスが充実すれば保険料が上がる」との回答は 19.8%、「利用者がサービスを選ぶことができる」は 34.6%となっており、今後認知度を高めていく必要があります。

◇世帯の収入別に見た介護保険制度の内容についての認知度（単位：％）

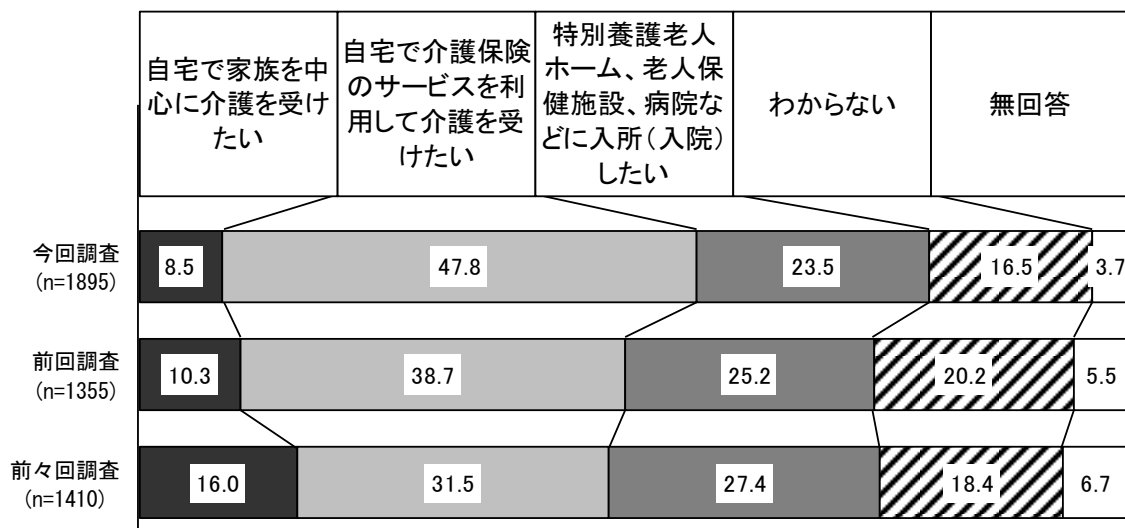
	回答者 数(n)	介護を社会全体で支えるための制度である	40歳以上の人が加入して保険料を納める	65歳以上の人の保険料は所得に応じて決められる	要介護認定の申請は市に対して行う	利用者がサービスを選ぶことができる	要介護度に応じて介護サービスの支給限度額が異なる	介護サービスを受けるときには利用料の1割又は2割を支払う	サービスが充実すれば保険料が上がる	無回答
全体	1895	73.8	53.6	58.8	49.1	34.6	47.2	41.7	19.8	6.9
150万円未満	302	61.6	44.0	47.0	39.1	26.2	37.4	36.4	14.9	11.9
150万円以上 300万円未満	633	71.2	55.8	55.9	47.9	32.2	45.5	40.3	15.6	7.1
300万円以上 500万円未満	538	81.4	55.8	65.2	53.2	40.0	52.2	45.2	25.3	4.3
500万円以上	333	81.4	58.3	67.3	56.8	40.2	55.0	46.2	25.5	3.3

世帯の年収別に介護保険制度の内容についての認知度を見ると、いずれの項目でも、世帯の年収が高くなるにつれて認知度が高まる傾向が見られます。

(2) 介護が必要になった場合

問 33 今後、どのような方法で介護を受けたいですか。現在介護は不要な方は、もし介護が必要になった場合どのようにお考えかでお答えください。(1つに○)

単位：%

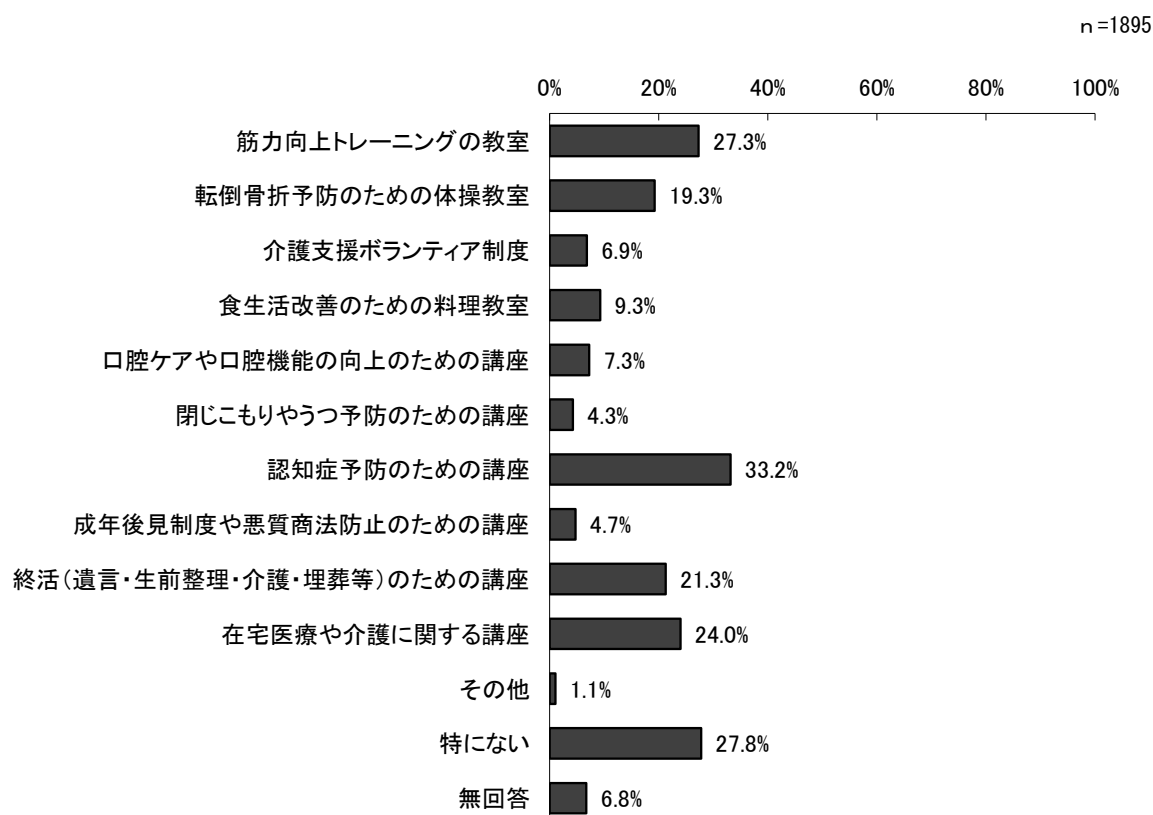


介護が必要になった際の方法としては、「自宅で介護保険のサービスを利用して介護を受けたい」との回答が 47.8% で最も高くなっています。

経年変化で見ても、「自宅で介護保険のサービスを利用して介護を受けたい」との回答は前々回から引き続き増加の傾向にあります。

(3) 参加したい事業や講座

問 34 市では様々な事業や講座に取り組んでいますが、次のうち参加したいと思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



市で実施している様々な事業や講座への参加意向については、「認知症予防のための講座」が33.2%で最も高くなっています。次いで「特にない」が27.8%、「筋力向上トレーニングの教室」が27.3%などとなっています。

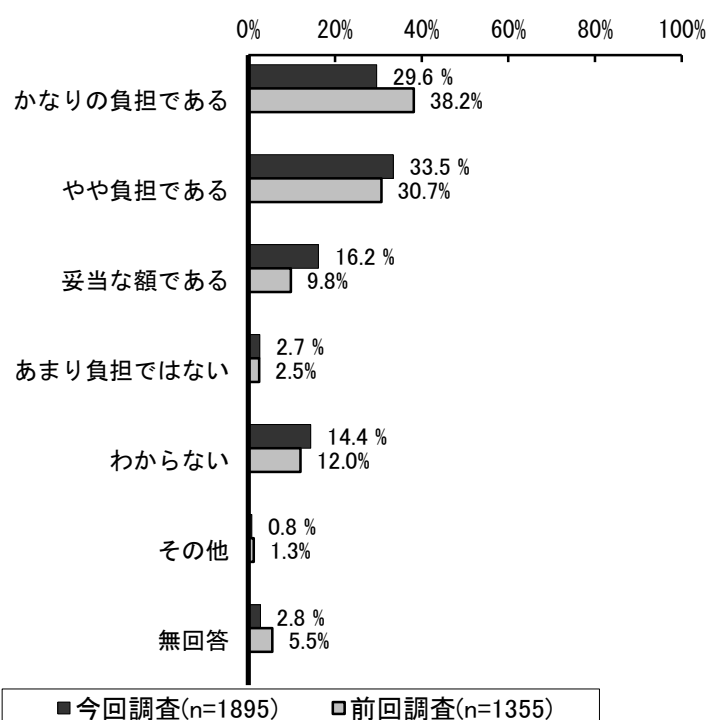
(4) 介護保険料の負担感

問 35 介護保険料の支払額について、どのように感じになりますか。(1つに○)

介護保険料の負担感については、「やや負担である」との回答が33.5%で最も高くなっています。

「かなりの負担である」(29.6%)と「やや負担である」を合わせた『負担を感じる層』は63.1%と6割を超えています。

経年変化では、「妥当な額である」との回答が6.4ポイント増加し、一方で、「かなりの負担である」との回答が8.6ポイント減少しています。



◇世帯の収入別に見た介護保険料の負担感

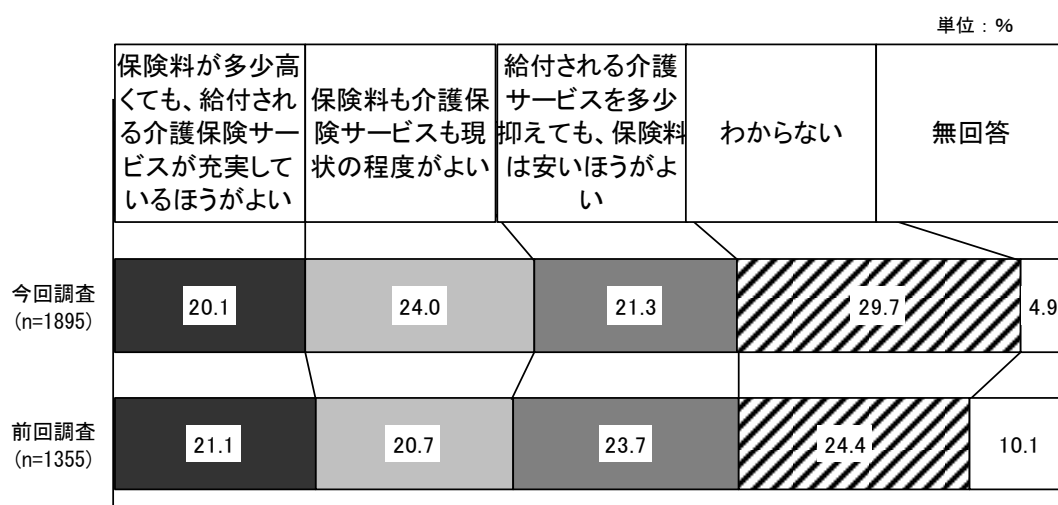
	回答者数(n)	かなりの負担である	やや負担である	妥当な額である	あまり負担ではない	わからない	その他	無回答
全体	1895	29.6	33.5	16.2	2.7	14.4	0.8	2.8
150万円未満	302	36.1	27.8	10.3	4.0	17.2	1.3	3.3
150万円以上 300万円未満	633	34.3	34.9	13.4	1.6	13.6	0.3	1.9
300万円以上 500万円未満	538	26.4	38.5	18.4	2.0	11.7	0.9	2.0
500万円以上	333	20.1	30.3	24.6	5.4	15.0	1.2	3.3

世帯の収入別に介護保険料の負担感を見ると、「かなりの負担である」との回答について、150万円未満では36.1%と全体より高くなっているのに対し、500万円以上では20.1%と全体より低くなっています。

一方、「妥当な額である」については、500万円以上では24.6%と全体より高くなっているのに対し、150万円未満では10.3%と全体より低くなっています。

(5) 介護保険料のあり方

問 36 今後の保険料のあり方について、あなたのお考えに近いものはどれですか。(1つに○)



今後の保険料のあり方については、「わからない」との回答が29.7%で最も高くなっています。他の選択肢では「保険料も介護保険サービスも現状の程度がよい」との回答が24.0%で2番目に高くなっていますが、その他の選択肢もいずれも2割台前半と拮抗しています。

経年変化では、「わからない」との回答が前回より5.3ポイント高くなっています。

◇世帯の収入別に見た介護保険料のあり方

	回答者数(n)	保険料が多少高くても、給付される介護保険サービスが充実しているほうがよい	保険料も介護保険サービスも現状の程度がよい	給付される介護サービスを多少抑えても、保険料は安いほうがよい	わからない	無回答
全体	1895	20.1	24.0	21.3	29.7	4.9
150万円未満	302	7.9	22.2	23.8	40.4	5.6
150万円以上 300万円未満	633	18.3	23.1	23.5	30.2	4.9
300万円以上 500万円未満	538	22.5	26.8	20.6	27.5	2.6
500万円以上	333	31.8	26.1	15.3	23.4	3.3

世帯の収入別に介護保険料のあり方を見ると、「保険料が多少高くても、給付される介護保険サービスが充実しているほうがよい」については、500万円以上では31.8%と全体より高くなっているのに対し、150万円未満では7.9%と全体より低くなっています。

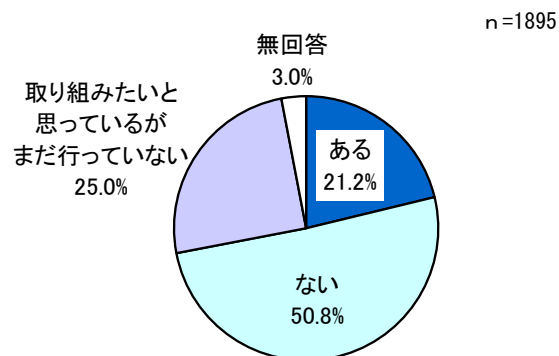
150万円未満では「わからない」との回答が、40.4%と全体より高くなっています。

7. 認知症対策について

(1) 認知症予防で取り組んでいること

問 37 認知症予防のために取り組んでいることがありますか。(1つに○)

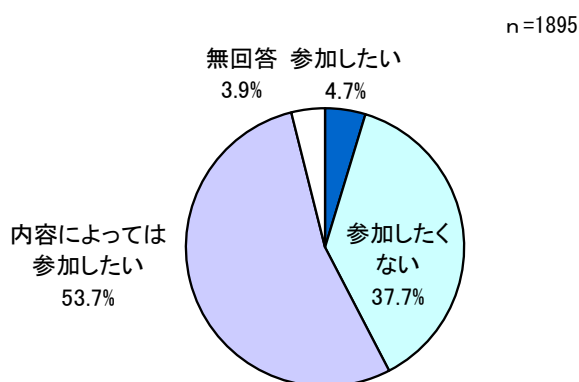
認知症予防で取り組んでいることについては、「ない」との回答が50.8%で最も高く、次いで、「取り組みたいと思っているがまだ行っていない」が25.0%となっています。「ある」との回答は21.2%です。



(2) 自主的に取り組むグループへの参加意向

問 38 市内には、認知症予防に自主的に取り組むグループ（例：旅行の計画を立てる・料理の献立を作る）がありますが、参加したいと思いますか。(1つに○)

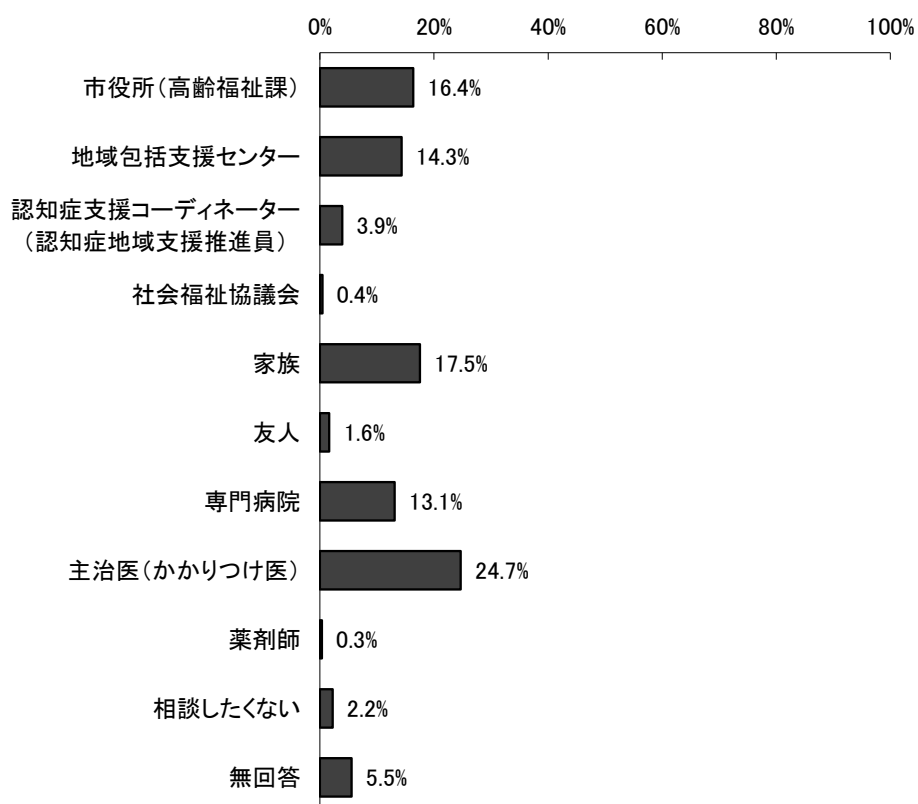
認知症予防に自主的に取り組むグループについては、「内容によっては参加したい」との回答が53.7%で最も高くなっています。次いで、「参加したくない」が37.7%、「参加したい」との回答は4.7%です。



(3) 認知症に関する相談先

問 39 認知症予防や認知症に関する相談はどこにしますか。(1つに○)

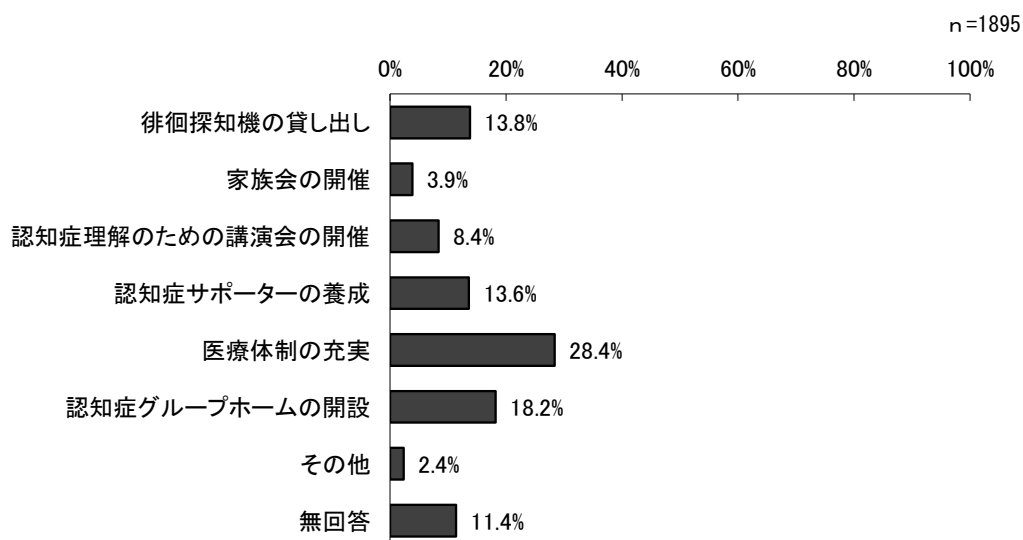
n=1895



認知症予防や認知症についての相談先については、「主治医(かかりつけ医)」との回答が24.7%で最も高く、次いで、「家族」が17.5%、「市役所」が16.4%などとなっています。

(4) 認知症の方や家族に対する支援

問 40 認知症の方やその家族に対する支援で必要と考えるものは何ですか。(1つに○)



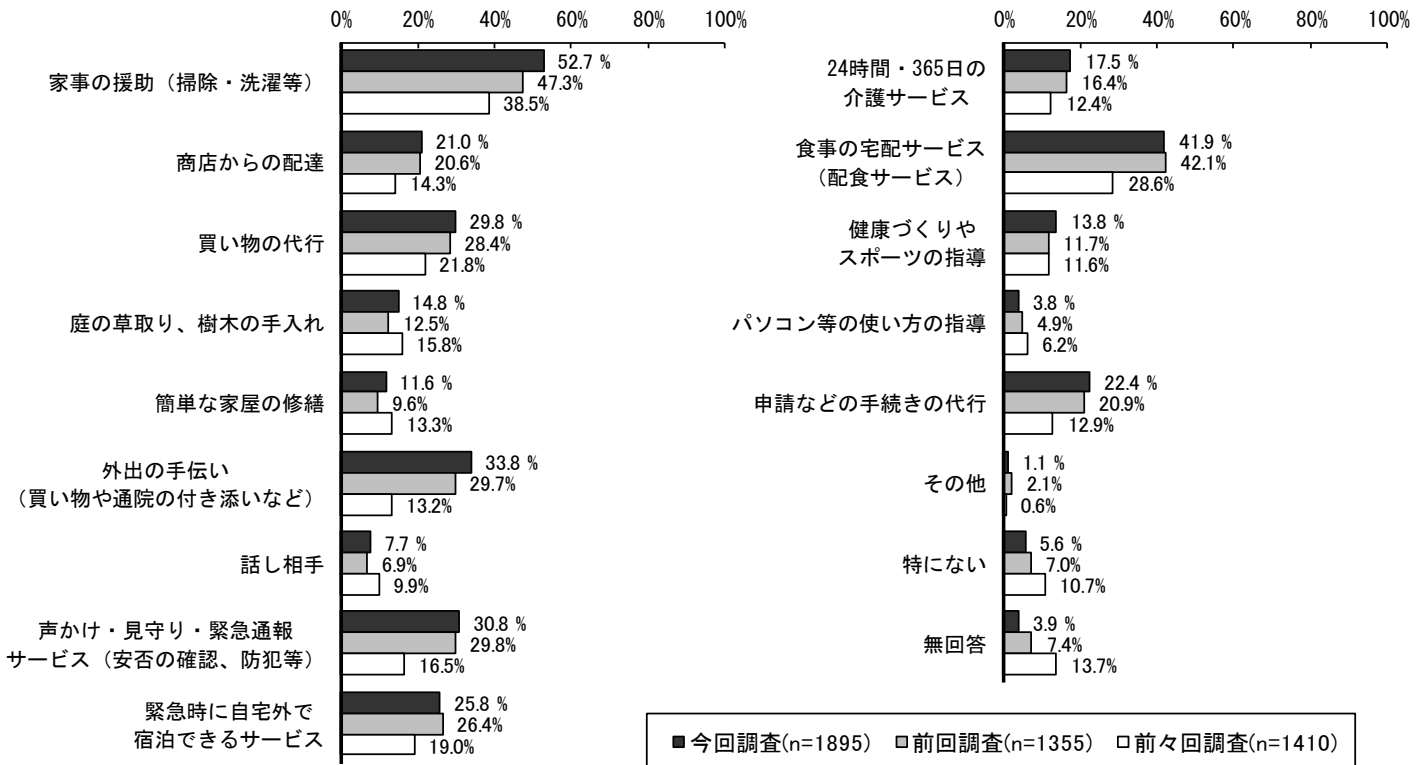
認知症の方やその家族に対する支援で必要なことについては、医療体制の充実が28.4%で最も高く、次いで「認知症グループホームの開設」が18.2%、「徘徊探知機の貸し出し」が13.8%となっています。

8. 高齢者向けサービスについて

(1) あったら良いと思うサービス

問 41 あなたが体力に自信がなくなったとき、あったら良いと思うサービスは何ですか。

(5つまで○)

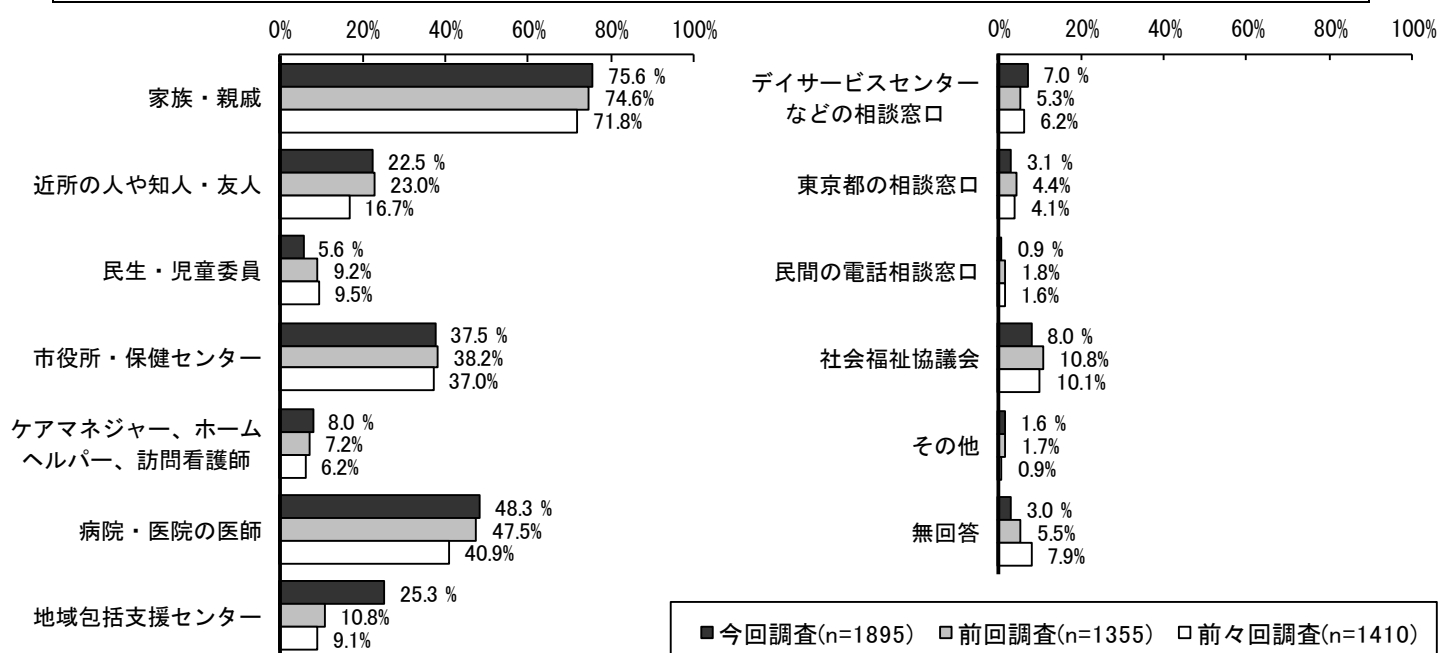


体力に自信がなくなった時にあたらよいと思うサービスについては、「家事の援助（掃除・洗濯等）」が 52.7%で最も高く、次いで、「食事の宅配サービス（配食サービス）」が 41.9%、「外出の手伝い」が 33.8%となっています。

経年変化では、「家事の援助（掃除・洗濯等）」については、前々回から引き続き増加の傾向が見られます。

(2) 健康や福祉の相談先

問 42 あなたは、普段、健康や福祉のことで困ったとき誰に、またはどこへ相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

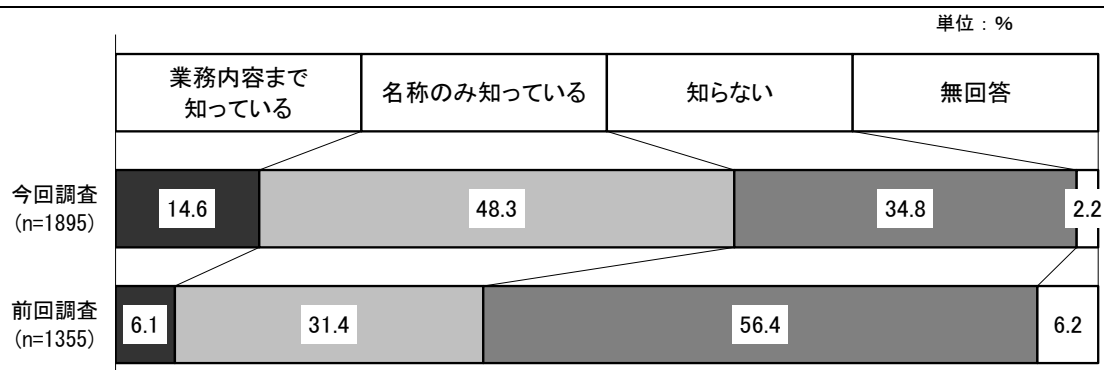


健康や福祉の相談先については、「家族・親戚」との回答が75.6%で最も高く、次いで、「病院・医院の医師」が48.3%、「市役所・保健センター」が37.5%となっています。

経年変化では、前回に比べ「地域包括支援センター」との回答が14.5ポイントと大幅に高くなっています。

(3) 地域包括支援センターの認知度

問 43 主に高齢者福祉に関する相談窓口として市内に設置されている「地域包括支援センター」をご存知ですか。(1つに○)



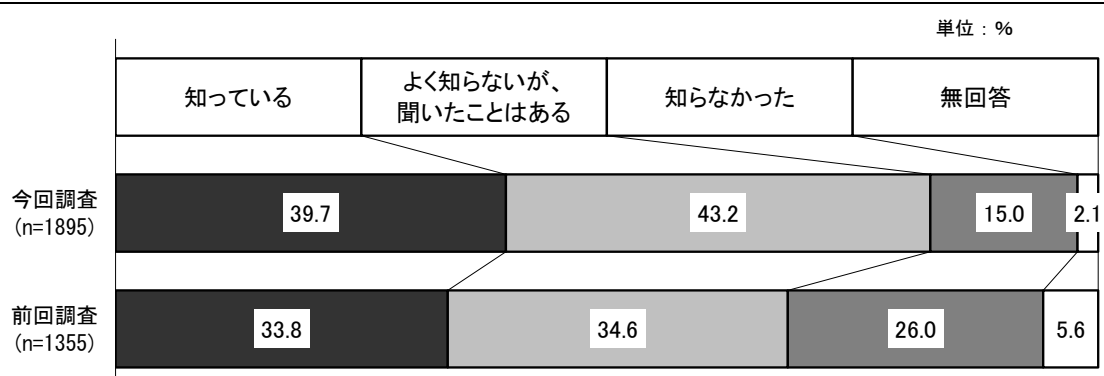
地域包括支援センターの認知度については、「名称のみ知っている」との回答が48.3%で最も高くなっています。

経年変化で見ると、「名称のみ知っている」との回答は前回と比べ16.9ポイント高く、また、「業務内容まで知っている」が今回の調査では14.6%と、前回と比べ8.5ポイント高くなっており、これらを合わせた『少なくとも名称は知っている』層は62.9%と6割を超えています。

一方で、「知らない」との回答は今回の調査では34.8%で前回より21.6ポイント減少しています。

(4) 成年後見制度の認知度

問 44 あなたは「成年後見制度」をご存知ですか。(1つに○)



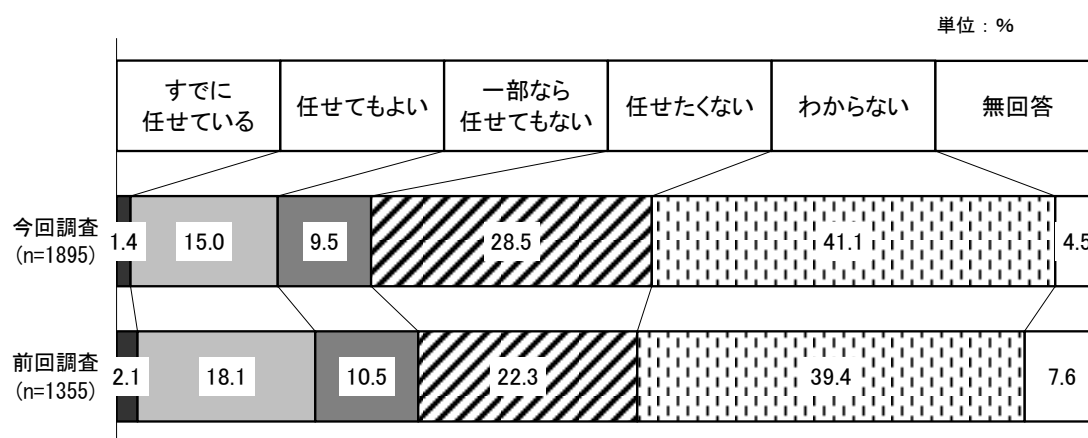
成年後見制度の認知度については、「よく知らないが、聞いたことはある」との回答が43.2%で最も高くなっています。

経年変化で見ると、「よく知らないが、聞いたことはある」との回答は前回と比べ8.6ポイント高く、また、「知っている」が今回の調査では39.7%と、前回と比べ5.9ポイント高くなっており、これらを合わせた『少なくとも聞いたことはある』層は82.9%と8割を超えています。

一方で、「知らない」との回答は今回の調査では15.0%で前回より11.0ポイント減少しています。

(5) 財産管理等を他人に任せることについて

問 45 あなたは、万一自分自身では判断ができなくなった場合、「成年後見制度」を利用して後見人に財産管理などを任せることについて、どう思いますか。(1つに○)

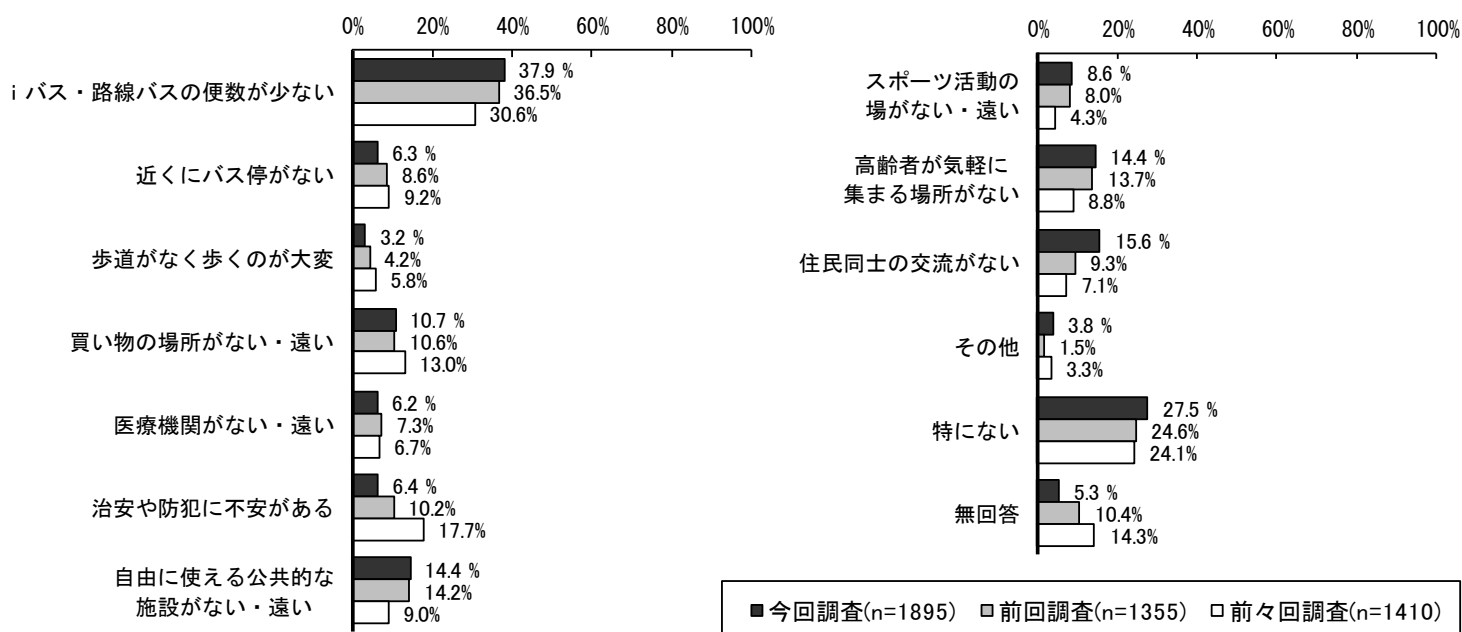


後見人に財産管理などを任せることへの意向については、「わからない」との回答が41.1%で最も高くなっています。「すでに任せている」(1.4%)、「任せてもよい」(15.0%)、「一部なら任せてもよい」(9.5%)を合わせた『任せることに肯定的である層』は25.9%である一方、「任せたくない」との回答は28.5%となっています。

経年変化では、前回に比べ「任せたくない」との回答が、6.2ポイント高くなっています。

(6) 地域での困りごと

問 46 地域のことで、困ること・不便に感じることはどんなことですか。(3つまでに○)



地域での困りごととしては、「iバス・路線バスの便数が少ない」との回答が37.9%で最も高く、次いで、「特にない」が27.5%、「住民同士の交流がない」が15.6%となっています。

経年変化では、「住民同士の交流がない」との回答が、前回に比べ6.3ポイント高くなっています。

◇地区別に見た地域での困りごと（「特にない」を除く上位5回答、単位：％）

	回答者数 (n)	1 番目	2 番目	3 番目	4 番目	5 番目
全体	1895	i バス・路線バスの便数が少ない	住民同士の交流がない	自由に使える公共的な施設がない・遠い／高齢者が気軽に集まる場所がない		買い物の場所がない・遠い
		37.9	15.6		14.4	10.7
第1地区	427	i バス・路線バスの便数が少ない	自由に使える公共的な施設がない・遠い	高齢者が気軽に集まる場所がない	買い物の場所がない・遠い	住民同士の交流がない
		39.1	20.8	13.8	13.3	12.2
第2地区	402	i バス・路線バスの便数が少ない	自由に使える公共的な施設がない・遠い	住民同士の交流がない	スポーツ活動の場がない・遠い	近くにバス停がない
		40.5	14.9	12.4	12.2	11.9
第3地区	568	i バス・路線バスの便数が少ない	住民同士の交流がない	高齢者が気軽に集まる場所がない	自由に使える公共的な施設がない・遠い	買い物の場所がない・遠い
		34.7	18.3	15.7	13.9	9.5
第4地区	493	i バス・路線バスの便数が少ない	住民同士の交流がない	高齢者が気軽に集まる場所がない	買い物の場所がない・遠い	自由に使える公共的な施設がない・遠い
		38.7	17.8	16.4	9.5	8.9

地区別に地域での困りごとを見ると、どの地区でも「i バス・路線バスの便数が少ない」との回答が最も高くなっています。

第1地区、第3地区と第4地区では、順位は違うもののいずれも上位5回答は全体と同じものとなっていますが、第2地区では「スポーツ活動の場がない」、「近くにバス停がない」と公共の設備への課題が上位となっています。

9. 災害対策について

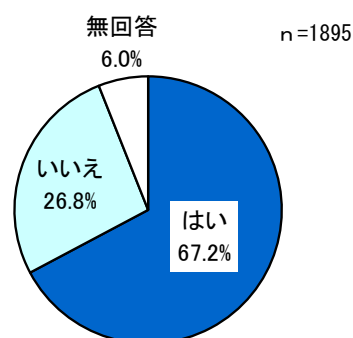
(1) 災害発生時の対応

問 47 あなたは、自宅での地震等災害発生時に、以下のことができますか。

(「はい」か「いいえ」のどちらかあてはまる方に○)

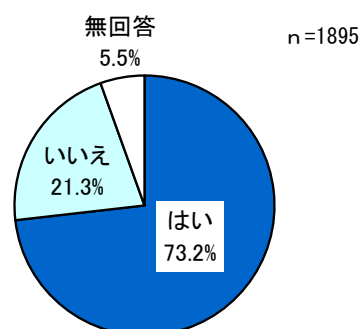
①災害及び避難情報を入手できる

「災害及び非難情報が入手できる」については、「はい」との回答が67.2%、「いいえ」との回答が26.8%となっています。



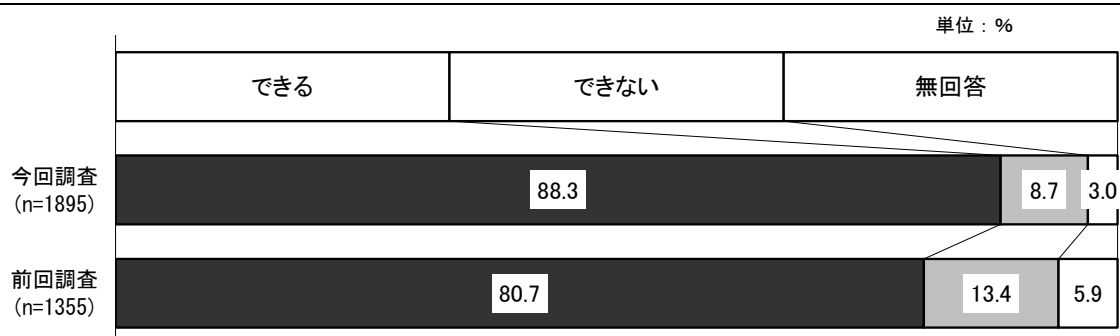
②避難所までの道のりを把握している

「避難所までの道のりを把握している」については、「はい」との回答が73.2%、「いいえ」との回答が21.3%となっています。



(2) 災害時の避難

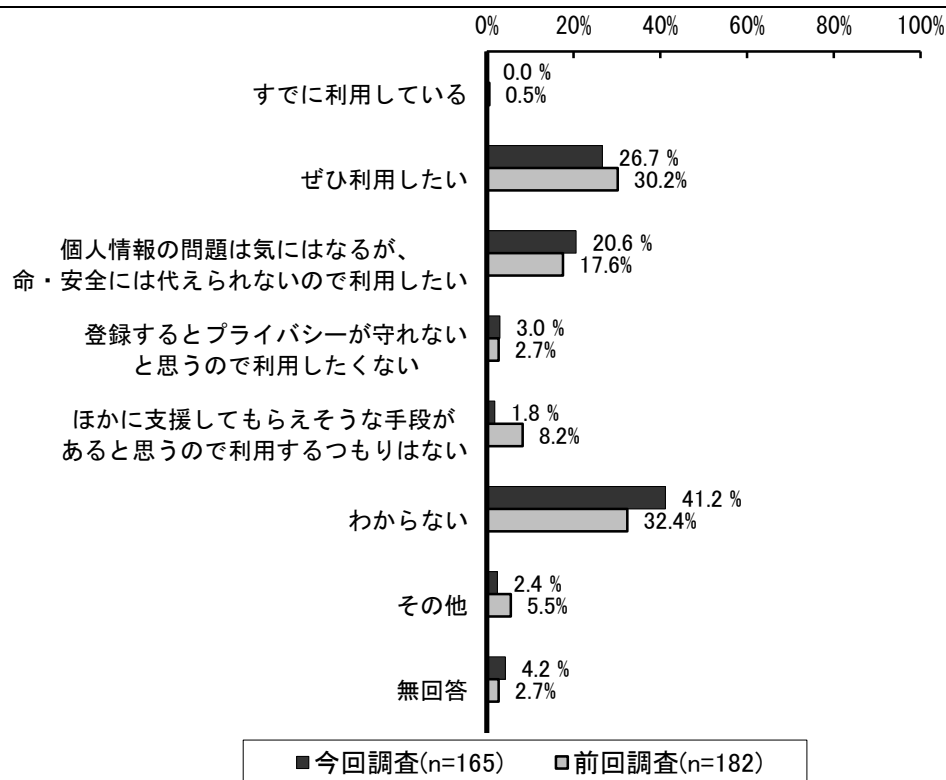
問 48 あなたは、災害時に自分自身で避難（または対処）できますか。（1つに○）



災害時に自分自身で避難（または対処）できるかについては、「できる」との回答が88.3%と高く、経年比較でも前回調査と比べて7.6ポイント高くなっています。

(3) 『稲城市災害時要援護者市民相互ネットワーク』

問 49 (問 48 で「2」とお答えの方へ) 市では、支援(手助け)が必要な高齢者や障害のある人など(「災害時要援護者」)があらかじめ登録しておき、災害発生時等に地域の中で支援が素早く安全に行われるしくみ(『稲城市災害時要援護者市民相互ネットワーク』)を設けています。あなたはこのしくみを利用(登録)したいと思いませんか。(1つに○)

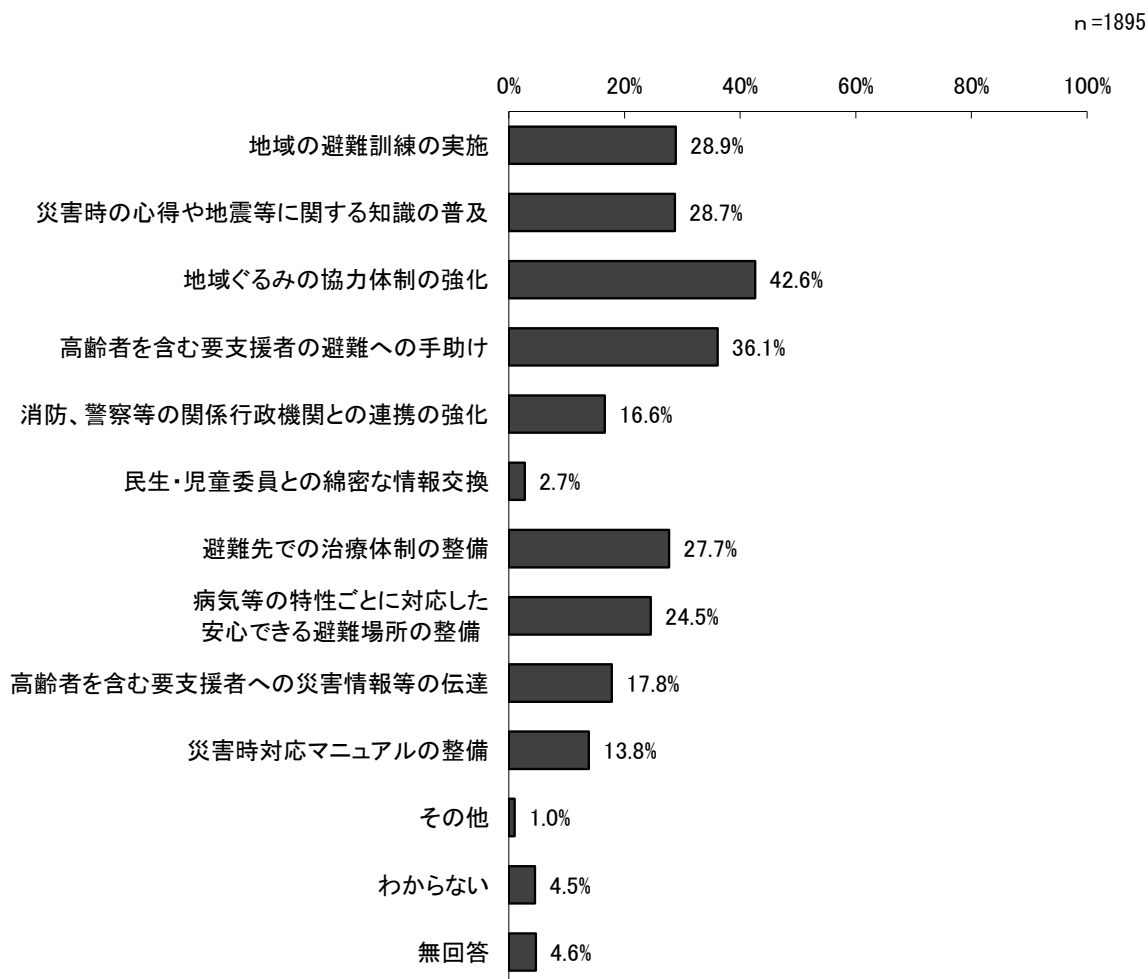


「稲城市災害時要援護者市民相互ネットワーク」については、「わからない」との回答が41.2%で最も高く、次いで「ぜひ利用したい」が26.7%、「個人情報の問題は気にはなるが、命・安全には代えられないので利用したい」が20.6%となっています。

経年比較としては、「わからない」との回答が前回に比べ8.8ポイント高くなっています。

(4) 災害に備えて

問 50 災害に備えてどのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

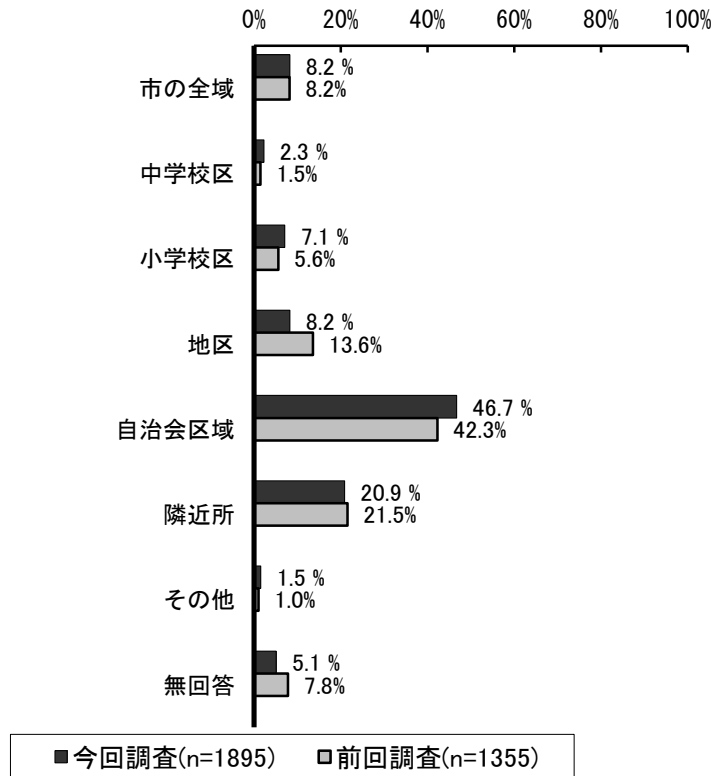


災害に備えて必要なこととしては、「地域ぐるみの協力体制の強化」との回答が 42.6%で最も高く、次いで、「高齢者を含む要支援者の避難への手助け」が 36.1%、「地域の避難訓練の実施」が 28.9%となっています。

10. 地域福祉について

(1) 「地域」の範囲

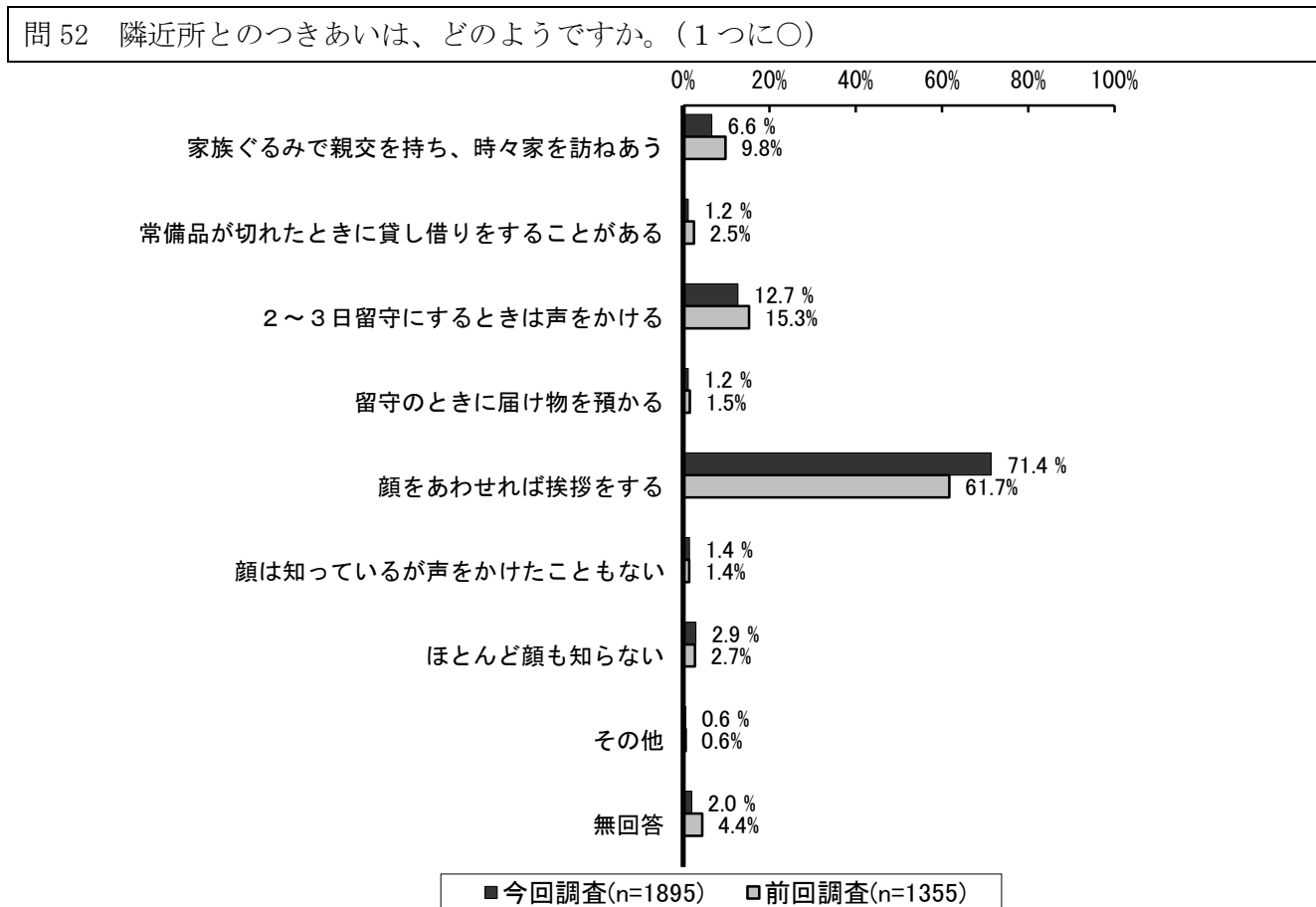
問 51 身近な地域という場合、あなたにとって「地域」とはどの範囲ですか。(1つに○)



「地域」についての範囲については、「自治会区域」との回答が46.7%で最も高く、次いで「隣近所」が20.9%、「市の全域」と「地区」がそれぞれ8.2%となっています。

経年比較については、「地区」との回答が5.4ポイント低くなっています。

(2) 隣近所とのつきあい

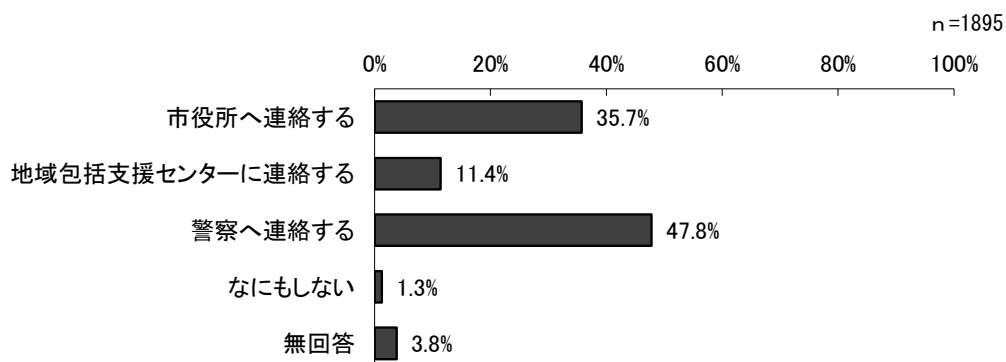


隣近所とのつきあいについては、「顔をあわせれば挨拶をする」との回答が71.4%で最も高く、次いで、「2〜3日留守にするときは声をかける」が12.7%、「家族ぐるみで親交を持ち、時々家を訪ねあう」が6.6%などとなっています。

経年変化については、「顔をあわせれば挨拶をする」との回答が前回に比べて9.7ポイント高くなっています。

(3) 近隣での問題への対応

問 53 あなたの周辺で孤立死や児童・高齢者虐待がおきるおそれのある状況を知ったら、最初にどのように対応しますか。(1つに○)



孤立死や児童・高齢者虐待といった近隣での問題を知った場合の対応としては、「警察に連絡する」との回答が 47.8%で最も高く、次いで、「市役所へ連絡する」が 35.7%、「地域包括支援センターに連絡する」が 11.4%となっており、「なにもしない」との回答は 1.3%となっています。

11. 自由記入について

市の今後の「高齢者福祉」施策や保健福祉サービスへの意見等を自由記入方式でたずねました。以下の票はその内容を分類したものです。

項目	件数（件）
地域でしてほしい活動や活動への参加意向	38
地域の状況	29
介護や介護の制度への希望	13
施設の増加	20
地域包括支援センター	7
医療機関	2
認知症	3
ひとり暮らしや高齢夫婦世帯	9
経済的負担	20
情報	24
相談	13
交通やバリアフリー	23
非常時の対応	13
高齢者施策全般	15
職員の対応	3
アンケート	25
高齢や介護を考えるきっかけになった	11
将来に不安がある	9
健康等意識して生活している	10
高齢であることや介護について実感がない	26

IV 「障害者福祉調査」の結果

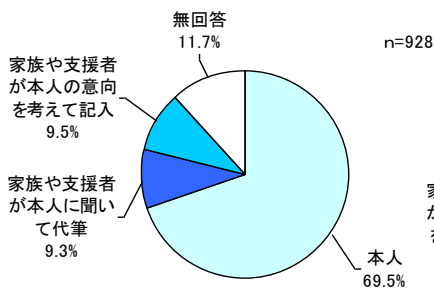
◆ 調査の結果

1 回答者について

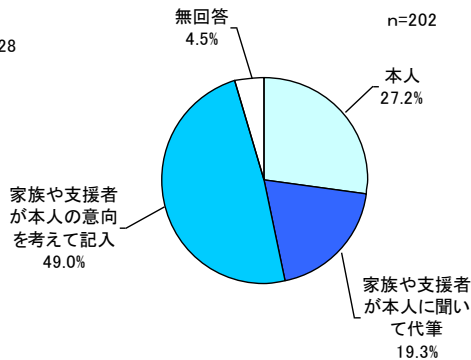
・このアンケートに答えてくださるのはどなたですか？ [共通]

身体障害と精神障害では「本人」（身体：69.5%、精神：77.9%）、知的障害では「家族や支援者が本人の意向を考えて記入」（知的：49.0%）が最も多くなっている。

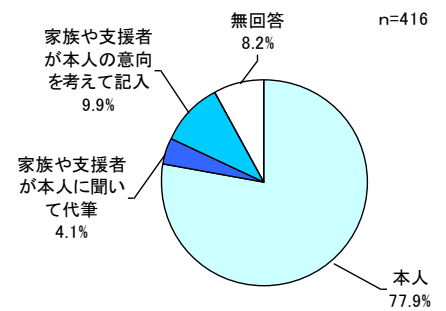
【身体】



【知的】



【精神】



前回調査結果（平成 22 年実施）と比較すると、知的障害では「本人」の回答が約 10 ポイント高くなっている。

(%)

区分	本人	家族等が代筆	家族等が本人の意向を考えて	無回答
身体障害 (1,005)	66.4	12.6	13.7	7.3
知的障害 (182)	17.6	15.4	64.8	2.2
精神障害 (407)	78.9	5.4	9.6	6.1

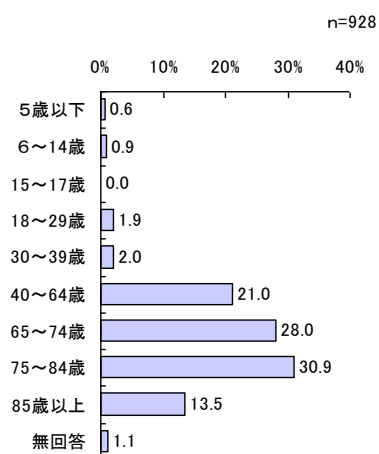
注：（ ）内は回答者数

2 あなたご自身のことについて

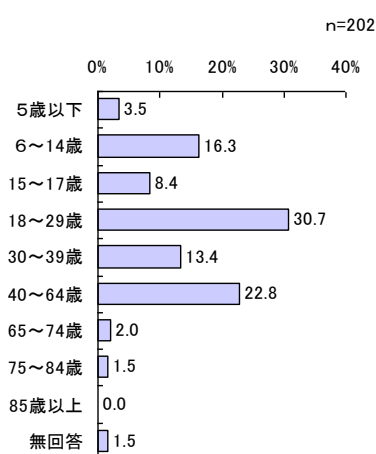
・あなたは、何歳ですか？（あなたとは、障害のある方ご本人のことです） [共通]

身体障害では「75～84歳」が30.9%、「65～74歳」が28.0%と多く、高齢層が中心となっている。知的障害では「18～29歳」の30.7%が最も多く、次いで「40～64歳」、「6～14歳」などの順となっている。精神障害では「40～64歳」の54.8%が最も多く、次いで「30～39歳」が17.3%と働き盛りの年代が多い。

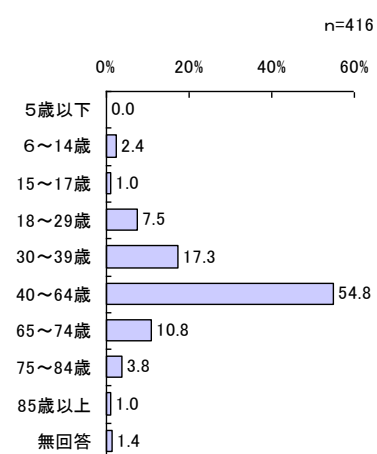
【身体】



【知的】



【精神】



前回調査結果（平成22年実施）と比較すると、身体障害では「75～84歳」が6.6ポイント、「85歳以上」が6.5ポイント増加、精神障害では「40～64歳」が10.1ポイント増加するなど高齢化が進んでいることがうかがえる。

(%)

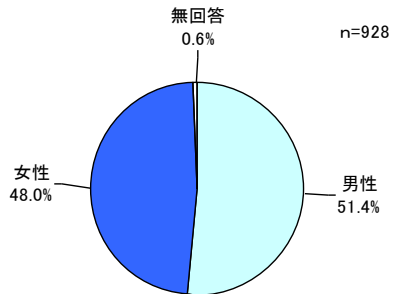
区分	5歳以下	6～14歳	15～17歳	18～29歳	30～39歳	40～64歳	65～74歳	75～84歳	85歳以上	無回答
身体障害 (1,005)	0.5	1.2	0.9	3.1	3.9	26.4	30.6	24.3	7.0	2.2
知的障害 (182)	1.6	18.7	11.0	23.1	21.4	20.9	2.2	0.0	0.0	1.1
精神障害 (407)	0.0	2.5	3.2	9.3	25.3	44.7	11.5	2.5	0.0	1.0

注：()内は回答者数

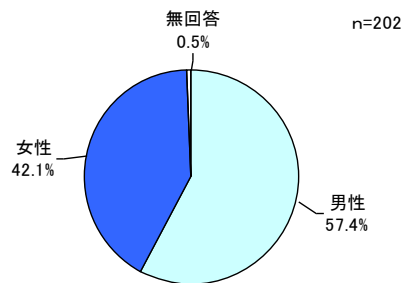
・あなたの性別は、どちらですか？ [共通]

性別は、身体障害と精神障害ではほぼ半々、知的障害では「男性」が「女性」より多くなっている。

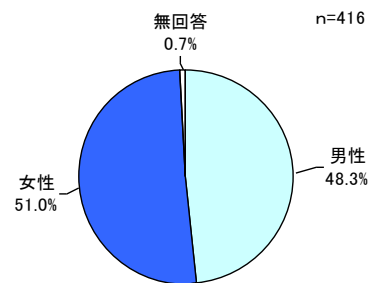
【身体】



【知的】



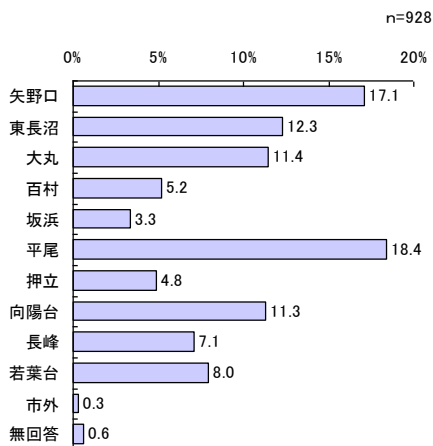
【精神】



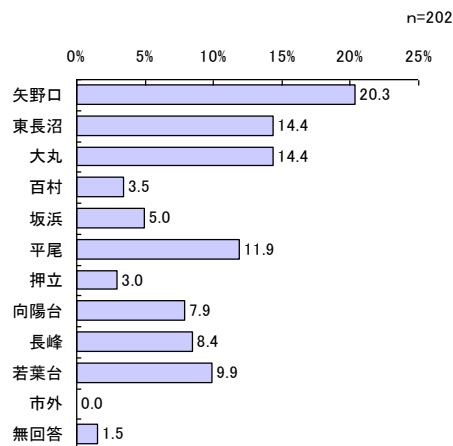
・あなたが住んでいるのはどの地区ですか？ [共通]

身体障害と精神障害では「平尾」、知的障害では「矢野口」が最も多くなっている。

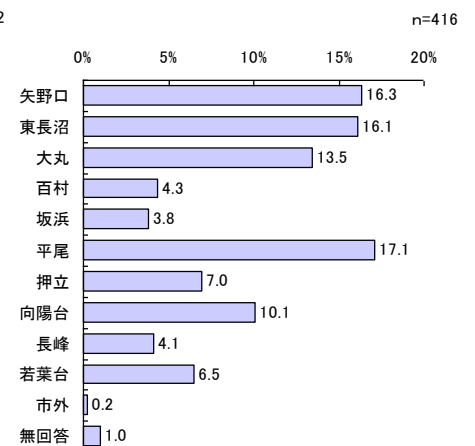
【身体】



【知的】



【精神】



- ・あなたの身体障害者手帳の等級をご記入ください。[身体]
- ・療育手帳（「愛の手帳」）の程度はどれですか？ [知的]
- ・あなたの精神障害者保健福祉手帳の等級は次のどれですか？ [精神]

身体障害者手帳の等級は「1級」35.5%が最も多く、次いで「4級」24.2%、「3級」16.1%、「2級」12.7%などとなっている。

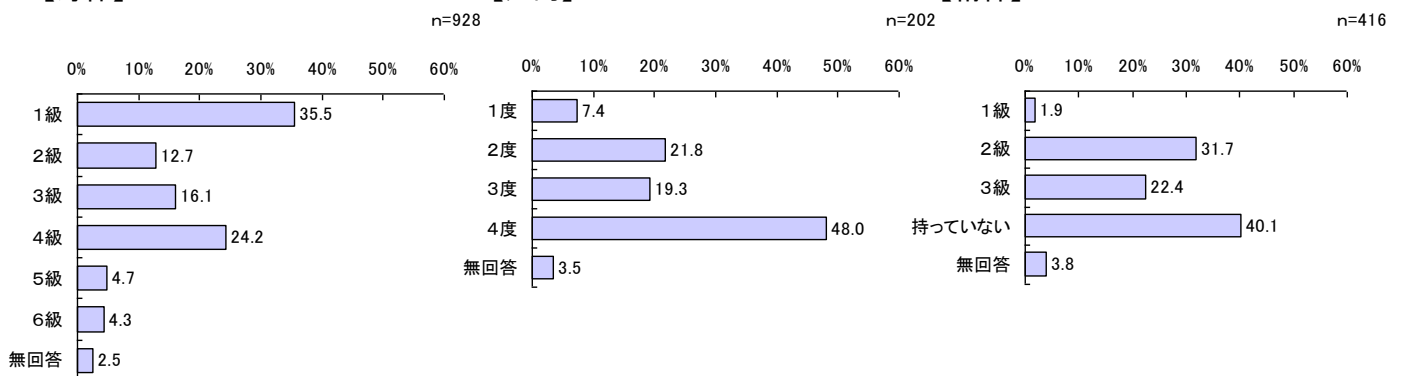
療育手帳の程度は「4度」48.0%が最も多く、次いで「2度」21.8%、「3度」19.3%などとなっている。

精神障害者保健福祉手帳の等級は「持っていない」40.1%が最も多く、「2級」31.7%、「3級」22.4%などとなっている。

【身体】

【知的】

【精神】



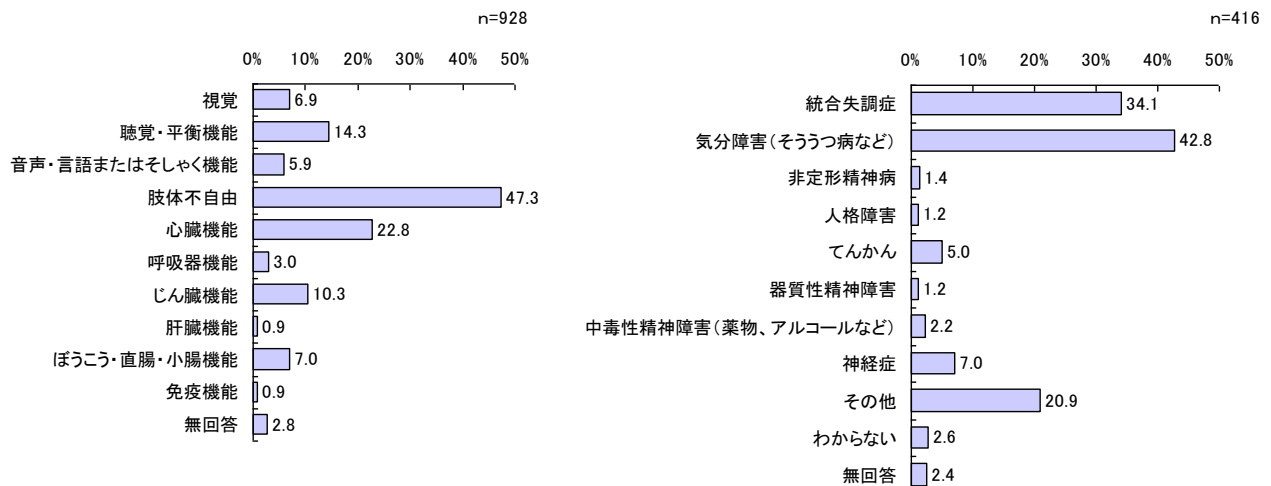
- ・あなたの身体障害の種類は次のどれですか。[身体]
- ・あなたの精神疾患の種類は次のどれですか。[精神]

身体障害の種類では「肢体不自由」の47.3%が最も多く、次いで「心肺機能」22.8%、「聴覚・平衡機能」14.3%などとなっている。

精神障害の種類では「気分障害（そううつ病など）」の42.8%が最も多く、次いで「統合失調症」34.1%、「神経症」7.0%などとなっている。

【身体】

【精神】

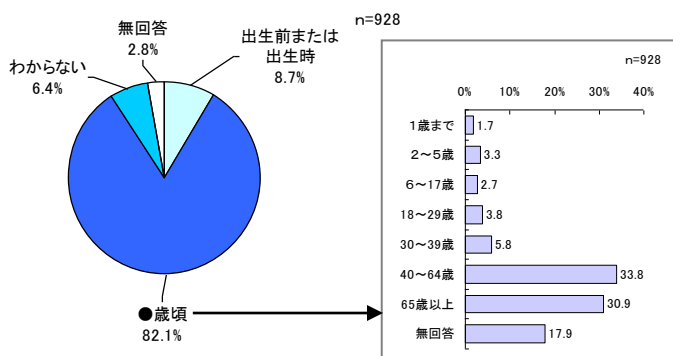


- ・あなたの身体障害は何歳頃に発生しましたか。[身体]
- ・あなたが初めて精神科・神経科で診療を受けたのは何歳ごろですか。[精神]

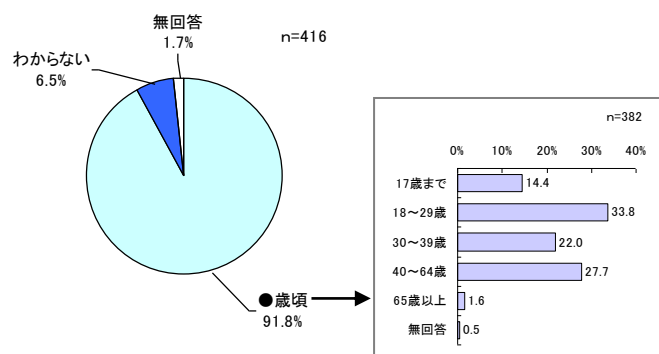
身体障害が発生した年齢では、「40～64歳」の33.8%が最も多く、次いで「65歳以上」30.9%などとなっている。

はじめて精神科・神経科で診療を受けた年齢としては、「18～29歳」の33.8%が最も多く、次いで「40～64歳」27.7%、「30～39歳」22.0%などとなっている。

【身体】



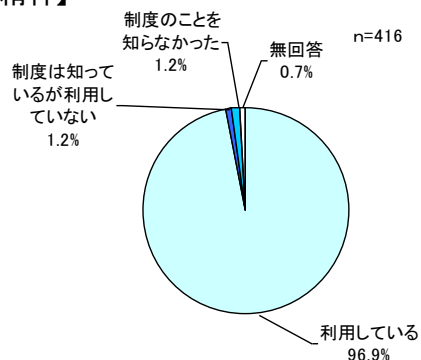
【精神】



- ・あなたは、「自立支援医療制度」（精神通院）を利用していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。[精神]

自立支援医療制度（精神通院）については「利用している」が96.9%と圧倒的に多く、「制度は知っているが利用していない」、「制度のことを知らなかった」人はともに1.2%となっている。

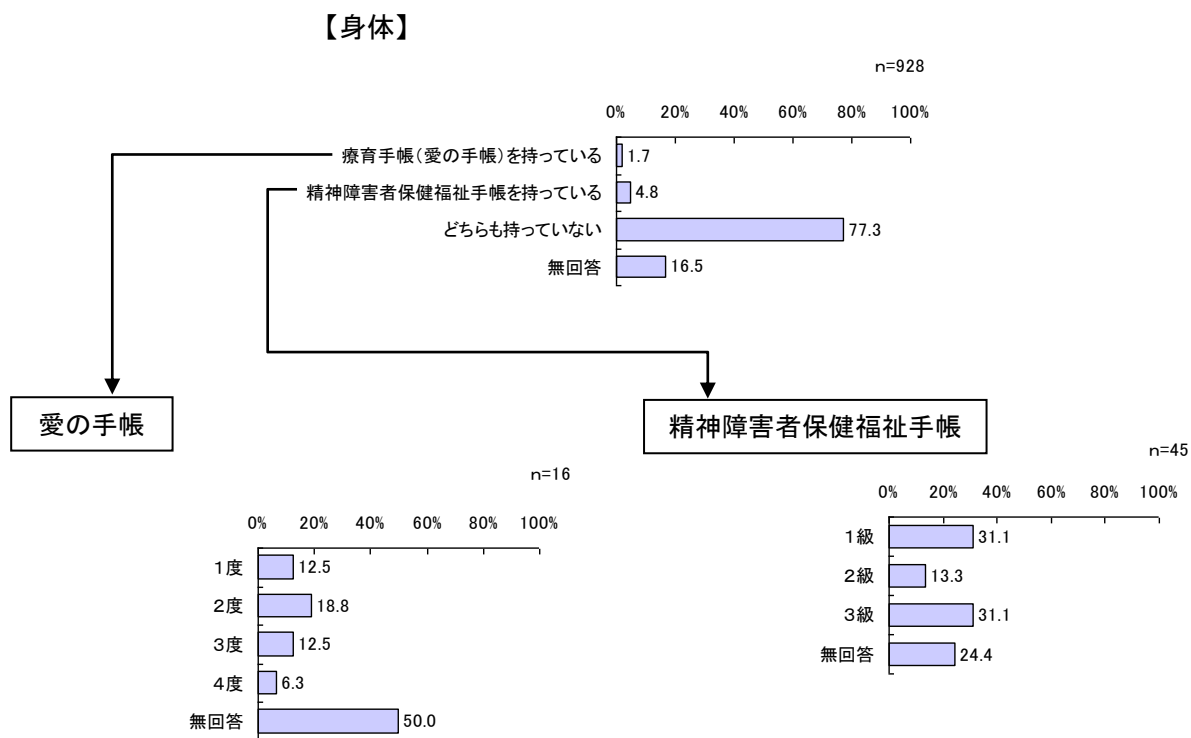
【精神】



・あなたは、療育手帳（愛の手帳）、または精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。[身体]
 （あてはまるもの全てに○）

身体障害では「療育手帳（愛の手帳）を持っている」1.7%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」4.8%、「どちらも持っていない」77.3%となっている。

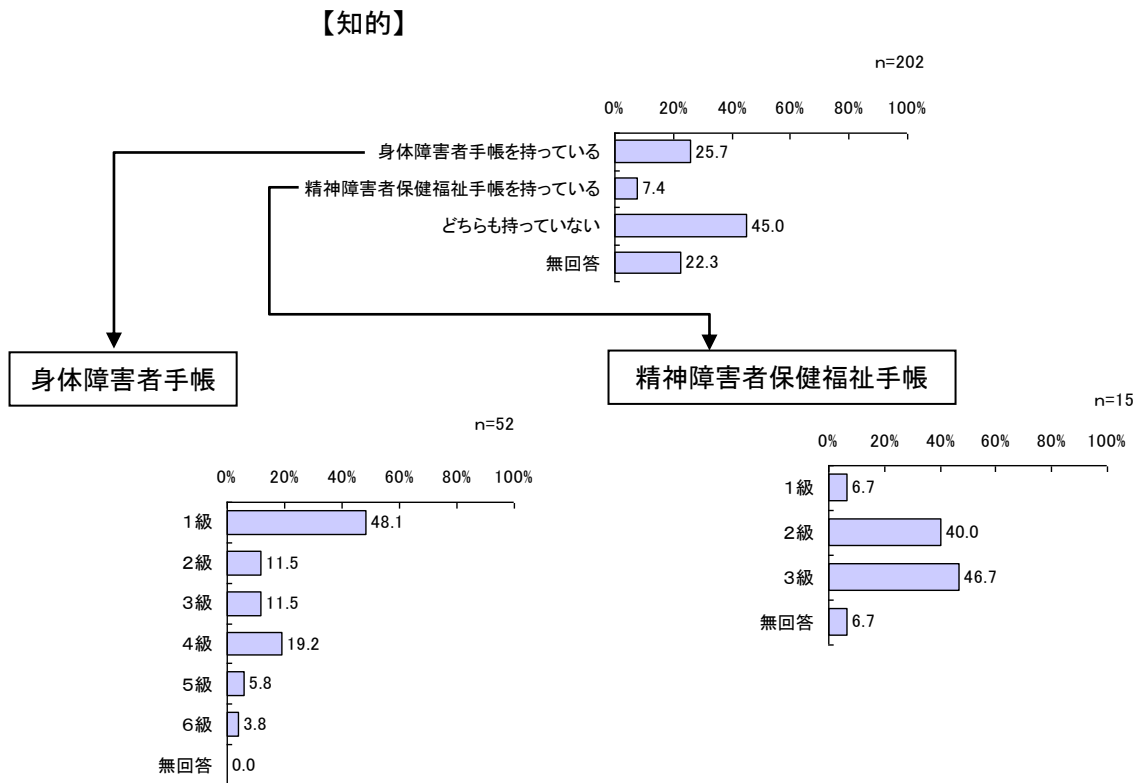
重複障害の程度・等級については、愛の手帳では「2度」18.8%、「1度」「3度」がともに12.5%、「4度」6.3%となっている。精神障害者保健福祉手帳では「1級」「3級」がともに31.1%、「2級」13.3%となっている。



・あなたは、身体障害者手帳、または精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか？ [知的]
 (あてはまるもの全てに○)

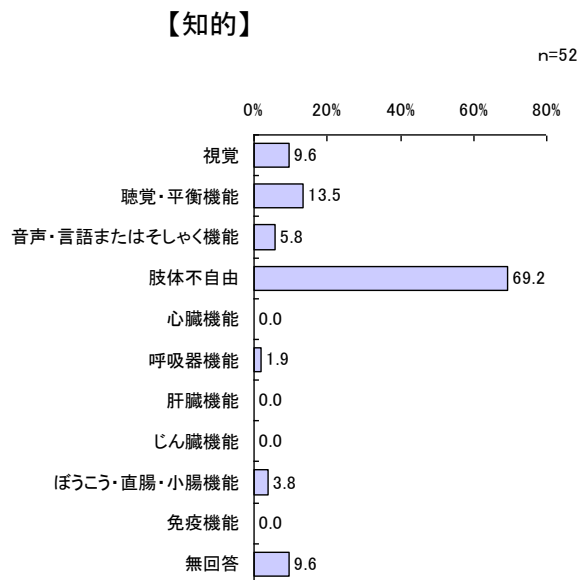
知的障害では「身体障害者手帳を持っている」25.7%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」7.4%、「どちらも持っていない」45.0%となっている。

重複障害の等級については、身体障害者手帳では「1級」の48.1%が最も多く、次いで「4級」19.2%、「2級」「3級」がともに11.5%などとなっている。精神障害者保健福祉手帳では「3級」の46.7%が最も多く、次いで「2級」40.0%、「1級」6.7%となっている。



・あなたの、身体障害者手帳に書いてある、障害の種類は次のどれですか？ [知的]

知的障害があり、身体障害者手帳もお持ちの方の身体障害の種類では、「肢体不自由」の69.2%が最も多く、次いで「聴覚・平衡機能」13.5%、「視覚」9.6%などとなっている。

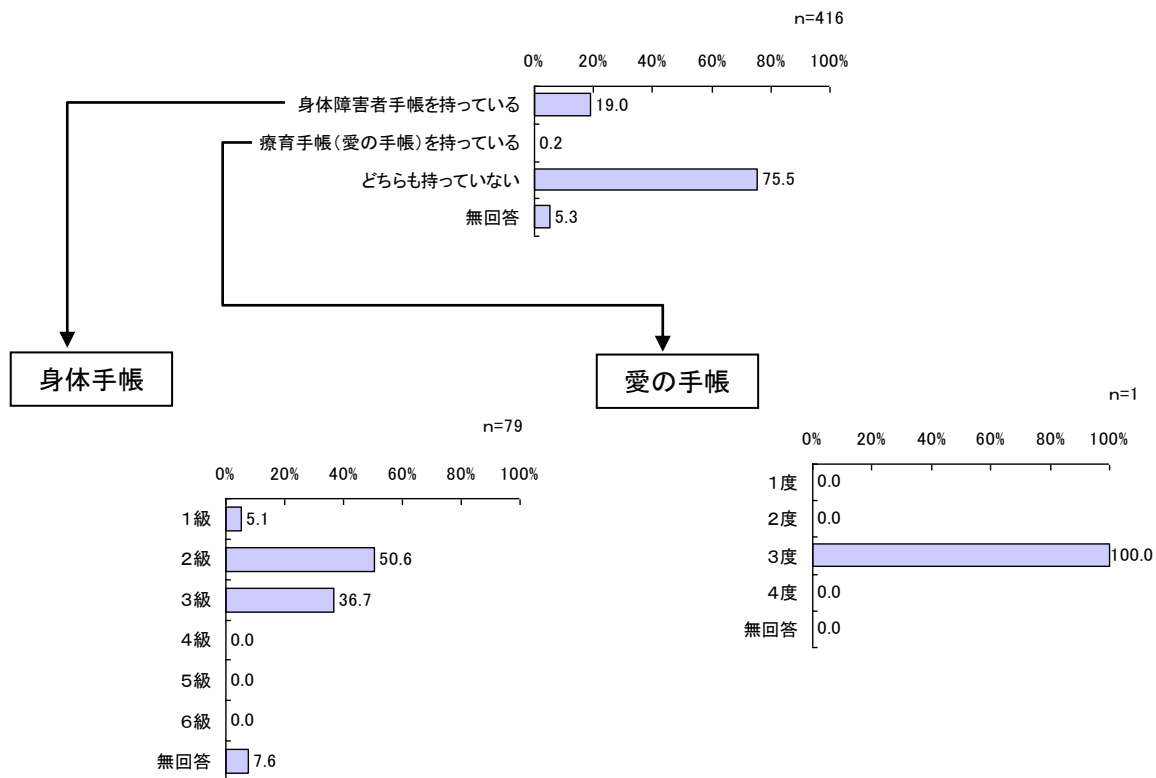


・あなたは、身体障害者手帳、または療育手帳（愛の手帳）をお持ちですか。[精神]
 （あてはまるもの全てに○）

精神障害では「身体障害者手帳を持っている」19.0%、「療育手帳（愛の手帳）を持っている」0.2%、「どちらも持っていない」75.5%となっている。

重複障害の等級については、身体障害者手帳では「2級」の50.6%が最も多く、次いで「3級」36.7%、「1級」5.1%となっている。愛の手帳は「3度」が1名である。

【精神】



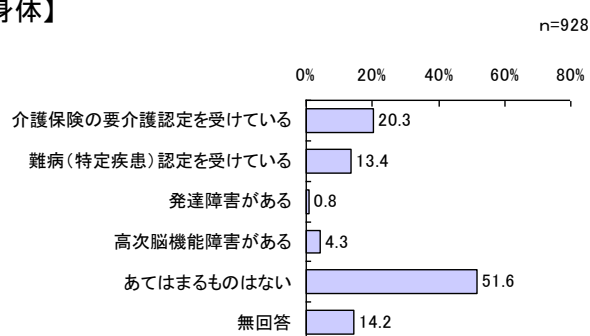
・あなたは、下記のいずれかに当てはまりますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

身体障害では「介護保険の要介護認定を受けている」の20.3%が最も多く、次いで「難病（特定疾患）認定を受けている」13.4%、「高次脳機能障害がある」4.3%、「発達障害がある」0.8%となっており、「あてはまるものはない」は51.6%である。

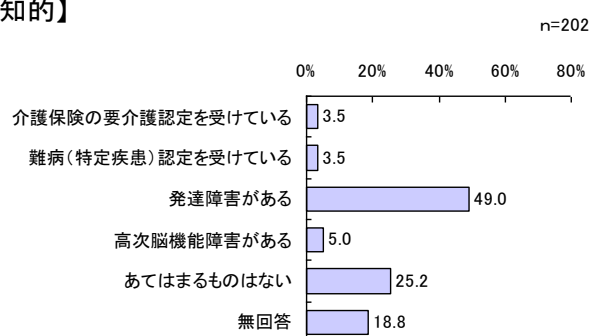
知的障害では「発達障害がある」の49.0%が最も多く、次いで「高次脳機能障害がある」5.0%、「介護保険の要介護認定を受けている」「難病（特定疾患）認定を受けている」がともに3.5%となっており、「あてはまるものはない」は25.2%である。

精神障害では「発達障害がある」が5.3%、「介護保険の要介護認定を受けている」5.0%、「高次脳機能障害がある」2.9%、「難病（特定疾患）認定を受けている」2.6%の順となっており、「あてはまるものはない」は73.6%である。

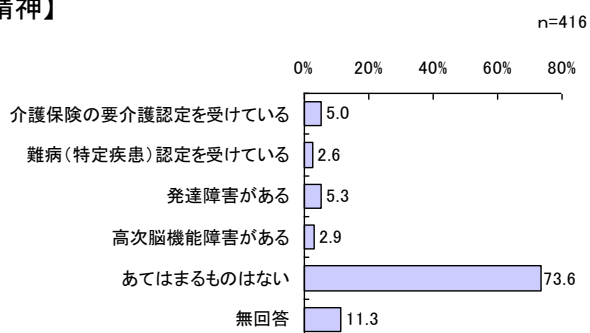
【身体】



【知的】



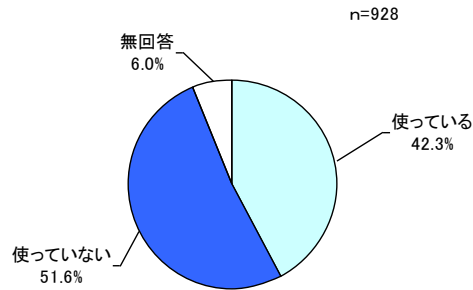
【精神】



・あなたは、現在補装具や日常生活用具を使っていますか。[身体]

「使っている」が42.3%に対し、「使っていない」が51.6%となっている。

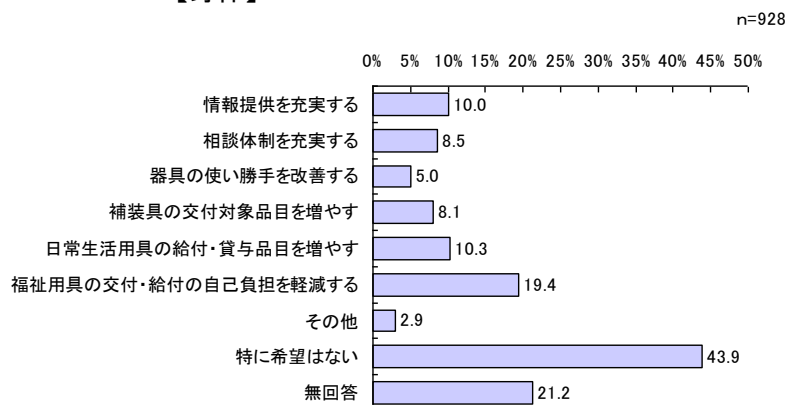
【身体】



・あなたは、補装具や日常生活用具などの福祉用具の利用にあたって希望することがありますか。あてはまるものに○をつけてください。(3つまで) [身体]

「福祉用具の交付・給付の自己負担を軽減する」の19.4%が最も多く、次いで「日常生活用具の給付・貸与品目を増やす」10.3%、「情報提供を充実する」10.0%などとなっている。

【身体】



・あなたが、今住んでいるのはどれにあたりますか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

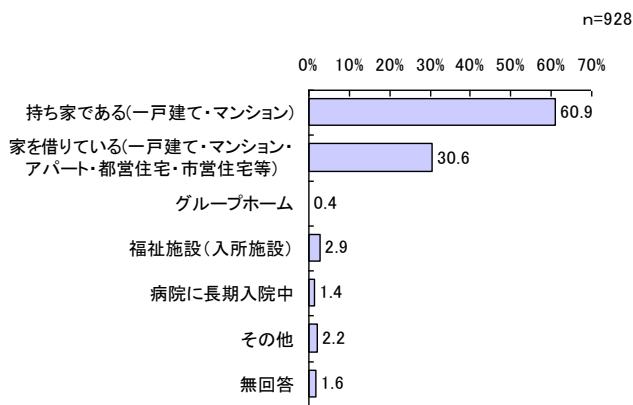
【共通】

身体障害では「持ち家である（一戸建て・マンション）」の60.9%が最も多く、「家を借りている（一戸建て・マンション・アパート・都営住宅・市営住宅等）」の30.6%と合わせると、9割を超える方が自宅で暮らしている。

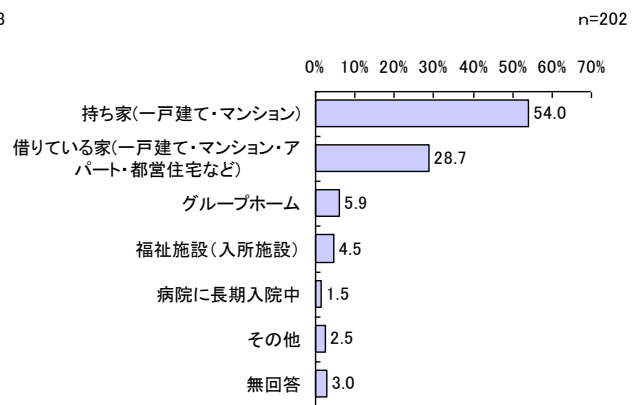
知的障害では持ち家である（一戸建て・マンション）」の54.0%が最も多く、「家を借りている（一戸建て・マンション・アパート・都営住宅・市営住宅等）」の28.7%と合わせて8割を超える方が自宅で暮らしている一方、「グループホーム」が5.9%、「福祉施設（入所施設）」が4.5%となっている。

精神障害では「持ち家である（一戸建て・マンション）」が51.2%、「家を借りている（一戸建て・マンション・アパート・都営住宅・市営住宅等）」が42.3%で、他の障害と比較して最も自宅で暮らしている方の割合が高くなっているが、「家を借りている」方の割合についても他の障害よりも高くなっている。

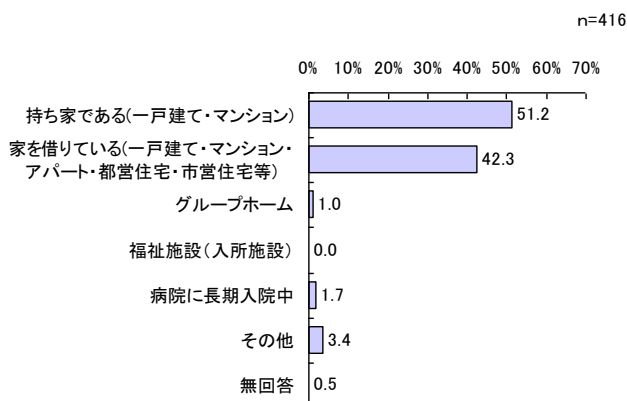
【身体】



【知的】



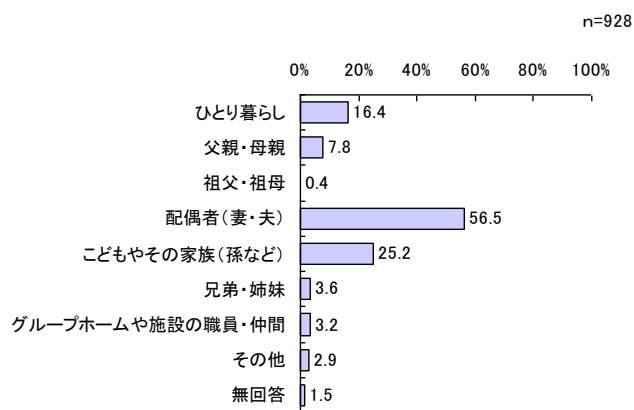
【精神】



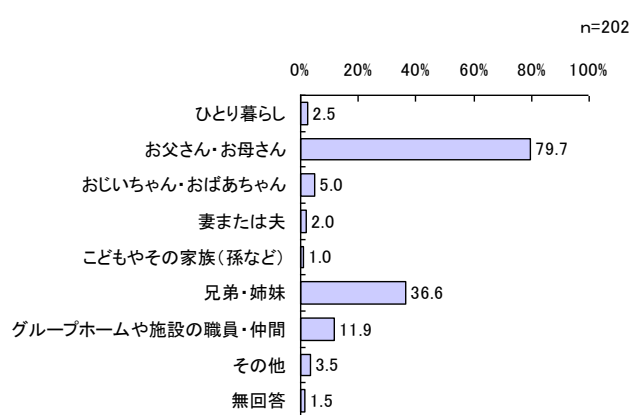
・あなたは、今だれと一緒に暮らしていますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

身体障害と精神障害では「配偶者」（身体：56.5%、精神：34.9%）、知的障害では「お父さん・お母さん」79.7%が最も多くなっている。そのほか、知的障害では「兄弟・姉妹」や「グループホームや施設の職員・仲間」、精神障害では「ひとり暮らし」が比較的が多くなっている。

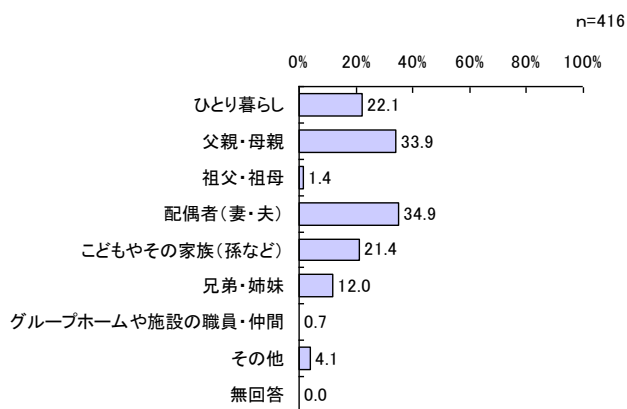
【身体】



【知的】



【精神】

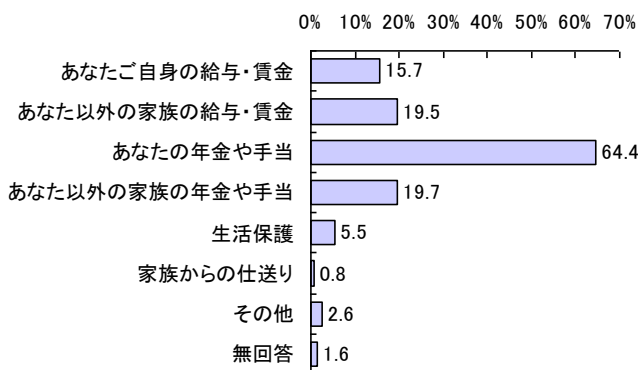


- ・あなたの世帯のおもな収入源は何ですか？あてはまるものに○をつけてください。(2つまで) [身体・精神]
- ・生活のためのお金は、おもに何で得ていますか？あてはまるものに○をつけてください。(2つまで) [知的]

身体障害では「あなたの年金や手当」の64.4%が最も多く、知的障害と精神障害では「家族が働いたお金（あなた以外の家族の給与・賃金）」(知的：51.0%、精神：34.4%)が最も多くなっています。そのほか、知的障害で「自分で働いたお金（あなたご自身の給与・賃金）」が2割台半ばとやや多く、精神障害で「生活保護」が2割を超えて多くなっている。

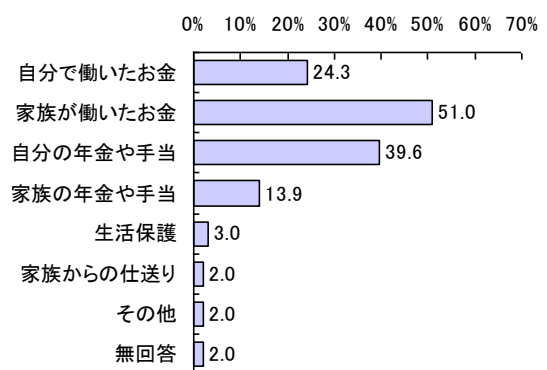
【身体】

n=928



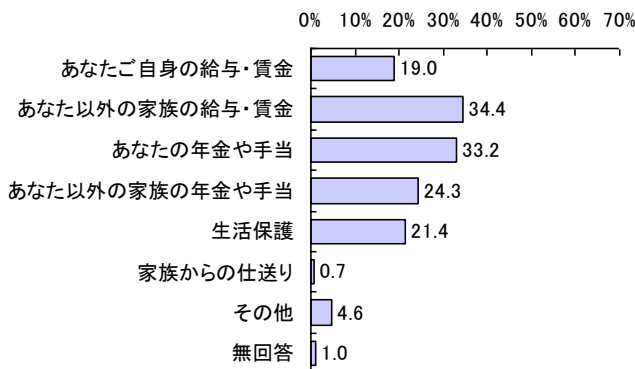
【知的】

n=202



【精神】

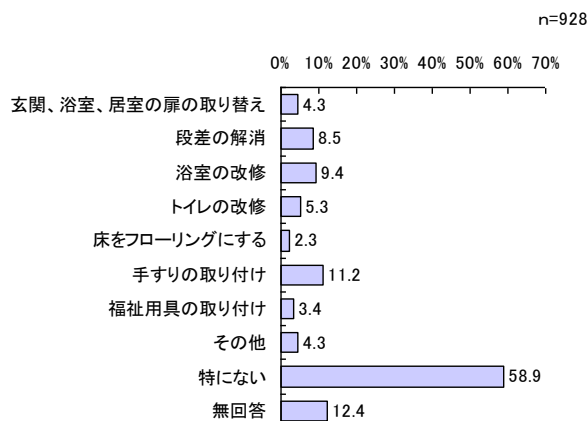
n=416



・お住まいで、あなたや介助・支援してくれる人のために増築、改造したいと思うところがありますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[身体]

「手すりの取り付け」の11.2%が最も多く、次いで「浴室の改修」9.4%、「段差の解消」8.5%などとなっており、「特にない」は58.9%である。

【身体】



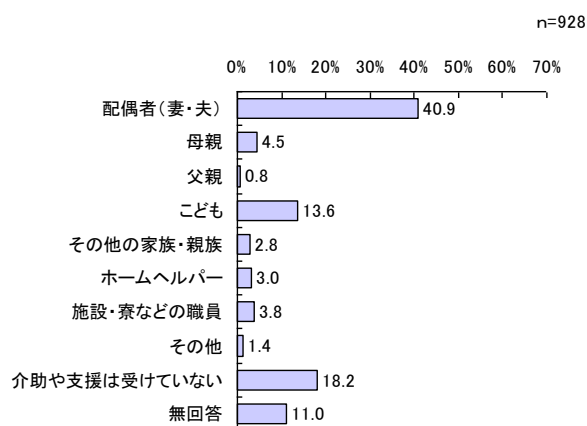
身体障害の種類別で見ると、対象者数が少ない属性があるため正確な比較はできないが、「肢体不自由」では「段差の解消」、「浴室の改修」、「手すりの取り付け」の回答がやや多くなっている。

	合計	玄関、浴室、居室の扉の取り替え	段差の解消	浴室の改修	トイレの改修	床をフローリングにする	手すりの取り付け	福祉用具の取り付け	その他	特にない	無回答
全体	928 100.0	40 4.3	79 8.5	87 9.4	49 5.3	21 2.3	104 11.2	32 3.4	40 4.3	547 58.9	115 12.4
視覚	64 100.0	4 6.3	6 9.4	5 7.8	2 3.1	0 0.0	8 12.5	2 3.1	2 3.1	31 48.4	15 23.4
聴覚・平衡機能	133 100.0	5 3.8	11 8.3	12 9.0	9 6.8	4 3.0	13 9.8	11 8.3	6 4.5	68 51.1	21 15.8
音声・言語またはそしゃく機能	55 100.0	5 9.1	8 14.5	5 9.1	5 9.1	2 3.6	13 23.6	1 1.8	2 3.6	25 45.5	6 10.9
肢体不自由	439 100.0	24 5.5	52 11.8	54 12.3	28 6.4	12 2.7	68 15.5	16 3.6	25 5.7	233 53.1	41 9.3
内部障害	376 100.0	14 3.7	28 7.4	32 8.5	18 4.8	7 1.9	32 8.5	7 1.9	17 4.5	241 64.1	48 12.8

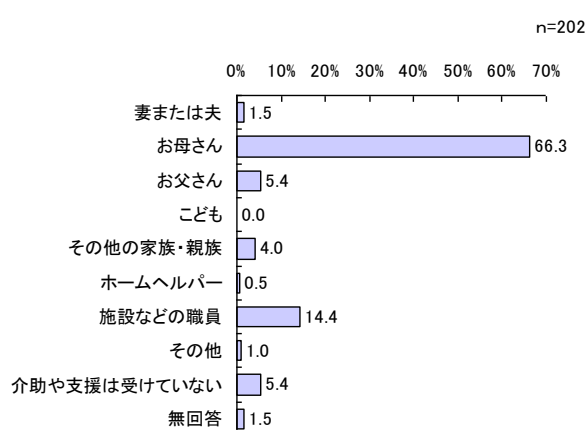
・ 普段、あなたを主に介助・支援してくれるのはどなたですか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。[共通]

身体障害と精神障害では「配偶者（妻・夫）」（身体：40.9%、精神：24.5%）、知的障害では「お母さん」66.3%が最も多くなっている。そのほか、身体障害では「子ども」、知的障害では「施設などの職員」、精神障害では「母親」がやや多くなっている。

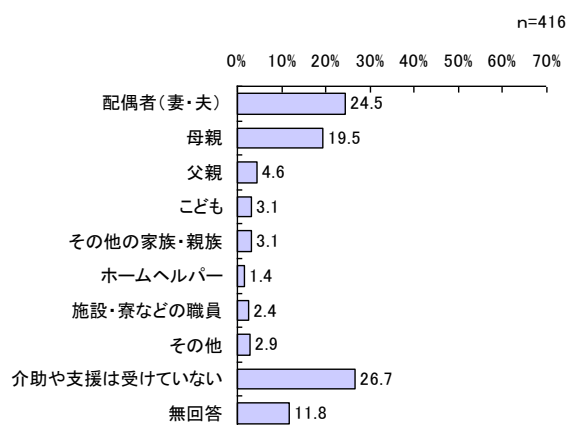
【身体】



【知的】



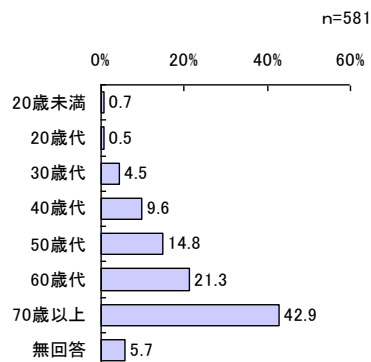
【精神】



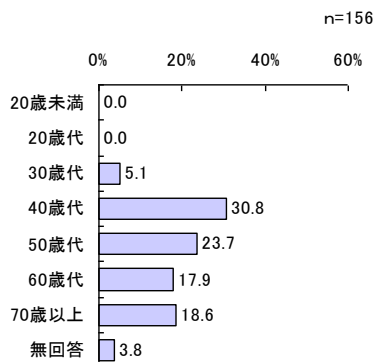
・ 普段、あなたを主に介助・支援している人は何歳ぐらいですか？ [共通]

身体障害と精神障害では「70歳以上」（身体：42.9%、精神：30.3%）、知的障害では「40歳代」30.8%が最も多くなっている。

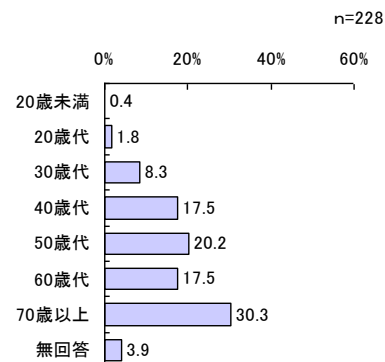
【身体】



【知的】



【精神】



前回調査結果（平成22年実施）と比較すると、全ての属性で「70歳以上」が増加（身体：8.0ポイント増、知的：4.6ポイント増、精神：14.3ポイント増）しており、介助・支援をしている方の高齢化も進んでいることがうかがえる。

(%)

区分	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
身体障害 (390)	0.5	1.0	4.1	10.3	15.6	30.0	34.9	3.6
知的障害 (129)	0.8	0.8	10.9	28.7	26.4	17.1	14.0	1.6
精神障害 (213)	2.3	3.3	12.7	20.2	16.4	23.0	16.0	6.1

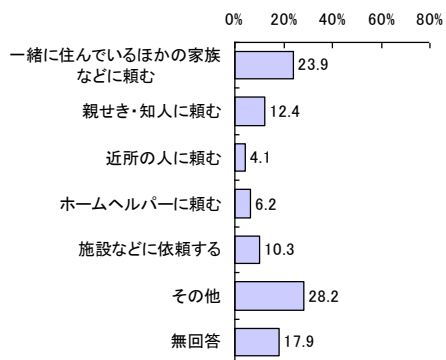
注：() 内は回答者数

・あなたは、介助・支援をしてくれる人がいないとき、どうしていますか？ [共通]

全ての属性で「一緒に住んでいるほかの家族などに頼む」が最も多く、なかでも知的障害は66.0%と特に多くなっている。そのほか、知的障害では「施設などに依頼する」20.5%がやや多くなっている。

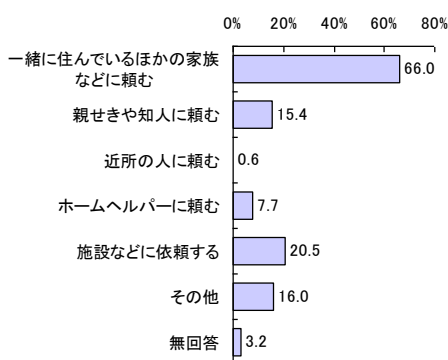
【身体】

n=581



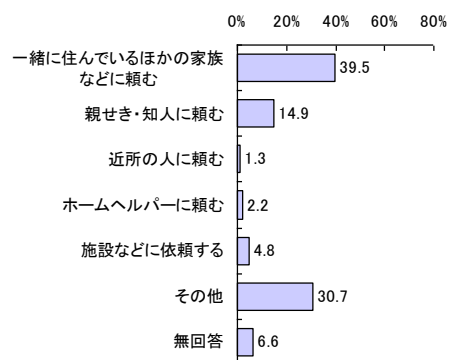
【知的】

n=156



【精神】

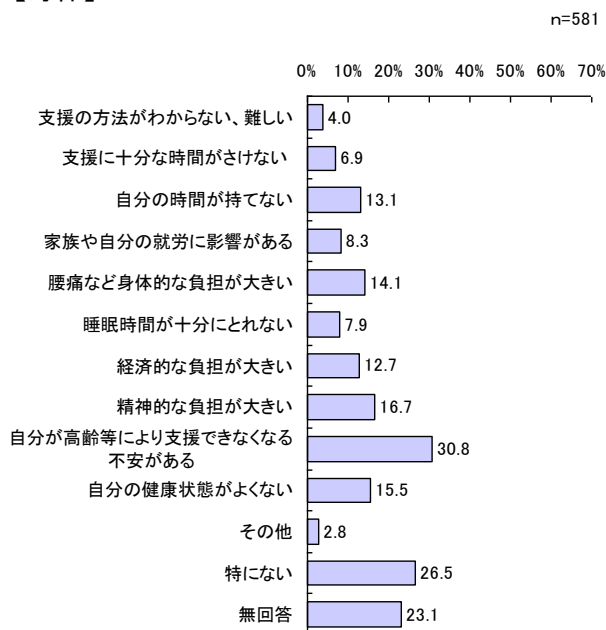
n=228



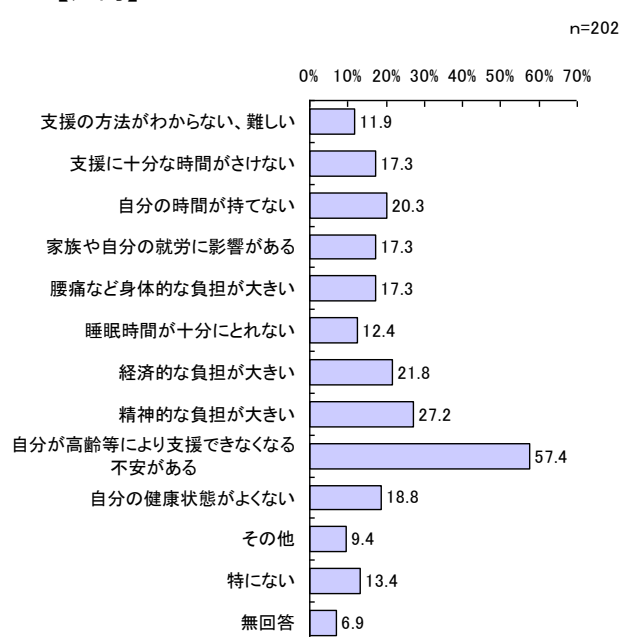
・ご本人を介助・支援する際、お困りのことはありますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

身体障害と知的障害では「自分が高齢等により支援できなくなる不安がある」（身体：30.8%、知的：57.4%）、精神障害では「精神的な負担が大きい」36.0%が最も多くなっている。そのほか、知的障害では「精神的な負担が大きい」、「経済的な負担が大きい」、「自分の時間が持てない」、精神障害では「経済的な負担が大きい」、「支援の方法がわからない、難しい」などがやや多くなっている。

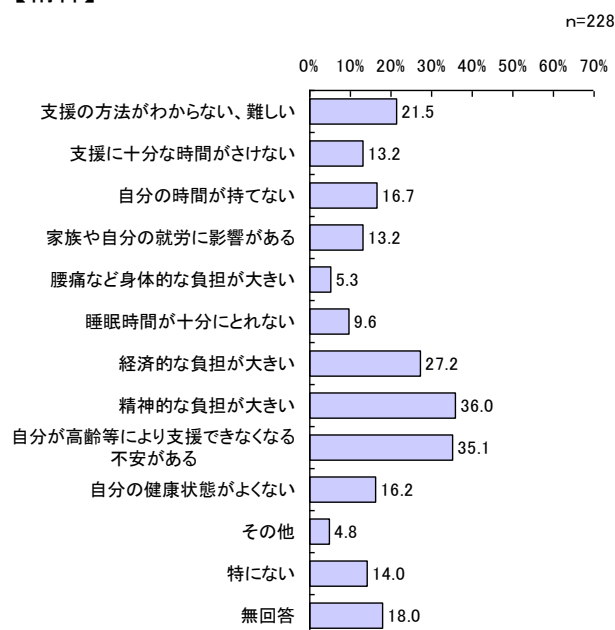
【身体】



【知的】



【精神】



本人に「何らかの医療的ケアが必要かどうか」※の別でみると、どの障害種別においても「何らかの医療的ケアが必要」の方が、「必要な医療的ケアはない」よりも、ほぼ全ての項目で回答の割合が高くなっている。特に知的障害では「自分の時間が持てない」、「自分の健康状態がよくない」、「睡眠時間が十分にとれない」などの項目で、「何らかの医療的ケアが必要」と回答した人の回答数が多くなっている。

※P24 掲載の設問で、「あてはまるものはない」と回答した方＝「必要な医療的ケアはない」、「あてはまるものはない」以外を回答した方＝「何らかの医療的ケアが必要」として集計

【身体】

	合計	支援の方法がわからない、難しい	支援に十分な時間がさけない	自分の時間が持てない	家族や自分の就労に影響がある	腰痛など身体的な負担が大きい	睡眠時間が十分にとれない	経済的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	自分が高齢等により支援できなくなる不安がある	自分の健康状態がよくない	その他	特にない	無回答
全体	581 100.0	23 4.0	40 6.9	76 13.1	48 8.3	82 14.1	46 7.9	74 12.7	97 16.7	179 30.8	90 15.5	16 2.8	154 26.5	134 23.1
何らかの医療的ケアが必要	191 100.0	10 5.2	16 8.4	30 15.7	16 8.4	33 17.3	28 14.7	30 15.7	46 24.1	76 39.8	43 22.5	10 5.2	40 20.9	31 16.2
必要な医療的ケアはない	292 100.0	9 3.1	20 6.8	34 11.6	24 8.2	26 8.9	11 3.8	28 9.6	38 13.0	69 23.6	33 11.3	5 1.7	105 36.0	63 21.6

【知的】

	合計	支援の方法がわからない、難しい	支援に十分な時間がさけない	自分の時間が持てない	家族や自分の就労に影響がある	腰痛など身体的な負担が大きい	睡眠時間が十分にとれない	経済的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	自分が高齢等により支援できなくなる不安がある	自分の健康状態がよくない	その他	特にない	無回答
全体	202 100.0	24 11.9	35 17.3	41 20.3	35 17.3	35 17.3	25 12.4	44 21.8	55 27.2	116 57.4	38 18.8	19 9.4	27 13.4	14 6.9
何らかの医療的ケアが必要	69 100.0	6 8.7	12 17.4	24 34.8	17 24.6	20 29.0	17 24.6	15 21.7	24 34.8	51 73.9	21 30.4	6 8.7	3 4.3	2 2.9
必要な医療的ケアはない	115 100.0	15 13.0	18 15.7	14 12.2	14 12.2	12 10.4	6 5.2	21 18.3	25 21.7	55 47.8	12 10.4	10 8.7	21 18.3	11 9.6

【精神】

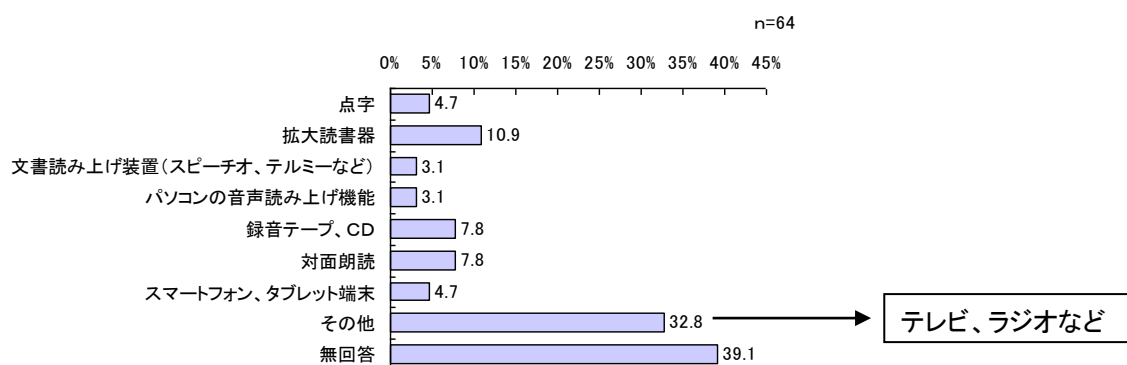
	合計	支援の方法がわからない、難しい	支援に十分な時間がさけない	自分の時間が持てない	家族や自分の就労に影響がある	腰痛など身体的な負担が大きい	睡眠時間が十分にとれない	経済的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	自分が高齢等により支援できなくなる不安がある	自分の健康状態がよくない	その他	特にない	無回答
全体	228 100.0	49 21.5	30 13.2	38 16.7	30 13.2	12 5.3	22 9.6	62 27.2	82 36.0	80 35.1	37 16.2	11 4.8	32 14.0	41 18.0
何らかの医療的ケアが必要	88 100.0	21 23.9	15 17.0	20 22.7	20 22.7	7 8.0	13 14.8	25 28.4	34 38.6	29 33.0	16 18.2	6 6.8	13 14.8	12 13.6
必要な医療的ケアはない	107 100.0	20 18.7	13 12.1	15 14.0	8 7.5	3 2.8	6 5.6	30 28.0	39 36.4	35 32.7	14 13.1	4 3.7	19 17.8	19 17.8

3 コミュニケーションについて

・（視覚障害のある方にうかがいます）あなたは、どのような手段で情報を収集していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。[身体]

「拡大読書器」の10.9%が最も多く、次いで「録音テープ、CD」と「対面朗読」が7.8%、「点字」と「スマートフォン、タブレット端末」が4.7%などとなっている。「その他」として多く挙げられたのは「テレビ」「ラジオ」などである。

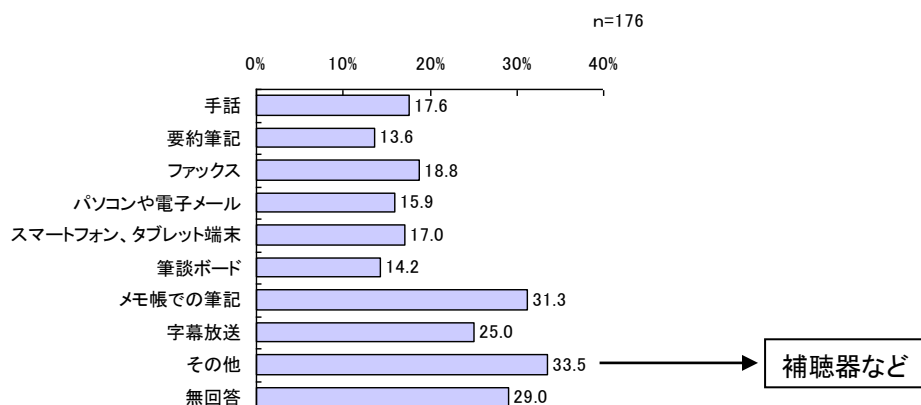
【身体】



・（聴覚または音声・言語・そしゃく機能障害のある方にうかがいます）あなたは、どのような手段で情報収集や意思疎通をしていますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。[身体]

「メモ帳での筆記」の31.3%が最も多く、次いで「字幕放送」25.0%、「ファックス」18.8%などとなっている。「その他」として多く挙げられたのは「補聴器」などである。

【身体】



4 健康・医療について

・あなたは、健康や医療について、困ったり不安に思っていることがありますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

身体障害と精神障害では「障害や病気の重度化や悪化が心配」（身体：41.2%、精神：44.2%）、知的障害では「お医者さんに自分のことがうまく伝えられない」33.2%が最も多くなっている。そのほか、身体障害では「医療費の負担が大きい」、知的障害では「薬の管理」や「気軽に相談ができない」、精神障害では「気軽に相談ができない」などがやや多くなっている。

【身体】

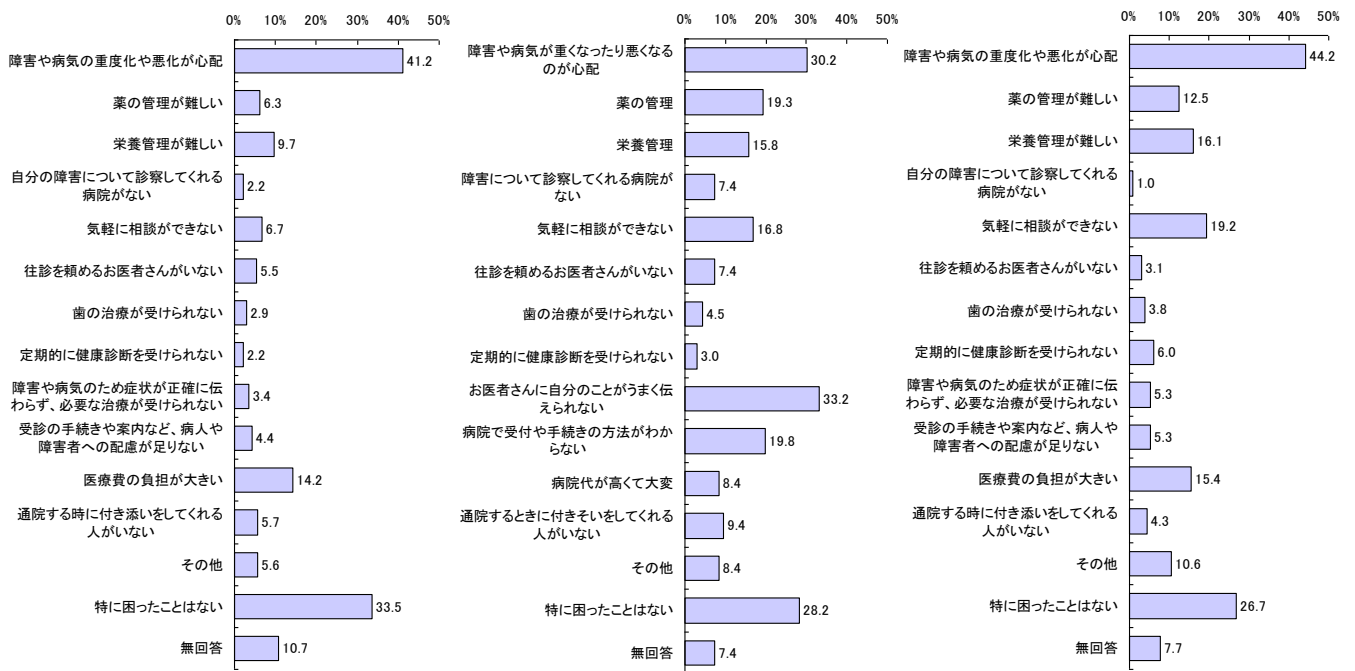
n=928

【知的】

n=202

【精神】

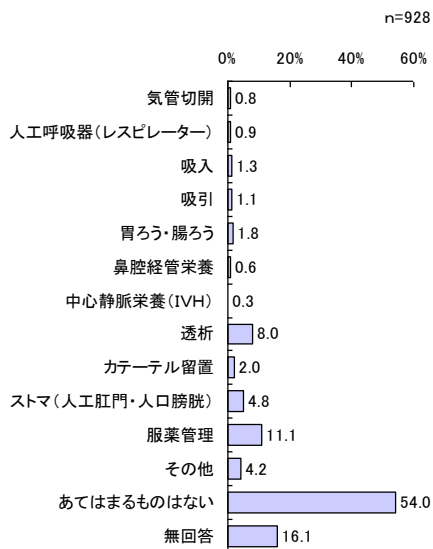
n=416



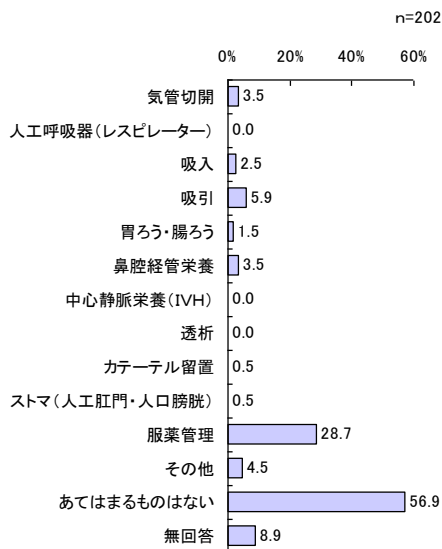
・あなたには、日常的に必要なとしている医療的ケアはありますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

全ての属性で「服薬管理」が最も多く、知的障害と精神障害では3割前後の回答率と多くなっている。そのほか、身体障害では「透析」、知的障害では「吸引」、「気管切開」、「鼻腔経管栄養」などがやや多くなっている。

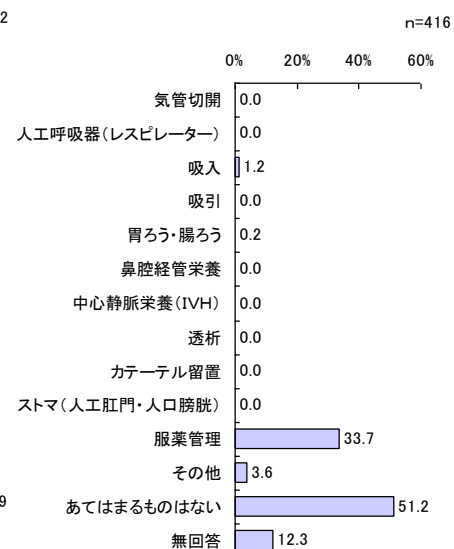
【身体】



【知的】



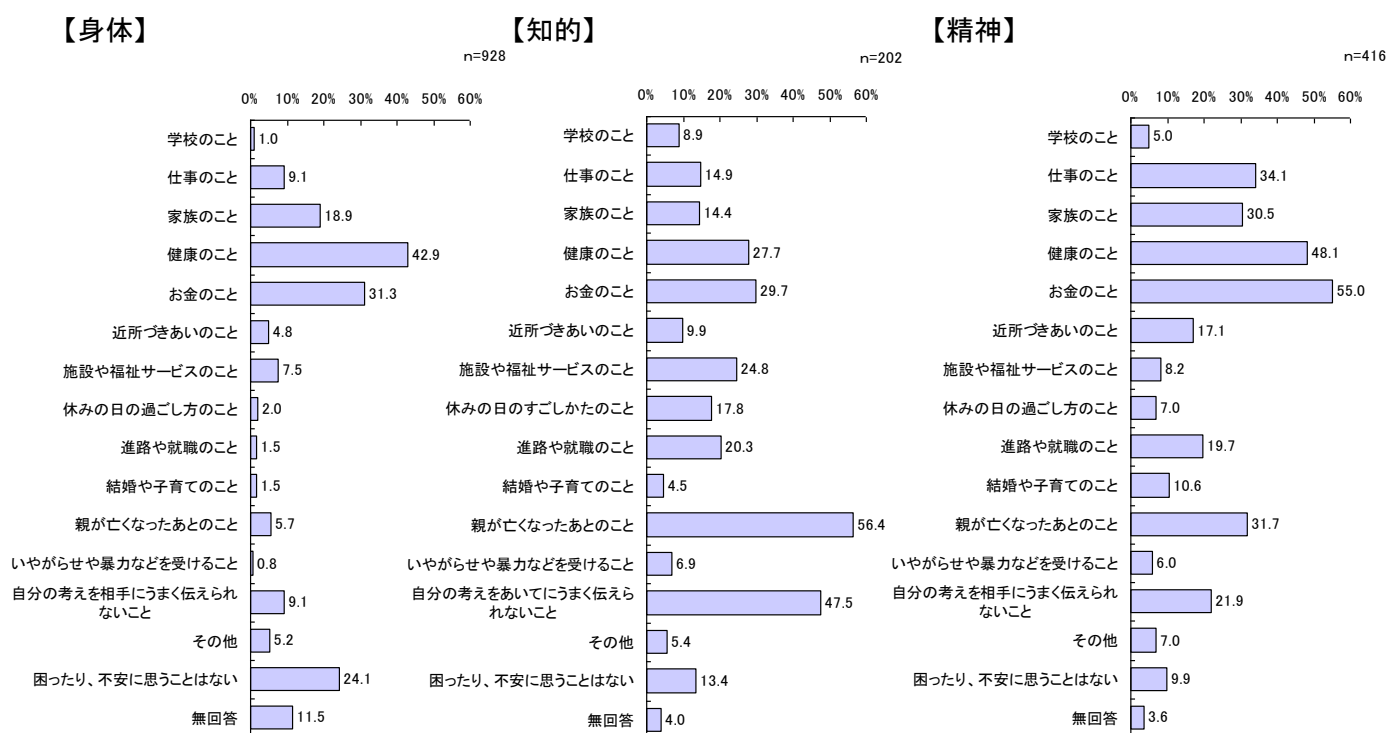
【精神】



5 日常生活・相談について

・あなたは、毎日の生活で困ったり、不安に思うことがありますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

身体障害では「健康のこと」42.9%、知的障害では「親が亡くなったあとのこと」56.4%、精神障害では「お金のこと」55.0%が最も多くなっている。そのほか、身体障害では「お金のこと」、知的障害では「自分を考えを相手にうまく伝えられないこと」や「施設や福祉サービスのこと」、精神障害では「健康のこと」や「仕事のこと」、「親が亡くなったあとのこと」などが比較的多くなっている。

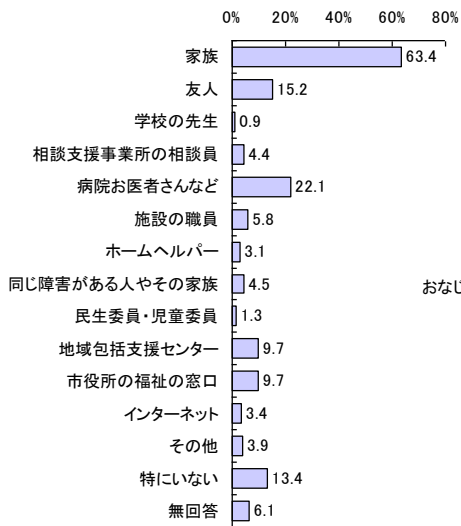


・あなたは、困ったとき、どなた（どこ）に相談していますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

全ての属性で「家族」（身体：63.4%、知的：68.3%、精神：67.1%）が最も多く、身体障害と精神障害では「病院のお医者さんなど」や「友人」、知的障害では「相談支援事業所の相談員」や「施設の職員」などがやや多くなっている。

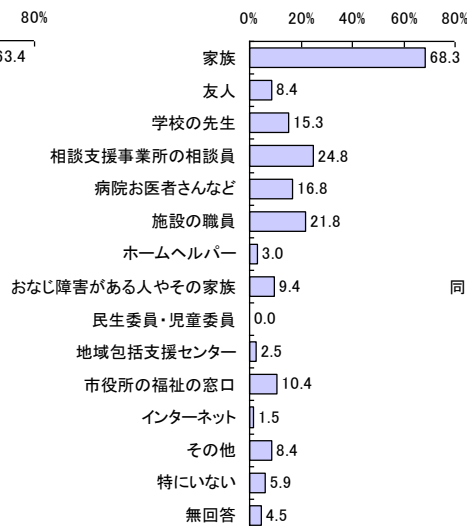
【身体】

n=928



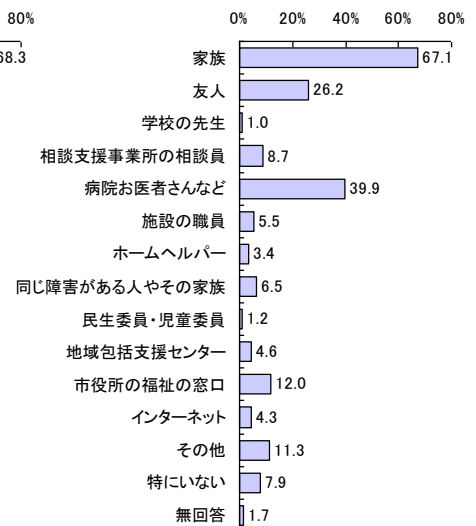
【知的】

n=202



【精神】

n=416



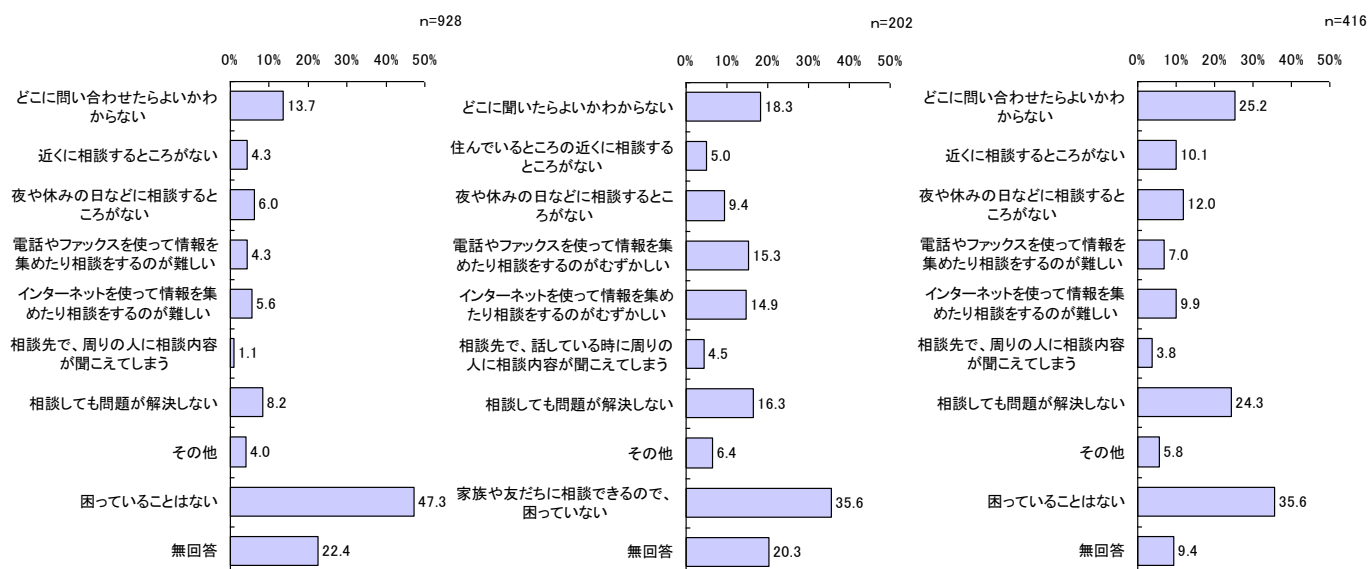
・あなたは、毎日の生活や障害福祉サービスなどについて必要な情報を集めたり、悩みごとを相談するとき、困ることはありますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

全ての属性で「どこに問い合わせたらよいかわからない（どこに聞いたらよいかわからない）」（身体：13.7%、知的：18.3%、精神：25.2%）が最も多く、知的障害と精神障害では「相談しても問題が解決しない」がやや多くなっている。

【身体】

【知的】

【精神】



前回調査結果（平成 22 年実施）と比較すると、知的障害では「どこに聞いたらよいかわからない（前回選択肢：どこに問い合わせたらよいかわからない）」（今回：18.3%、前回：25.3%）や「住んでいるところの近くに相談するところがない（前回選択肢：身近な場に相談するところがない）」（今回：5.0%、前回：12.1%）がやや減少していることなど、一定の変化がみられる。

(%)

区分	どこに問い合わせたらよいかわからない	身近な場に相談するところがない	の体制が不十分である	電話や F A X を使って情報収集や相談をするため	インターネットを使って情報収集や相談をするための体制が不十分である	相談先で、周りの人に相談内容が聞こえてしまう	その他	困っていない	家族や知人に相談したり、情報を得られるので特に	無回答
身体障害 (1,005)	18.5	9.1	4.6	5.6	2.1	4.5	43.7	26.5		
知的障害 (182)	25.3	12.1	8.2	8.8	2.7	7.7	35.7	24.7		
精神障害 (407)	27.0	13.8	8.8	11.3	7.9	5.7	36.6	22.6		

注：() 内は回答者数

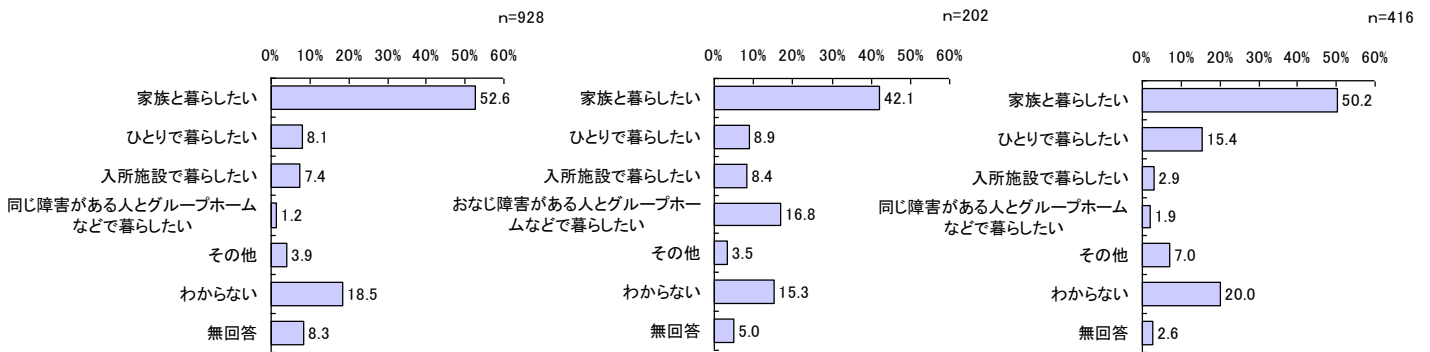
・あなたは将来（5～10年後）、どのような暮らしをしたいですか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。[共通]

全ての属性で「家族と暮らしたい」（身体：52.6%、知的：42.1%、精神：50.2%）が最も多く、知的障害では「おなじ障害のある人とグループホームなどで暮らしたい」、精神障害では「ひとりで暮らしたい」がやや多くなっている。

【身体】

【知的】

【精神】



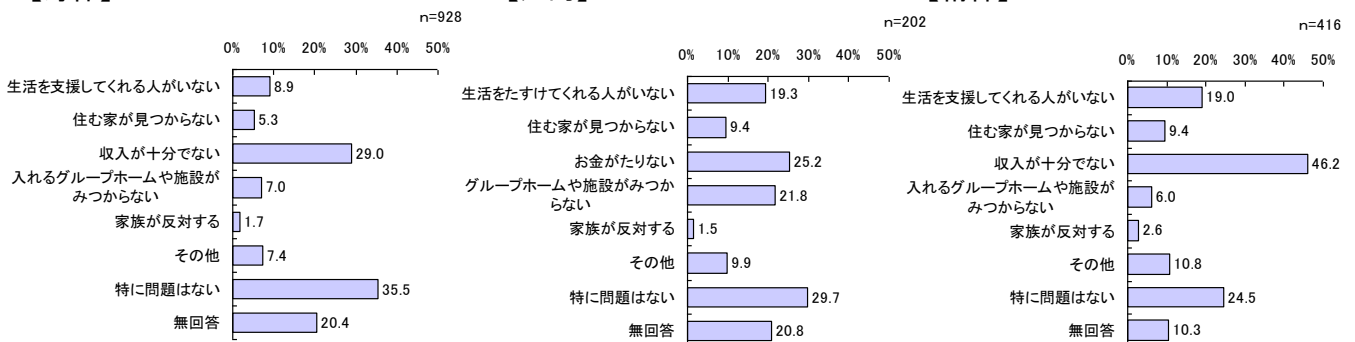
・あなたが将来（5～10年後）、前問で選んだ生活をしようとするとき困ることがありますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

全ての属性で「収入が十分でない（お金が足りない）」（身体：29.0%、知的：25.2%、精神：46.2%）が最も多く、特に精神障害で回答割合が高い。そのほか、知的障害では「グループホームや施設が見つからない」や「生活を助けてくれる人がいない」、精神障害でも「生活を支援してくれる人がいない」がやや多くなっている。

【身体】

【知的】

【精神】



『将来希望する暮らし方』と『将来希望する生活を妨げること』（P28掲載の2設問）の関係を見ると、どの障害種別においても「ひとりで暮らしたい」と回答した方は、「収入が十分でない（お金がたりない）」の回答率が高くなっている。また、「同じ障害がある人とグループホームなどで暮らしたい」と回答した方は、「入れるグループホームや施設が見つからない」のほか、「生活を支援してくれる人がいない（生活をたすけてくれる人がいない）」についてもやや多い傾向となっている。

【身体】

	合計	生活を支援してくれる人がいない	住む家が見つからない	収入が十分でない	入れるグループホームや施設が見つからない	家族が反対する	その他	特に問題はない	無回答
全体	928 100.0	83 8.9	49 5.3	269 29.0	65 7.0	16 1.7	69 7.4	329 35.5	189 20.4
家族と暮らしたい	488 100.0	42 8.6	17 3.5	153 31.4	12 2.5	11 2.3	38 7.8	214 43.9	58 11.9
ひとりで暮らしたい	75 100.0	10 13.3	11 14.7	32 42.7	5 6.7	3 4.0	4 5.3	23 30.7	6 8.0
入所施設で暮らしたい	69 100.0	4 5.8	3 4.3	32 46.4	28 40.6	0 0.0	4 5.8	13 18.8	6 8.7
同じ障害がある人とグループホームなどで暮らしたい	11 100.0	5 45.5	1 9.1	6 54.5	8 72.7	0 0.0	0 0.0	1 9.1	1 9.1

【知的】

	合計	生活をたすけてくれる人がいない	住む家が見つからない	お金がたりない	グループホームや施設が見つからない	家族が反対する	その他	特に問題はない	無回答
全体	202 100.0	39 19.3	19 9.4	51 25.2	44 21.8	3 1.5	20 9.9	60 29.7	42 20.8
家族と暮らしたい	85 100.0	10 11.8	4 4.7	15 17.6	4 4.7	0 0.0	11 12.9	39 45.9	12 14.1
ひとりで暮らしたい	18 100.0	6 33.3	4 22.2	10 55.6	1 5.6	1 5.6	0 0.0	6 33.3	0 0.0
入所施設で暮らしたい	17 100.0	1 5.9	0 0.0	2 11.8	11 64.7	0 0.0	1 5.9	1 5.9	4 23.5
おなじ障害がある人とグループホームなどで暮らしたい	34 100.0	13 38.2	8 23.5	14 41.2	24 70.6	0 0.0	4 11.8	5 14.7	1 2.9

【精神】

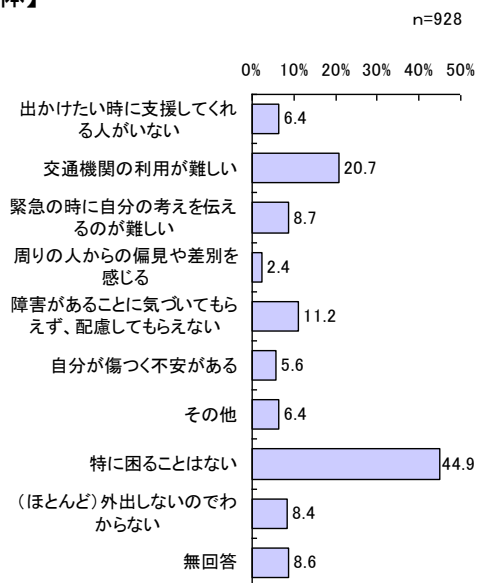
	合計	生活を支援してくれる人がいない	住む家が見つからない	収入が十分でない	入れるグループホームや施設が見つからない	家族が反対する	その他	特に問題はない	無回答
全体	416 100.0	79 19.0	39 9.4	192 46.2	25 6.0	11 2.6	45 10.8	102 24.5	43 10.3
家族と暮らしたい	209 100.0	38 18.2	11 5.3	99 47.4	7 3.3	4 1.9	14 6.7	73 34.9	11 5.3
ひとりで暮らしたい	64 100.0	13 20.3	9 14.1	38 59.4	3 4.7	1 1.6	6 9.4	12 18.8	1 1.6
入所施設で暮らしたい	12 100.0	3 25.0	1 8.3	3 25.0	9 75.0	1 8.3	0 0.0	1 8.3	0 0.0
同じ障害がある人とグループホームなどで暮らしたい	8 100.0	3 37.5	2 25.0	4 50.0	5 62.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5

6 外出や活動について

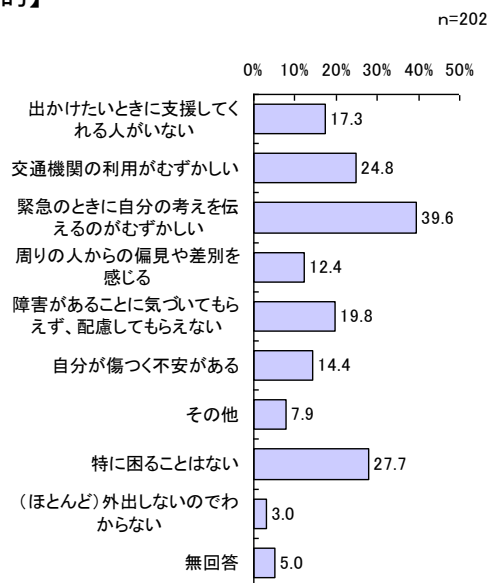
・あなたが外出するときに、困ることはありますか。特に稲城市内のことについてお答えください。
あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

身体障害では「交通機関の利用が難しい」20.7%、知的障害では「緊急のときに自分の考えを伝えるのがむずかしい」39.6%、精神障害では「自分が傷つく不安がある」21.4%が最も多くなっている。そのほか、知的障害では「交通機関の利用がむずかしい」や「障害があることに気づいてもらえず、配慮してもらえない」、「出かけるときに支援してくれる人がいない」などが他の障害種別と比較して高くなっている。

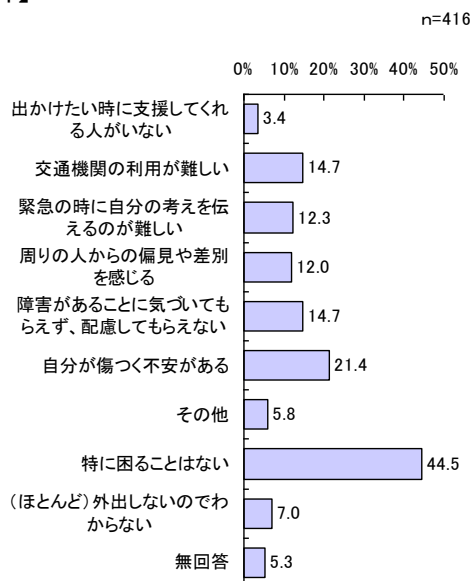
【身体】



【知的】



【精神】

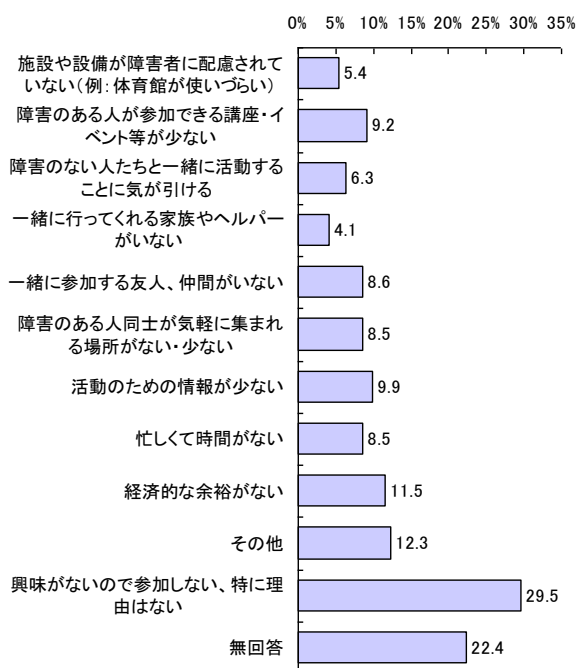


・あなたが趣味や学習、スポーツなどの活動をするときに困ること、または活動を行っていない（出来ない）理由は、どのようなことですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

身体障害と精神障害では「経済的な余裕がない」（身体：11.5%、精神：26.7%）、知的障害では「活動の為の情報が少ない」26.7%が最も多くなっている。そのほか、知的障害では「障害のある人同士が気軽に集まれる場所がない・少ない」や「障害のある人が参加できる講座・イベント等が少ない」、精神障害では「一緒に参加する友人、仲間がいない」などが特に多くなっている。

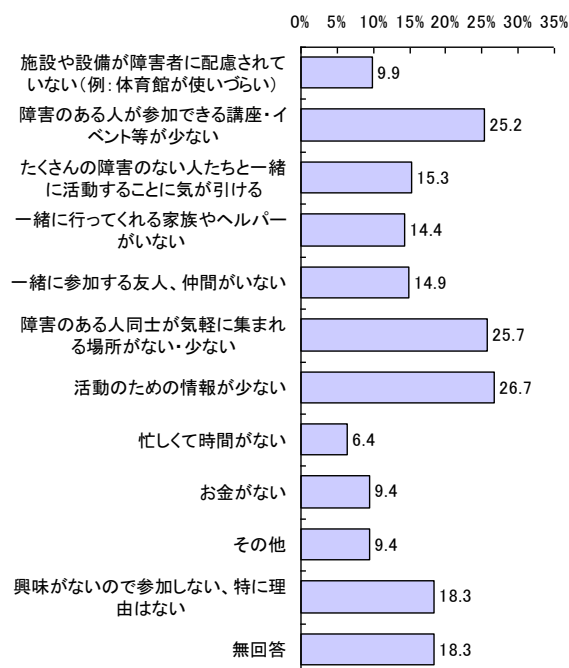
【身体】

n=928



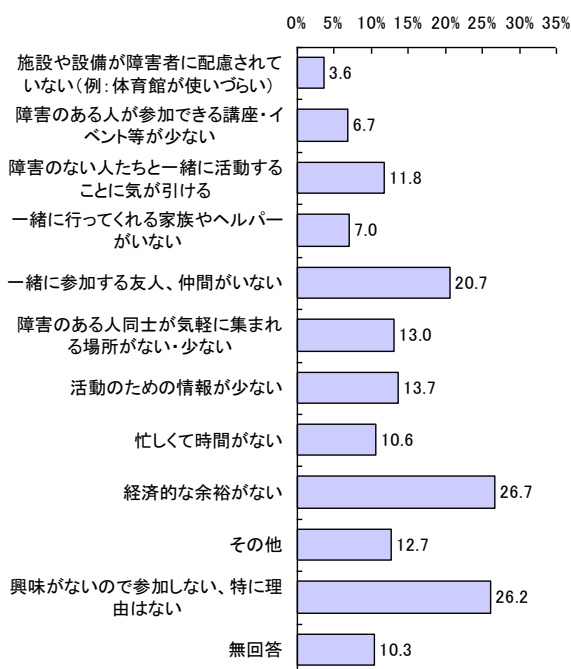
【知的】

n=202



【精神】

n=416

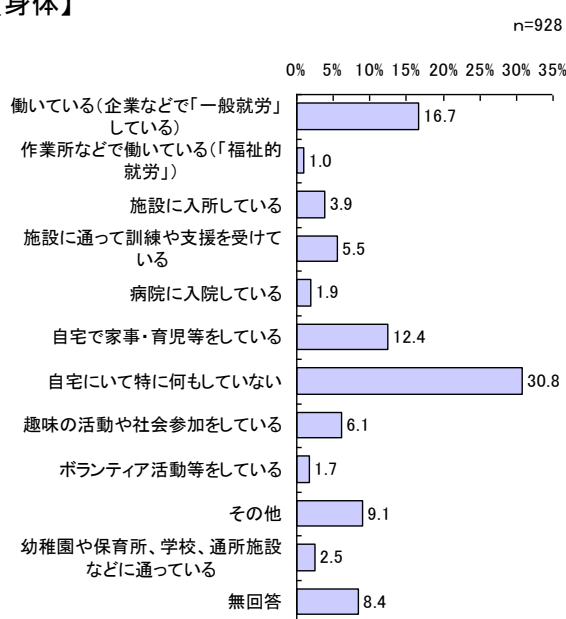


7 日中の過ごし方について

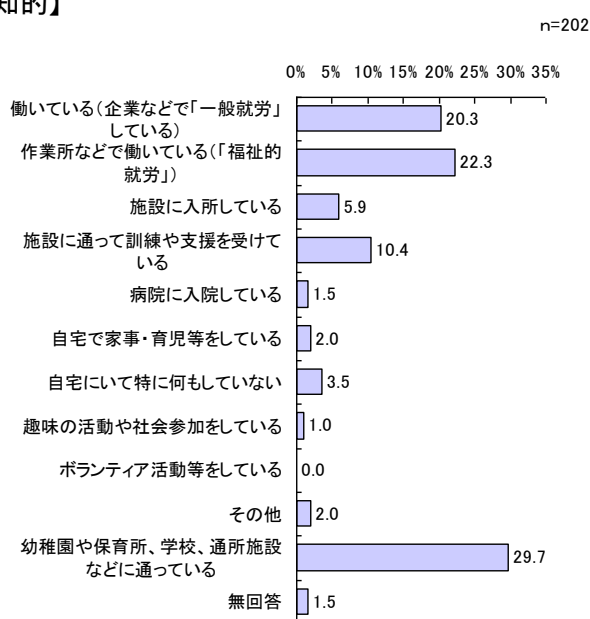
・あなたは、平日の時間は主にどこで、何をしていますか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。[共通]

身体障害と精神障害では「自宅にいて特に何もしていない」（身体：30.8%、精神：26.2%）が最も多く、次いで「働いている（企業などで「一般就労」している）」（身体：16.7%、精神：19.0%）、「自宅で家事・育児等をしている」（身体：12.4%、精神：18.3%）などとなっている。知的障害では「幼稚園や保育所、学校、通所施設などに通っている」29.7%が最も多く、次いで「作業所などで働いている（「福祉的就労」）」22.3%、「働いている（企業などで「一般就労」している）」20.3%などとなっている。

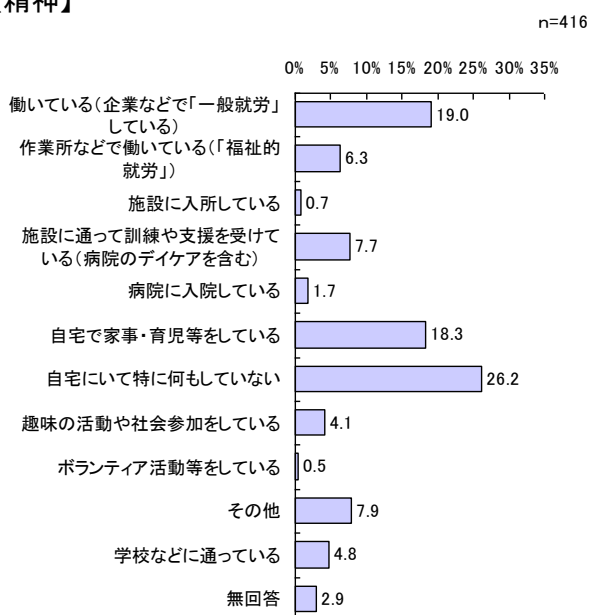
【身体】



【知的】



【精神】



前回調査結果（平成 22 年実施）と比較すると、全体の回答傾向に大きな変化はないが、「働いている（企業などで「一般就労」している）」の割合は全ての属性で増加している。

(%)

区分	働いている（企業などで「一般就労」している）	作業所などで働いている（福祉的就労）	施設に入所している	施設に通って訓練や介護を受けている	病院に入院している	自宅で家事・育児等をしている	自宅にいて特に何もしていない	趣味の活動や社会参加をしている	ボランティア活動をしている	幼稚園や保育所、学校、障害児通園施設などに通っている	その他	無回答
身体障害 (1,005)	14.8	1.5	3.5	8.8	2.5	11.4	32.3	5.7	1.9	2.5	8.5	6.7
知的障害 (182)	17.6	21.4	9.3	5.5	1.1	2.2	6.0	0.0	0.0	31.9	1.1	3.8
精神障害 (407)	15.5	8.4	1.2	3.7	1.7	17.4	26.8	3.7	0.2	6.6	6.4	8.4

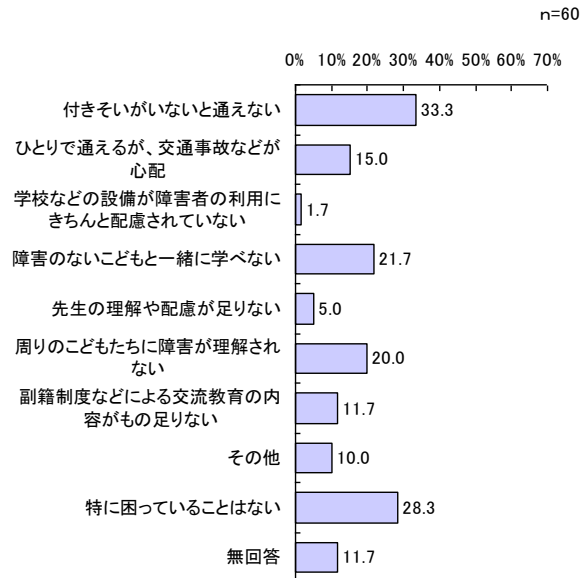
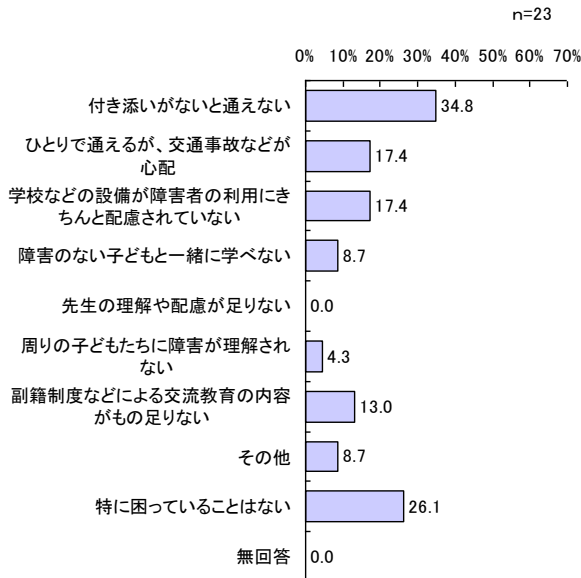
注：（ ）内は回答者数

・通園・通学して困ることはありますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

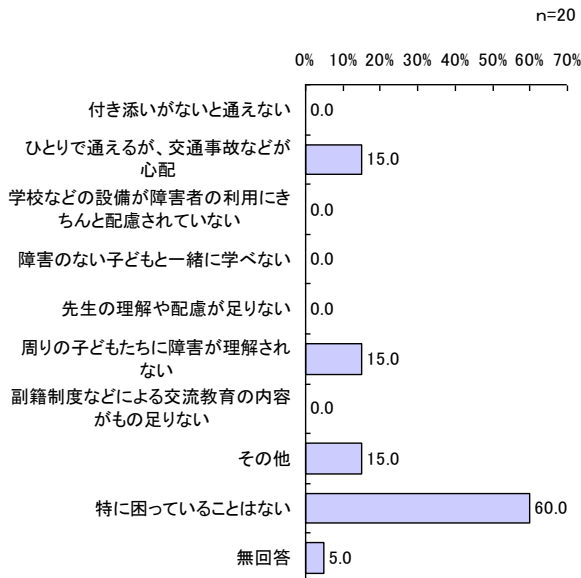
身体障害と知的障害では「付き添いがないと通えない」（身体：34.8%、知的：33.3%）、精神障害では「特に困っていることはない」60.0%が最も多くなっている。そのほか、知的障害では「障害のない子どもと一緒に遊べない」や「周りの子どもたちに障害が理解されない」などがやや多くなっている。

【身体】

【知的】



【精神】



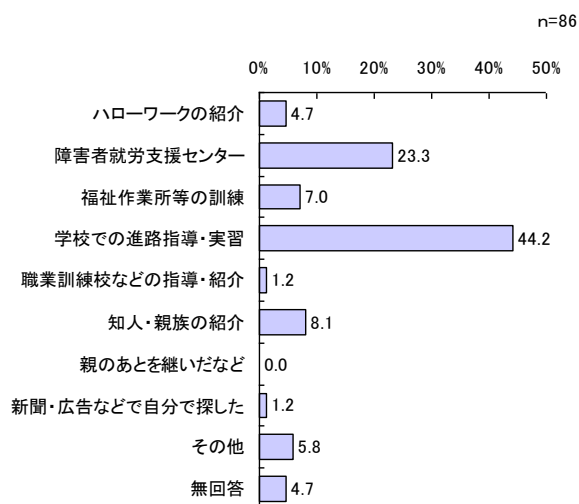
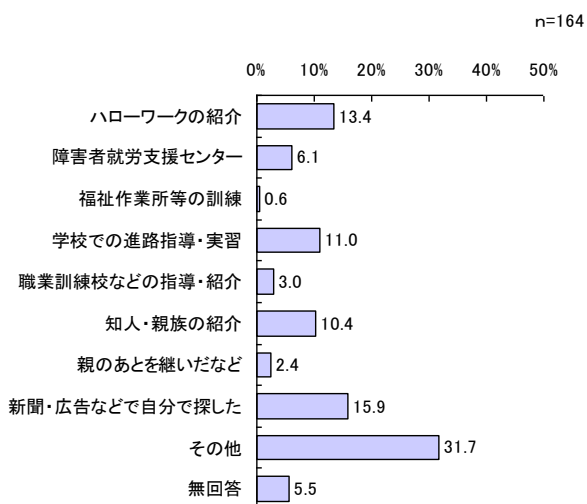
・あなたが仕事に就いた主なきっかけは何でしたか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【共通】

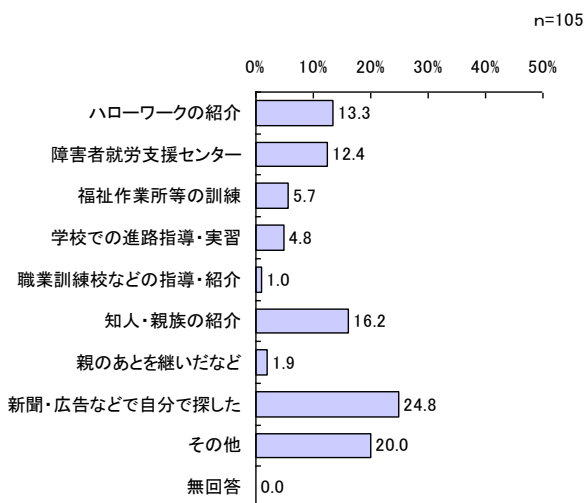
身体障害と精神障害では「新聞・広告などで自分で探した」（身体：15.9%、精神：24.8%）、知的障害では「学校での進路指導・実習」44.2%が最も多くなっている。そのほか、知的障害では「障害者就労支援センター」が特に多くなっている。

【身体】

【知的】



【精神】



前回調査結果（平成 22 年実施）と比較すると、全体の回答傾向に大きな変化はないが、知的障害では「学校での進路指導・実習」、知的障害と精神障害で「障害者就労支援センター」の割合が増加するなど一定の変化がみられる。

(%)

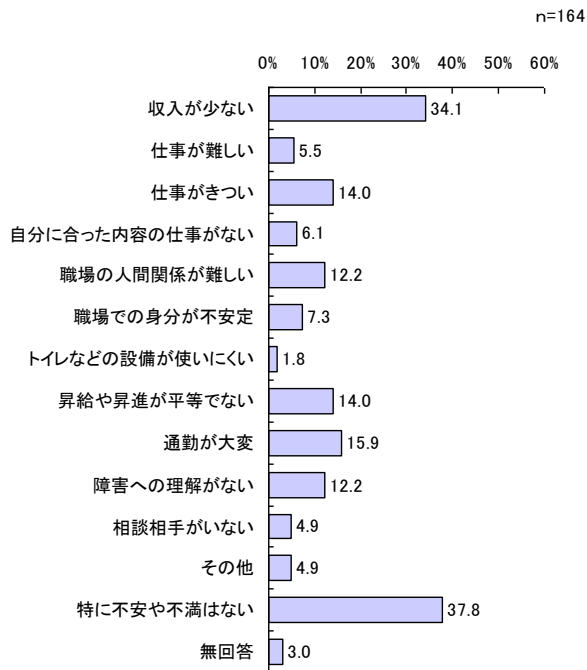
区分	ハローワークの紹介	障害者就労支援センター	福祉作業所等の訓練	学校での進路指導・実習	職業訓練校などの指導・紹介	知人・親族の紹介	親のあとを継いだなど	新聞・広告などで自分で探した	その他	無回答
身体障害 (149)	15.4	2.7	0.0	7.4	2.7	12.8	1.3	15.4	32.2	10.1
知的障害 (32)	12.5	15.6	0.0	37.5	12.5	6.3	0.0	12.5	3.1	0.0
精神障害 (63)	14.3	4.8	0.0	11.1	1.6	15.9	1.6	25.4	20.6	4.8

注：() 内は回答者数

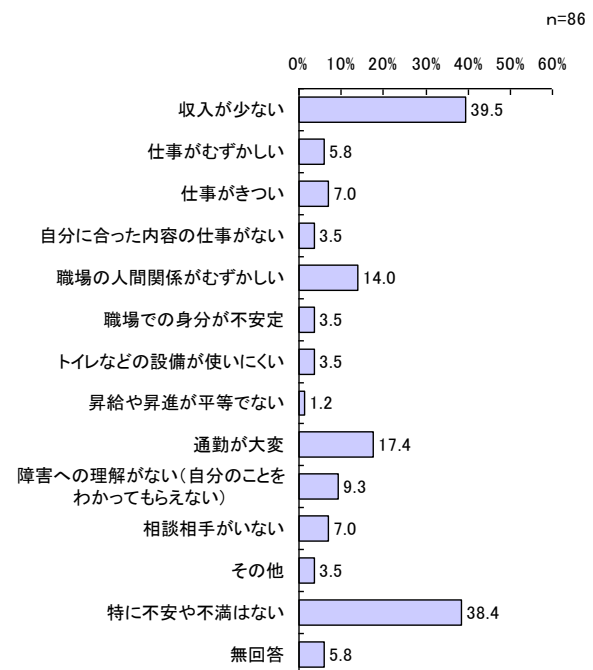
・あなたは仕事をする上で、不安や不満はありますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

全ての属性で「収入が少ない」(身体：34.1%、知的：39.5%、精神：55.2%)が最も多くなっている。そのほか、身体障害と知的障害では「通勤が大変」、精神障害では「職場の人間関係が難しい」や「仕事がきつい」、「相談相手がいない」などがやや多くなっている。

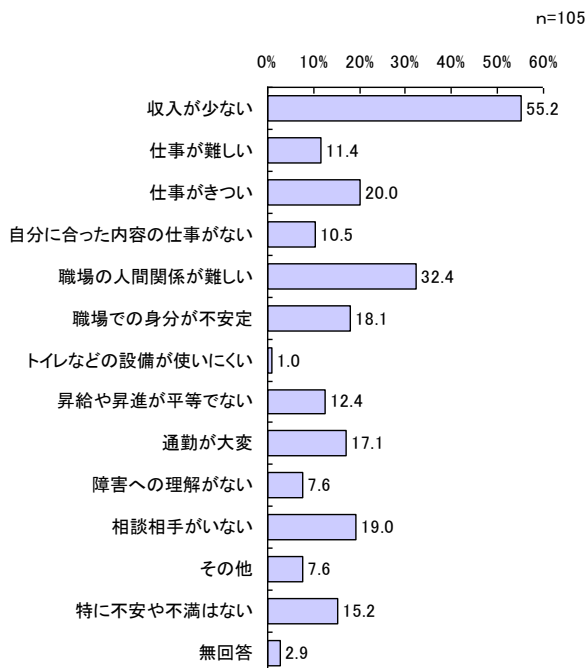
【身体】



【知的】



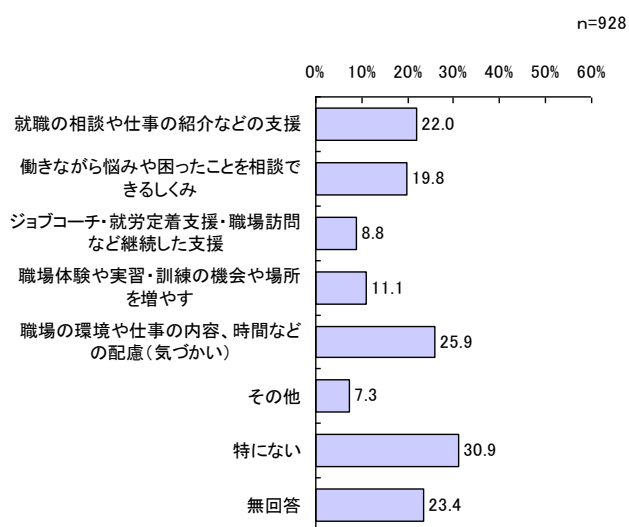
【精神】



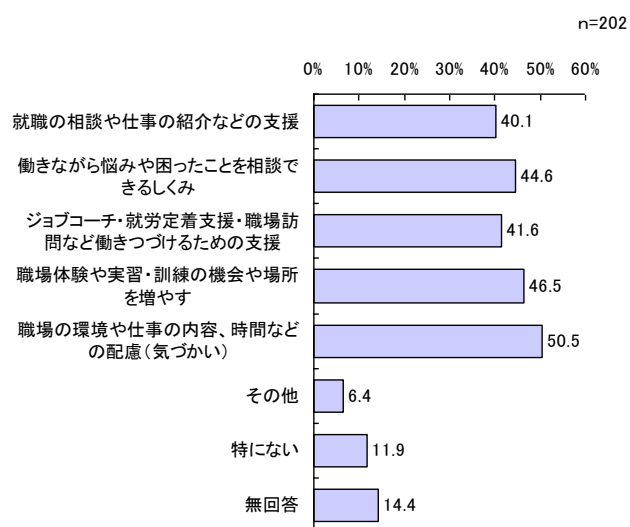
・あなたは、どのような支援があれば、障害がある人でも企業などでの一般就労ができると思いますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

全ての属性で「職場の環境や仕事の内容、時間などの配慮(気遣い)」(身体:25.9%、知的:50.5%、精神:46.2%)が最も多くなっている。そのほか、精神障害では「就労の相談や仕事の紹介などの支援」や「働きながら悩みや困ったことを相談できるしくみ」が4割を超えて多く、知的障害では「その他」と「特にない」を除きすべての項目で4割以上の回答率となっており、支援を求める声が多いことがうかがえる。

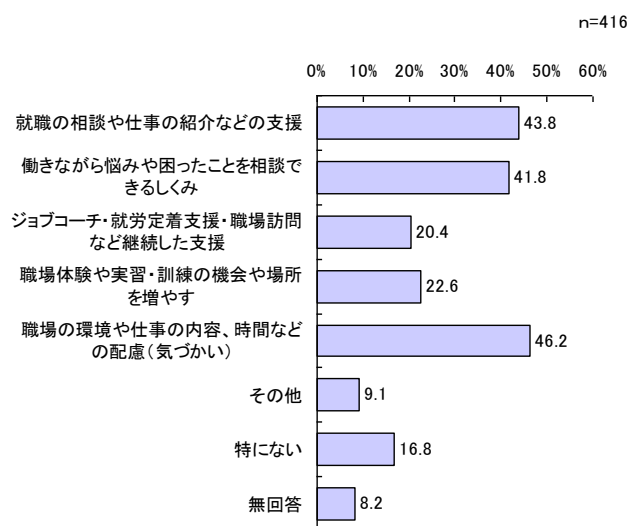
【身体】



【知的】



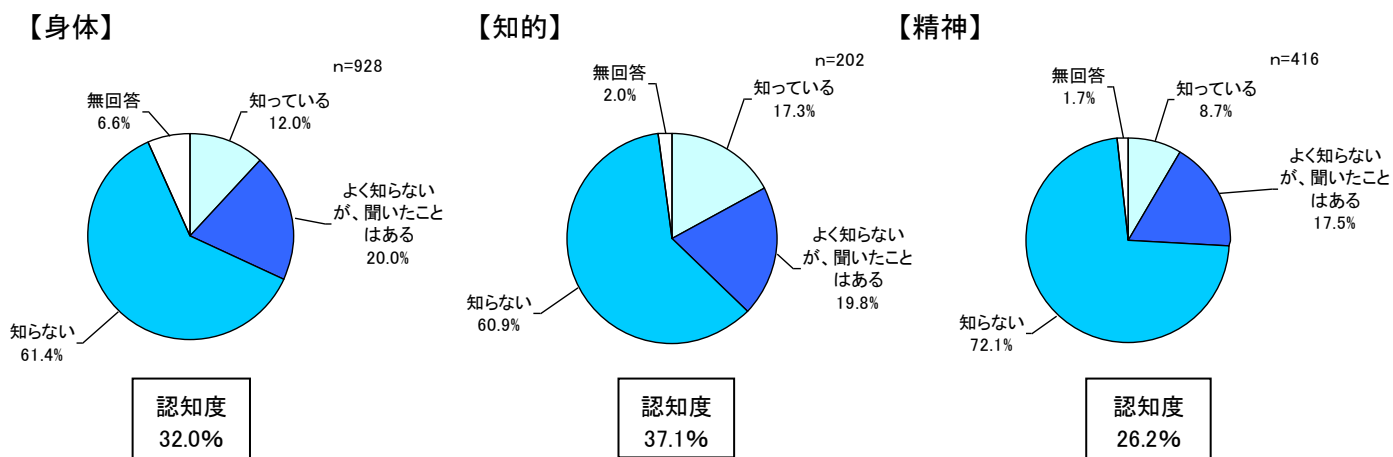
【精神】



8 権利擁護等について

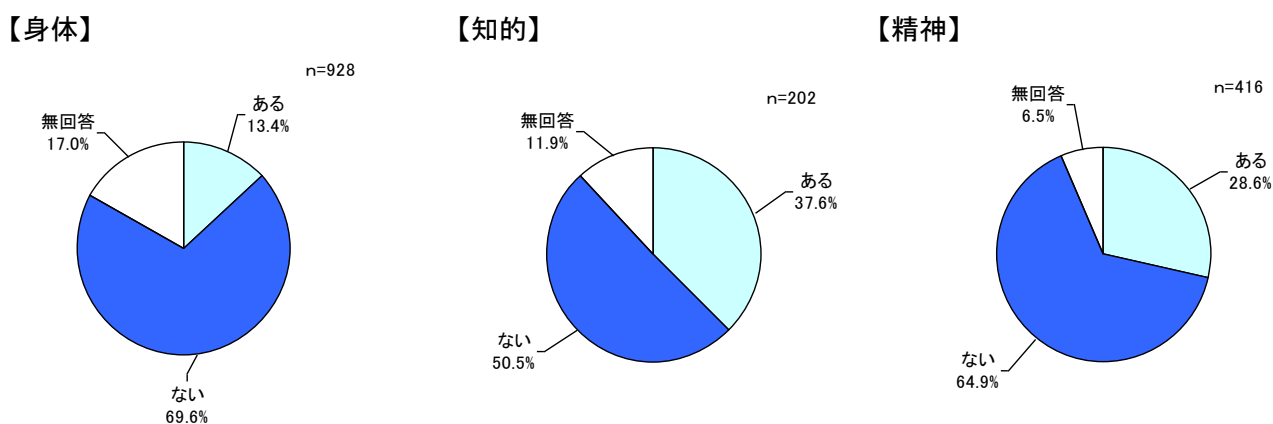
・平成28年4月から、障害者差別解消法が施行（運用開始）されたことを知っていますか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。[共通]

「知っている」が最も多いのは知的障害で17.3%、次いで身体障害が12.0%、精神障害が8.7%となっている。「知っている」と「よく知らないが、聞いたことはある」を合わせた『認知度』の状況についても、知的障害が最も高く、次いで身体障害、精神障害の順となっている。



・あなたは、差別をされた（他の人とは違う扱いをされた）と感じたことがありますか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。[共通]

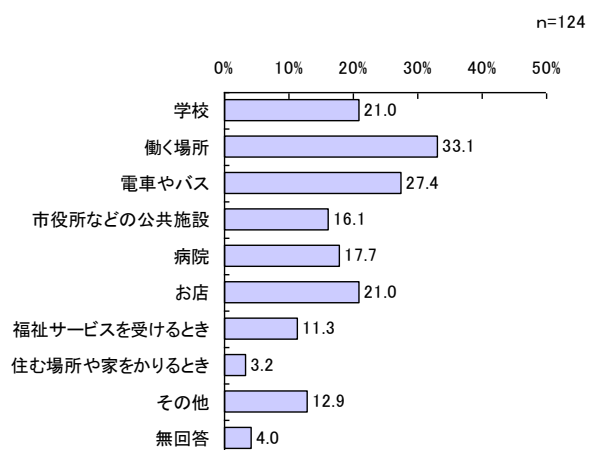
「ある」が最も多いのは知的障害で37.6%、次いで精神障害が28.6%、身体障害が13.4%となっている。



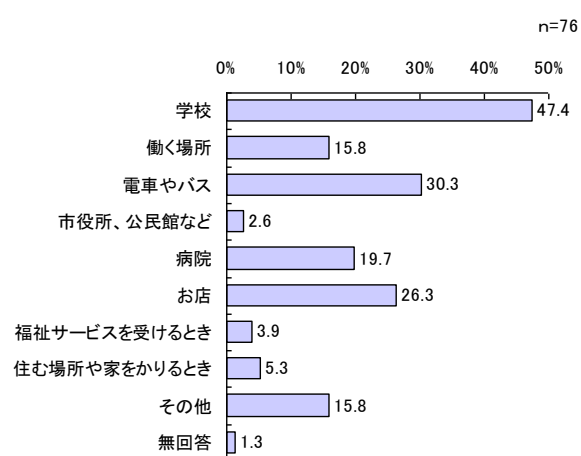
・あなたが、差別をされた（他の人とは違う扱いをされた）と思ったのはどんな場所や場面でしたか？
 あてはまるもの全てに○をつけてください。[共通]

身体障害と精神障害では「働く場所」（身体：33.1%、精神：43.7%）、知的障害では「学校」47.4%が最も多くなっている。そのほか、身体障害と知的障害では「電車やバス」や「お店」がやや多くなっている。

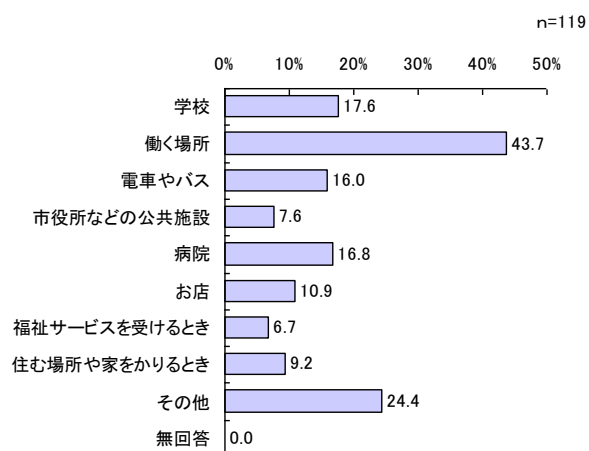
【身体】



【知的】



【精神】



- ・あなたが、差別をされた（他の人とは違う扱いをされた）と思ったのはどんなことでしたか？ [共通]
- ・そのとき、「もっとこうしてほしい（合理的配慮）」と思ったことがあれば教えてください。 [共通]

自由回答欄に記入のあったものから一部抜粋し、下記の通り掲載する。

【身体】

性別	年齢	差別の経験	その時こうしてほしい
女性	40～64 歳	内部障害の為、就職面接で障害を告白すると断られること多数。遠回しに別の理由をつけて。	ハローワークの方に相談したところ、企業は障害者を雇用する義務があると言われましたが、実際は突然「とても大変な仕事」とか「走りまわりますよ」等と言ひだし別の理由で断られます。医療機関なら断らないと思ひ(それでも何件かあり)医療事務を勉強し今はいい職場に恵まれています。そのあたりの配慮は必要かと。
女性	75～84 歳	今はコンビニ、スーパーはレジがあるから対面での時は奥でこそこそされた時。	本人に筆談でも良いから。
女性	40～64 歳	仲間はずれ	①市などのイベントに手話通訳、要約筆記、音声認識字幕をはじめから最後までつけてほしい。(例:敬老の大会は第 1 部のみだった)②市などに手話対応、筆記対応のマークが必要。手話の出来る職員を増やしてほしい!筆記のポイントも必要!
女性	40～64 歳	障害者だというだけでそれまでの職歴などを考慮されずに障害者一律の賃金でしか採用されないのは明らかな差別だと思う。又は雇用形態。それまで積み重ねて来たものを無にされた。	健常者の中途採用と同じにして欲しかった。
男性	30～39 歳	学生時代バイトを探す時に面談で耳が聞こえないからという理由で断られたことが何度かあった。電話応対とか健聴でないとし難い仕事ではないのに向こうの勝手な先入観で差別をされた印象はある。	聴覚障害に限らずあらゆる障害に対する理解を広めることが大切かと思う。逆に障害を持つ人も一方的に希望するのではなくお互い良い方向に持っていけるように協力し合いながら歩んでいければと。
女性	65～74 歳	私は先天性股関節脱臼による両股関節機能障害で歩き方が変なので子供の頃からはかわれたりいじめに合い、特に大人が「あの子威張って歩いている」と大声で笑われた時のショックは忘れられません。	今は障害者に対する理解が広まり障害者の外出も多くみられる様になり嬉しく思ひます。
女性	40～64 歳	見た目に障害者であることが見つけてもらひにくい、障害者マークをかばんにつけていても交通機関で席を譲ってもらえないし電車で倒れかかると嫌がらせを受ける。	交通機関等で障害者マークのステッカーを貼ったり、アナウンスしてもっと周知してほしい。札幌の地下鉄のように優先席でなく専用席を設置してほしい。
男性	40～64 歳	夜間の人工透析を受けている為、夕方には退社しなければならず急な仕事には対応出来ない為、立場的につらく感じる事がある。	人工透析自体が一般にどの様な事が理解されていないので、職場の人達ぐらいには治療の内容を少しだけでもわかって欲しい。
女性	40～64 歳	自分の用件で自分が話しているのに相手は目さえ合わせず付き添っている家族に対応する。1度や2度ではない。自分が反対の立場だったらどう思ひか考へていただきたい。	・中央文化センターの改修を 28 年 4 月に間に合わせていただきたかったです。・中央図書館の車いす、介助用だけで自走式がない。図書館という性格上 1 台でも自走式をいれてほしい。

女性	18～29 歳	・高校(都立)で病気を理解してくれない教師(体育科)がいて評価が健常者と同じだったため低くなった。・電車やバスで優先席に座っているとジロジロ見られたり文句をいわれた。・車椅子ゾーンに車を停めると「歩けるのに何故?」と強く言われた。(歩行困難者)	障がい者の赤いヘルプマークが認知されていない事が多い。
男性	65～74 歳	相手が自分に話しかけずに同伴者に対応する。自分の用事で訪れたのに。	自分の用事なので自分に対応してほしい。
男性	40～64 歳	・電車やバス乗車している時に事故などが発生した時の対応が後まわしになってしまう。・イベントなど参加したくても情報保障がなく参加しづらい。	・視覚による情報を充実してほしい。・イベントなど情報保障がなされている(手話通訳、要約筆記)ことが必要。

【知的】

性別	年齢	差別の経験	その時こうしてほしかった
男性	18～29 歳	・ひとりでできるだろうと思われることも保護者のつきそいを強要される場合。・話し声や動きなどが自制できずに店舗や公共機関など利用した時迷惑そうな顔をされること。	・できることに関して信頼してほしい。・障害特性を理解してあたたかい目で見してほしい。・わかりやすい言葉で教えてほしい。(指示)
女性	5歳以下	障害のない子の親の理解があまりなく、公共機関でただ落ち着きがない子、騒いでいる子と見られる事がある。また小学校でも「どここの小学校へ行っているから」というような発言が子供からあったと知り合いから聞いたので、障害のある人に対して一般の方々が偏見のない社会を作らさねばと思う。	電車のホームドアをつけたり、稲城市内は歩道が狭い所が多く子供を連れての歩きは危ないのもっと歩道は整備すべきだ。
女性	18～29 歳	お店、電車、バス利用時にジロジロ見られたり、舌うちされた事がある。	社会の人たちが障がいを持つ人への理解を深めて欲しい。
女性	6～14 歳	小学校1年生の時、普通級で先生や保護者には発達障害であることを伝えて親が付き添っていましたが、障害に対する理解が薄く出来ることも出来ないともみなされたり、出来ないことはクラスの皆と同じように怒られてしまったりととてもつらい思いをしました。(今は学区外の支援級に移りとてもいい環境で楽しく通っています)	当時障害者差別解消法という法律もまだなく、発達障害の理解もなかったので、担任の先生にはもっと障害のことを勉強してほしいと言っても「お宅のお子さんだけ特別扱いはできない」と言われショックだった。理解を得るのは難しいと感じた。
男性	40～64 歳	市立病院。悪化して肺炎の所見にも関わらず入院出来なかった。	仮に1晩でも点滴なり応急手当してから他の病院への手配をして欲しかった!
男性	30～39 歳	出かけた時の場所によって避けられる。座席などの時もありました。	障害のある人と言っても個々それぞれ違いほんとに難しいものと思います。知的障害の重度は、それなりにいろいろ発信しても相手にわかってもらう事は長くお付き合いがないと難しいと思います。施設でもスタッフの入れかわりが多い事ほんとに辛く思います。親も協力しつつスタッフの方々が少しでも余裕のある支援であることを願っています。
男性	18～29 歳	普通校(小学校)で担任が変わってすぐイジメが始まった。(担任にはっきり言いつける能力がないため)担任もわかっていて放置した。	障害に対してもっと知識を担任に持ってもらいたい。

男性	6～14 歳	園から脱走した後で「うちの園に合っていない」「対処できない」と言われました。にもかかわらず、支援センターが間に入ってくれた途端対処してくれた。言わなければ園をやめさせられていたかも。	入園する時に ADHD、知的障害、自閉症があり知能テストなどあらゆるものを提出し入園許可したにもかかわらず、態度をコロコロと変えるくらいなら許可しなければ良いのにと感じました。
女性	18～29 歳	給食の前に帰宅させられた。(午前中)他の子供と同じ保育費なのに。	慣れてくるまでは午前中までの保育でも仕方ないが、徐々に慣れてきたら平等に扱ってほしかった。
女性	30～39 歳	バスを乗る時、愛の手帳を見せてバス代を支払う時に高校生に見られ差別されイヤな気分になった。	好きで障害になったわけじゃないけど、障害者の立場をもっと理解してほしい。

【精神】

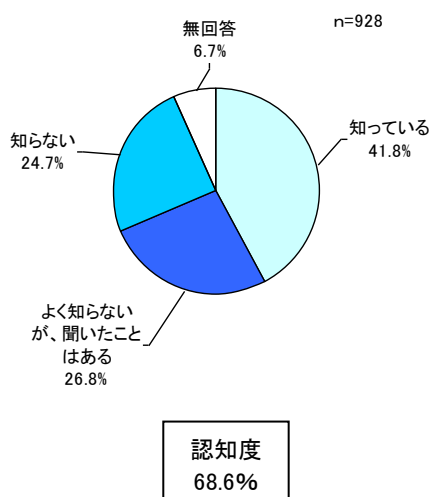
性別	年齢	差別の経験	その時こうしてほしかった
女性	40～64 歳	お店などで横柄な態度をとられた。職場で相手は気を使っているつもりと思われるが、毎日のように「体調はどう」と聞かれる。私は障害者であることを自ら話していない。何故知っているのか？どの権利で私が障害者であることを話したのかと疑問。	お店では他の人と同じように接してほしい。私も客である。職場は話されたことは嫌ではあったが、合理的配慮は仕事内容ではしてもらえた。言葉の合理的配慮が欲しかった。
女性	40～64 歳	発作を起こして売り場で倒れていた時に放置された。無視された。	声を掛けてほしかった。別室に移動させてほしかった。
女性	40～64 歳	自分の意見を真剣に聞いてくれない	親身になって話を聞いてほしい。
女性	30～39 歳	子供がいない事で人の輪に入れなかった。(入れてくれなかった。)自分の思っていることや気持ち、言葉が上手く伝わらず誤解されたり、バカにしたり、偏見の目があった。それは身内や家族とケンカした時などが主にある。病気や障害のせいではけんかをする(言い合いなど)と必ず「病気に逃げている」「怠けている」と言われる。言葉の暴言が怖い。	病気の事にもっと理解を持って知ってほしい。もっと気持ちに配慮をしてくれたり言葉の使い方に配慮が欲しい。周りから見て分かるようなマークの配布があるのは知っているがそれを市役所などにもらいに行きづらい
男性	40～64 歳	昇格などの評価での不公平を感じた時	評価基準を明確にし、評価者の選定も不公平の無いように考慮してほしかった。
女性	30～39 歳	見た目障害があるように見えないから大丈夫的な扱いをされる。いざ倒れたりしたら来なくていい、等煙たがられる。	障害があると言っているのだから「今」は平気とそのときの判断はやめてほしい。「どうしたらいい？」という問いかけに答えてもいざ対応できないと煙たがる。その人その人の障害を受け入れられる余裕を使ってほしい。
女性	30～39 歳	・職場で病名を知られたら、すぐに仕事内容を変えられてしまった。・電話相談で頓服を正しく飲んだと伝えたのに「どうして医者言うとおりに飲まなかったのか」と責められた(オーバードーズだと決めつけられた。)	・働くにあたって困ること、できること出来ない事などについてもっと話す機会が欲しかった。・病気の基本的知識を持たない人を電話窓口に立たせないでほしかった。
男性	30～39 歳	・見た目では分から無い為健常者と同じ扱いをされる。悩んでいても甘えだと捉えられる。	・病気に対して少しでも理解して配慮をしてほしかった。
男性	30～39 歳	無視される。普通の人とはなんか違う接し方をされる。	もっと自然に接してほしかった。素直に本音を伝えてほしかった。

男性	6～14 歳	障害がある子だから口をきいてはダメと言っている親がいたり、無視されたり、暴言を吐かれたことも良くある。いたずらもされる。	学校でもっと障害について理解して助けてほしかった。
女性	30～39 歳	特に理由なくなんとなく感じている。	子供のイベントなどの手伝いなどに行かなくても大丈夫な措置があると嬉しい。
女性	40～64 歳	障害が知られた途端付き合いが疎遠になった。	精神障害の一般の方への周知がもっと必要。
女性	18～29 歳	目に見えない障害の為、逆に一般的健常者と同じように扱われ明確な定義のない「普通」「あたりまえ」を押し付けられ「何故こんなことも分からないのか」と否定、叱責されたこと。	・原因や解決方法を具体的に言語化、文章化にしてほしかった。・意味不明な精神論や健常者視点でしかない「常識」が全ての人間にあてはまる訳ではないと理解してほしい。

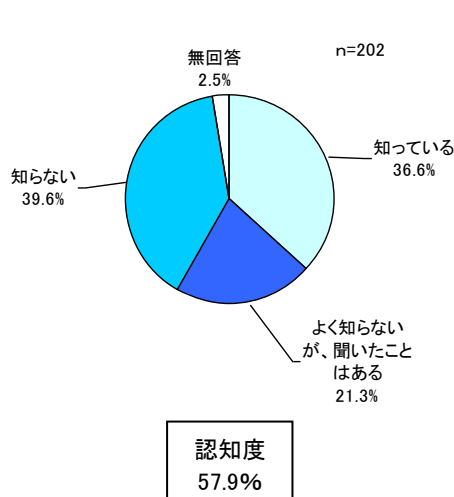
・あなたは「成年後見制度」を知っていますか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。[共通]

「知っている」が最も多いのは身体障害で41.8%、次いで知的障害が36.6%、精神障害が26.4%となっている。「知っている」と「よく知らないが、聞いたことはある」を合わせた『認知度』の状況については、身体障害が最も高く、次いで精神障害、知的障害の順となっている。

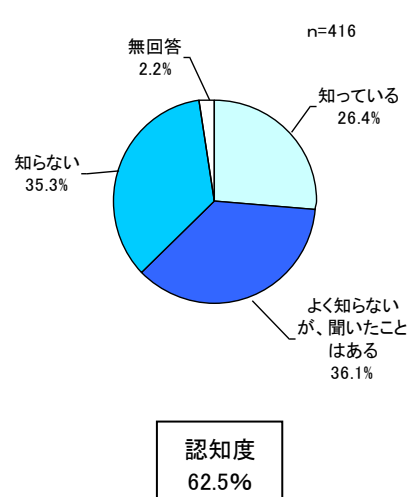
【身体】



【知的】



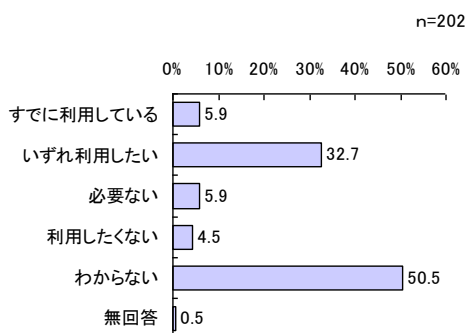
【精神】



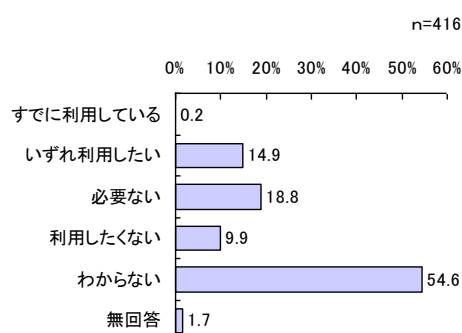
・あなたは将来、「成年後見制度」を利用したいと思いますか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。[精神・知的]

知的障害では「すでに利用している」が5.9%に対し、「いずれ利用したい」32.7%、「必要ない」5.9%、「利用したくない」4.5%となっている。一方、精神障害では「すでに利用している」が0.2%と少なく、「いずれ利用したい」14.9%、「必要ない」18.8%、「利用したくない」9.9%となっている。「わからない」については、両者とも5割を超えて多くなっている。

【知的】



【精神】

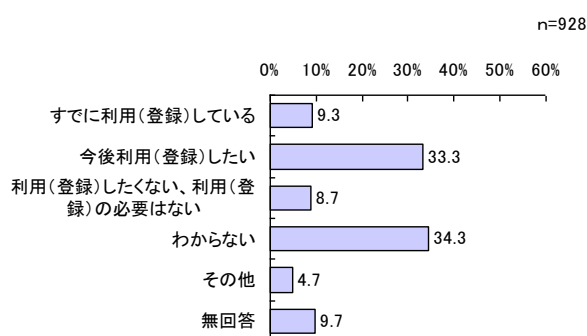


9 災害への対策について

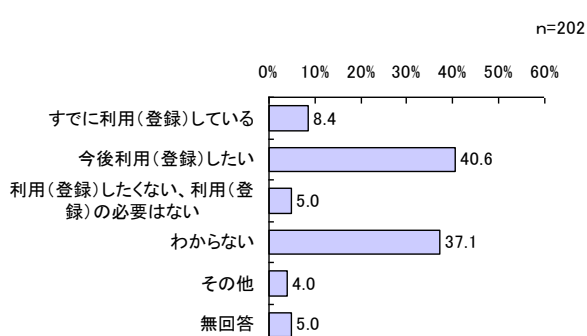
- ・稲城市では、支援（手助け）が必要な高齢者や障害のある人など（「災害時要援護者」）があらかじめ登録しておき、災害発生時等に地域の中で支援が素早く安全に行われる仕組み（『稲城市災害時要援護者市民相互ネットワーク』）を設け、運用しています。あなたはこの仕組みを利用したいと思いますか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。[共通]

身体障害では「すでに利用（登録）している」が9.3%に対し、「今後利用（登録）したい」33.3%、「利用（登録）したくない、利用（登録）の必要はない」8.7%となっている。知的障害では「すでに利用（登録）している」が8.4%、「今後利用（登録）したい」40.6%、「利用（登録）したくない、利用（登録）の必要はない」5.0%である。一方、精神障害では「すでに利用（登録）している」が1.4%と少なく、「今後利用（登録）したい」20.0%、「利用（登録）したくない、利用（登録）の必要はない」19.7%である。「わからない」については、身体障害と知的障害で3割台半ばであるのに対し、精神障害では5割を超えて多くなっている。

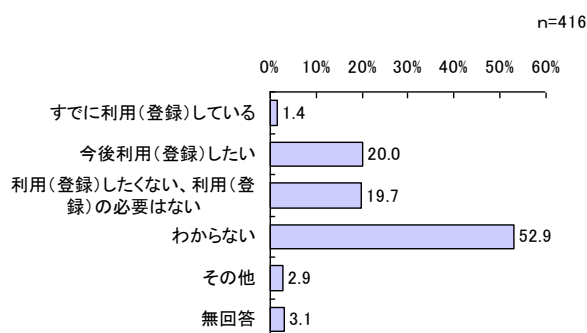
【身体】



【知的】



【精神】



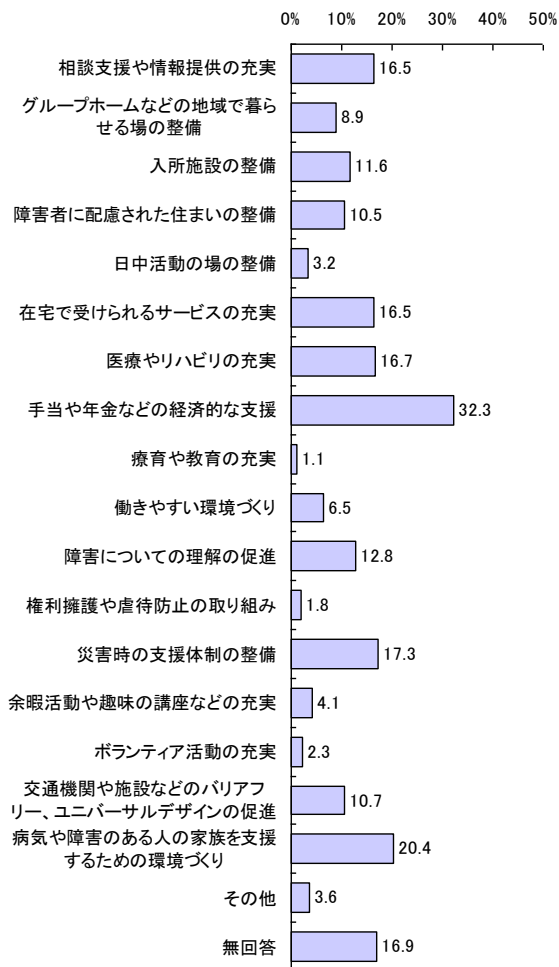
10 稲城市の障害福祉について

・今後、稲城市が、障害者のための取り組みを進めていくにあたって、あなたは、特にどのようなことに力を入れてほしいと思いますか？あてはまるものに○をつけてください。（3つまで）[共通]

身体障害と精神障害では「手当や年金などの経済的な支援」（身体：32.3%、精神：38.5%）、知的障害では「グループホームなど地域で暮らせる場所をつくってほしい」33.2%が最も多くなっている。そのほか、全ての属性で「病気や障害のある人の家族を支援するための環境づくり（病気や障害のある人の家族への支援）」の回答率が高いことに加え、身体障害では「災害時の支援体制の整備」、精神障害では「相談支援や情報提供の充実」がやや多くなっているなど、属性別の特徴がみられる。

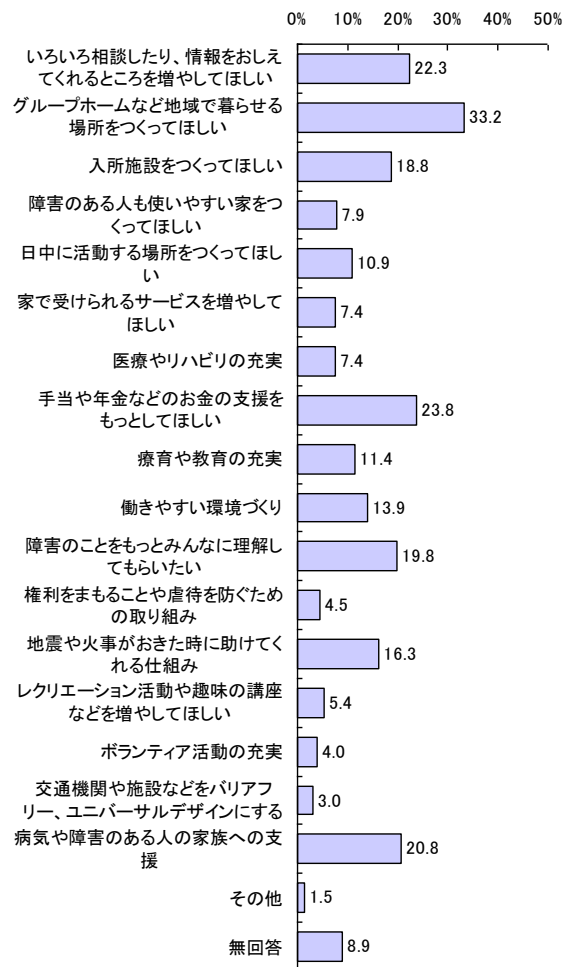
【身体】

n=928



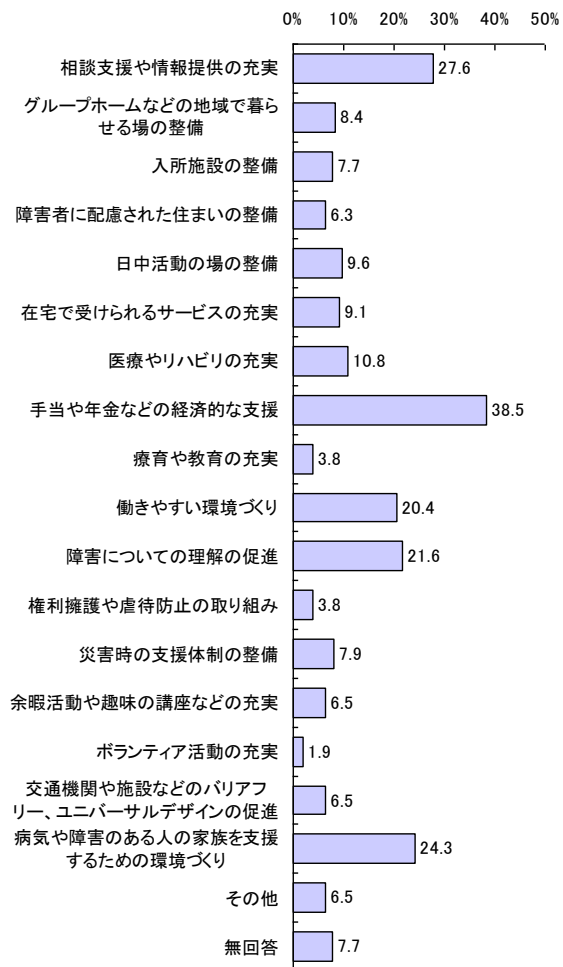
【知的】

n=202



【精神】

n=416



・その他、市の保健福祉施策に関するご意見、ご要望などございましたらご自由にお書きください。[共通]

<身体障害>

身体障害では、寄せられた意見等を内容別に分類すると、以下のような分布となります。

【身体】

分類	件数
行政・制度など	28
公共交通の整備、外出・移動・送迎の支援など	21
健康づくり、医療やリハビリの充実など	10
経済的な支援など	9
相談支援や情報提供など	9
バリアフリー環境の整備、ユニバーサルデザインの促進など	9
障害理解や配慮の促進など	7
グループホーム、入所施設の整備・充実など	5
就労支援・就労環境の整備など	5
日中活動の場や通所サービス等の整備・充実など	4
在宅サービスの充実など	3
交流の場の整備・充実など	3
災害時支援体制の整備など	3
家族支援など	3
住まいの整備など	2
ボランティア活動の充実など	2
将来の不安など	2
療育や教育環境、放課後等デイサービスの整備・充実など	1
余暇活動や趣味の講座の充実など	1
その他	25
合計	152

<知的障害>

知的障害では、寄せられた意見等を内容別に分類すると、以下のような分布となります。

【知的 一介助・支援者回答欄一】

分類	件数
行政・制度など	18
グループホーム、入所施設の整備・充実など	14
公共交通の整備、外出・移動・送迎の支援など	7
日中活動の場や通所サービス等の整備・充実など	6
療育や教育環境、放課後等デイサービスの整備・充実など	5
相談支援や情報提供など	4
健康づくり、医療やリハビリの充実など	4
就労支援・就労環境の整備など	4
災害時支援体制の整備など	3
在宅サービスの充実など	2
障害理解や配慮の促進など	2
余暇活動や趣味の講座の充実など	2
経済的な支援など	1
バリアフリー環境の整備、ユニバーサルデザインの促進など	1
家族支援など	1
将来の不安など	1
その他	4
合計	79

【知的 一本人回答欄一】

分類	件数
グループホーム、入所施設の整備・充実など	9
行政・制度など	8
療育や教育環境、放課後等デイサービスの整備・充実など	7
公共交通の整備、外出・移動・送迎の支援など	6
相談支援や情報提供など	3
日中活動の場や通所サービス等の整備・充実など	3
在宅サービスの充実など	3
交流の場の整備・充実など	3
余暇活動や趣味の講座の充実など	3
将来の不安など	3
権利擁護や虐待防止の取り組みなど	2
健康づくり、医療やリハビリの充実など	1
経済的な支援など	1
就労支援・就労環境の整備など	1
障害理解や配慮の促進など	1
その他	3
合計	57

<精神障害>

精神障害では、寄せられた意見等を内容別に分類すると、以下のような分布となります。

【精神】

分類	件数
行政・制度など	16
相談支援や情報提供など	10
就労支援・就労環境の整備など	9
経済的な支援など	6
障害理解や配慮の促進など	5
将来の不安など	5
健康づくり、医療やリハビリの充実など	4
交流の場の整備・充実など	4
在宅サービスの充実など	3
グループホーム、入所施設の整備・充実など	2
公共交通の整備、外出・移動・送迎の支援など	2
日中活動の場や通所サービス等の整備・充実など	1
療育や教育環境、放課後等デイサービスの整備・充実など	1
権利擁護や虐待防止の取り組みなど	1
災害時支援体制の整備など	1
その他	9
合計	79

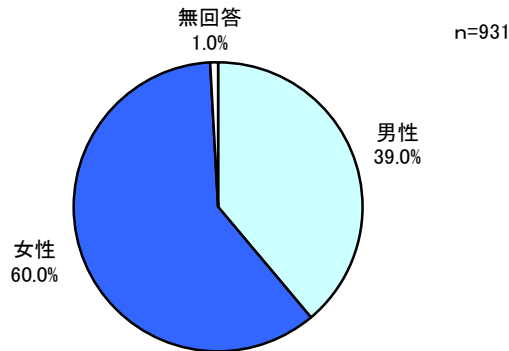
V 「子育て・若者支援調査」の結果

◆ 調査の結果

1. あなたご自身・世帯のことについて

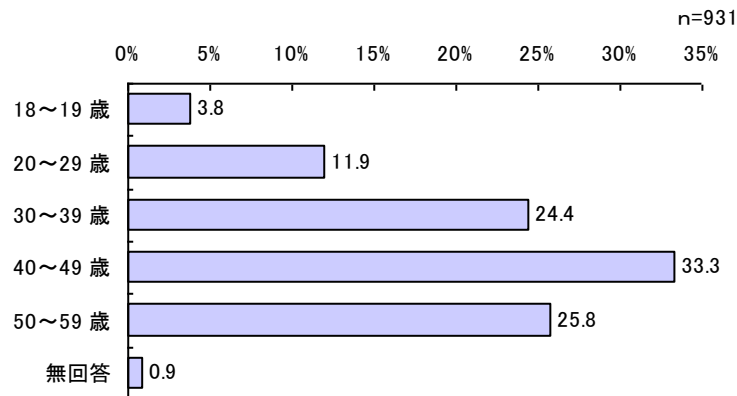
ア あなたの性別は。(1つに○)

「男性」39.0%、「女性」60.0%である。



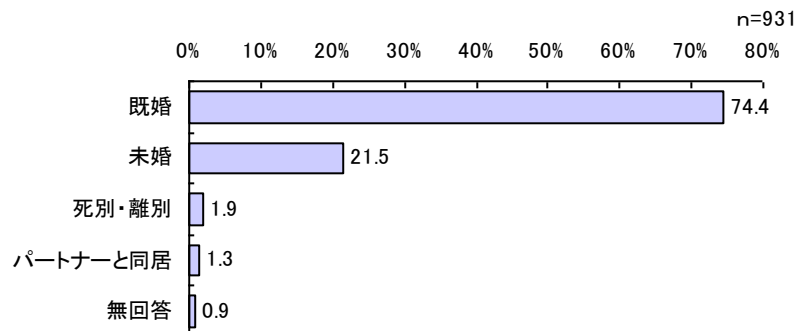
イ あなたの年齢（平成29年2月1日現在）は。(1つに○)

「40～49歳」が最も多く33.3%、次いで「50～59歳」25.8%、「30～39歳」24.4%などである。



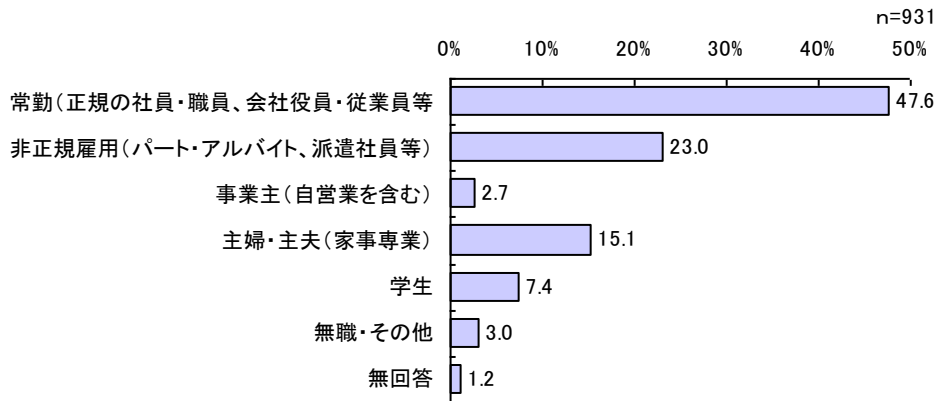
ウ あなたは、現在ご結婚されていますか。(1つに○)

「既婚」が74.4%、「未婚」が21.5%などである。



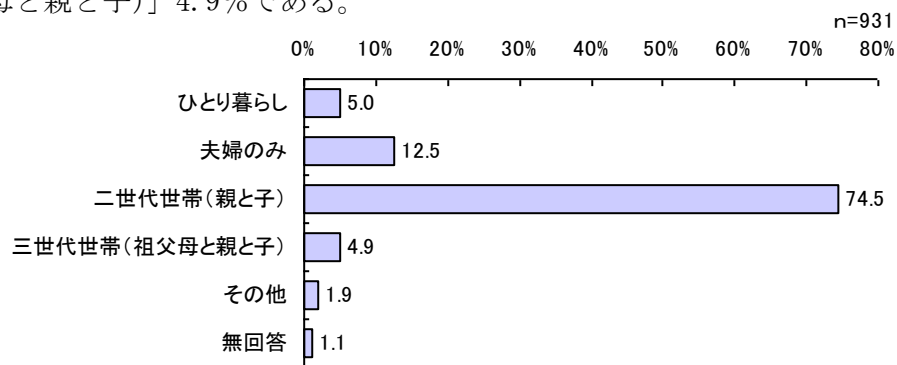
エ あなたの職業は。(1つに○)

「常勤（正規の社員・職員、会社役員・従業員等）」47.6%、「非正規雇用（パート・アルバイト、派遣社員等）」23.0%、「主婦・主夫（家事専業）」15.1%などである。



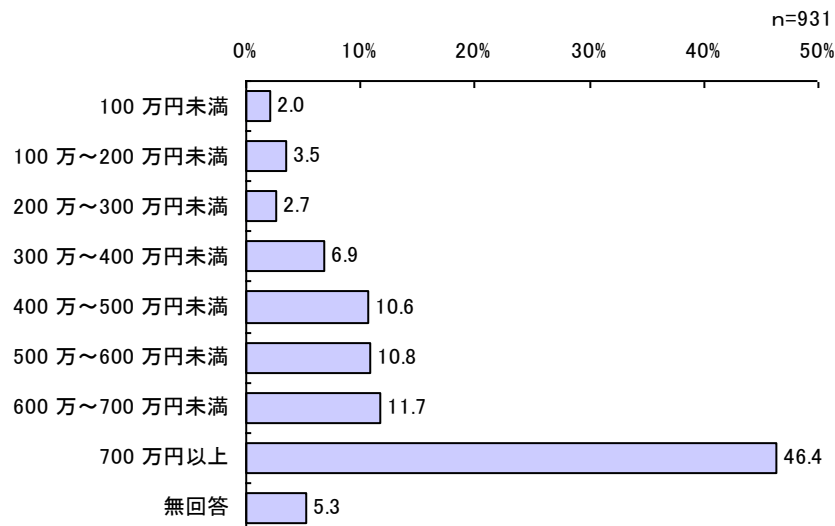
オ あなたのご家族の構成は。(1つに○)

「二世世代世帯（親と子）」が74.5%、「夫婦のみ」12.5%、「ひとり暮らし」5.0%、「三世世代世帯（祖父母と親と子）」4.9%である。



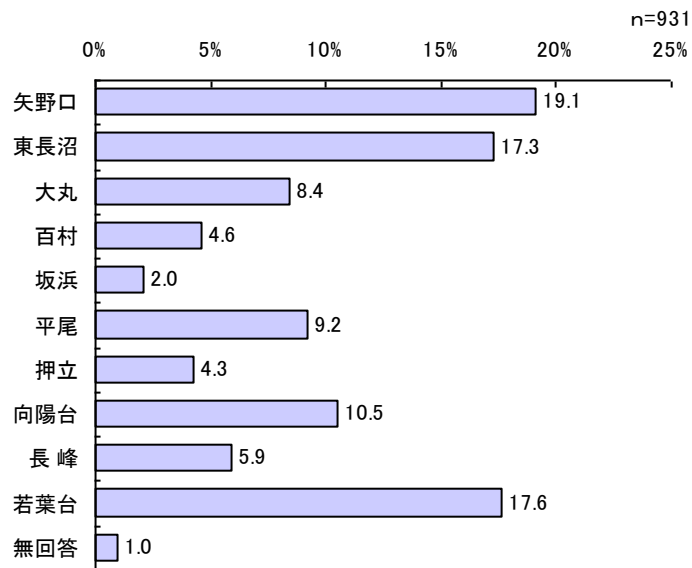
カ ご家庭全体でみた、この1年間の総収入はどの位になりますか。ボーナスなどの臨時収入、仕送り、年金・手当等を含めてください。(1つに○)

「700万円以上」が46.4%と最も多い。次いで「600万～700万円未満」11.7%、「500万～600万円未満」10.8%、「400万～500万円未満」10.6%と続くが、これらはほとんど差がない。



キ あなたのお住まいの地区は。(1つに○)

「矢野口」19.1%、「若葉台」17.6%、「東長沼」17.3%、「向陽台」10.5%などの順である。



なお、ここでは子ども・子育ての区域として再集計を行っている。

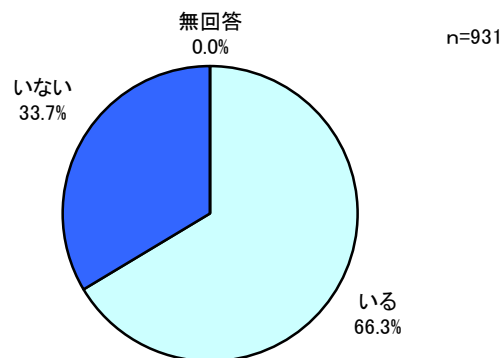
第1地区 (矢野口・東長沼・大丸) …53.7%

第2地区 (向陽台・長峰・若葉台) …34.0%

第3地区 (坂浜・平尾) …11.3%

問1 あなたにはお子さんがいますか。(1つに○)

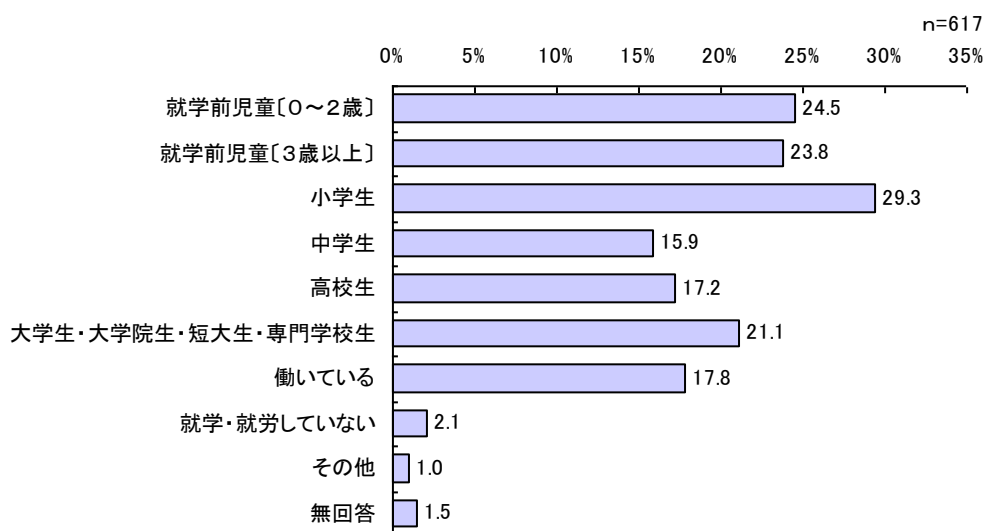
「いる」66.3%、「いない」33.7%である。



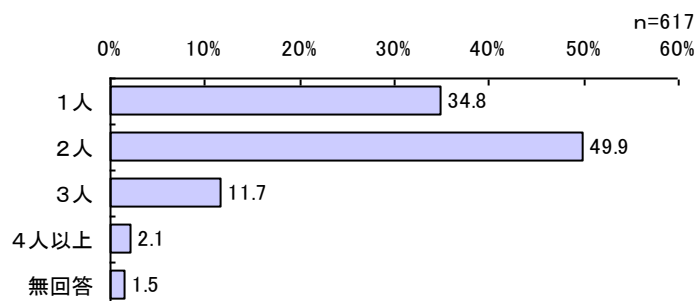
●問1で「1」とお答えの方におうかがいします。

問1-1 以下に該当するお子さんがそれぞれ何人いますか。あてはまる番号に○を付け、()内に人数を記入してください。(就学前児童については、利用している保育・教育施設もお答えください。)

「小学生」が29.3%と最も多く、次いで「就学前児童(0～2歳)」24.5%、「就学前児童(3歳以上)」23.8%、「大学生・大学院生・短大生・専門学校生」21.1%などである。

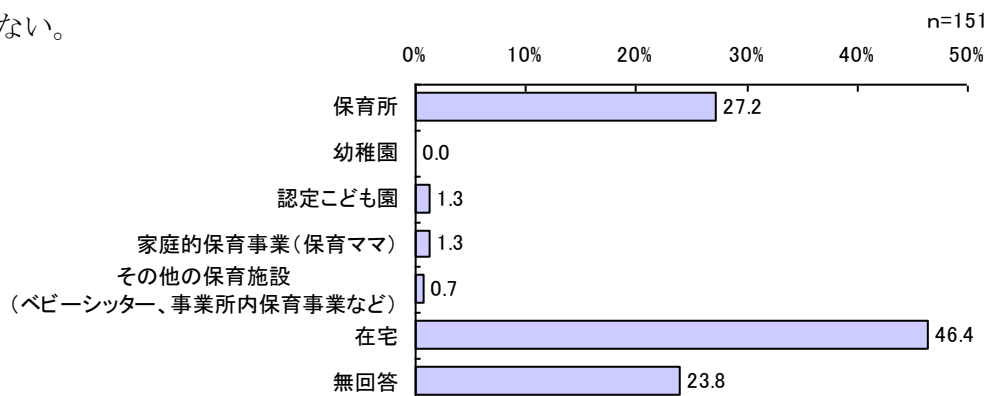


子どもの合計数は、「2人」49.9%、「1人」34.8%、「3人」11.7%、「4人以上」2.1%である。



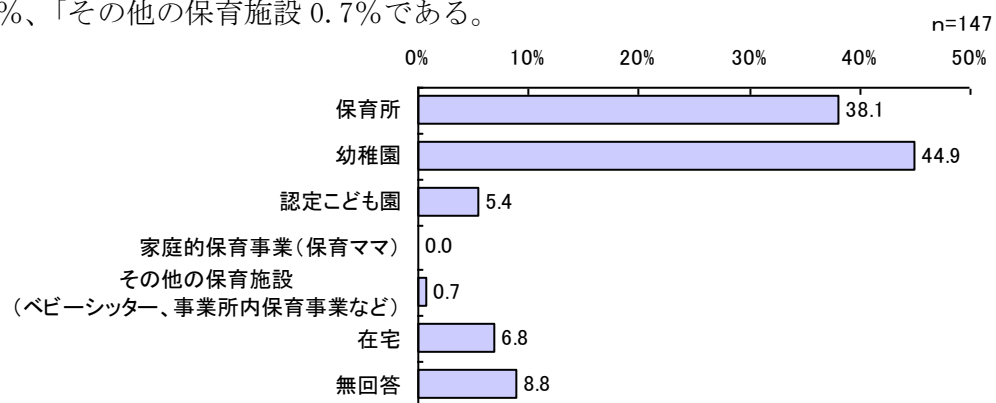
【就学前児童(0～2歳)の利用している保育・教育施設】

「在宅」が46.4%、「保育所」27.2%に対し、「認定こども園」「家庭的保育事業」はともに1.3%と少ない。



【就学前児童（3歳以上）の利用している保育・教育施設】

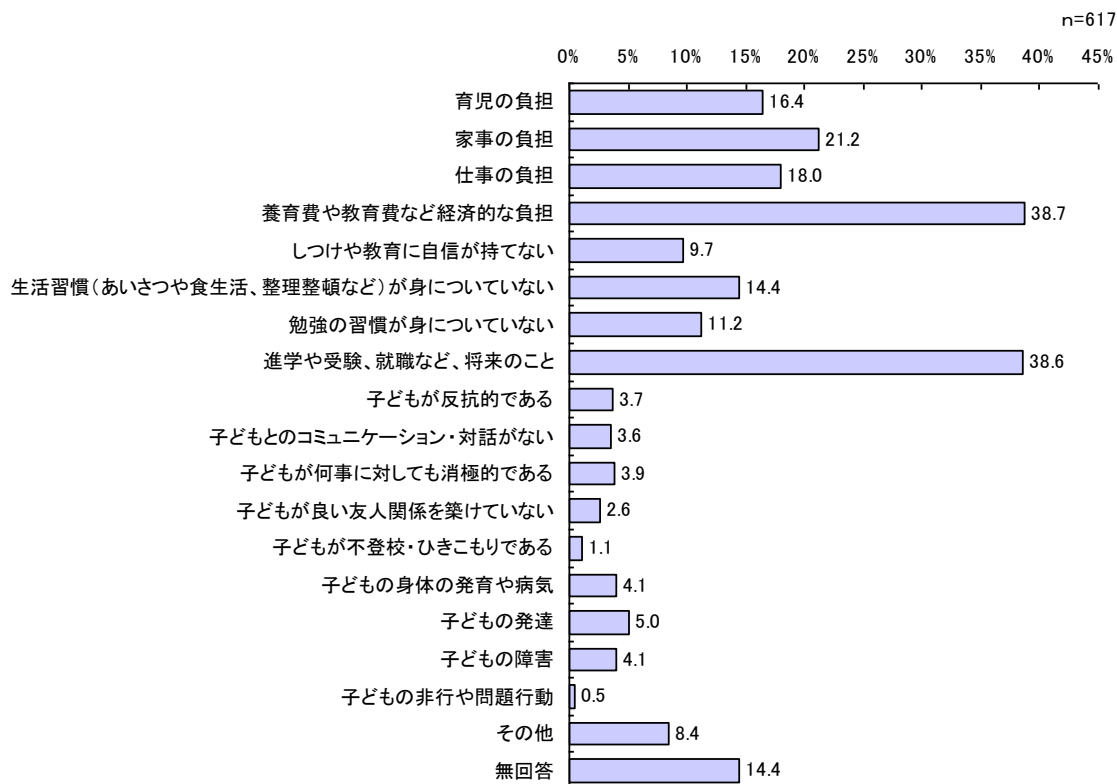
「幼稚園」44.9%、「保育所」38.1%、両施設で8割以上を占め、「在宅」6.8%、「認定こども園」5.4%、「その他の保育施設0.7%である。



2. 子育てに関する悩みや困りごとについて

問2 お子さんや家庭のことでどのような心配ごとや悩みごとがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「養育費や教育費など経済的な負担」38.7%、「進学や受験、就職など、将来のこと」38.6%とほとんど差がない。次いで「家事の負担」21.2%、「仕事の負担」18.0%、「育児の負担」16.4%、「生活習慣（あいさつや食生活、整理整頓など）が身につけていない」14.4%と続く。



男女でみると「家事の負担」や「しつけや教育に自信が持てない」は女性が各23.5%、12.1%と男性の17.3%、5.3%を上回る。

年齢別では「20～29歳」は、「育児の負担」56.3%、「養育費や教育費など経済的な負担」50.0%、「家事の負担」43.8%に集中している。「30～39歳」は、「20～29歳」と傾向は同じであるが、いずれも少なくなり、各35.8%、43.8%、34.0%である。「40～49歳」「50～59歳」ではさらに少なくなるが、新たに「進学や受験、就職など、将来のこと」が各48.7%、41.2%とあげられている。

子どもの合計人数では、「育児の負担」「家事の負担」「仕事の負担」いずれも1人が他を上回る。「養育費や教育費など経済的な負担」は4人以上が76.9%と断トツである。また、4人以上は「勉強の習慣が身につけていない」や「子どもが何事に対しても消極的である」などでも他を上回る。

子どもの年齢でみると、「就学前児童（0～2歳）」は「育児の負担」42.4%、次いで「養育費や教育費など経済的な負担」41.1%、「家事の負担」39.7%、「仕事の負担」24.5%に対し、「就学前児童（3歳以上）」は、「養育費や教育費など経済的な負担」46.9%、「育児の負担」32.0%、「家事の負担」27.2%、「仕事の負担」及び「進学や受験、就職など、将来のこと」と

もに 23.8%となっている。「就学前児童（3歳以上）」になると「育児の負担」「家事の負担」がやや緩和されるようである。

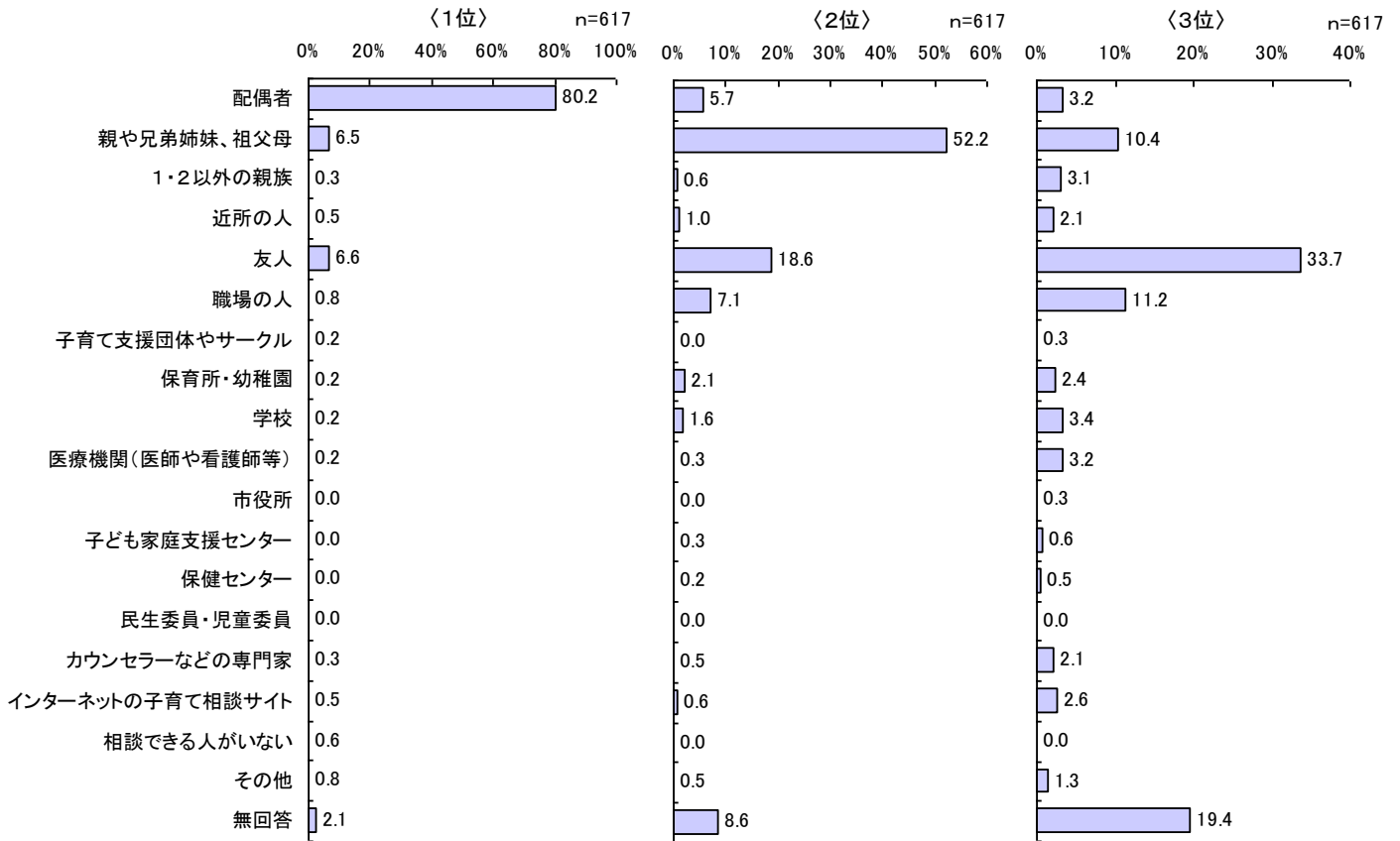
単位：%

		回答者数（人）	育児の負担	家事の負担	仕事の負担	養育費や教育費など経済的な負担	しつけや教育に自信が持てない	生活習慣が身につけていない	勉強の習慣が身につけていない	進学や受験、就職など、将来のこと	子どもが反抗的である	子どもとのコミュニケーション・対話がない	子どもが何事に対しても消極的である	子どもが良い友人関係を築けていない
全体		617	16.4	21.2	18.0	38.7	9.7	14.4	11.2	38.6	3.7	3.6	3.9	2.6
性別	男性	226	16.4	17.3	20.8	38.1	5.3	15.9	11.5	39.8	3.1	4.4	4.0	2.7
	女性	387	16.0	23.5	16.5	39.0	12.1	13.4	11.1	38.0	4.1	3.1	3.9	2.6
年齢	18～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	16	56.3	43.8	25.0	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	162	35.8	34.0	26.5	43.8	16.7	13.6	10.5	24.7	4.9	1.9	2.5	0.6
	40～49歳	236	11.9	20.3	19.1	41.9	8.9	18.6	18.2	48.7	4.7	3.4	4.2	3.4
	50～59歳	199	2.0	10.1	9.5	29.6	4.5	11.1	4.5	41.2	1.5	5.5	5.0	3.5
合計子どもの数	1人	215	21.9	22.8	22.3	30.2	8.8	14.9	5.6	30.2	2.3	3.7	2.8	1.9
	2人	308	14.0	21.1	14.9	40.3	11.0	15.6	13.3	41.6	5.2	3.9	4.5	3.2
	3人	72	12.5	19.4	18.1	51.4	6.9	9.7	16.7	50.0	2.8	0.0	2.8	1.4
	4人以上	13	15.4	15.4	15.4	76.9	7.7	15.4	23.1	38.5	0.0	7.7	15.4	7.7
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	42.4	39.7	24.5	41.1	13.2	8.6	5.3	15.9	2.6	1.3	2.0	0.7
	就学前児童〔3歳以上〕	147	32.0	27.2	23.8	46.9	15.0	13.6	10.9	23.8	5.4	0.7	2.0	0.0
	小学生	181	14.9	23.8	19.9	50.8	14.4	24.3	24.9	54.7	6.6	2.8	7.2	5.5
	中学生	98	4.1	19.4	16.3	50.0	6.1	20.4	17.3	64.3	4.1	2.0	2.0	5.1
	高校生	106	3.8	17.9	14.2	54.7	7.5	11.3	17.9	61.3	2.8	4.7	6.6	1.9
	大学生・大学院生・～	130	0.8	10.0	9.2	37.7	3.1	11.5	8.5	53.8	1.5	6.2	3.1	1.5
	働いている	110	0.9	6.4	10.0	16.4	3.6	7.3	1.8	26.4	2.7	5.5	5.5	4.5
	就学・就労していない その他	13 6	0.0 0.0	23.1 16.7	7.7 16.7	7.7 16.7	23.1 0.0	15.4 0.0	7.7 0.0	38.5 16.7	7.7 0.0	7.7 0.0	0.0 0.0	7.7 0.0

		子どもが不登校・ひきこもりである	子どもの身体や病気の発育	子どもの発達	子どもの障害	子どもの非行や問題行動	その他	無回答
全体		1.1	4.1	5.0	4.1	0.5	8.4	14.4
性別	男性	0.9	5.8	4.9	4.9	0.0	7.5	14.2
	女性	1.3	3.1	5.2	3.6	0.8	8.8	14.5
年齢	18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	31.3
	30～39歳	0.0	4.3	8.0	2.5	0.0	4.9	11.1
	40～49歳	1.7	5.1	5.1	3.0	0.4	5.5	10.6
	50～59歳	1.5	3.0	3.0	7.0	1.0	14.6	20.1
合計子どもの数	1人	0.5	4.2	4.7	2.8	0.0	9.3	18.6
	2人	1.6	3.9	5.2	5.2	0.6	8.4	13.6
	3人	1.4	4.2	5.6	4.2	0.0	6.9	8.3
	4人以上	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	0.0	2.0	4.6	1.3	0.0	6.0	17.9
	就学前児童〔3歳以上〕	0.0	6.1	9.5	2.0	0.0	4.1	10.2
	小学生	1.1	5.0	7.2	3.9	0.6	3.3	6.1
	中学生	3.1	8.2	4.1	3.1	0.0	4.1	4.1
	高校生	2.8	2.8	3.8	5.7	0.0	6.6	6.6
	大学生・大学院生・～	1.5	2.3	3.1	5.4	0.8	10.8	15.4
	働いている	0.9	1.8	0.0	6.4	1.8	19.1	28.2
	就学・就労していない その他	15.4 0.0	7.7 0.0	0.0 16.7	15.4 16.7	15.4 0.0	7.7 16.7	38.5 33.3

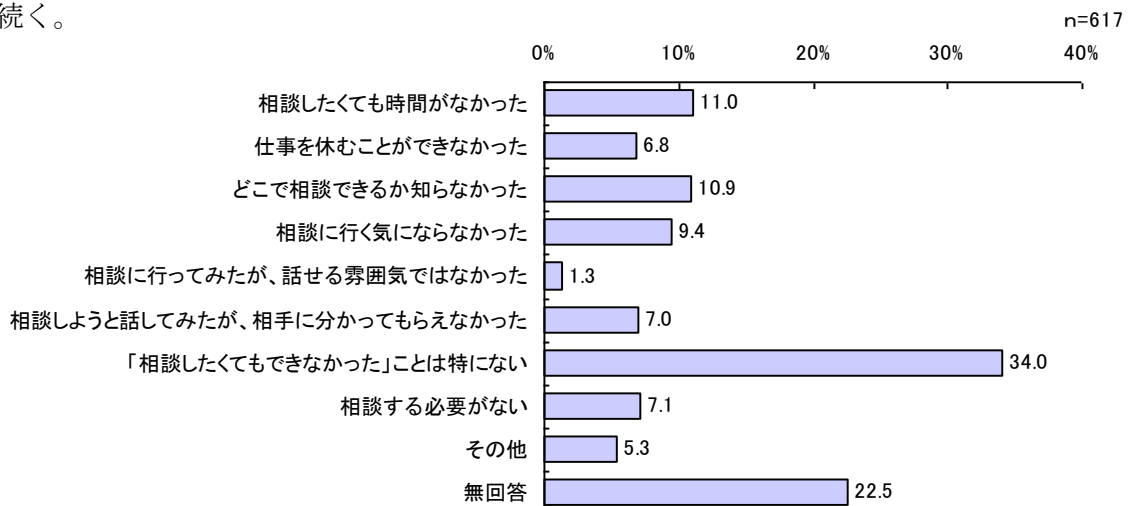
問3 子育てや子どもの事で心配ごとや悩みごとがある時、誰に相談しますか。相談先を3つまで、順位ごと（1～3位）に番号を記入してください。

相談先を3つまであげてもらった。1位で最も多いのは「配偶者」で80.2%である。2位では「親や兄弟姉妹・祖父母」の52.2%、「友人」18.6%と続き、3位では「友人」33.7%、「職場の人」11.2%、「親や兄弟姉妹・祖父母」10.4%と続く。



問4 「相談したくてもできなかった」という経験はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「相談したくてもできなかったことは特にない」が34.0%、「相談したくても時間がなかった」11.0%、「どこで相談できるか知らなかった」10.9%、「相談に行く気にならなかった」9.4%と続く。



子どもの年齢で見ると、「どこで相談できるか知らなかった」や「相談に行く気にならなかった」は高校生に最も多く、各 17.9%、15.1%である。「相談したくても時間がなかった」は、0～2歳及び3歳以上の就学前児童に比較的多い。

単位：%

	回答者数（人）	相談したくても時間がなかった	仕事を休むことができなかった	どこで相談できるか知らなかった	相談に行く気にならなかった	相談に行ってみたが、話せる雰囲気ではなかった	相談しようとして話してみたが、手に分かってもらえなかった	「相談したくてもできなかった」ことは特にない	相談する必要がある	その他	無回答	
全体	617	11.0	6.8	10.9	9.4	1.3	7.0	34.0	7.1	5.3	22.5	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	14.6	5.3	10.6	9.9	0.7	7.3	35.8	6.6	4.0	18.5
	就学前児童〔3歳以上〕	147	13.6	8.2	7.5	7.5	0.0	6.8	39.5	4.1	1.4	22.4
	小学生	181	11.6	8.3	13.8	11.6	1.7	9.9	29.8	8.3	2.2	23.8
	中学生	98	9.2	7.1	13.3	14.3	1.0	4.1	30.6	9.2	5.1	26.5
	高校生	106	13.2	9.4	17.9	15.1	1.9	8.5	25.5	7.5	9.4	18.9
	大学生・大学院生・～	130	10.0	8.5	11.5	10.8	0.8	4.6	36.2	7.7	10.8	16.2
	働いている	110	7.3	5.5	8.2	7.3	1.8	5.5	35.5	10.0	3.6	23.6
	就学・就労していない	13	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	15.4	7.7	15.4	38.5
その他	6	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	

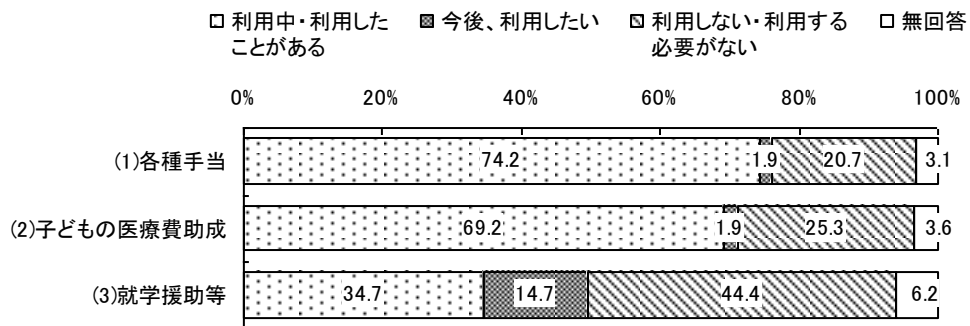
3. 子育て支援サービスについて

問5 稲城市では子育てを支援する次のサービスを実施していますが、①～④の各項目について利用の経験や今後の利用意向について、それぞれあてはまるものに○を付けてください。

①経済的支援

「利用中・利用したことがある」は「各種手当」74.2%、「子どもの医療費助成」69.2%が7割前後と多く、「就学援助・幼稚園就園奨励費等の補助」は34.7%である。

「今後利用したい」は、「利用中・利用したことがある」との回答が少なかった「就学援助・幼稚園就園奨励費等の補助」が14.7%と最も多い。



世帯収入でみると、「各種手当」及び「子どもの医療費助成」を「利用中・利用したことがある」は「300万円未満」が最も少ない各50.0%、45.8%である。このため「今後利用したい」は各12.5%、8.3%と他を上回るが、「利用しない・利用する必要がない」も各29.2%、33.3%と他を上回る。

子どもの年齢でみると、「就学援助等」は、小学生が55.2%と最も多いが、就学前児童（3歳以上）でも51.7%である。「今後、利用したい」は就学前児童（0～2歳）が45.0%と他を大きく上回る。

(1)各種手当

単位：%

		回答者数(人)	利用中・利用したことがある (%)	今後、利用したい (%)	利用しない・利用する必要がない (%)	無回答 (%)
全体		617	74.2	1.9	20.7	3.1
世帯収入	300万円未満	24	50.0	12.5	29.2	8.3
	300～500万円未満	92	80.4	3.3	12.0	4.3
	500～700万円未満	156	84.6	0.6	13.5	1.3
	700万円以上	324	68.8	1.5	26.2	3.4
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	94.0	3.3	2.6	0.0
	就学前児童[3歳以上]	147	96.6	1.4	1.4	0.7
	小学生	181	89.5	1.7	8.3	0.6
	中学生	98	80.6	3.1	14.3	2.0
	高校生	106	72.6	4.7	19.8	2.8
	大学生・大学院生・～	130	54.6	2.3	40.0	3.1
	働いている	110	34.5	0.9	58.2	6.4
	就学・就労していない	13	46.2	0.0	38.5	15.4
	その他	6	16.7	0.0	50.0	33.3

(2)医療費助成

単位：%

		回答者数(人)	利用中・利用したことがある (%)	今後、利用したい (%)	利用しない・利用する必要がない (%)	無回答 (%)
全体		617	69.2	1.9	25.3	3.6
世帯収入	300万円未満	24	45.8	8.3	33.3	12.5
	300～500万円未満	92	72.8	3.3	17.4	6.5
	500～700万円未満	156	76.9	1.9	19.2	1.9
	700万円以上	324	65.7	1.2	30.2	2.8
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	94.0	4.0	2.0	0.0
	就学前児童[3歳以上]	147	94.6	0.7	2.7	2.0
	小学生	181	84.5	1.1	12.2	2.2
	中学生	98	67.3	3.1	26.5	3.1
	高校生	106	65.1	3.8	27.4	3.8
	大学生・大学院生・～	130	48.5	1.5	46.9	3.1
	働いている	110	27.3	0.9	66.4	5.5
	就学・就労していない	13	30.8	0.0	53.8	15.4
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3

(3)就学援助等

単位：%

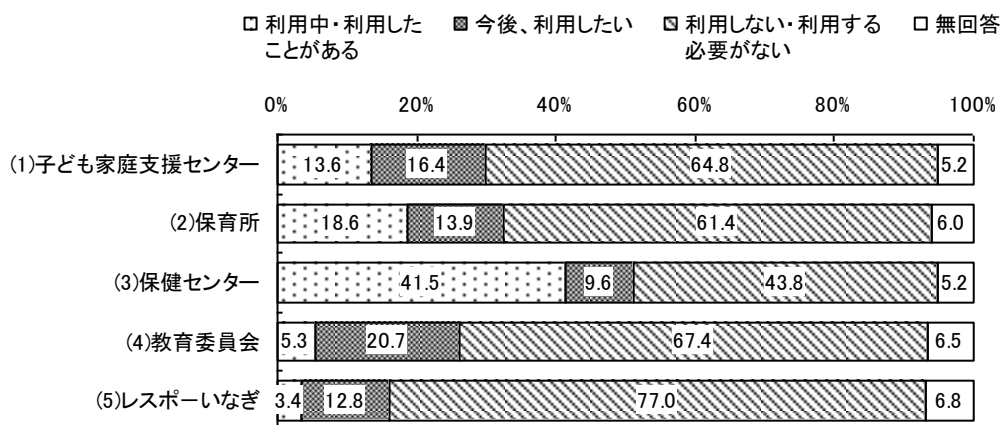
		回答者数 (人)	利用中・利用した ことがある	今後、利用したい	利用しない・利用 する必要がない	無回答
全体		617	34.7	14.7	44.4	6.2
世帯収入	300万円未満	24	37.5	16.7	33.3	12.5
	300～500万円未満	92	39.1	22.8	28.3	9.8
	500～700万円未満	156	41.0	17.9	35.3	5.8
	700万円以上	324	30.6	9.9	54.6	4.9
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	29.1	45.0	20.5	5.3
	就学前児童〔3歳以上〕	147	51.7	16.3	29.9	2.0
	小学生	181	55.2	6.6	34.3	3.9
	中学生	98	39.8	5.1	48.0	7.1
	高校生	106	41.5	7.5	46.2	4.7
	大学生・大学院生・～	130	23.8	3.1	67.7	5.4
	働いている	110	22.7	0.9	66.4	10.0
	就学・就労していない	13	15.4	0.0	53.8	30.8
	その他	6	16.7	0.0	66.7	16.7

②相談機関・相談窓口

「利用中・利用したことがある」は、「保健センター」が41.5%と他を大きく上回る。次いで「保育所」18.6%、「子ども家庭支援センター」13.6%の順である。

「今後利用したい」は、「利用中・利用したことがある」が1ヶ台であった「教育委員会」が20.7%と最も多く、次いで「子ども家庭支援センター」16.4%、「保育所」13.9%、「稲城市発達支援センター レスポーいなぎ」12.8%、「保健センター」9.6%の順である。

「利用しない・利用する必要がない」は「保健センター」の43.8%を除き、いずれも6割を超える。



子どもの年齢でみると、「子ども家庭支援センター」について「利用中・利用したことがある」は就学前児童の0～2歳及び3歳以上いずれも各19.2%、21.8%にとどまるが、「今後、利用したい」になると、0～2歳は47.7%であるが、3歳以上になると28.6%と少なく、「利用しない・利用する必要がない」を47.6%、半数があげている。「教育委員会」については、「今後、利用したい」は就学前児童の0～2歳で44.4%、3歳以上で34.0%と比較的多くあげられているが、小学生になると21.0%、中学生で15.3%、高校生では12.3%と次第に少なくなる。

単位：%

	回答者数(人)	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(1)子ども家庭支援センター	617	13.6	16.4	64.8	5.2	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	19.2	47.7	29.1	4.0
	就学前児童[3歳以上]	147	21.8	28.6	47.6	2.0
	小学生	181	23.8	7.2	66.3	2.8
	中学生	98	13.3	4.1	77.6	5.1
	高校生	106	9.4	2.8	83.0	4.7
	大学生・大学院生・～	130	4.6	2.3	88.5	4.6
	働いている	110	0.0	1.8	90.9	7.3
	就学・就労していない	13	7.7	0.0	53.8	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(2)保育所	617	18.6	13.9	61.4	6.0	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	26.5	44.4	25.2	4.0
	就学前児童[3歳以上]	147	25.9	25.9	44.9	3.4
	小学生	181	21.0	3.9	68.5	6.6
	中学生	98	17.3	2.0	75.5	5.1
	高校生	106	20.8	2.8	71.7	4.7
	大学生・大学院生・～	130	20.0	1.5	74.6	3.8
	働いている	110	5.5	0.9	86.4	7.3
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	61.5	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(3)保健センター	617	41.5	9.6	43.8	5.2	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	60.3	27.8	9.9	2.0
	就学前児童[3歳以上]	147	55.1	17.7	25.2	2.0
	小学生	181	48.6	5.0	42.5	3.9
	中学生	98	34.7	2.0	58.2	5.1
	高校生	106	39.6	2.8	53.8	3.8
	大学生・大学院生・～	130	26.2	0.8	68.5	4.6
	働いている	110	18.2	0.9	72.7	8.2
	就学・就労していない	13	15.4	0.0	46.2	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3

単位：%

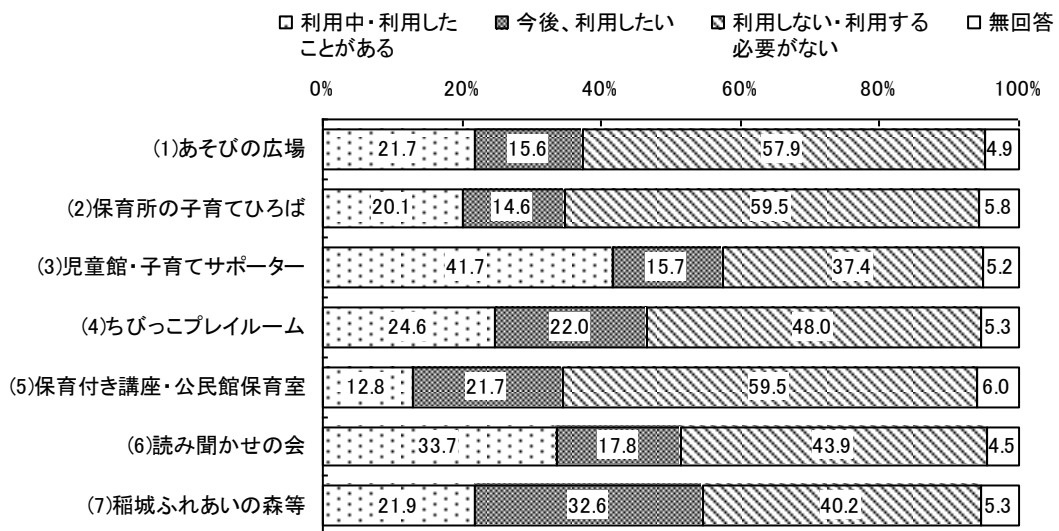
	回答者数(人)	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(4)教育委員会	617	5.3	20.7	67.4	6.5	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	2.0	44.4	47.0	6.6
	就学前児童[3歳以上]	147	2.7	34.0	58.5	4.8
	小学生	181	7.7	21.0	65.7	5.5
	中学生	98	12.2	15.3	66.3	6.1
	高校生	106	10.4	12.3	73.6	3.8
	大学生・大学院生・～	130	6.9	3.1	86.9	3.1
	働いている	110	2.7	2.7	87.3	7.3
	就学・就労していない	13	15.4	0.0	46.2	38.5
	その他	6	0.0	16.7	66.7	16.7
(5)レスポ-いなぎ	617	3.4	12.8	77.0	6.8	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	2.0	35.1	55.6	7.3
	就学前児童[3歳以上]	147	4.8	20.4	69.4	5.4
	小学生	181	5.0	8.3	81.2	5.5
	中学生	98	5.1	5.1	84.7	5.1
	高校生	106	4.7	2.8	87.7	4.7
	大学生・大学院生・～	130	2.3	0.0	93.1	4.6
	働いている	110	0.9	1.8	90.0	7.3
	就学・就労していない	13	0.0	7.7	53.8	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3

③地域における子育て支援

「利用中・利用したことがある」は、「児童館利用や子育てサポーター事業」41.7%が最も多く、次いで「図書館での読み聞かせの会への参加」33.7%、「総合体育館ちびっこプレイルームの利用」24.6%、「稲城ふれあいの森や城山体験学習館・上谷戸緑地体験学習館の利用」21.9%、「子ども家庭支援センターのあそびの広場」21.7%、「保育所の子育てひろば」20.1%などと続く。

「今後利用したい」は、「稲城ふれあいの森や城山体験学習館・上谷戸緑地体験学習館の利用」が32.6%と最も多く、次いで「総合体育館ちびっこプレイルームの利用」22.0%、「公民館での保育付き講座への参加や公民館」21.7%、「図書館での読み聞かせの会への参加」17.8%などと続く。

「利用しない・利用する必要がない」は、「保育所の子育てひろば」「公民館での保育付き講座への参加や公民館」とともに59.5%、次いで「子ども家庭支援センターのあそびの広場」57.9%、「総合体育館ちびっこプレイルームの利用」48.0%と続く。



子どもの年齢で見ると、「今後、利用したい」は、いずれも就学前児童（0～2歳）に多く、最も多いのは「稲城ふれあいの森等」の78.1%、次いで「ちびっこプレイルーム」及び「保育付き講座・公民館保育室」とともに60.9%などである。

単位：%

	回答者数 (人)	利用中・利用した ことがある	今後、利用したい	利用しない・利用 する必要がない	無回答	
(1)あそびの広場	617	21.7	15.6	57.9	4.9	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	35.1	42.4	21.2	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	38.1	25.2	36.1	0.7
	小学生	181	30.4	8.8	56.9	3.9
	中学生	98	18.4	5.1	71.4	5.1
	高校生	106	10.4	4.7	79.2	5.7
	大学生・大学院生・～	130	6.9	1.5	84.6	6.9
	働いている	110	3.6	2.7	85.5	8.2
	就学・就労していない	13	7.7	0.0	53.8	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(2)保育所の子育てひろば	617	20.1	14.6	59.5	5.8	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	25.2	47.0	23.2	4.6
	就学前児童[3歳以上]	147	29.3	21.8	46.3	2.7
	小学生	181	29.3	3.9	63.5	3.3
	中学生	98	18.4	4.1	73.5	4.1
	高校生	106	14.2	2.8	77.4	5.7
	大学生・大学院生・～	130	15.4	1.5	76.2	6.9
	働いている	110	4.5	1.8	84.5	9.1
	就学・就労していない	13	15.4	0.0	46.2	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(3)児童館・子育てサポーター	617	41.7	15.7	37.4	5.2	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	47.7	43.0	6.6	2.6
	就学前児童[3歳以上]	147	52.4	32.0	14.3	1.4
	小学生	181	58.6	9.4	28.7	3.3
	中学生	98	39.8	2.0	53.1	5.1
	高校生	106	37.7	3.8	53.8	4.7
	大学生・大学院生・～	130	33.8	0.0	59.2	6.9
	働いている	110	22.7	2.7	64.5	10.0
	就学・就労していない	13	23.1	0.0	46.2	30.8
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(4)ちびっこプレイルーム	617	24.6	22.0	48.0	5.3	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	23.8	60.9	12.6	2.6
	就学前児童[3歳以上]	147	30.6	37.4	29.9	2.0
	小学生	181	34.3	12.7	50.8	2.2
	中学生	98	25.5	7.1	64.3	3.1
	高校生	106	28.3	5.7	60.4	5.7
	大学生・大学院生・～	130	29.2	3.8	59.2	7.7
	働いている	110	18.2	2.7	68.2	10.9
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	61.5	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3

単位：%

	回答者数 (人)	利用中・利用した ことがある	今後、利用したい	利用しない・利用 する必要がない	無回答	
(5)保育付き講座・公民館保育室	617	12.8	21.7	59.5	6.0	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	9.9	60.9	24.5	4.6
	就学前児童[3歳以上]	147	12.2	38.8	45.6	3.4
	小学生	181	17.1	12.2	67.4	3.3
	中学生	98	14.3	5.1	75.5	5.1
	高校生	106	20.8	4.7	69.8	4.7
	大学生・大学院生・～	130	13.8	2.3	76.9	6.9
	働いている	110	9.1	1.8	78.2	10.9
	就学・就労していない	13	7.7	0.0	53.8	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(6)読み聞かせの会	617	33.7	17.8	43.9	4.5	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	45.7	41.7	10.6	2.0
	就学前児童[3歳以上]	147	45.6	31.3	22.4	0.7
	小学生	181	42.0	16.0	39.2	2.8
	中学生	98	30.6	5.1	59.2	5.1
	高校生	106	27.4	6.6	62.3	3.8
	大学生・大学院生・～	130	26.2	2.3	66.9	4.6
	働いている	110	14.5	2.7	74.5	8.2
	就学・就労していない	13	7.7	0.0	53.8	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(7)稲城ふれあいの森等	617	21.9	32.6	40.2	5.3	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	7.9	78.1	8.6	5.3
	就学前児童[3歳以上]	147	17.0	57.1	22.4	3.4
	小学生	181	29.8	32.6	34.3	3.3
	中学生	98	34.7	14.3	48.0	3.1
	高校生	106	34.9	11.3	48.1	5.7
	大学生・大学院生・～	130	30.0	3.8	60.8	5.4
	働いている	110	15.5	2.7	74.5	7.3
	就学・就労していない	13	15.4	7.7	46.2	30.8
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3

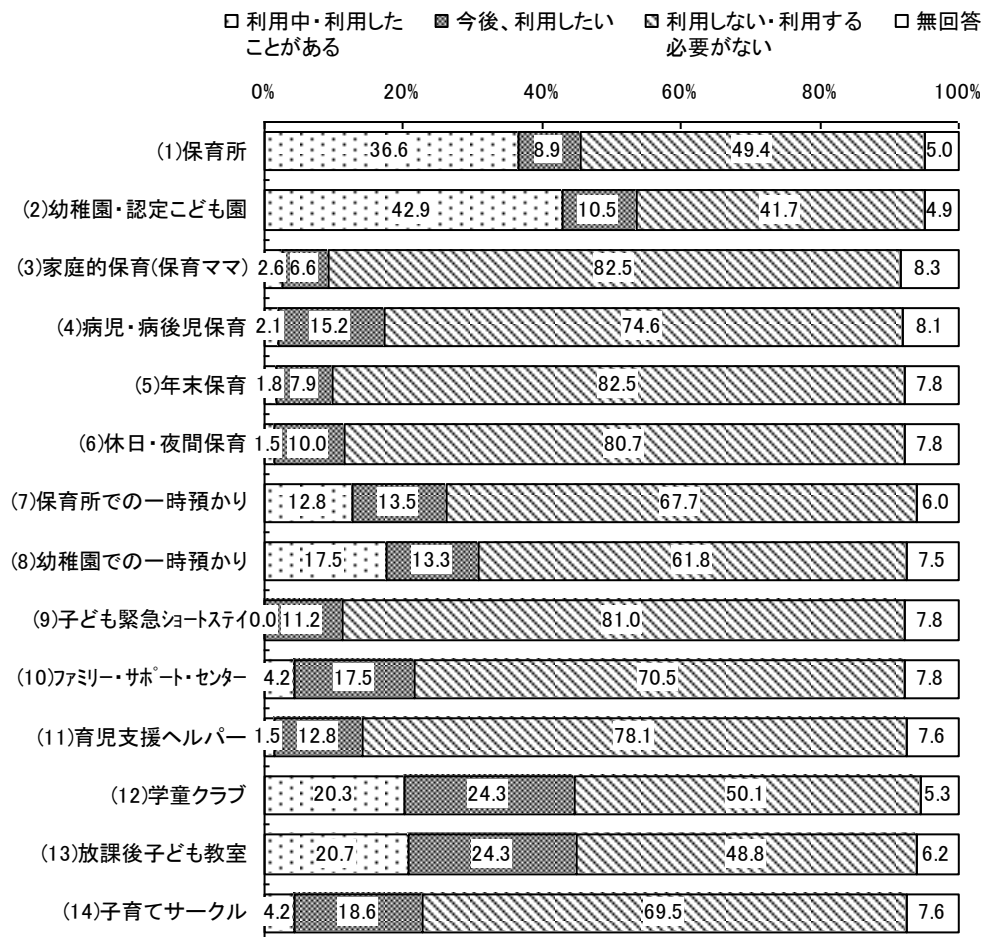
④保育・子育て支援事業

「利用中・利用したことがある」は、「幼稚園・認定こども園」が42.9%と最も多い。次いで「保育所」36.6%、やや差があり「放課後の居場所事業（放課後子ども教室）」20.7%、「学童クラブ」20.3%などと続く。

「今後利用したい」は、「学童クラブ」「放課後の居場所事業（放課後子ども教室）」ともに24.3%、次いで「子育てサークルによる子育て支援活動（NPOも含む）」18.6%、「ファミリー・サポート・センター」17.5%などである。

「利用しない・利用する必要がある」は、「家庭的保育事業（保育ママによる保育）」「年末保育事業」がともに82.5%、次いで「子ども緊急ショートステイ事業（宿泊を伴う短期間の預かり）」81.0%などである。

「利用中・利用したことがある」と「今後利用したい」を合わせても1割に達しないのは「年末保育事業」の9.7%、「家庭的保育事業」の9.2%である。



子どもの年齢では、「今後、利用したい」はいずれも就学前児童（0～2歳）が最も多く、「学童クラブ」の69.5%、「放課後子ども教室」の64.2%、「ファミリー・サポート・センター」の49.7%、「子育てサークル」の48.3%、「病児・病後児保育」の46.4%、「保育所での一時預かり」45.0%などの順である。

逆に、「利用しない・利用する必要がある」を同じく就学前児童（0～2歳）でみると、「年末保育」及び「家庭的保育」とともに67.5%、「休日・夜間保育」の62.3%、「子ども緊急ショートステイ」の59.6%などの順である。

単位：%

	回答者数（人）	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(1)保育所	617	36.6	8.9	49.4	5.0	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	43.7	34.4	16.6	5.3
	就学前児童〔3歳以上〕	147	55.1	9.5	30.6	4.8
	小学生	181	40.9	1.1	55.2	2.8
	中学生	98	26.5	0.0	69.4	4.1
	高校生	106	35.8	0.0	62.3	1.9
	大学生・大学院生・～	130	33.1	0.0	63.8	3.1
	働いている	110	22.7	0.0	70.0	7.3
	就学・就労していない	13	38.5	0.0	38.5	23.1
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(2)幼稚園・認定こども園	617	42.9	10.5	41.7	4.9	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	29.1	39.7	27.2	4.0
	就学前児童〔3歳以上〕	147	55.8	6.8	35.4	2.0
	小学生	181	59.1	2.8	36.5	1.7
	中学生	98	51.0	0.0	46.9	2.0
	高校生	106	48.1	2.8	46.2	2.8
	大学生・大学院生・～	130	40.8	0.0	53.8	5.4
	働いている	110	33.6	0.9	56.4	9.1
	就学・就労していない	13	30.8	0.0	38.5	30.8
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(3)家庭的保育(保育ママ)	617	2.6	6.6	82.5	8.3	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	1.3	21.2	67.5	9.9
	就学前児童〔3歳以上〕	147	2.0	12.2	78.9	6.8
	小学生	181	1.7	4.4	88.4	5.5
	中学生	98	3.1	0.0	90.8	6.1
	高校生	106	6.6	2.8	84.9	5.7
	大学生・大学院生・～	130	3.1	0.0	88.5	8.5
	働いている	110	2.7	0.9	86.4	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(4)病児・病後児保育	617	2.1	15.2	74.6	8.1	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	2.6	46.4	41.7	9.3
	就学前児童〔3歳以上〕	147	3.4	29.3	61.2	6.1
	小学生	181	2.8	9.9	81.8	5.5
	中学生	98	1.0	2.0	89.8	7.1
	高校生	106	2.8	1.9	90.6	4.7
	大学生・大学院生・～	130	0.8	1.5	90.0	7.7
	働いている	110	1.8	0.9	87.3	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(5)年末保育	617	1.8	7.9	82.5	7.8	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	2.0	21.9	67.5	8.6
	就学前児童〔3歳以上〕	147	1.4	15.0	77.6	6.1
	小学生	181	2.8	6.1	86.2	5.0
	中学生	98	1.0	1.0	90.8	7.1
	高校生	106	1.9	2.8	91.5	3.8
	大学生・大学院生・～	130	1.5	0.8	90.8	6.9
	働いている	110	0.9	1.8	87.3	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3

単位：%

	回答者数（人）	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(6)休日・夜間保育	617	1.5	10.0	80.7	7.8	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	1.3	27.8	62.3	8.6
	就学前児童〔3歳以上〕	147	2.0	19.0	72.8	6.1
	小学生	181	1.1	8.3	85.6	5.0
	中学生	98	1.0	0.0	91.8	7.1
	高校生	106	4.7	1.9	89.6	3.8
	大学生・大学院生・～	130	2.3	0.8	90.0	6.9
	働いている	110	0.9	1.8	87.3	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(7)保育所での一時預かり	617	12.8	13.5	67.7	6.0	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	19.2	45.0	31.1	4.6
	就学前児童〔3歳以上〕	147	22.4	19.7	53.7	4.1
	小学生	181	18.2	6.1	72.9	2.8
	中学生	98	12.2	0.0	83.7	4.1
	高校生	106	13.2	2.8	80.2	3.8
	大学生・大学院生・～	130	5.4	0.8	86.9	6.9
	働いている	110	2.7	1.8	85.5	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(8)幼稚園での一時預かり	617	17.5	13.3	61.8	7.5	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	12.6	39.7	40.4	7.3
	就学前児童〔3歳以上〕	147	25.2	23.1	46.3	5.4
	小学生	181	29.3	7.2	58.6	5.0
	中学生	98	21.4	0.0	70.4	8.2
	高校生	106	19.8	2.8	72.6	4.7
	大学生・大学院生・～	130	13.1	0.0	80.0	6.9
	働いている	110	10.0	1.8	78.2	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(9)子ども緊急ショートステイ	617	0.0	11.2	81.0	7.8	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	0.0	31.8	59.6	8.6
	就学前児童〔3歳以上〕	147	0.0	19.0	74.8	6.1
	小学生	181	0.0	9.9	85.1	5.0
	中学生	98	0.0	2.0	91.8	6.1
	高校生	106	0.0	3.8	91.5	4.7
	大学生・大学院生・～	130	0.0	0.8	91.5	7.7
	働いている	110	0.0	0.9	89.1	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
(10)ファミリー・サポート・センター	617	4.2	17.5	70.5	7.8	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	2.0	49.7	39.7	8.6
	就学前児童〔3歳以上〕	147	3.4	32.0	58.5	6.1
	小学生	181	8.8	14.4	71.8	5.0
	中学生	98	6.1	1.0	86.7	6.1
	高校生	106	8.5	2.8	84.9	3.8
	大学生・大学院生・～	130	3.8	0.0	89.2	6.9
	働いている	110	0.0	1.8	88.2	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3

単位：%

単位：%

	回答者数(人)	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(11)育児支援ヘルパー	617	1.5	12.8	78.1	7.6	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	4.0	35.8	51.7	8.6
	就学前児童〔3歳以上〕	147	3.4	23.1	67.3	6.1
	小学生	181	1.7	9.4	84.0	5.0
	中学生	98	1.0	2.0	90.8	6.1
	高校生	106	0.9	4.7	90.6	3.8
	大学生・大学院生・～	130	0.0	1.5	91.5	6.9
	働いている	110	0.0	1.8	88.2	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
	(12)学童クラブ	617	20.3	24.3	50.1	5.3
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	4.0	69.5	19.9	6.6
	就学前児童〔3歳以上〕	147	13.6	54.4	27.2	4.8
	小学生	181	30.9	12.2	54.1	2.8
	中学生	98	31.6	2.0	64.3	2.0
	高校生	106	33.0	2.8	60.4	3.8
	大学生・大学院生・～	130	30.0	0.8	65.4	3.8
	働いている	110	19.1	1.8	70.9	8.2
	就学・就労していない	13	30.8	0.0	38.5	30.8
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3

	回答者数(人)	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(13)放課後子ども教室	617	20.7	24.3	48.8	6.2	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	9.3	64.2	19.9	6.6
	就学前児童〔3歳以上〕	147	23.8	53.7	18.4	4.1
	小学生	181	63.0	10.5	24.9	1.7
	中学生	98	27.6	5.1	63.3	4.1
	高校生	106	11.3	3.8	81.1	3.8
	大学生・大学院生・～	130	6.9	2.3	83.8	6.9
	働いている	110	2.7	1.8	86.4	9.1
	就学・就労していない	13	15.4	0.0	46.2	38.5
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3
	(14)子育てサークル	617	4.2	18.6	69.5	7.6
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	2.6	48.3	40.4	8.6
	就学前児童〔3歳以上〕	147	3.4	36.7	53.1	6.8
	小学生	181	6.1	14.4	75.1	4.4
	中学生	98	3.1	4.1	86.7	6.1
	高校生	106	5.7	3.8	86.8	3.8
	大学生・大学院生・～	130	6.9	0.8	85.4	6.9
	働いている	110	2.7	1.8	85.5	10.0
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	53.8	46.2
	その他	6	0.0	0.0	66.7	33.3

子ども・子育て区域でみると、「今後利用したい」についてはいずれの事業も第1区域が第2、第3区域を上回る。最も多いのは「学童クラブ」の29.3%、次いでほとんど差がなく「放課後子ども教室」の29.0%、「ファミリー・サポート・センター」の20.4%、「子育てサークル」の20.1%、「病児・病後児保育」の19.4%などの順である。

単位：%

		回答者数 (人)	利用中・利用した ことがある	今後、利用したい	利用しない・利用 する必要がない	無回答
(1)保育所		617	36.6	8.9	49.4	5.0
区域	第1地区	324	34.0	12.3	49.1	4.6
	第2地区	221	40.3	4.1	50.2	5.4
	第3地区	67	38.8	4.5	50.7	6.0
(2)幼稚園・認定こども園		617	42.9	10.5	41.7	4.9
区域	第1地区	324	44.1	14.2	37.0	4.6
	第2地区	221	43.0	5.4	47.1	4.5
	第3地区	67	40.3	6.0	46.3	7.5
(3)家庭的保育(保育ママ)		617	2.6	6.6	82.5	8.3
区域	第1地区	324	3.7	9.3	79.9	7.1
	第2地区	221	1.4	1.8	86.4	10.4
	第3地区	67	1.5	6.0	85.1	7.5
(4)病児・病後児保育		617	2.1	15.2	74.6	8.1
区域	第1地区	324	3.4	19.4	70.1	7.1
	第2地区	221	0.5	10.0	79.6	10.0
	第3地区	67	0.0	9.0	83.6	7.5
(5)年末保育		617	1.8	7.9	82.5	7.8
区域	第1地区	324	2.8	10.2	79.9	7.1
	第2地区	221	0.5	4.5	86.0	9.0
	第3地区	67	1.5	6.0	85.1	7.5
(6)休日・夜間保育		617	1.5	10.0	80.7	7.8
区域	第1地区	324	2.5	12.0	78.4	7.1
	第2地区	221	0.5	6.3	84.2	9.0
	第3地区	67	0.0	7.5	85.1	7.5
(7)保育所での一時預かり		617	12.8	13.5	67.7	6.0
区域	第1地区	324	13.9	16.7	64.2	5.2
	第2地区	221	13.6	9.0	70.1	7.2
	第3地区	67	6.0	7.5	80.6	6.0

単位：%

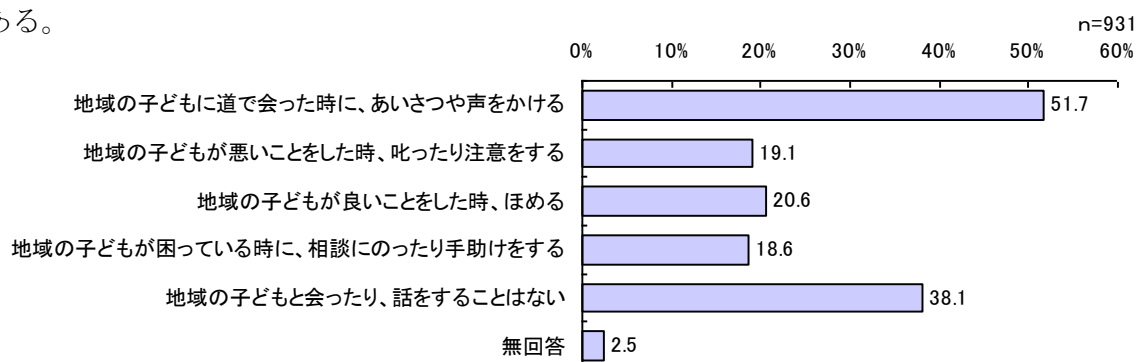
		回答者数 (人)	利用中・利用した ことがある	今後、利用したい	利用しない・利用 する必要がない	無回答
(8)幼稚園での一時預かり		617	17.5	13.3	61.8	7.5
区域	第1地区	324	19.1	16.7	57.4	6.8
	第2地区	221	14.0	9.5	67.9	8.6
	第3地区	67	22.4	7.5	62.7	7.5
(9)子ども緊急ショートステイ		617	0.0	11.2	81.0	7.8
区域	第1地区	324	0.0	13.6	79.3	7.1
	第2地区	221	0.0	7.2	83.7	9.0
	第3地区	67	0.0	7.5	85.1	7.5
(10)ファミリー・サポート・センター		617	4.2	17.5	70.5	7.8
区域	第1地区	324	4.0	20.4	68.5	7.1
	第2地区	221	5.0	13.6	72.4	9.0
	第3地区	67	3.0	11.9	77.6	7.5
(11)育児支援ヘルパー		617	1.5	12.8	78.1	7.6
区域	第1地区	324	1.9	14.8	76.5	6.8
	第2地区	221	1.4	9.5	80.1	9.0
	第3地区	67	0.0	10.4	82.1	7.5
(12)学童クラブ		617	20.3	24.3	50.1	5.3
区域	第1地区	324	17.9	29.3	48.1	4.6
	第2地区	221	25.3	17.6	50.7	6.3
	第3地区	67	16.4	17.9	59.7	6.0
(13)放課後子ども教室		617	20.7	24.3	48.8	6.2
区域	第1地区	324	18.5	29.0	46.9	5.6
	第2地区	221	21.3	19.0	52.5	7.2
	第3地区	67	29.9	16.4	47.8	6.0
(14)子育てサークル		617	4.2	18.6	69.5	7.6
区域	第1地区	324	3.4	20.1	69.8	6.8
	第2地区	221	4.5	16.7	69.7	9.0
	第3地区	67	7.5	13.4	71.6	7.5

4. 地域での子育て支援について

- すべての方におうかがいします。

問6 あなたは、地域の子どもたちと普段どのように接していますか。(あてはまるものすべてに○)

「地域の子どもに道で会った時に、あいさつや声をかける」は約5割、51.7%である。「地域の子どもと会ったり、話をすることはない」は38.1%、約4割である。この他、「地域の子どもが良いことをした時、ほめる」20.6%、「地域の子どもが悪いことをした時、叱ったり注意をする」19.1%、「地域の子どもが困っている時に、相談にのったり手助けをする」18.6%である。



子ども・子育て区域でみると、「地域の子どもと会ったり、話をするはない」は第1地区が44.0%、第3地区が36.2%、第2地区が29.0%である。

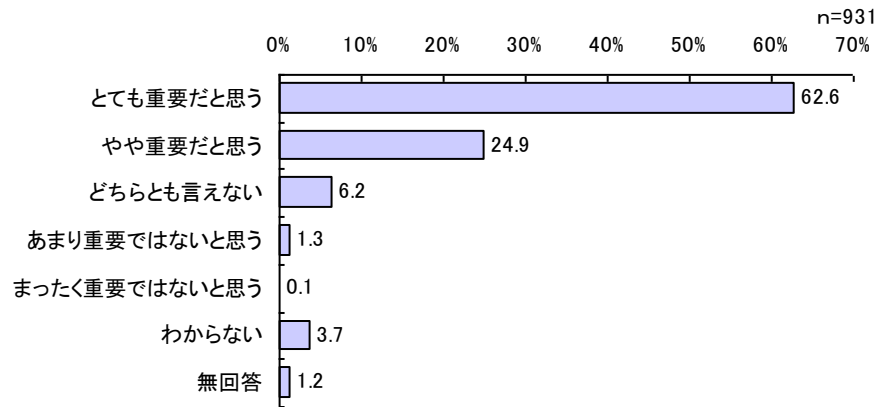
これに対し、「地域の子どもに道で会った時に、あいさつや声をかける」、「地域の子どもが悪いことをした時、叱ったり注意をする」や「地域の子どもが良いことをした時、ほめる」「地域の子どもが困っている時に、相談にのったり手助けをする」いずれも第2地区が第1及び第3地区を上回り、地域の子どもたちと積極的に接していることをうかがうことができる。

単位: %

区域		回答者数(人)	接し方					無回答
			あいさつや声をかける	地域の子どもが悪いことをした時、叱ったり注意をする	地域の子どもが良いことをした時、ほめる	地域の子どもが困っている時に、相談にのったり手助けをする	地域の子どもと会ったり、話をするはない	
全体		931	51.7	19.1	20.6	18.6	38.1	2.5
区域	第1地区	500	45.4	16.4	17.0	17.0	44.0	2.8
	第2地区	317	60.9	23.7	25.6	21.5	29.0	1.6
	第3地区	105	55.2	19.0	22.9	19.0	36.2	3.8

問7 子育てをする人にとって、地域の支えは重要だと思いますか。(1つに○)

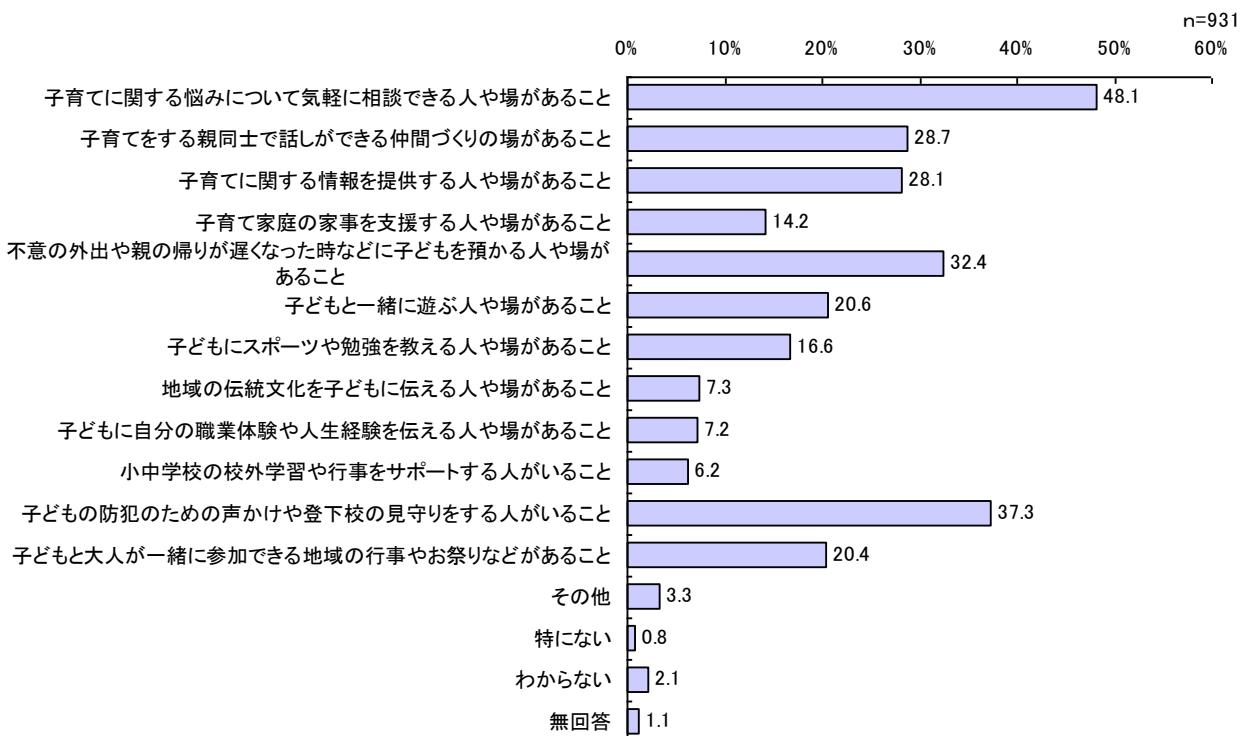
「とても重要だと思う」が62.6%である。「やや重要だと思う」24.9%と合わせると、『重要だと思う』が87.5%と約9割である。



問8 あなたは、地域で子育てを支えるために、どんなことが重要だと思いますか。この中から特に重要だと思うものを選んでください。(主なもの3つまでに○)

「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が48.1%、次いで「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」が37.3%、「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」が32.4%、「子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」28.7%、「子育てに関する情報を提供する人や場があること」28.1%などである。

上位は、相談体制、子どもの安全、子どもの預かり、子育ての仲間づくりや情報である。



男女でみると「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」は男性 39.4%、女性 54.2%、「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」は男性 28.4%、女性 34.9%、「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」は男性 32.5%、女性 40.1%、いずれも女性が男性を大きく上回る。

逆に「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」は男性 23.7%、女性 18.6%、「子どもにスポーツや勉強を教える人や場があること」は男性 20.7%、女性 14.1%と男性が女性を上回る。

年齢別では「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」は 18～19 歳を除いては、各年齢層とも最も多くあげられている。特に 50～59 歳では 56.3%と多く、「子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」も 37.1%と他年齢を上回る。

「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」や「子育てで家庭の家事を支援する人や場があること」は、30 歳以下の若年層に多い。また、「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」は 30～39 歳や 40～49 歳に比較的多い。

子どもの年齢では、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」や「子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」は、年齢が上がるほど多くなる傾向にある。また、「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」は、就学前児童に比較的多い。

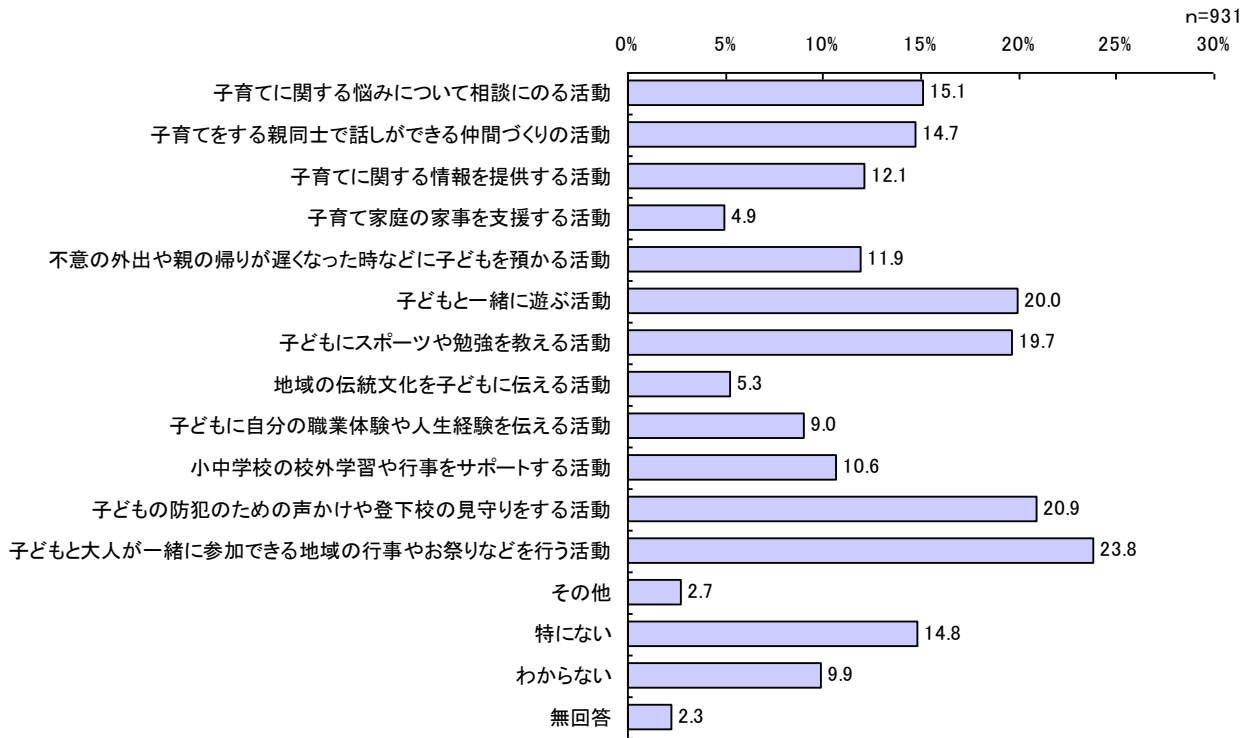
問 6 で地域の子どもたちに積極的に接していることがわかった子ども・子育て区域の第 2 地区では「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が 50.8%、次いで「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」36.6%、「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」32.2%、「子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」30.0%、「子育てに関する情報を提供する人や場があること」25.9%の順であり、全体と同順位である。

		回答者数（人）	子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること	子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること	子育てに関する情報を提供する人や場があること	子育て家庭の家事を支援する人や場があること	不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること	子どもと一緒に遊ぶ人や場があること	子どもにもスポーツや勉強を教える人や場があること	地域の伝統文化を子どもに伝える人や場があること	子どもに自分の職業体験や人生経験を伝える人や場があること	小中学校の校外学習や行事をサポートする人がいること	子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること	子どもと大人が一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること
全体		931	48.1	28.7	28.1	14.2	32.4	20.6	16.6	7.3	7.2	6.2	37.3	20.4
性別	男性	363	39.4	27.3	27.5	12.9	28.4	23.7	20.7	8.8	7.4	6.3	32.5	21.5
	女性	559	54.2	29.9	28.8	14.7	34.9	18.6	14.1	6.3	7.0	6.3	40.1	19.5
年齢	18～19歳	35	37.1	22.9	22.9	20.0	40.0	20.0	22.9	5.7	5.7	11.4	37.1	14.3
	20～29歳	111	53.2	21.6	27.9	22.5	39.6	24.3	18.0	2.7	9.0	2.7	41.4	18.0
	30～39歳	227	38.8	26.0	28.2	13.7	35.2	23.8	18.1	7.5	5.3	7.5	38.3	26.0
	40～49歳	310	49.0	27.7	26.1	12.6	31.0	19.7	16.5	10.3	8.1	7.1	36.8	20.0
	50～59歳	240	56.3	37.1	32.1	11.3	27.1	17.1	14.2	5.4	7.1	5.0	34.6	17.1
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	45.0	27.8	29.8	10.6	27.2	31.8	15.9	11.9	5.3	7.3	39.7	25.8
	就学前児童〔3歳以上〕	147	34.7	29.3	26.5	10.2	31.3	31.3	20.4	9.5	6.1	10.2	41.5	26.5
	小学生	181	42.0	25.4	26.5	10.5	29.3	22.7	21.5	11.0	13.3	10.5	44.8	22.1
	中学生	98	55.1	37.8	26.5	18.4	31.6	16.3	15.3	5.1	6.1	8.2	30.6	13.3
	高校生	106	52.8	35.8	28.3	9.4	27.4	23.6	16.0	5.7	10.4	6.6	44.3	17.0
	大学生・大学院生・～	130	56.9	38.5	28.5	10.8	24.6	21.5	14.6	6.9	6.2	4.6	39.2	16.9
	働いている	110	57.3	45.5	40.9	13.6	26.4	14.5	12.7	2.7	5.5	4.5	28.2	13.6
	就学・就労していない その他	13 6	61.5 83.3	7.7 33.3	30.8 16.7	30.8 0.0	23.1 33.3	30.8 0.0	15.4 33.3	15.4 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	23.1 66.7	7.7 33.3
区域	第1地区	500	47.2	28.8	30.0	13.6	33.8	21.6	16.4	6.0	7.4	4.6	37.8	19.8
	第2地区	317	50.8	30.0	25.9	15.1	32.2	21.5	16.1	8.2	7.3	8.5	36.6	19.2
	第3地区	105	47.6	25.7	26.7	12.4	26.7	13.3	20.0	10.5	5.7	7.6	35.2	24.8

		その他	特 に ない	わ か ら ない	無 回 答
全体		3.3	0.8	2.1	1.1
性別	男性	3.9	1.4	2.8	1.9
	女性	3.0	0.2	1.8	0.5
年齢	18～19歳	0.0	0.0	5.7	0.0
	20～29歳	0.9	0.0	0.9	0.0
	30～39歳	4.4	0.4	2.6	0.9
	40～49歳	2.9	1.0	2.3	0.3
	50～59歳	4.6	0.8	1.7	2.9
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	5.3	0.0	0.7	0.0
	就学前児童〔3歳以上〕	3.4	0.0	0.0	0.7
	小学生	3.3	0.6	1.1	0.0
	中学生	6.1	0.0	2.0	0.0
	高校生	2.8	0.0	0.0	0.0
	大学生・大学院生・～	5.4	0.8	0.0	0.8
	働いている	4.5	0.9	0.0	2.7
	就学・就労していない その他	0.0 0.0	7.7 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0
区域	第1地区	2.8	1.0	1.8	1.2
	第2地区	2.8	0.0	2.2	0.6
	第3地区	7.6	1.0	3.8	1.9

問9 地域社会における子育てに関する活動の支え手として、あなたが参加したいと思う活動はありますか。この中から参加してみたいものを選んでください。(主なもの3つまでに○)

「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどを行う活動」が23.8%と最も多いが2割程度にとどまっている。以下、「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする活動」20.9%、「子どもと一緒に遊ぶ活動」20.0%、「子どもにスポーツや勉強を教える活動」19.7%、「子育てに関する悩みについて相談にのる活動」15.1%などである。



子ども・子育て区域では、「子どもと一緒に遊ぶ活動」や「子どもにスポーツや勉強を教える活動」など、多くの項目で第2地区で第1地区及び第3地区を上回る。

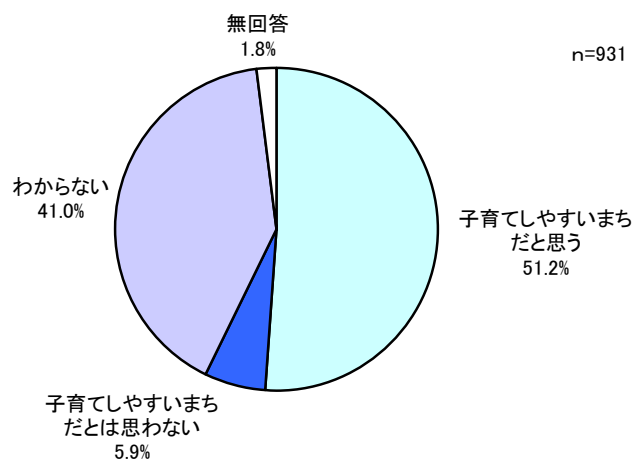
		回答者数(人)	子育てに関する悩みについて相談にのる活動	子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの活動	子育てに関する情報を提供する活動	子育て家庭の家事を支援する活動	不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる活動	子どもと一緒に遊ぶ活動	子どもにスポーツや勉強を教える活動	地域の伝統文化を子どもに伝える活動	子どもに自分の職業体験や人生経験を伝える活動	小中学校の校外学習や行事をサポートする活動	子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする活動	子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどを行う活動
全体		931	15.1	14.7	12.1	4.9	11.9	20.0	19.7	5.3	9.0	10.6	20.9	23.8
区域	第1地区	500	15.4	14.8	13.4	4.8	11.4	19.2	18.2	5.2	9.6	10.6	21.4	23.6
	第2地区	317	15.8	15.1	11.4	4.4	13.2	22.1	23.0	5.4	7.9	10.7	21.8	23.7
	第3地区	105	13.3	13.3	8.6	6.7	10.5	17.1	18.1	5.7	9.5	9.5	16.2	23.8

		その他	特にない	わからない	無回答
全体		2.7	14.8	9.9	2.3
区域	第1地区	2.2	16.8	9.8	2.2
	第2地区	2.8	11.4	9.1	2.5
	第3地区	3.8	15.2	13.3	1.9

5. 稲城市の子育てのしやすさ・定住意向について

問 10 あなたは稲城市が子育てしやすいまちだと思いますか。(1つに○)

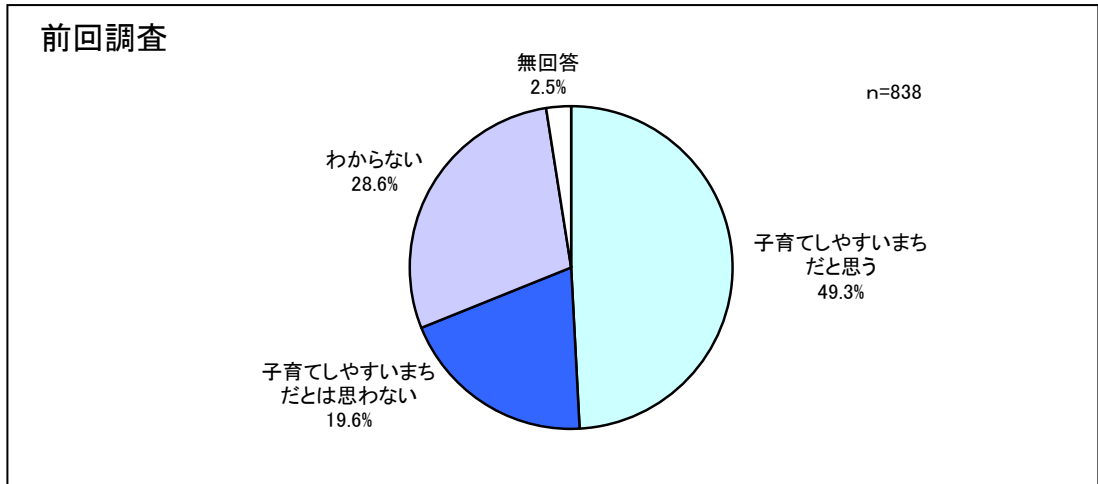
「子育てしやすいまちだと思う」51.2%が「子育てしやすいまちだとは思わない」5.9%を大きく上回り、「わからない」は41.0%である。



男女では、ほとんど差がないが、年齢では年齢とともに「わからない」が減少、「子育てしやすいまちだと思う」が多くなる。

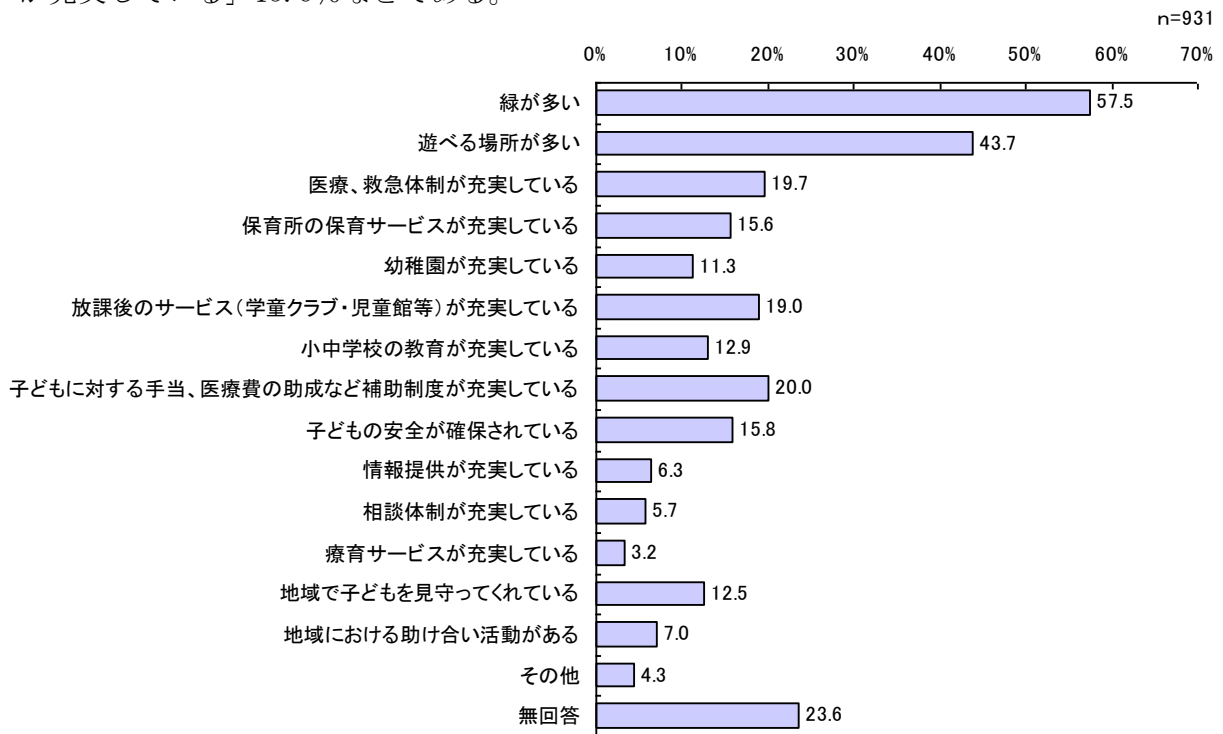
単位: %

		回答者数 (人)	子育てしやすいまち だと思う	子育てしやすいまち だとは思わない	わからない	無回答
全体		931	51.2	5.9	41.0	1.8
性別	男性	363	50.1	6.1	41.3	2.5
	女性	559	52.1	5.7	40.8	1.4
年齢	18～19歳	35	37.1	2.9	60.0	0.0
	20～29歳	111	37.8	2.7	58.6	0.9
	30～39歳	227	46.3	10.1	41.9	1.8
	40～49歳	310	57.7	5.8	35.2	1.3
	50～59歳	240	56.3	3.8	36.7	3.3
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	59.6	11.9	27.2	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	64.6	10.2	25.2	0.0
	小学生	181	63.5	10.5	24.9	1.1
	中学生	98	62.2	9.2	25.5	3.1
	高校生	106	65.1	7.5	26.4	0.9
	大学生・大学院生・～	130	63.8	5.4	28.5	2.3
	働いている	110	63.6	2.7	31.8	1.8
	就学・就労していない	13	46.2	0.0	46.2	7.7
その他	6	33.3	0.0	66.7	0.0	



問 10-1 子育てしやすいまちだと思うのは、具体的にはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

多くあげられているのは、「緑が多い」57.5%、「遊べる場所が多い」43.7%である。以下、「子どもに対する手当、医療費の助成など補助制度が充実している」20.0%、「医療、救急体制が充実している」19.7%、「放課後のサービス（学童クラブ・児童館・放課後子ども教室等）が充実している」19.0%、「子どもの安全が確保されている」15.8%、「保育所の保育サービスが充実している」15.6%などである。



子どもの年齢でも共通して多く上げられているのは「緑が多い」及び「遊べる場所が多い」である。また、特徴として、各当事者が比較的高い評価をしていることである。例えば、就学前児童では「保育所の保育サービスが充実している」、小学生では「放課後のサービスが充実している」などである。しかし一方、「情報提供が充実している」や「相談体制が充実している」は、いずれの年齢も1ケタ台にとどまっている。

単位：%

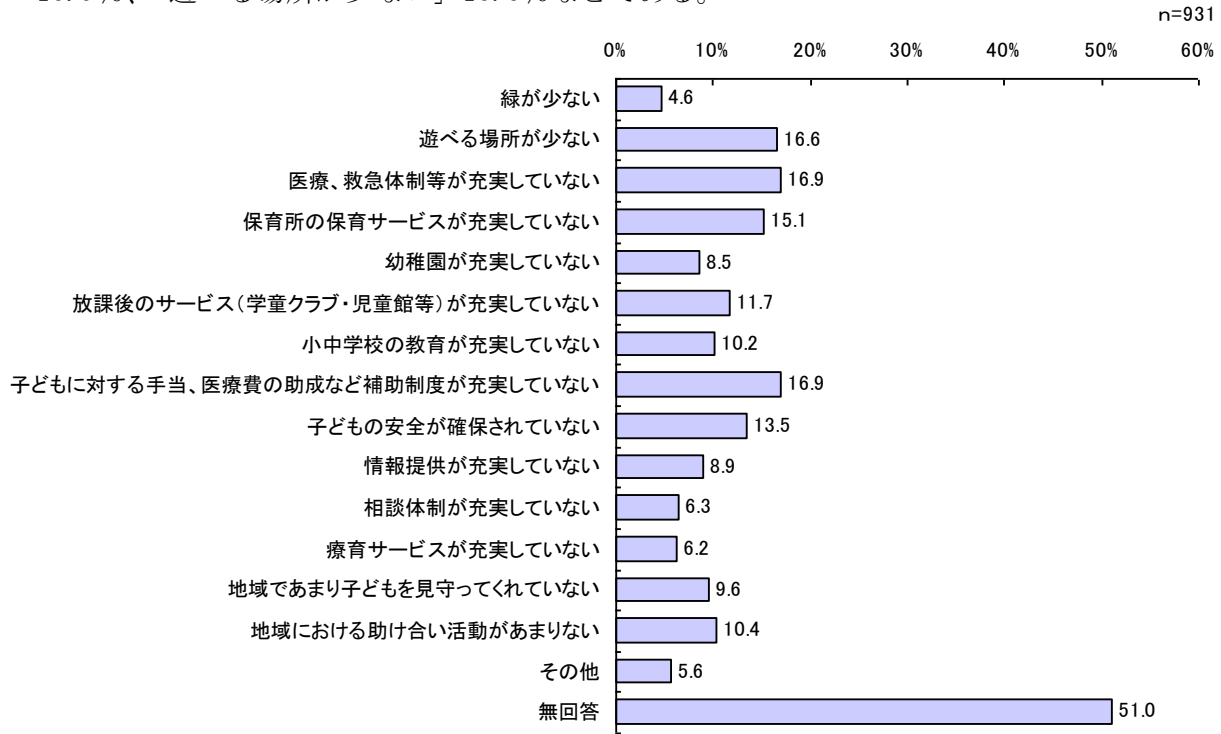
	回答者数（人）	緑が多い	遊べる場所が多い	医療、救急体制が充実している	保育所の保育サービスが充実している	幼稚園が充実している	放課後のサービス（学童クラブ・児童館等）が充実している	小中学校の教育が充実している	子どもに対する手当、医療費の助成など補助制度が充実している	子どもの安全が確保されている	情報提供が充実している	相談体制が充実している	療育サービスが充実している	
全体	931	57.5	43.7	19.7	15.6	11.3	19.0	12.9	20.0	15.8	6.3	5.7	3.2	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	151	64.9	43.0	15.9	22.5	13.2	13.9	4.0	23.8	10.6	7.3	9.9	4.0
	就学前児童〔3歳以上〕	147	63.9	49.7	20.4	20.4	17.7	21.1	10.2	28.6	15.0	5.4	4.8	2.0
	小学生	181	64.1	45.3	18.8	14.9	11.0	40.3	18.2	28.7	17.1	9.9	5.5	2.8
	中学生	98	61.2	48.0	17.3	7.1	8.2	23.5	19.4	28.6	16.3	7.1	1.0	1.0
	高校生	106	61.3	46.2	17.0	14.2	7.5	20.8	20.8	23.6	16.0	6.6	1.9	1.9
	大学生・大学院生・～	130	61.5	47.7	16.9	13.8	6.2	16.2	16.2	14.6	19.2	5.4	3.8	3.1
	働いている	110	66.4	46.4	14.5	10.9	7.3	14.5	12.7	10.9	15.5	2.7	2.7	1.8
	就学・就労していない	13	46.2	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	23.1	7.7	0.0	0.0	0.0
その他	6	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

単位：%

	地域で子どもを見守ってくれている	地域における助け合い活動がある	その他	無回答	
全体	12.5	7.0	4.3	23.6	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	7.9	5.3	8.6	19.2
	就学前児童〔3歳以上〕	14.3	5.4	6.1	15.6
	小学生	15.5	6.6	3.9	12.2
	中学生	18.4	8.2	4.1	14.3
	高校生	14.2	7.5	1.9	15.1
	大学生・大学院生・～	11.5	4.6	4.6	20.8
	働いている	10.0	6.4	3.6	19.1
	就学・就労していない	0.0	0.0	0.0	38.5
その他	0.0	0.0	0.0	50.0	

問 10-2 子育てしやすいまちだと思わないのは、具体的にはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

無回答が5割を超え、2割を超える回答はない。最も多いのは、「医療、救急体制等が充実していない」「子どもに対する手当、医療費の助成など補助制度が充実していない」とともに16.9%、「遊べる場所が少ない」16.6%などである。



子どもの年齢では、就学前児童(0～2歳)では「保育所の保育サービスが充実していない」28.5%が最も多いが、就学前児童(3歳以上)になると、「子どもに対する手当、医療費の助成など補助制度が充実していない」が多くなる。また、小学生では「遊べる場所が少ない」25.4%が最も多い。

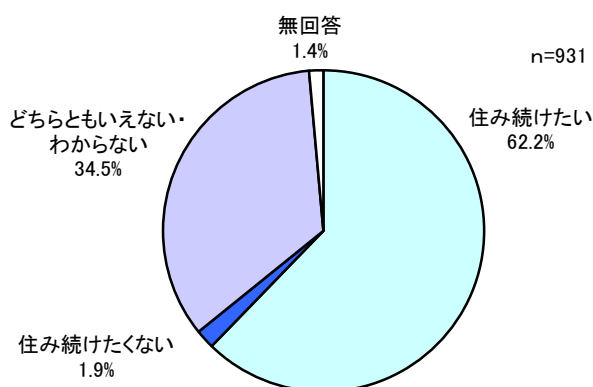
		回答者数(人)	緑が少ない	遊べる場所が少ない	医療、救急体制等が充実していない	保育所の保育サービスが充実していない	幼稚園が充実していない	放課後のサービス(学童クラブ・児童館等)が充実していない	小中学校の教育が充実していない	子どもに対する手当、医療費の助成など補助制度が充実していない	子どもの安全が確保されていない	情報提供が充実していない	相談体制が充実していない	療育サービスが充実していない
全体		931	4.6	16.6	16.9	15.1	8.5	11.7	10.2	16.9	13.5	8.9	6.3	6.2
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	3.3	17.9	18.5	28.5	12.6	14.6	8.6	19.9	12.6	11.9	9.3	6.0
	就学前児童[3歳以上]	147	1.4	16.3	18.4	21.1	10.9	18.4	8.2	24.5	16.3	10.2	7.5	8.2
	小学生	181	3.3	25.4	23.2	11.6	9.4	18.2	15.5	24.3	16.6	8.8	7.7	11.6
	中学生	98	2.0	19.4	22.4	9.2	3.1	10.2	19.4	24.5	11.2	11.2	6.1	10.2
	高校生	106	1.9	8.5	14.2	5.7	2.8	13.2	12.3	19.8	10.4	9.4	2.8	5.7
	大学生・大学院生・～	130	3.1	8.5	16.9	9.2	5.4	10.8	13.8	14.6	9.2	10.0	3.8	2.3
	働いている	110	3.6	8.2	10.0	10.0	3.6	7.3	7.3	3.6	5.5	5.5	5.5	4.5
	就学・就労していない	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7
その他	6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位: %

		地域であまり子どもを見守ってくれていない	地域における助け合い活動があまりない	その他	無回答
全体		9.6	10.4	5.6	51.0
子ども年齢	就学前児童[0~2歳]	12.6	13.2	11.3	37.7
	就学前児童[3歳以上]	9.5	9.5	8.2	37.4
	小学生	9.9	8.8	6.1	34.3
	中学生	11.2	10.2	7.1	40.8
	高校生	3.8	6.6	3.8	50.0
	大学生・大学院生・~	11.5	13.1	5.4	53.8
	働いている	2.7	7.3	4.5	67.3
	就学・就労していない	7.7	15.4	0.0	76.9
	その他	0.0	16.7	0.0	50.0

問 11 これからも、稲城市に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

「住み続けたい」が62.2%、「住み続けたくない」はわずか1.9%である。「どちらともいえない・わからない」は34.5%である。

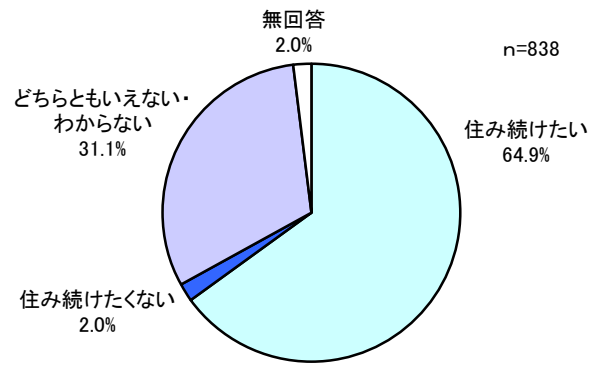


子ども・子育て区域では「住み続けたい」は、第2地区が最も多く67.8%、次いで第1地区の61.6%、第3地区は、第1地区及び第2地区とやや差がある49.5%にとどまる。第3地区は「どちらともいえない・わからない」が「住み続けたい」とほぼ同じ48.6%であることによる。

単位: %

		回答者数(人)	住み続けたい	住み続けたくない	どちらともいえない・わからない	無回答
全体		931	62.2	1.9	34.5	1.4
区域	第1地区	500	61.6	1.8	34.8	1.8
	第2地区	317	67.8	2.5	28.7	0.9
	第3地区	105	49.5	1.0	48.6	1.0

前回調査



6. 若者の自立について

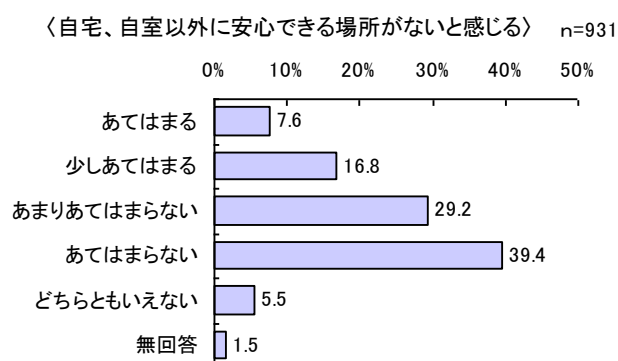
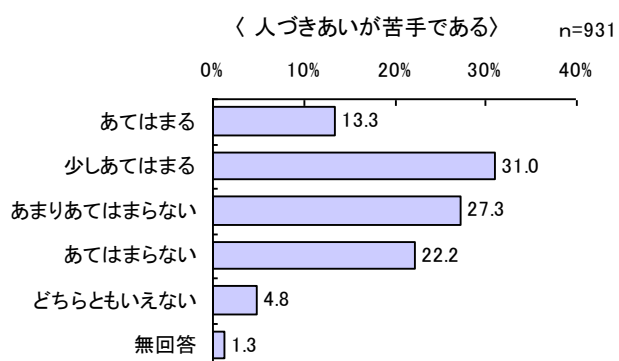
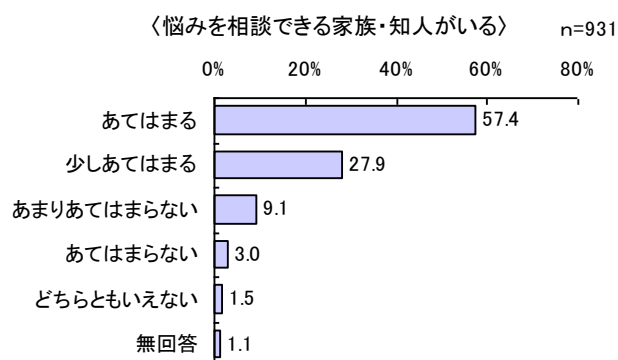
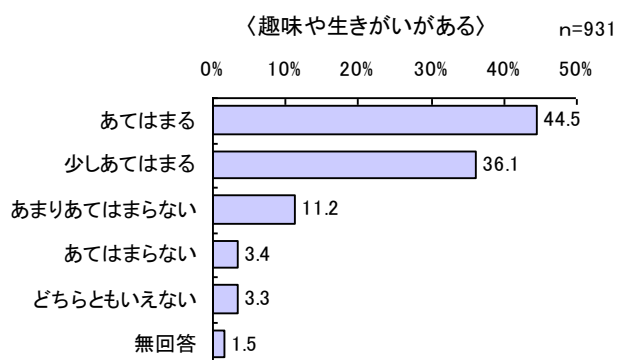
●すべての方におうかがいします。

問 12 次の(1)～(4)について、あなたのご自身の状況に近いものを選んでください。(それぞれ1つに○)

「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた『あてはまる』は「趣味や生きがい、楽しみがある」が80.6%、「悩みや困り事を相談できる家族や知人がいる」が85.3%に対し、「人づきあいが苦手である」は44.3%、「自宅、自室以外に安心できる場所がないと感じる」は24.4%である。

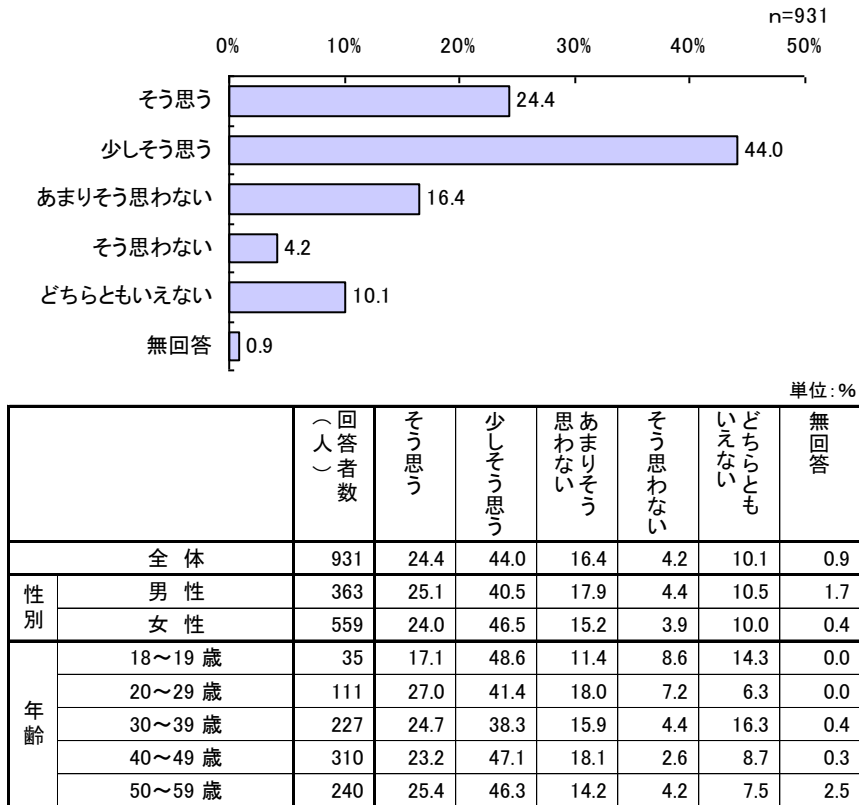
「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』は「自宅、自室以外に安心できる場所がないと感じる」が68.6%、「人づきあいが苦手である」が49.5%である。

「人づきあいが苦手である」については『あてはまる』が44.3%と『あてはまらない』の49.5%に近い。



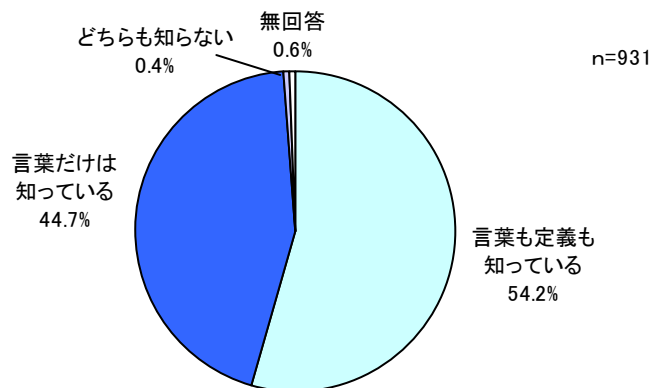
問 13 「最近、社会的に自立していない若者が増えている」という考え方について、あなたは
どう思いますか。(1つに○)

「そう思う」24.4%、「少しそう思う」44.0%、「あまりそう思わない」16.4%、「そう思わ
ない」4.2%である。「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた肯定的な回答が68.4%と7割
である。これに対し、「あまりそう思わない」「そう思わない」の否定的な回答は20.6%である。



問 14 「ひきこもり (※1)」という言葉や定義をご存じですか。(1つに○)

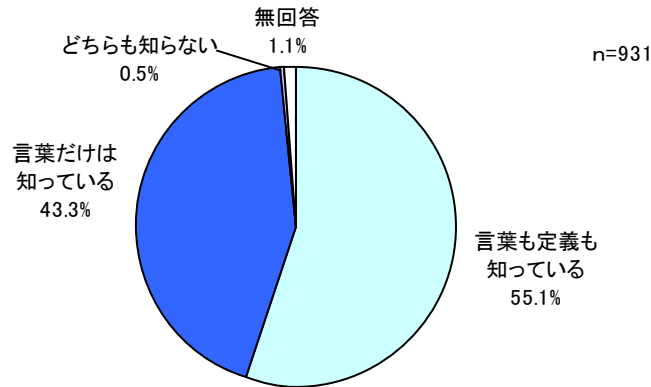
「言葉も定義も知っている」54.2%、「言葉だけは知っている」44.7%である。「どちらも知らない」はわずか0.4%である。



※1 「ひきこもり」…「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであり、時々買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含めます。
一度社会に出た後に、ひきこもりになってしまうケースもあり、近年30歳代、40歳代のひきこもりの方も増えています。

問 15 「ニート（※2）」という言葉や定義をご存じですか。（1つに○）

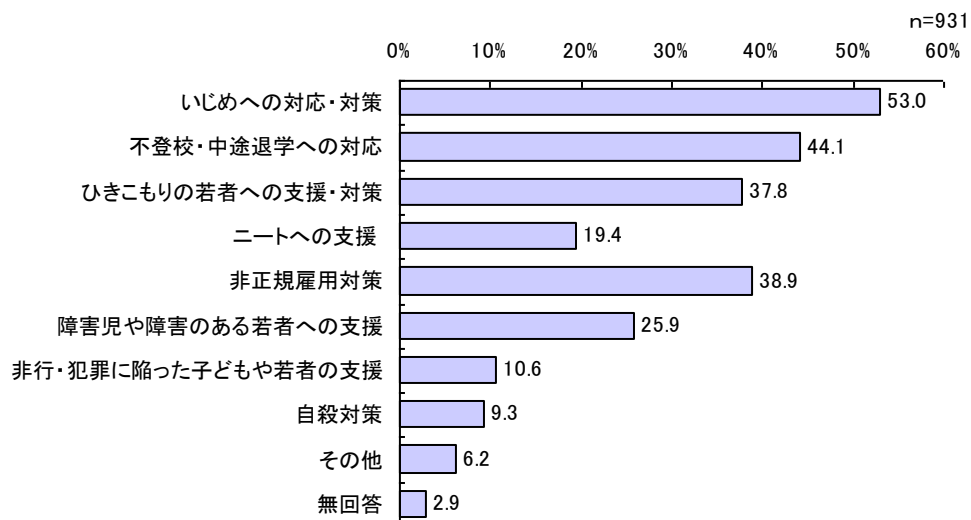
「言葉も定義も知っている」55.1%、「言葉だけは知っている」43.3%、「どちらも知らない」0.5%である。問 14 の「ひきこもり」とほぼ同じ回答となっている。



※2 「ニート」…「15～34 歳で、非労働力人口（病気などの理由で就業できない者と就業能力があるにも関わらず働く意思がない者を合計した人口）のうち家事も通学もしていない人」を指します。平成 27 年現在、国の統計では約 75 万人、15～34 歳人口に占める割合は 2.1%とされていますが、実際にはこれよりも多いことが推測されます。

問 16 社会的に自立していない若者への支援で、特に重要と思われるものは何だとお考えですか。（主なもの3つまでに○）

「いじめへの対応・対策」が最も多く 53.0%、次いで「不登校・中途退学への対応」44.1%、「非正規雇用対策」38.9%、「ひきこもりの若者への支援・対策」37.8%などである。



子どもの年齢では、いずれも「いじめへの対応・対策」が最も多くあげられ、就学前児童の3歳以上で65.3%、0～2歳で60.9%、小学生59.7%と続く。「ひきこもりの若者への支援・対策」「ニートへの支援」は、比較的高校生に多い。

また、就学・就業していないは、「不登校・中途退学への対応」「ひきこもりの若者への支援・対策」「ニートへの支援」「非正規雇用対策」がいずれも46.2%、「いじめへの対応・対策」が38.5%となっている。

単位：%

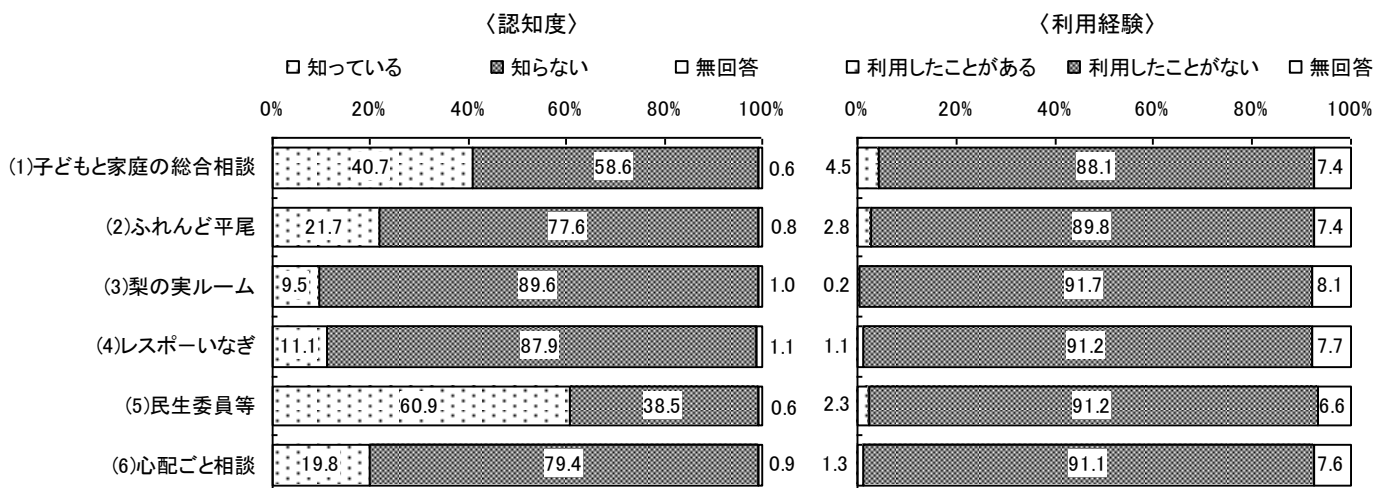
	回答者数(人)	いじめへの対応・対策	不登校・中途退学への対応	ひきこもりの若者への支援・対策	ニートへの支援	非正規雇用対策	障害児や障害のある若者への支援	非行・犯罪に陥った子どもや若者の支援	自殺対策	その他	無回答	
全体	931	53.0	44.1	37.8	19.4	38.9	25.9	10.6	9.3	6.2	2.9	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	60.9	48.3	37.1	15.9	34.4	31.1	13.2	9.3	5.3	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	65.3	49.7	36.7	12.9	30.6	27.2	15.6	12.2	6.1	2.0
	小学生	181	59.7	51.9	38.1	18.8	34.8	23.8	12.2	7.7	8.8	1.7
	中学生	98	55.1	46.9	34.7	17.3	37.8	26.5	10.2	5.1	9.2	1.0
	高校生	106	52.8	51.9	42.5	21.7	36.8	29.2	9.4	1.9	5.7	2.8
	大学生・大学院生・～	130	43.8	47.7	34.6	21.5	43.8	28.5	5.4	4.6	6.2	2.3
	働いている	110	45.5	38.2	38.2	21.8	43.6	22.7	9.1	4.5	3.6	5.5
	就学・就労していない	13	38.5	46.2	46.2	46.2	46.2	15.4	7.7	0.0	0.0	7.7
	その他	6	33.3	16.7	50.0	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

問 17 社会的自立に向けた相談支援機関やサービスについておうかがいします。あなたは次のサービスについて知っていますか。また、利用したことがありますか。(それぞれ1つに○)

A. 稲城市が行っている相談支援機関やサービス

「知っている」が最も多いのは「民生委員・児童委員」の60.9%、次いで「稲城市子ども家庭支援センター（子どもと家庭の総合相談）」40.7%、「稲城市教育センター（ふれんど平尾）教育相談室」21.7%などの順である。

「利用したことがある」はいずれも少なく、最も多い「稲城市子ども家庭支援センター（子どもと家庭の総合相談）」で、わずか4.5%である。



子どもの年齢では「子どもと家庭の総合相談」は、就学前児童から中学生までは「知っている」が「知らない」を上回る。しかし、「知らない」は就学前児童の0～2歳で33.8%、3歳以上で36.7%、小学生で36.5%、中学生で42.9%となっている。

「ふれんど平尾」「梨の実ルーム」「レスポーいなぎ」「民生委員等」「心配ごと相談」いずれの年齢も「知らない」が「知っている」を上回り、概して就学前児童の「知らない」が多い。

単位：%

		回答者数 (人)	知っている	知らない	無回答
(1)子どもと家庭の総合相談		931	40.7	58.6	0.6
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	65.6	33.8	0.7
	就学前児童[3歳以上]	147	63.3	36.7	0.0
	小学生	181	63.5	36.5	0.0
	中学生	98	56.1	42.9	1.0
	高校生	106	49.1	50.0	0.9
	大学生・大学院生・～	130	37.7	62.3	0.0
	働いている	110	30.0	69.1	0.9
	就学・就労していない	13	38.5	61.5	0.0
	その他	6	0.0	100.0	0.0
(2)ふれんど平尾		931	21.7	77.6	0.8
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	14.6	84.8	0.7
	就学前児童[3歳以上]	147	28.6	71.4	0.0
	小学生	181	39.8	60.2	0.0
	中学生	98	37.8	60.2	2.0
	高校生	106	32.1	67.0	0.9
	大学生・大学院生・～	130	26.9	73.1	0.0
	働いている	110	21.8	77.3	0.9
	就学・就労していない	13	30.8	69.2	0.0
	その他	6	16.7	83.3	0.0
(3)梨の実ルーム		931	9.5	89.6	1.0
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	5.3	93.4	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	7.5	92.5	0.0
	小学生	181	15.5	84.5	0.0
	中学生	98	17.3	80.6	2.0
	高校生	106	17.9	81.1	0.9
	大学生・大学院生・～	130	19.2	80.8	0.0
	働いている	110	10.9	88.2	0.9
	就学・就労していない	13	7.7	84.6	7.7
	その他	6	0.0	100.0	0.0

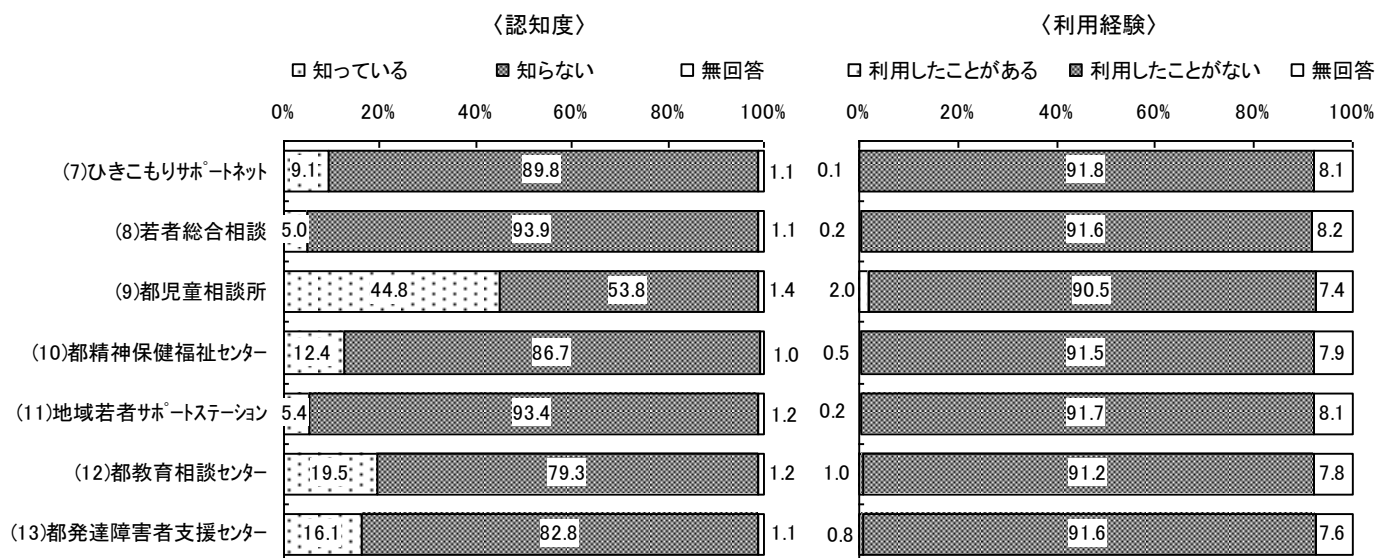
単位：%

		回答者数 (人)	知っている	知らない	無回答
(4)レスポーいなぎ		931	11.1	87.9	1.1
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	9.3	88.7	2.0
	就学前児童[3歳以上]	147	19.0	81.0	0.0
	小学生	181	22.7	77.3	0.0
	中学生	98	13.3	84.7	2.0
	高校生	106	17.9	81.1	0.9
	大学生・大学院生・～	130	13.8	86.2	0.0
	働いている	110	10.0	89.1	0.9
	就学・就労していない	13	7.7	84.6	7.7
	その他	6	16.7	83.3	0.0
(5)民生委員等		931	60.9	38.5	0.6
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	50.3	48.3	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	60.5	39.5	0.0
	小学生	181	76.2	23.8	0.0
	中学生	98	79.6	20.4	0.0
	高校生	106	78.3	21.7	0.0
	大学生・大学院生・～	130	73.8	26.2	0.0
	働いている	110	76.4	22.7	0.9
	就学・就労していない	13	84.6	15.4	0.0
	その他	6	50.0	50.0	0.0
(6)心配ごと相談		931	19.8	79.4	0.9
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	11.9	86.8	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	11.6	88.4	0.0
	小学生	181	23.8	76.2	0.0
	中学生	98	19.4	80.6	0.0
	高校生	106	26.4	73.6	0.0
	大学生・大学院生・～	130	24.6	75.4	0.0
	働いている	110	33.6	65.5	0.9
	就学・就労していない	13	30.8	69.2	0.0
	その他	6	16.7	83.3	0.0

B. 国や東京都の相談支援機関やサービス

「知っている」が最も多いのは「東京都の児童相談所」44.8%が他を大きく引き離している。次は、やや差があつて「東京都教育相談センター」19.5%、「東京都発達障害者支援センター」16.1%、「東京都の精神保健福祉センター」12.4%などであり、若者関連の「地域若者サポートステーション」や「東京都若者総合相談（若ナビ）」は各5.4%、5.0%と認知度は低い。

「利用したことがある」はいずれも少なく、「東京都の児童相談所」2.0%が最も多い。



子どもの年齢でみると、「都児童相談所」は子どもの年齢にあまり関係なく「知っている」が44.8%と、おおよそ2人に1人が知っている。一方、「ひきこもりサポートネット」「若者総合相談」「都児童相談所」「地域若者サポートステーション」についての「知っている」は、いずれも就学・就労していない人に多い。

単位: %

	回答者数 (人)	知っている	知らない	無回答	
(7)ひきこもりサポートネット	931	9.1	89.8	1.1	
子ども年齢	就学前児童[0~2歳]	151	7.3	91.4	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	8.2	91.8	0.0
	小学生	181	8.3	91.7	0.0
	中学生	98	9.2	90.8	0.0
	高校生	106	13.2	85.8	0.9
	大学生・大学院生・~	130	8.5	89.2	2.3
	働いている	110	9.1	87.3	3.6
	就学・就労していない	13	30.8	69.2	0.0
	その他	6	16.7	83.3	0.0
(8)若者総合相談	931	5.0	93.9	1.1	
子ども年齢	就学前児童[0~2歳]	151	2.6	95.4	2.0
	就学前児童[3歳以上]	147	3.4	96.6	0.0
	小学生	181	3.3	96.1	0.6
	中学生	98	4.1	95.9	0.0
	高校生	106	2.8	96.2	0.9
	大学生・大学院生・~	130	6.2	92.3	1.5
	働いている	110	6.4	90.9	2.7
	就学・就労していない	13	15.4	84.6	0.0
	その他	6	16.7	83.3	0.0

単位: %

	回答者数 (人)	知っている	知らない	無回答	
(9)都児童相談所	931	44.8	53.8	1.4	
子ども年齢	就学前児童[0~2歳]	151	41.1	57.6	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	44.9	55.1	0.0
	小学生	181	44.8	55.2	0.0
	中学生	98	37.8	62.2	0.0
	高校生	106	48.1	50.9	0.9
	大学生・大学院生・~	130	53.8	43.8	2.3
	働いている	110	53.6	42.7	3.6
	就学・就労していない	13	61.5	38.5	0.0
	その他	6	50.0	50.0	0.0
(10)都精神保健福祉センター	931	12.4	86.7	1.0	
子ども年齢	就学前児童[0~2歳]	151	9.3	89.4	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	9.5	90.5	0.0
	小学生	181	9.4	90.6	0.0
	中学生	98	14.3	85.7	0.0
	高校生	106	14.2	84.9	0.9
	大学生・大学院生・~	130	14.6	83.8	1.5
	働いている	110	13.6	83.6	2.7
	就学・就労していない	13	7.7	92.3	0.0
	その他	6	33.3	66.7	0.0

単位：%

	回答者数 (人)	知っている	知らない	無回答	
(11)地域若者サポートステーション	931	5.4	93.4	1.2	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	2.6	95.4	2.0
	就学前児童[3歳以上]	147	2.0	98.0	0.0
	小学生	181	3.3	96.7	0.0
	中学生	98	7.1	92.9	0.0
	高校生	106	3.8	95.3	0.9
	大学生・大学院生・～	130	4.6	93.8	1.5
	働いている	110	7.3	90.0	2.7
	就学・就労していない	13	7.7	92.3	0.0
	その他	6	0.0	100.0	0.0
	(12)都教育相談センター	931	19.5	79.3	1.2
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	11.3	87.4	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	13.6	86.4	0.0
	小学生	181	19.9	80.1	0.0
	中学生	98	21.4	78.6	0.0
	高校生	106	25.5	73.6	0.9
	大学生・大学院生・～	130	25.4	72.3	2.3
	働いている	110	24.5	71.8	3.6
	就学・就労していない	13	15.4	84.6	0.0
	その他	6	16.7	83.3	0.0

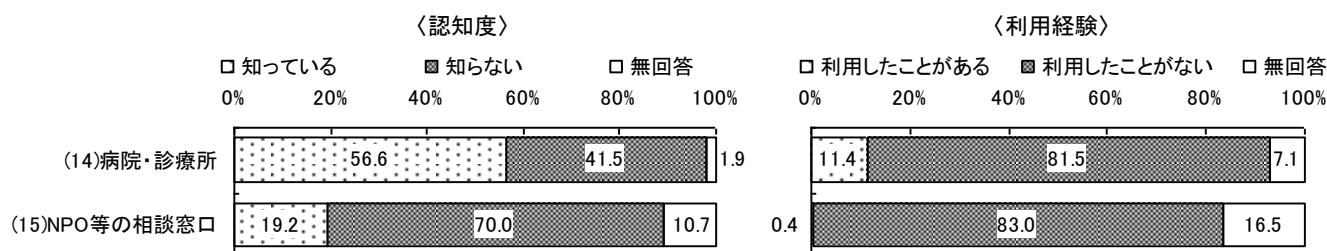
単位：%

	回答者数 (人)	知っている	知らない	無回答	
(13)都発達障害者支援センター	931	16.1	82.8	1.1	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	11.9	86.8	1.3
	就学前児童[3歳以上]	147	16.3	83.7	0.0
	小学生	181	15.5	84.5	0.0
	中学生	98	16.3	83.7	0.0
	高校生	106	17.0	82.1	0.9
	大学生・大学院生・～	130	16.9	81.5	1.5
	働いている	110	14.5	82.7	2.7
	就学・就労していない	13	15.4	84.6	0.0
	その他	6	16.7	83.3	0.0

C. その他の機関やサービス

「病院・診療所」は、「知っている」56.6%が「知らない」41.5%を上回る。「利用したことがある」は11.4%、「市内」か「市外」かを聞いたところ、「市内」48.1%、「市外」46.2%と拮抗している。

「不登校やひきこもりの子ども・若者を支援する NPO 等の相談窓口」については、「知っている」19.2%であるが、「利用したことがある」は、わずか0.4%である。



「病院・診療所」は、「知っている」がいずれも5割を超える。「NPO等の相談窓口」の「知っている」は、大学生・大学院生の21.5%が最も多く、就学前児童や就学・就労していない人に少ない。

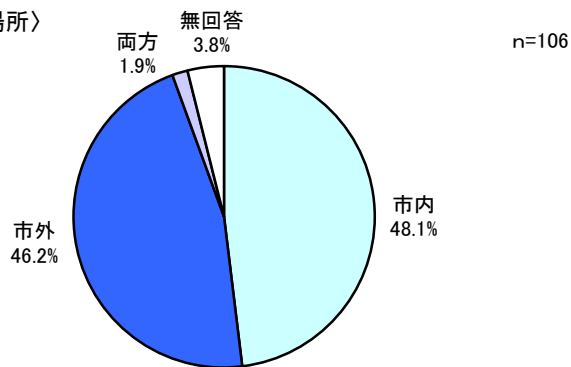
単位：%

		回答者数 (人)	知っている	知らない	無回答
(14)病院・診療所		931	56.6	41.5	1.9
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	57.6	41.7	0.7
	就学前児童[3歳以上]	147	55.8	43.5	0.7
	小学生	181	52.5	47.0	0.6
	中学生	98	55.1	41.8	3.1
	高校生	106	53.8	45.3	0.9
	大学生・大学院生・～	130	56.2	41.5	2.3
	働いている	110	52.7	44.5	2.7
	就学・就労していない	13	53.8	46.2	0.0
	その他	6	66.7	33.3	0.0

単位：%

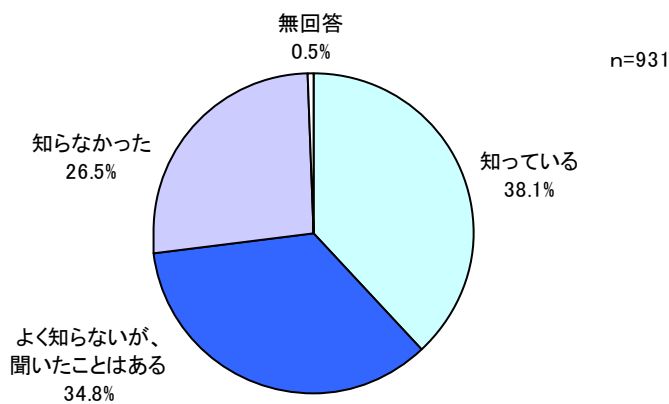
		回答者数 (人)	知っている	知らない	無回答
(15)NPO等の相談窓口		931	19.2	70.0	10.7
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	151	13.9	73.5	12.6
	就学前児童[3歳以上]	147	10.9	72.8	16.3
	小学生	181	18.8	73.5	7.7
	中学生	98	15.3	78.6	6.1
	高校生	106	19.8	70.8	9.4
	大学生・大学院生・～	130	21.5	66.2	12.3
	働いている	110	20.9	71.8	7.3
	就学・就労していない	13	7.7	84.6	7.7
	その他	6	16.7	83.3	0.0

〈病院・診療所の場所〉



問 18 あなたは「成年後見制度」をご存じですか。(1つに○)

「知っている」38.1%、「よく知らないが聞いたことはある」34.8%、「知らなかった」26.5%である。



7. 自由記入内容のまとめ

市の今後の「子育て・若者支援」施策への意見等を、自由記入方式でたずねた。その内容を項目別にまとめると、以下のようになる。

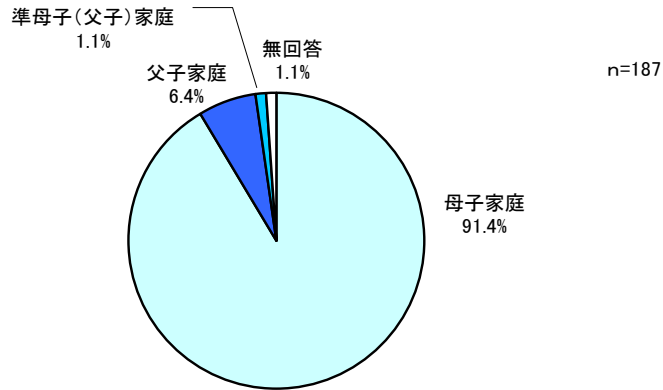
分類	件数
保育所の増園、待機児童の解消	29
手当・助成・経済的支援	23
生活環境について	22
子どもの遊び場	16
子育て以外の支援	14
病院・医療	13
相談体制	11
情報提供など	10
小中学校その他	10
学童、放課後子ども教室	9
障害、発達障害	9
いじめ、不登校など	8
教育	7
サービス	7
その他、子ども関連	7
市について	7
一時保育、病児保育など	5
乳幼児その他	5
仕事と家庭の両立など	5
将来の不安など	5
交通事故、犯罪、非行など	5
子育て以外の家庭の悩み	5
アンケートについて	5
仕事について	5
交流など	5
学区について	4
ボランティア、支援参加	4
結婚、不妊等への支援など	4
安全・防犯等	4
親の交流など	3

VI 「ひとり親支援調査」の結果

1. あなたご自身・世帯のことについて

ア 世帯区分は。(1つに〇)

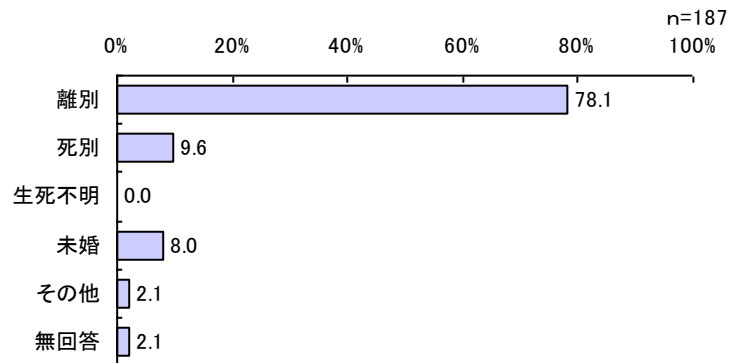
「母子家庭」91.4%、「父子家庭」6.4%、「準母子（父子）家庭」1.1%である。



※ 準母子（父子）家庭とは、祖母（祖父）が未成年の孫を養育、未婚の姉（兄）が未成年の兄弟姉妹を養育するケースなどを指します。

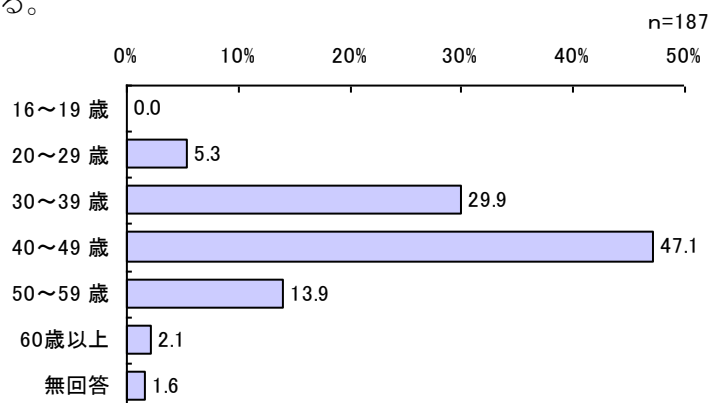
イ ひとり親になった理由は、次のどれにあたりますか。(1つに〇)

「離別」78.1%、「死別」9.6%、「未婚」8.0%である。



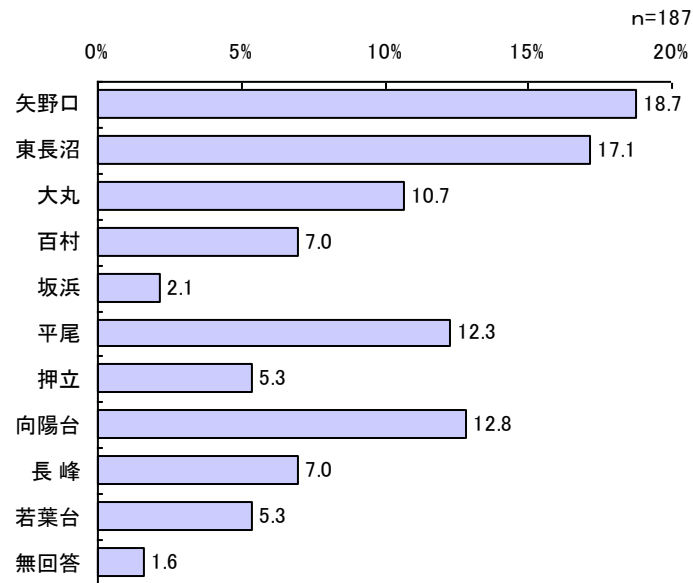
ウ あなたの年齢（平成29年2月1日現在）は。(1つに〇)

「40～49歳」47.1%、「30～39歳」29.9%、「50～59歳」13.9%、「20～29歳」5.3%、「60歳以上」2.1%である。



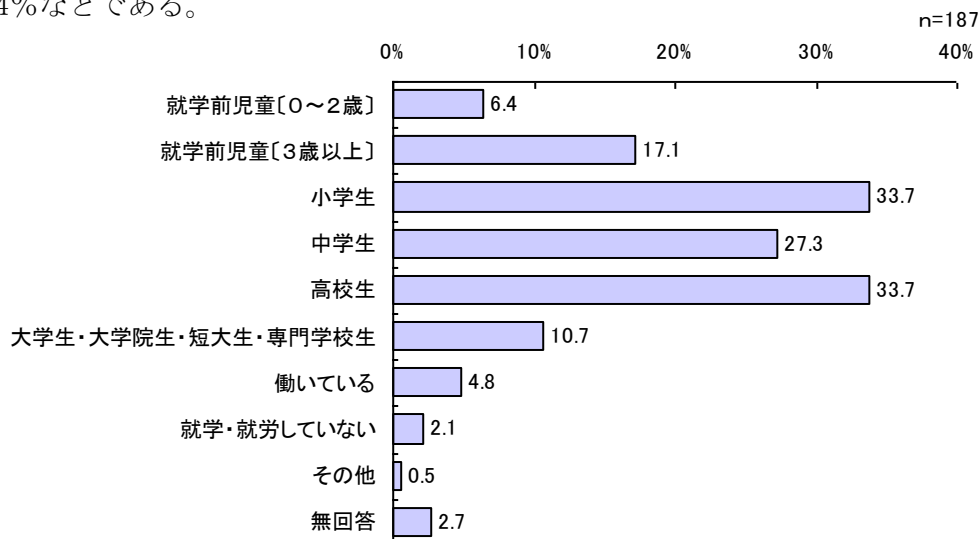
エ あなたのお住まいの地区はどちらですか。(1つに○)

「矢野口」18.7%、「東長沼」17.1%、「向陽台」12.8%、「平尾」12.3%、「大丸」10.7%などである。

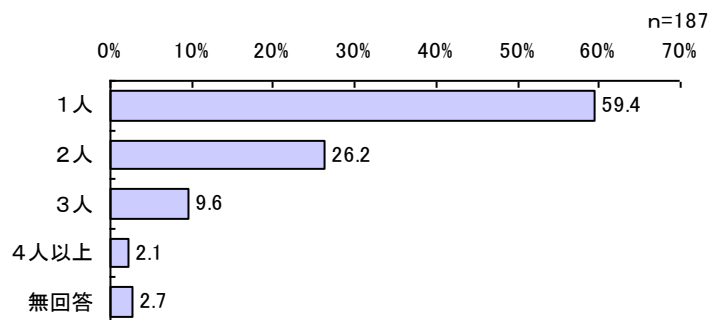


オ 以下に該当するお子さんがそれぞれ何人いますか。あてはまる番号に○を付け、()内に人数を記入してください。(就学前児童については、利用している保育・教育施設もお答えください。)

「小学生」「高校生」いずれも33.7%で最も多い。次いで「中学生」27.3%、「就学前児童(3歳以上)」17.1%、「大学生・大学院生・短大生・専門学校生」10.7%、「就学前(0～2歳)」6.4%などである。



子どもの合計数は「1人」59.4%、「2人」26.2%、「3人」9.6%、「4人以上」2.1%である。



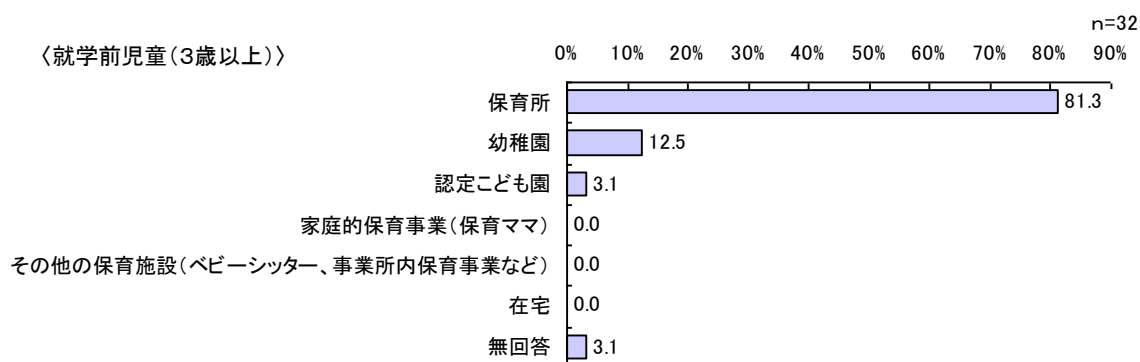
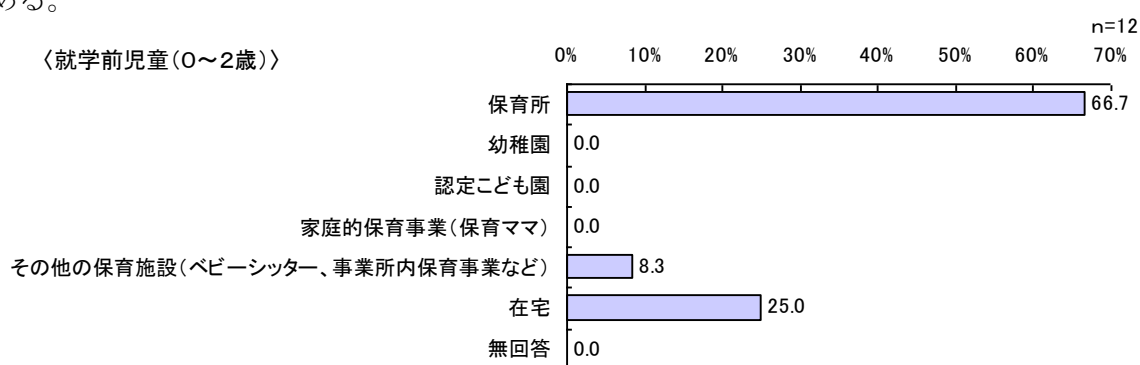
子どもの年齢では、就学前児童及び小学生「1人」が多く、「2人」は中学生以上である。「3人」及び「4人以上」は「大学生・大学院生・短大生・専門学校生」や「働いている」に多い。

単位: %

		(人) 回答者数	1人	2人	3人	4人以上	無回答
全体		187	59.4	26.2	9.6	2.1	2.7
子どもの年齢	就学前児童[0~2歳]	12	75.0	16.7	0.0	8.3	0.0
	就学前児童[3歳以上]	32	65.6	18.8	9.4	6.3	0.0
	小学生	63	57.1	20.6	15.9	6.3	0.0
	中学生	51	33.3	45.1	15.7	5.9	0.0
	高校生	63	41.3	39.7	15.9	3.2	0.0
	大学生・大学院生・~	20	5.0	65.0	30.0	0.0	0.0
	働いている	9	0.0	44.4	33.3	22.2	0.0
	就学・就労していない	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0
その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

利用している保育・教育施設は、就学前児童（0～2歳）は、「保育所」が66.7%、「在宅」25.0%、「その他の保育施設」8.3%である。

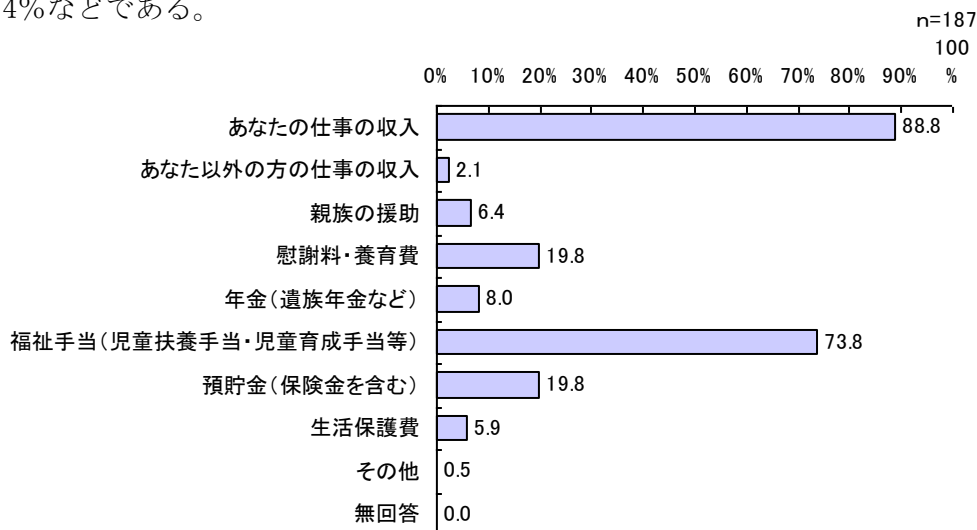
就学前児童（3歳以上）は、「保育所」81.3%、「幼稚園」12.5%、「認定こども園」3.1%である。



2. 現在の生活状況について

問1 現在、どのように生計をたてていますか。(あてはまるものすべてに○)

「あなたの仕事の収入」88.8%、「福祉手当（児童扶養手当・児童育成手当等）」73.8%が主なものである。次いで「慰謝料・養育費」「預貯金」ともに19.8%、「年金」8.0%、「親族の援助」6.4%などである。



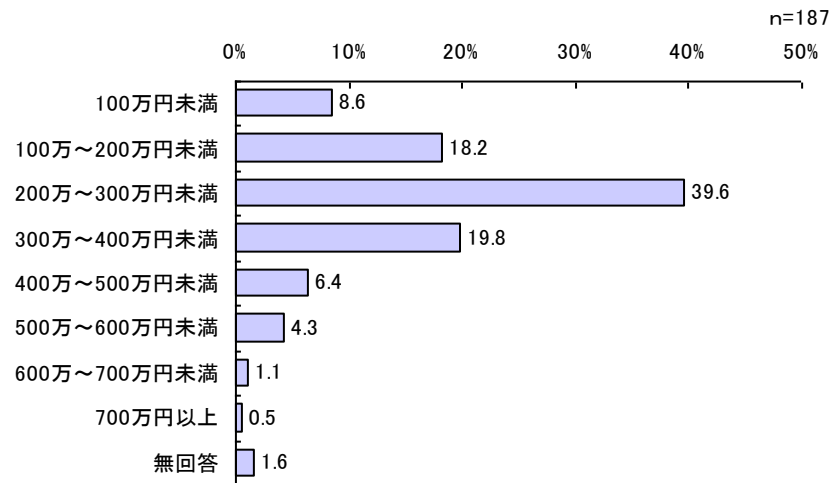
子どもの年齢でみると「あなたの仕事の収入」がいずれも多いが、就学前児童（0～2歳）については66.7%にとどまる。

単位:%

	回答者数(人)	あなたの仕事の収入	あなた以外の方の収入	親族の援助	慰謝料・養育費	年金(遺族年金など)	福祉手当(児童扶養手当・児童育成手当等)	預貯金(保険金を含む)	生活保護費	その他	無回答
全体	187	88.8	2.1	6.4	19.8	8.0	73.8	19.8	5.9	0.5	0.0
子どもの年齢	就学前児童[0～2歳]	12	66.7	0.0	8.3	8.3	50.0	25.0	8.3	0.0	0.0
	就学前児童[3歳以上]	32	90.6	3.1	3.1	18.8	9.4	65.6	12.5	3.1	0.0
	小学生	63	93.7	0.0	6.3	25.4	0.0	77.8	17.5	3.2	0.0
	中学生	51	90.2	2.0	11.8	23.5	9.8	86.3	17.6	3.9	0.0
	高校生	63	87.3	3.2	6.3	19.0	15.9	79.4	22.2	4.8	1.6
	大学生・大学院生・～	20	90.0	0.0	15.0	30.0	20.0	70.0	25.0	10.0	0.0
	働いている	9	100.0	0.0	0.0	11.1	11.1	77.8	0.0	11.1	0.0
	就学・就労していない	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

問2 ご家庭全体でみた、この1年間の総収入はどの位になりますか。ボーナスなどの臨時収入、仕送り、年金、児童扶養手当、生活保護費等を含めてください。(1つに○)

「200万～300万円未満」が38.6%、「300万～400万円未満」が19.8%、「100万～200万円未満」が18.2%、「100万円未満」8.6%、「400万～500万円未満」6.4%などである。



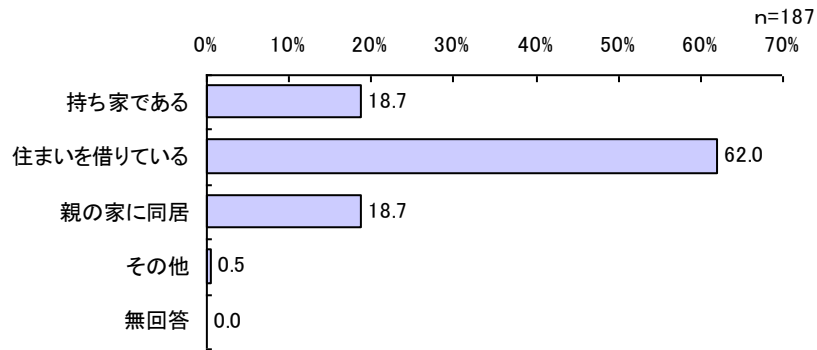
子どもの年齢でみると、就学前児童（0～2歳）では「100万円未満」と「200万～300万円未満」がともに41.7%となっている。就学前児童（3歳以上）から上ではすべて「200万～300万円未満」が最も多い。

単位: %

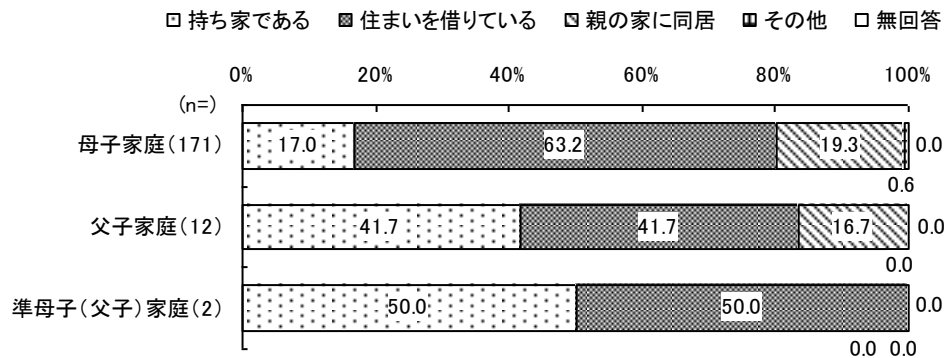
		回答者数(人)	100万円未満	100万～200万円未満	200万～300万円未満	300万～400万円未満	400万～500万円未満	500万～600万円未満	600万～700万円未満	700万円以上	無回答
全体		187	8.6	18.2	39.6	19.8	6.4	4.3	1.1	0.5	1.6
子どもの年齢	就学前児童[0～2歳]	12	41.7	8.3	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学前児童[3歳以上]	32	9.4	12.5	37.5	15.6	12.5	6.3	3.1	3.1	0.0
	小学生	63	7.9	25.4	34.9	15.9	9.5	1.6	1.6	0.0	3.2
	中学生	51	3.9	19.6	33.3	29.4	7.8	2.0	2.0	0.0	2.0
	高校生	63	4.8	17.5	46.0	17.5	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0
	大学生・大学院生・～	20	0.0	10.0	45.0	35.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	働いている	9	0.0	11.1	55.6	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

問3 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(1つに○)

「住まいを借りている」62.0%、「持ち家である」「親の家に同居」とともに18.7%である。



世帯区分でみると、母子家庭では「住まいを借りている」が63.2%と父子家庭の41.7%を上回る。「持ち家である」は、父子家庭が41.7%に対し、母子家庭では17.0%である。



子どもの年齢でみると、就学前児童（0～2歳）は「親の家に同居」が50.0%となっているが、就学前児童（3歳以上）から上では、すべて「住まいを借りている」が最も多い。また、「持ち家である」は、大学生・大学院生で35.0%、高校生で27.0%、働いているで22.2%の順である。

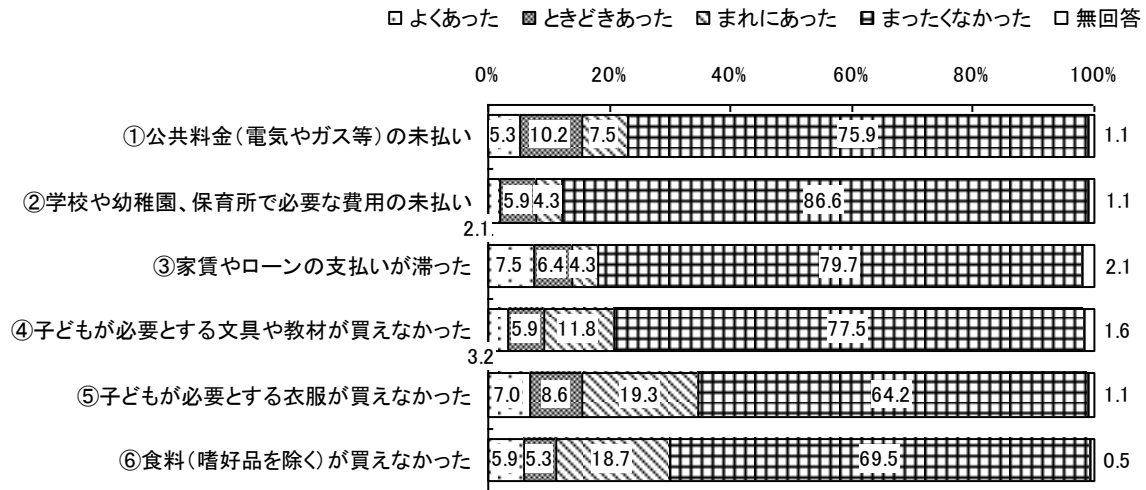
単位: %

		回答者数(人)	持ち家である	住まいを借りている	親の家に同居	その他	無回答
全体		187	18.7	62.0	18.7	0.5	0.0
子どもの年齢	就学前児童[0～2歳]	12	16.7	33.3	50.0	0.0	0.0
	就学前児童[3歳以上]	32	12.5	59.4	25.0	3.1	0.0
	小学生	63	19.0	65.1	15.9	0.0	0.0
	中学生	51	15.7	70.6	13.7	0.0	0.0
	高校生	63	27.0	63.5	9.5	0.0	0.0
	大学生・大学院生・～	20	35.0	45.0	20.0	0.0	0.0
	働いている	9	22.2	77.8	0.0	0.0	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
区域	第1地区	110	18.2	63.6	17.3	0.9	0.0
	第2地区	47	25.5	55.3	19.1	0.0	0.0
	第3地区	27	11.1	63.0	25.9	0.0	0.0

問4 あなたの世帯では、過去1年間で経済的な理由により、次のようなことがありましたか。あてはまるものを、それぞれ1つに○をつけてください。

「よくあった」は「家賃やローンの支払いが滞った」が7.5%、「子どもが必要とする衣服が買えなかった」7.0%、などの順である。

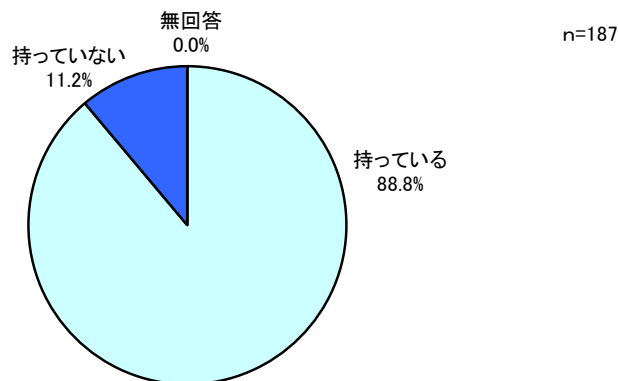
「よくあった」「ときどきあった」を合わせた『あった』は、「子どもが必要とする衣服が買えなかった」15.6%、「公共料金（電気やガス等）の未払い」15.5%、「家賃やローンの支払いが滞った」13.9%、「食料（嗜好品を除く）が買えなかった」11.2%などの順である。



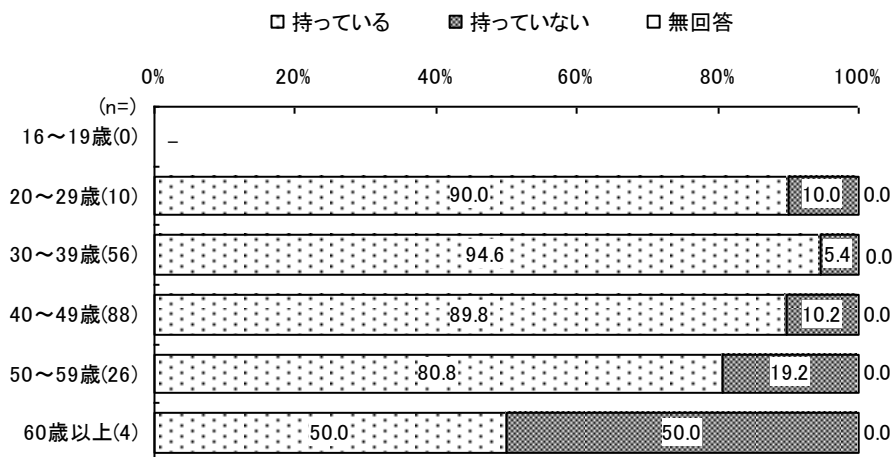
3. あなたのお仕事について

問5 現在、あなたは、お仕事をお持ちですか。(1つに〇)

「持っている」88.8%、「持っていない」11.2%である。



年齢では「30～39歳」の「持っている」94.6%は、他の年齢を上回る。



子どもの年齢で見ると、就学前児童（0～2歳）では「持っていない」が25.0%と他の年齢を大きく上回る。

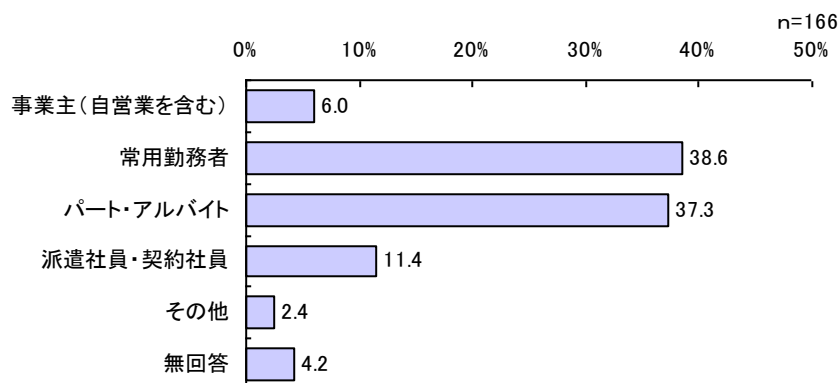
単位:%

		回答者数(人)	持っている	持っていない	無回答
全体		187	88.8	11.2	0.0
子どもの年齢	就学前児童[0～2歳]	12	75.0	25.0	0.0
	就学前児童[3歳以上]	32	93.8	6.3	0.0
	小学生	63	93.7	6.3	0.0
	中学生	51	92.2	7.8	0.0
	高校生	63	85.7	14.3	0.0
	大学生・大学院生・～	20	90.0	10.0	0.0
	働いている	9	100.0	0.0	0.0
	就学・就労していない	4	50.0	50.0	0.0
	その他	1	0.0	100.0	0.0

【問5で「1」とお答えの方へ】

問5-1 どのような就労形態ですか。(主なもの1つに○)

「常用勤務者」38.6%、「パート・アルバイト」37.3%、ほぼ同じである。次いで「派遣社員・契約社員」11.4%、「事業主（自営業を含む）」6.0%である。



母子家庭では、「パート・アルバイト」39.9%、「常用勤務者」36.6%、ほぼ同程度である。父子家庭は、「常用勤務者」54.5%、「事業主」18.2%などである。

年齢で見ると、「20～29歳」は「常用勤務者」55.6%、「パート・アルバイト」33.3%であるが、「30～39歳」では「パート・アルバイト」が49.1%、「常用勤務者」34.0%を上回る。

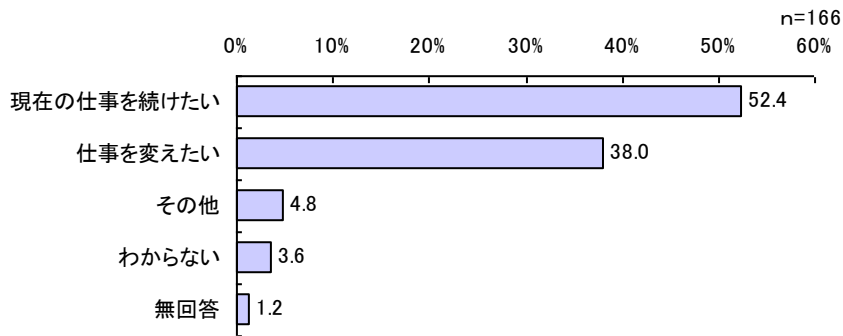
子どもの年齢で見ると、「常用勤務者」が最も多いのは、就学前児童（0～2歳）の55.6%であり、就学前児童（3歳以上）や中学生、高校生では「常用勤務者」が「パート・アルバイト」を上回るが、小学生は「パート・アルバイト」が「常用勤務者」を上回る。

単位: %

		回答者数(人)	事業主(自営業を含む)	常用勤務者	パート・アルバイト	派遣社員・契約社員	その他	無回答
全体		166	6.0	38.6	37.3	11.4	2.4	4.2
世帯区分	母子家庭	153	5.2	36.6	39.9	11.8	2.0	4.6
	父子家庭	11	18.2	54.5	9.1	9.1	9.1	0.0
	準母子(父子)家庭	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	16～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	9	11.1	55.6	33.3	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	53	1.9	34.0	49.1	11.3	0.0	3.8
	40～49歳	79	7.6	39.2	31.6	12.7	3.8	5.1
	50～59歳	21	9.5	42.9	33.3	9.5	0.0	4.8
	60歳以上	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
子どもの年齢	就学前児童[0～2歳]	9	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0	0.0
	就学前児童[3歳以上]	30	10.0	43.3	33.3	6.7	0.0	6.7
	小学生	59	6.8	35.6	44.1	8.5	1.7	3.4
	中学生	47	2.1	40.4	34.0	19.1	0.0	4.3
	高校生	54	1.9	38.9	37.0	11.1	5.6	5.6
	大学生・大学院生・～	18	11.1	38.9	50.0	0.0	0.0	0.0
	働いている	9	0.0	33.3	44.4	22.2	0.0	0.0
	就学・就労していない	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

問5-2 あなたは現在の仕事を続けたいですか。(1つに○)

「現在の仕事を続けたい」52.4%が、「仕事を变えたい」38.0%を上回る。



年齢で見ると、「20～29歳」で「現在の仕事を続けたい」と「仕事を变えたい」がともに44.4%であるが、30歳以上の各年代では「現在の仕事を続けたい」が「仕事を变えたい」を上回る。

子どもの年齢では、「現在の仕事を続けたい」は、就学前児童(0～2歳)が最も多く66.7%である。逆に「仕事を变えたい」は働いているで55.6%、中学生で48.9%である。

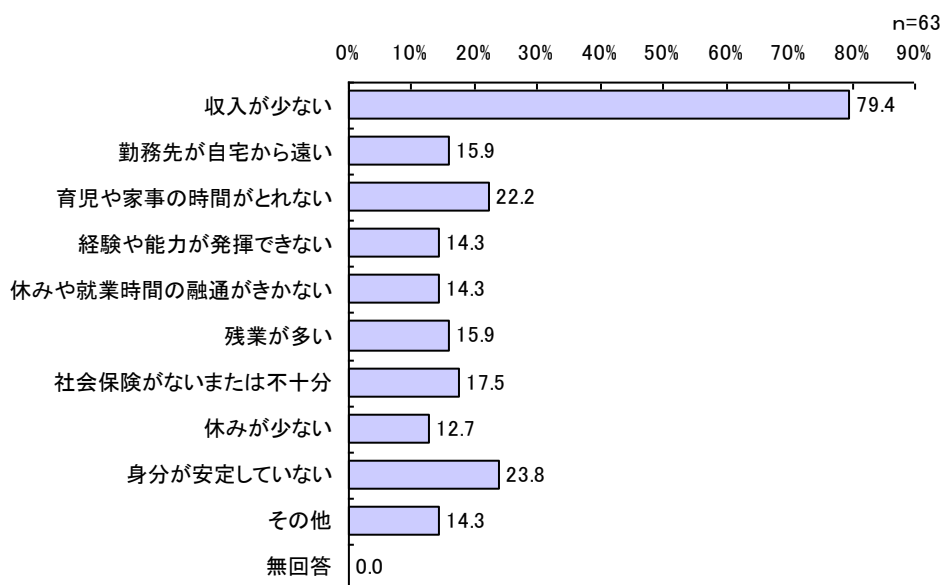
単位: %

		回答者数(人)	現在の仕事を続けたい	仕事を变えたい	その他	わからない	無回答
全体		166	52.4	38.0	4.8	3.6	1.2
年齢	16～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	9	44.4	44.4	0.0	11.1	0.0
	30～39歳	53	45.3	41.5	5.7	7.5	0.0
	40～49歳	79	55.7	35.4	5.1	1.3	2.5
	50～59歳	21	57.1	38.1	4.8	0.0	0.0
	60歳以上	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
子どもの年齢	就学前児童[0～2歳]	9	66.7	22.2	0.0	11.1	0.0
	就学前児童[3歳以上]	30	53.3	36.7	3.3	6.7	0.0
	小学生	59	47.5	39.0	6.8	5.1	1.7
	中学生	47	42.6	48.9	4.3	0.0	4.3
	高校生	54	61.1	29.6	3.7	1.9	3.7
	大学生・大学院生・～	18	61.1	38.9	0.0	0.0	0.0
	働いている	9	44.4	55.6	0.0	0.0	0.0
	就学・就労していない	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【問5-2で「2」とお答えの方へ】

問5-3 仕事を变えたいとする主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「収入が少ない」が8割、79.4%である。「身分が安定していない」が23.8%、「育児や家事の時間がとれない」が22.2%、「社会保険がないまたは不十分」17.5%、「勤務先が自宅から遠い」「残業が多い」ともに15.9%、「経験や能力が発揮できない」「休みや就業時間の融通がきかない」ともに14.3%、「休みが少ない」12.7%である。



子どもの年齢でみると、前問で「仕事を变えたい」が多かった中学生では「収入が少ない」が大半の91.3%である。

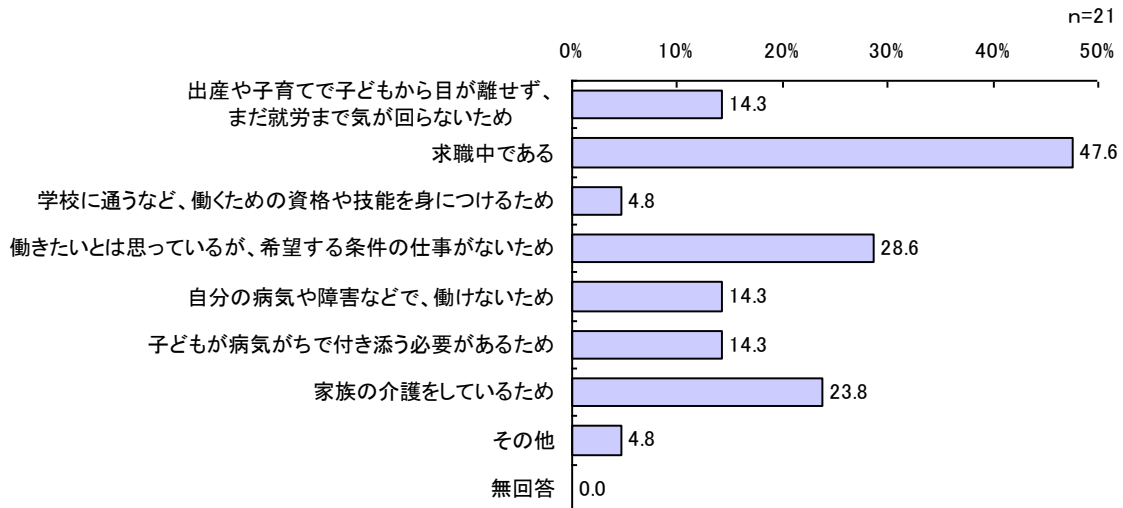
単位: %

	回答者数(人)	収入が少ない	勤務先が自宅から遠い	育児や家事の時間がとれない	経験や能力が発揮できない	休みや就業時間の融通がきかない	残業が多い	社会保険がないまたは不十分	休みが少ない	身分が安定していない	その他	無回答
全体	63	79.4	15.9	22.2	14.3	14.3	15.9	17.5	12.7	23.8	14.3	0.0
子どもの年齢	就学前児童[0~2歳]	2	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学前児童[3歳以上]	11	63.6	27.3	18.2	36.4	9.1	27.3	9.1	18.2	27.3	0.0
	小学生	23	82.6	8.7	17.4	8.7	8.7	13.0	21.7	4.3	21.7	8.7
	中学生	23	91.3	13.0	21.7	4.3	8.7	17.4	17.4	13.0	30.4	8.7
	高校生	16	75.0	12.5	31.3	0.0	25.0	12.5	31.3	12.5	31.3	18.8
	大学生・大学院生・~	7	71.4	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	42.9	14.3	28.6	28.6
	働いている	5	60.0	20.0	40.0	20.0	20.0	60.0	20.0	20.0	40.0	20.0
	就学・就労していない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【問5で「2」とお答えの方へ】

問6 仕事を持たない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「求職中である」47.6%、「働きたいとは思っているが、希望する条件の仕事がないため」28.6%、「家族の介護をしているため」23.8%などである。

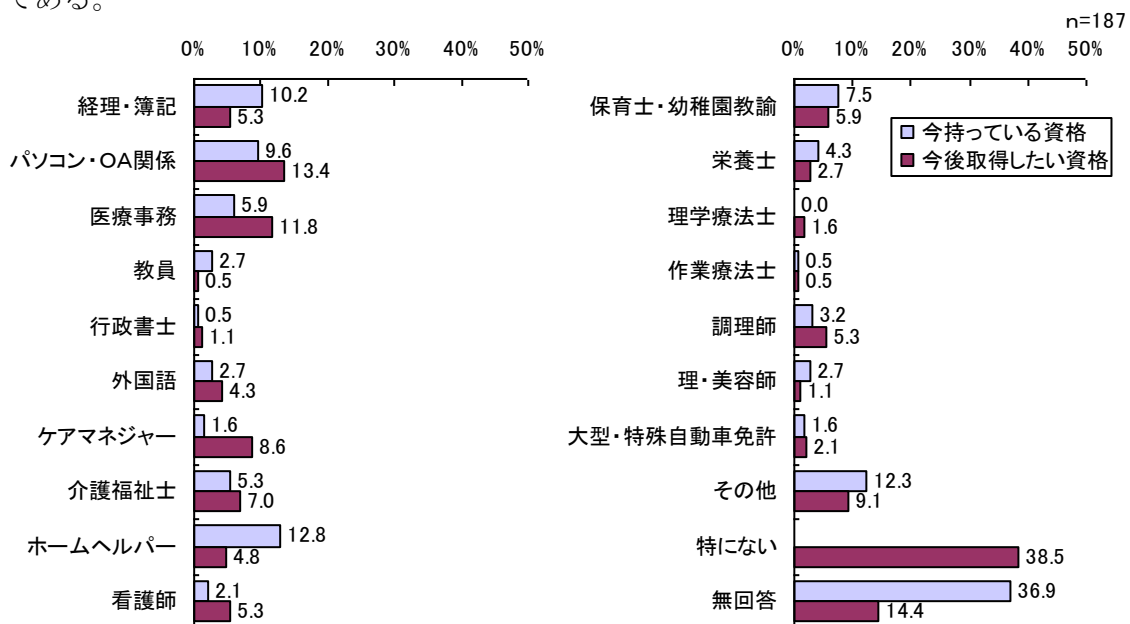


問7 資格を持っている方におたずねします。今持っている資格の種類はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

「ホームヘルパー」12.8%、「経理・簿記」10.2%、「パソコン・OA関係」9.6%、「保育士・幼稚園教諭」7.5%、「医療事務」5.9%、「介護福祉士」5.3%などである。

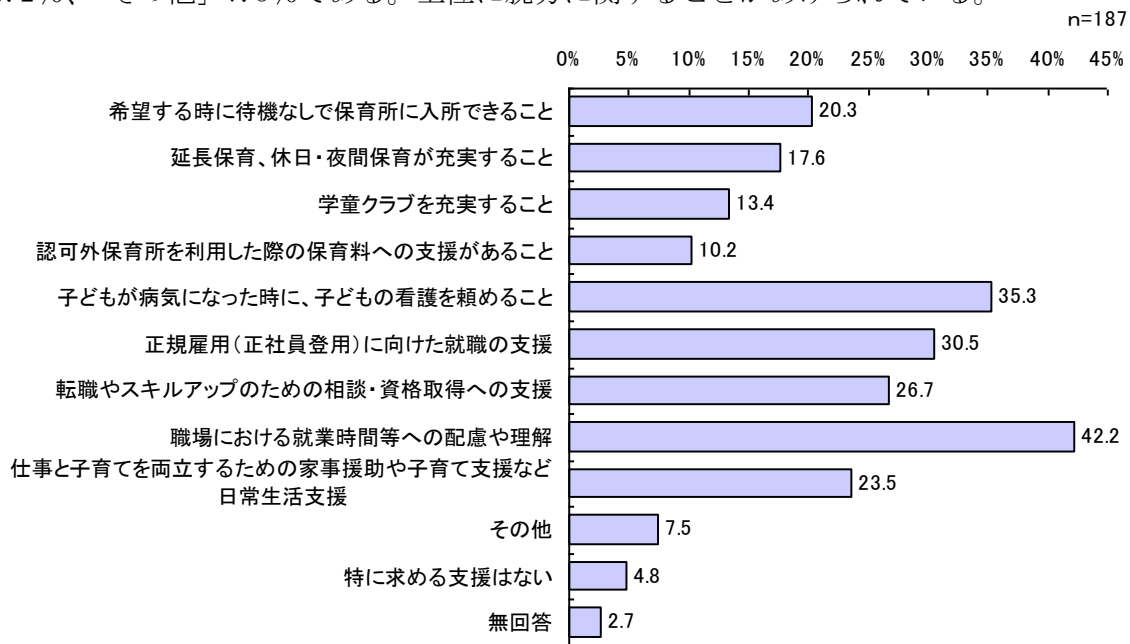
問8 今後取得したい、または現在取得中の資格はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」が最も多く38.5%である。次いで「パソコン・OA関係」13.4%、「医療事務」11.8%、「ケアマネジャー」8.6%、「介護福祉士」7.0%、「保育士・幼稚園教諭」5.9%などである。



問9 安心して仕事をするためには、どんな支援が必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

「職場における就業時間等への配慮や理解」42.2%が最も多い。次いで「子どもが病気になった時に、子どもの看護を頼めること」35.3%、「正規雇用（正社員登用）に向けた就職の支援」30.5%、「転職やスキルアップのための相談・資格取得への支援」26.7%、「仕事と子育てを両立するための家事援助や子育て支援など日常生活支援」23.5%、「希望する時に待機なしで保育所に入所できること」20.3%、「職場における就業時間等への配慮や理解」19.6%、「学童クラブを充実すること」13.4%、「認可外保育所を利用した際の保育料への支援があること」10.2%、「その他」7.5%である。上位に就労に関することがあげられている。



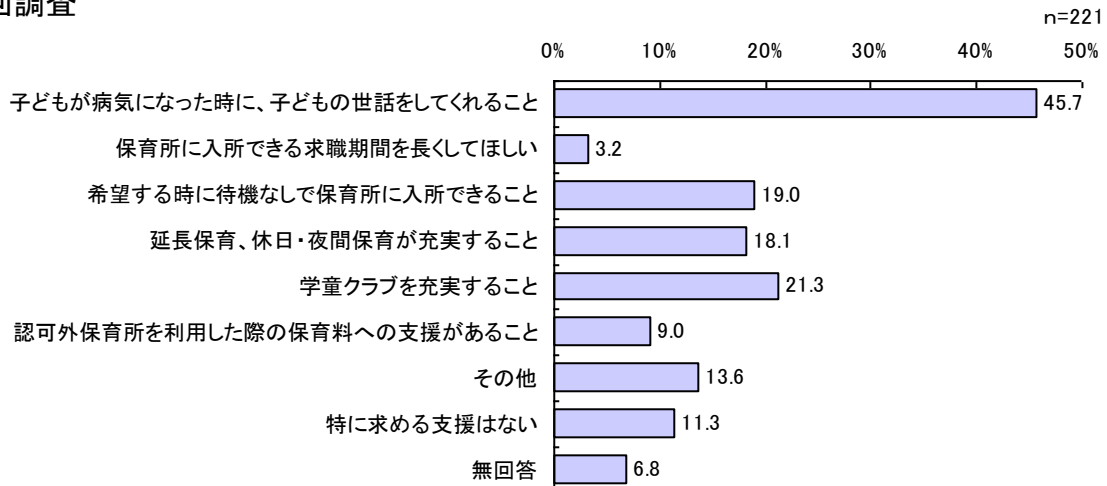
世帯区分では、母子家庭は全体とほぼ同じである。年齢で見ると、「20～29歳」は「子どもが病気になった時に、子どもの看護を頼めること」が60.0%、「延長保育、休日・夜間保育が充実すること」が50.0%と他の年代と大きな違いとなっている。

子どもの年齢で見ると、就学前児童（0～2歳）は「希望する時に待機なしで保育所に入所できること」「子どもが病気になった時に、子どもの看護を頼めること」「職場における就業時間等への配慮や理解」いずれも41.7%と最も多い。就学前児童（3歳以上）は「延長保育、休日・夜間保育が充実すること」「職場における就業時間等への配慮や理解」ともに37.5%と最も多く、次いで「子どもが病気になった時に、子どもの看護を頼めること」34.4%である。

小学生は「職場における就業時間等への配慮や理解」47.6%、「子どもが病気になった時に、子どもの看護を頼めること」36.5%の順である。中学生は「子どもが病気になった時に、子どもの看護を頼めること」45.1%、「転職やスキルアップのための相談・資格取得への支援」39.2%、「正規雇用に向けた就職の支援」37.3%の順である。高校生は「職場における就業時間等への配慮や理解」50.8%、「正規雇用に向けた就職の支援」33.3%の順である。

		回答者数(人)	希望する時に待機なしで保育所に入所できること	延長保育、休日・夜間保育が充実すること	学童クラブを充実すること	認可外保育所を利用した際の保育料への支援があること	子どもが病気になった時に、子どもの看護を頼めること	正規雇用(正社員登用)に向けた就職の支援	転職やスキルアップのための相談・資格取得への支援	職場における就業時間等への配慮や理解	仕事と子育てを両立するための家事援助や子育て支援など日常生活支援	その他	特に求める支援はない	無回答	
全体		187	20.3	17.6	13.4	10.2	35.3	30.5	26.7	42.2	23.5	7.5	4.8	2.7	
世帯区分	母子家庭	171	20.5	17.5	13.5	9.9	36.3	32.2	28.1	42.1	22.2	7.6	4.1	2.3	
	父子家庭	12	8.3	8.3	8.3	16.7	25.0	8.3	16.7	58.3	50.0	8.3	16.7	0.0	
	準母子(父子)家庭	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
子どもの年齢	就学前児童[0~2歳]	12	41.7	33.3	8.3	16.7	41.7	33.3	8.3	41.7	25.0	0.0	0.0	0.0	
	就学前児童[3歳以上]	32	28.1	37.5	28.1	18.8	34.4	21.9	15.6	37.5	18.8	3.1	3.1	3.1	
	小学生	63	19.0	15.9	15.9	7.9	36.5	31.7	27.0	47.6	30.2	7.9	3.2	1.6	
	中学生	51	13.7	7.8	7.8	7.8	45.1	37.3	39.2	35.3	27.5	7.8	7.8	5.9	
	高校生	63	15.9	12.7	4.8	9.5	28.6	33.3	30.2	50.8	19.0	6.3	3.2	6.3	
	大学生・大学院生・~	20	10.0	10.0	5.0	15.0	30.0	20.0	30.0	40.0	10.0	30.0	10.0	0.0	
	働いている	9	22.2	22.2	0.0	22.2	22.2	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	

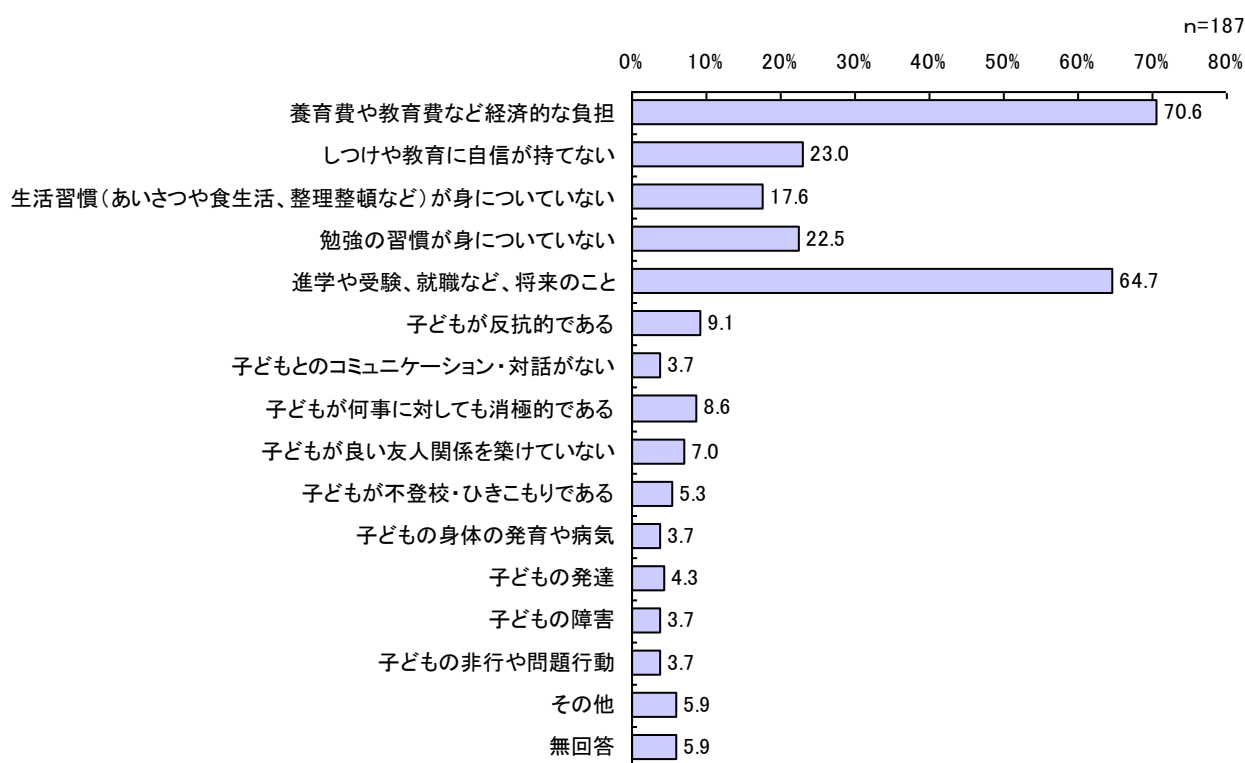
前回調査



4. お子さんのことについて

問 10 あなたは、お子さんのことについて悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「養育費や教育費など経済的な負担」70.6%、「進学や受験、就職など、将来のこと」64.9%が主なものである。次いで「しつけや教育に自信が持てない」23.0%、「勉強の習慣が身につけていない」22.5%、「生活習慣（あいさつや食生活、整理整頓など）が身につけていない」17.6%、「子どもが反抗的である」9.1%、「子どもが何事に対しても消極的である」8.6%などである。



年齢で見ると、「60歳以上」を除いては、すべての年代で「養育費や教育費など経済的な負担」が最も多くあげられている。次は「進学や受験、就職など、将来のこと」は30歳代以上の年代であげられているが、「20～29歳」は「生活習慣が身につけていない」である。

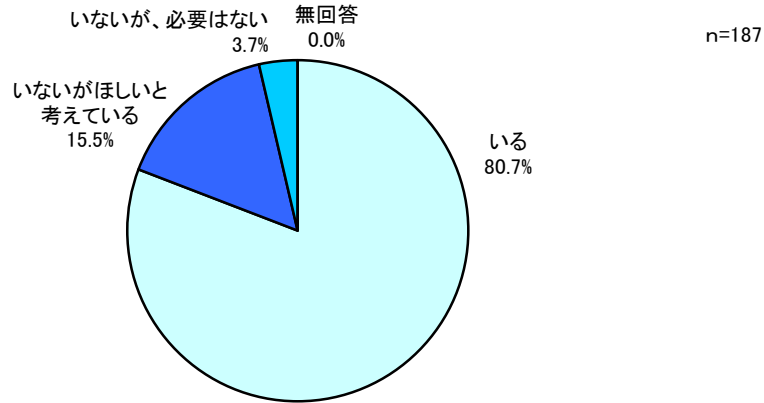
子どもの年齢でも、「養育費や教育費など経済的な負担」はすべてで最も多い。「進学や受験、就職など、将来のこと」は、働いているの88.9%、次いで中学生の82.4%、高校生の74.6%の順である。「生活習慣が身につけていない」は小学生の22.2%、中学生の21.6%の順である。

		回答者数(人)	養育費や教育費など経済的な負担	しつけや教育に自信が持てない	生活習慣(あいさつや食生活、整理整頓など)が身につけていない	勉強の習慣が身につけていない	進学や受験、就職など、将来のこと	子どもが反抗的である	子どもとのコミュニケーション・対話がない	子どもが何事に対しても消極的である	子どもが良い友人関係を築けていない	子どもが不登校・ひきこもりである	子どもの身体の発育や病気	子どもの発達
全体		187	70.6	23.0	17.6	22.5	64.7	9.1	3.7	8.6	7.0	5.3	3.7	4.3
年齢	16～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	10	60.0	40.0	50.0	20.0	30.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	56	71.4	30.4	19.6	21.4	67.9	7.1	3.6	7.1	7.1	5.4	3.6	7.1
	40～49歳	88	69.3	21.6	13.6	25.0	65.9	10.2	4.5	8.0	9.1	8.0	4.5	4.5
	50～59歳	26	80.8	11.5	11.5	19.2	65.4	15.4	3.8	11.5	0.0	0.0	3.8	0.0
	60歳以上	4	50.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
子どもの年齢	就学前児童[0～2歳]	12	66.7	25.0	33.3	0.0	50.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学前児童[3歳以上]	32	71.9	56.3	9.4	15.6	65.6	9.4	0.0	3.1	6.3	3.1	0.0	9.4
	小学生	63	68.3	25.4	22.2	30.2	58.7	7.9	3.2	9.5	12.7	4.8	3.2	6.3
	中学生	51	76.5	21.6	21.6	41.2	82.4	19.6	3.9	17.6	9.8	13.7	5.9	5.9
	高校生	63	82.5	17.5	15.9	17.5	74.6	11.1	4.8	7.9	4.8	3.2	3.2	1.6
	大学生・大学院生・～働いている	20	85.0	5.0	5.0	15.0	50.0	5.0	5.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0
	就学・就労していない	9	100.0	11.1	0.0	44.4	88.9	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0
	その他	4	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

		子どもの障害	子どもの非行や問題行動	その他	無回答
全体		3.7	3.7	5.9	5.9
年齢	16～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	0.0	10.0	10.0	10.0
	30～39歳	3.6	1.8	7.1	8.9
	40～49歳	4.5	3.4	5.7	5.7
	50～59歳	3.8	3.8	0.0	0.0
	60歳以上	0.0	0.0	0.0	0.0
子どもの年齢	就学前児童[0～2歳]	0.0	0.0	8.3	8.3
	就学前児童[3歳以上]	0.0	3.1	6.3	9.4
	小学生	1.6	3.2	9.5	6.3
	中学生	11.8	2.0	3.9	3.9
	高校生	4.8	3.2	0.0	1.6
	大学生・大学院生・～働いている	5.0	10.0	0.0	10.0
	就学・就労していない	0.0	25.0	0.0	0.0
	その他	100.0	0.0	0.0	0.0

問 11 子育てや子どもの事で悩んだときに相談できる方がいますか。また、いない場合はほし
いと思いますか。(1つに○)

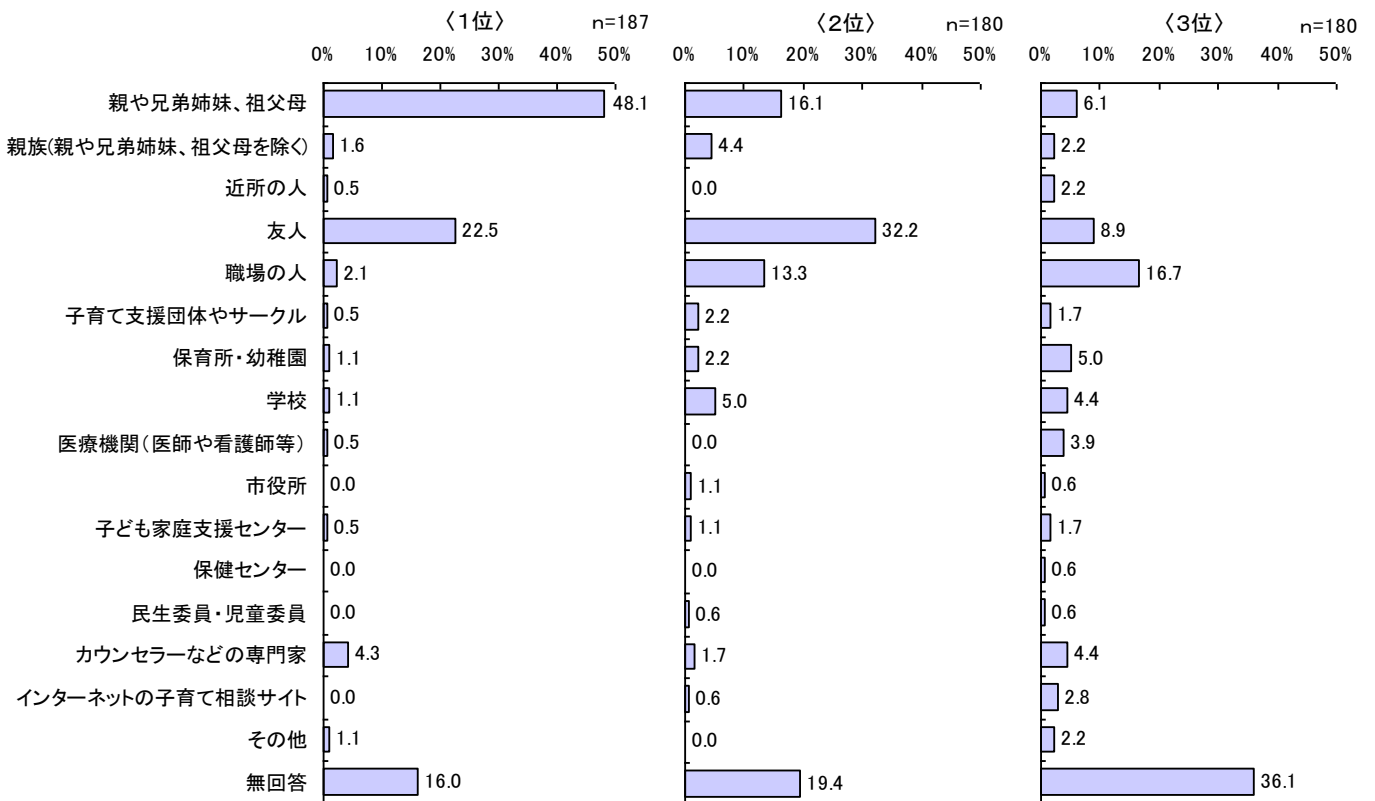
「いる」80.7%、「いないが、ほしいと考えている」15.5%、「いないが、必要はない」3.7%
である。



【問 11 で「1」または「2」とお答えの方へ】

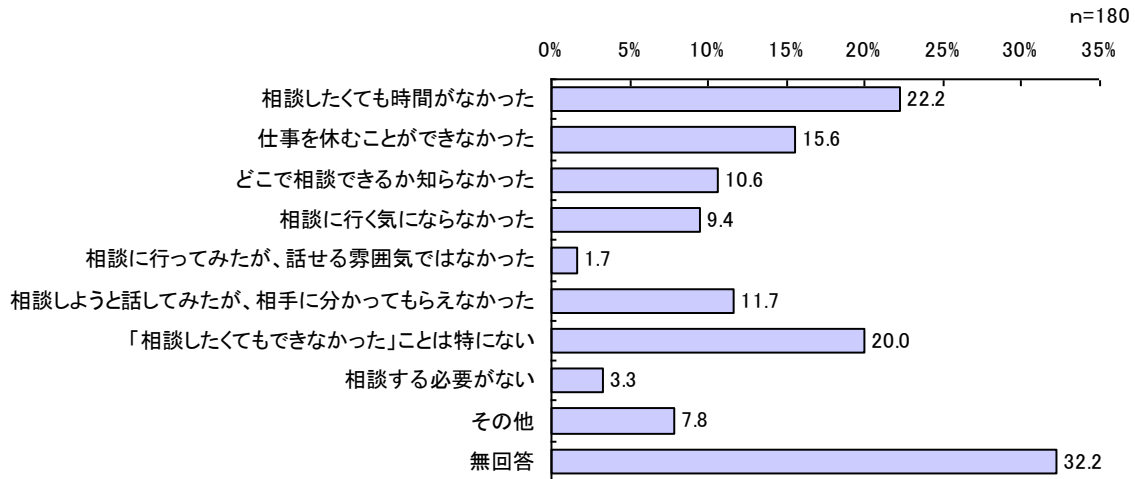
問 11-1 その相談相手はどなたですか。また相談相手がほしい方はどのような相手に相談し
たいと思いますか。相談先を3つまで、順位ごと(1~3位)に番号を記入してください。

相談先を3つまであげてもらった。1位は「親や兄弟姉妹、祖父母」48.1%、「友人」22.5%
が主なところである。2位では「友人」32.2%、「親や兄弟姉妹、祖父母」16.1%、3位は「職
場の人」16.7%が主なところである。



問 11-2 「相談したくてもできなかった」という経験はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「相談したくても時間がなかった」22.2%、「相談したくてもできなかったことは特にない」20.0%、「仕事を休むことができなかった」15.6%、「相談しようと話してみたが、相手に分かってもらえなかった」11.7%、「どこで相談できるか知らなかった」10.6%などである。



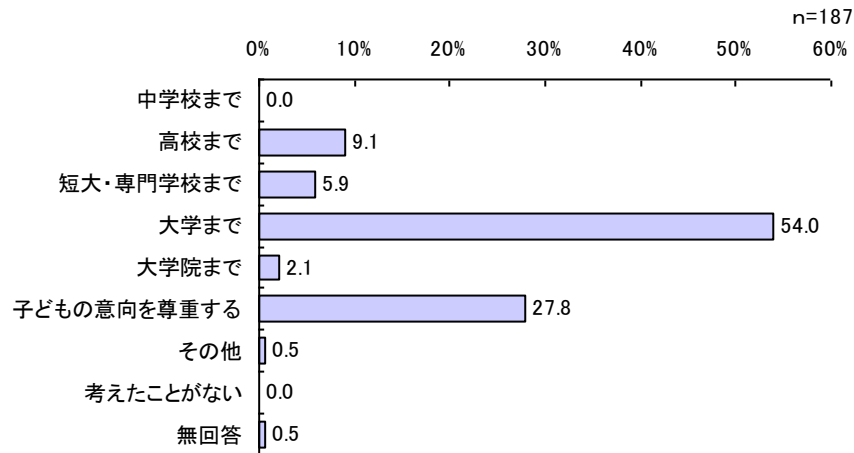
子どもの年齢では、「相談したくても時間がなかった」は働いている 55.6%、中学生 32.7% の順であるが、「仕事を休むことができなかった」も同じく各 44.4%、26.5%である。「どこで相談できるか知らなかった」は、就学・就労していないを除いては、高校生 14.8%、中学生 14.3%の順である。

単位:%

	回答者数(人)	相談したくても時間がなかった	仕事を休むことができなかった	どこで相談できるか知らなかった	相談に行く気にならなかった	相談に行ってみたが、話せる雰囲気ではなかった	相談しようと話してみたが、相手に分かってもらえなかった	「相談したくてもできなかった」ことは特にない	相談する必要がある	その他	無回答	
全体	180	22.2	15.6	10.6	9.4	1.7	11.7	20.0	3.3	7.8	32.2	
子どもの年齢	就学前児童[0~2歳]	11	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1	18.2	27.3	0.0	0.0	27.3
	就学前児童[3歳以上]	32	21.9	12.5	3.1	15.6	3.1	12.5	12.5	6.3	6.3	37.5
	小学生	60	23.3	20.0	6.7	6.7	0.0	18.3	25.0	0.0	10.0	31.7
	中学生	49	32.7	26.5	14.3	10.2	2.0	12.2	14.3	4.1	8.2	28.6
	高校生	61	16.4	13.1	14.8	8.2	1.6	4.9	19.7	4.9	11.5	29.5
	大学生・大学院生・～	20	5.0	5.0	5.0	10.0	0.0	5.0	30.0	0.0	15.0	40.0
	働いている	9	55.6	44.4	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	11.1
	就学・就労していない	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

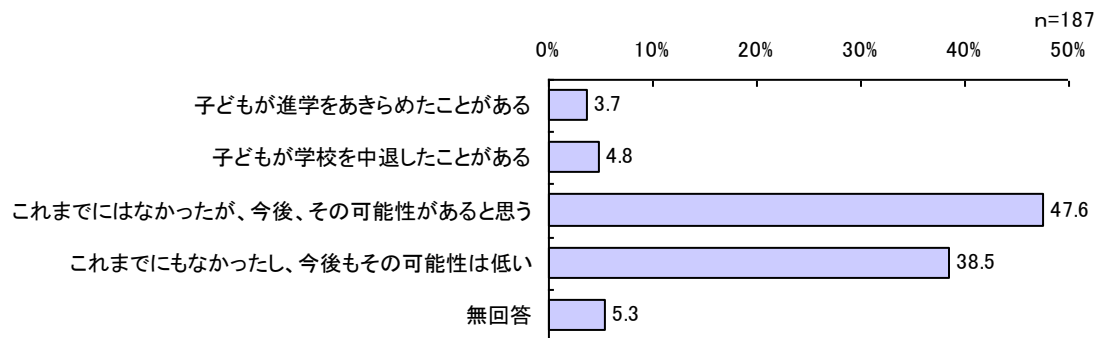
問 12 あなたは、お子さんを将来どの学校まで行かせたいと考えていますか。(1つに○)

「大学まで」54.0%、「子どもの意向を尊重する」27.8%、「高校まで」9.1%、「短大・専門学校まで」5.9%、「大学院まで」2.1%である。



問 13 あなたの世帯では、お子さんが進学をあきらめたり、学校を中退したことがある、または、今後その可能性があると思いますか。(1つに○)

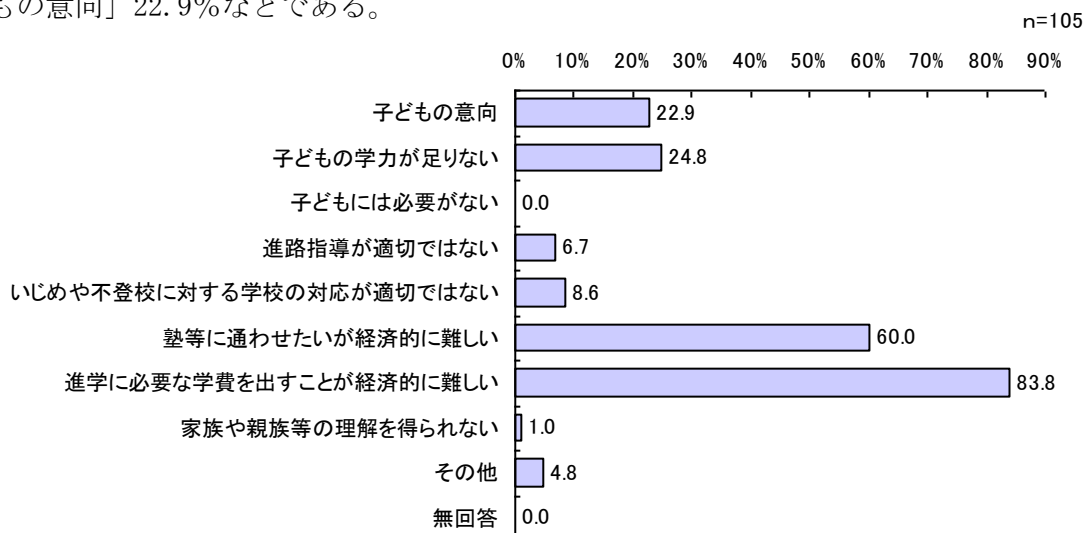
「これまでにはなかったが、今後、その可能性があると思う」が47.6%と、「これまでもなかったし、今後もその可能性は低い」38.5%を上回る。「子どもが学校を中退したことがある」4.8%、「子どもが進学をあきらめたことがある」3.7%である。



【問 13 で「1」～「3」とお答えの方へ】

問 13-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「進学に必要な学費を出すことが経済的に難しい」が 83.8%、「塾等に通わせたいが経済的に難しい」60.0%といった経済的理由が多い。次いで「子どもの学力が足りない」24.8%、「子どもの意向」22.9%などである。



収入との関連では、「年収 300 万円未満」では、「進学に必要な学費を出すことが経済的に難しい」が 94.4%、「塾等に通わせたいが経済的に難しい」が 69.0%と、「年収 300 万円以上」の各 65.6%、37.5%とは大きな開きがある。

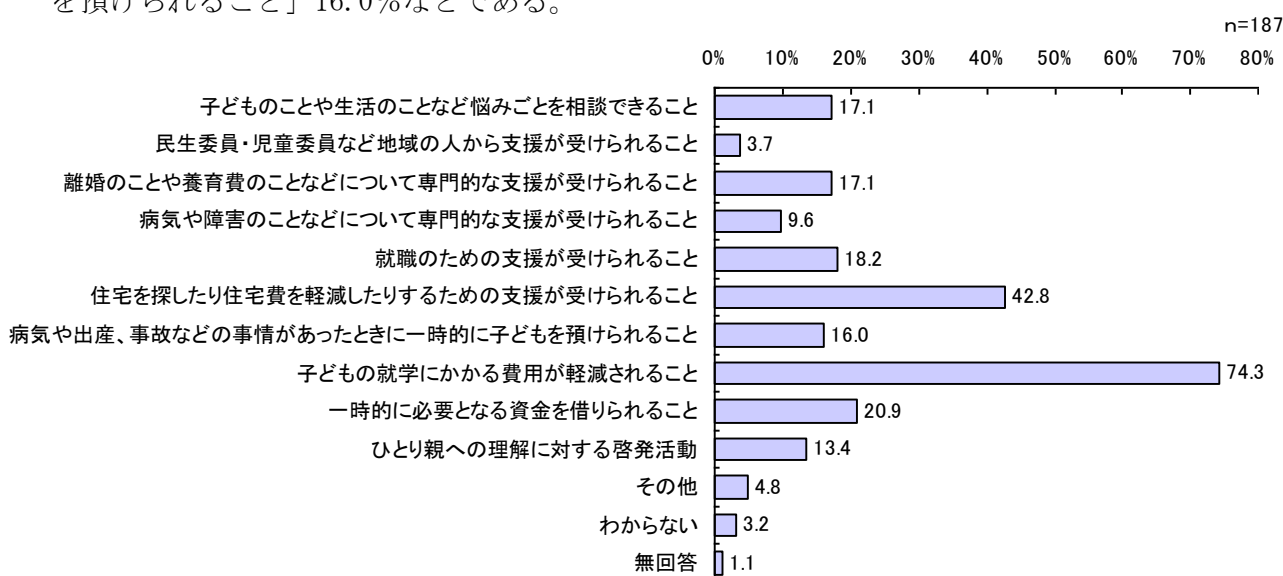
単位: %

		回答者数(人)	子どもの意向	子どもの学力が足りない	子どもには必要がない	進路指導が適切ではない	いじめや不登校に対する学校の対応が適切ではない	塾等に通わせたいが経済的に難しい	進学に必要な学費を出すことが経済的に難しい	家族や親族等の理解を得られない	その他	無回答
全体		105	22.9	24.8	0.0	6.7	8.6	60.0	83.8	1.0	4.8	0.0
年収	年収300万円未満	71	18.3	22.5	0.0	8.5	8.5	69.0	94.4	0.0	2.8	0.0
	年収300万円以上	32	34.4	28.1	0.0	3.1	6.3	37.5	65.6	0.0	9.4	0.0

5. ひとり親家庭への支援のあり方について

問 14 あなたが現在必要としていること、重要だと思う支援等はどのようなものですか。(主なものを3つまでに○)

「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が多く 74.3%、「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」42.8%、「一時的に必要な資金を借りられること」20.9%、「就職のための支援が受けられること」18.2%、「子どものことや生活のことなど悩みごとを相談できること」「離婚のことや養育費のことなどについて専門的な支援が受けられること」ともに 17.1%、「病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること」16.0%などである。



母子家庭が父子家庭を大きく上回るのは、「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」の各 43.3%、33.3%、「離婚のことや養育費のことなどについて専門的な支援が受けられること」の各 17.0%、8.3%、「病気や障害のことなどについて専門的な支援が受けられること」各 9.9%、0.0%である。これに対し、父子家庭が母子家庭を大きく上回るのは、「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」の各 91.7%、74.3%、「一時的に必要な資金を借りられること」の各 41.7%、19.9%、「子どものことや生活のことなど悩みごとを相談できること」の各 25.0%、17.0%をあげることができる。

年齢で見ると「20～29歳」では「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」60.0%が「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」40.0%を上回るが、30歳以上では、いずれも「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が各年代70%以上と最も多い。

子どもの年齢で見ると、いずれも「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が最も多く、次いで「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」であるが、就学前児童（0～2歳）だけは、「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」を上回って「ひとり親への理解に対する啓発活動」が次にあげられている。

		回答者数(人)	子どものことや生活のことなど悩みごとを相談できていること	民生委員・児童委員など地域の人から支援が受けられること	離婚のことや養育費のことなどについて専門的な支援が受けられること	病気や障害のことなどについて専門的な支援が受けられること	就職のための支援が受けられること	住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること	病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること	子どもの就学にかかる費用が軽減されること	一時的に必要な資金を借りられること	ひとり親への理解に対する啓発活動	その他	わからない	無回答
全体		187	17.1	3.7	17.1	9.6	18.2	42.8	16.0	74.3	20.9	13.4	4.8	3.2	1.1
世帯区分	母子家庭	171	17.0	3.5	17.0	9.9	17.5	43.3	17.0	74.3	19.9	12.9	5.3	3.5	0.6
	父子家庭	12	25.0	8.3	8.3	0.0	25.0	33.3	0.0	91.7	41.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	準母子(父子)家庭	2	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
年齢	16～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	10	20.0	20.0	20.0	0.0	10.0	60.0	10.0	40.0	10.0	50.0	0.0	10.0	0.0
	30～39歳	56	8.9	5.4	25.0	7.1	19.6	41.1	19.6	78.6	16.1	12.5	1.8	3.6	0.0
	40～49歳	88	22.7	2.3	12.5	12.5	15.9	40.9	14.8	76.1	22.7	12.5	8.0	2.3	1.1
	50～59歳	26	15.4	0.0	15.4	11.5	19.2	50.0	11.5	76.9	26.9	3.8	3.8	3.8	0.0
	60歳以上	4	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
子どもの年齢	就学前児童[0～2歳]	12	25.0	8.3	25.0	0.0	8.3	25.0	25.0	66.7	8.3	33.3	0.0	8.3	0.0
	就学前児童[3歳以上]	32	9.4	6.3	31.3	6.3	18.8	43.8	28.1	71.9	6.3	21.9	6.3	0.0	3.1
	小学生	63	7.9	4.8	23.8	6.3	19.0	44.4	11.1	76.2	17.5	12.7	9.5	6.3	0.0
	中学生	51	31.4	2.0	11.8	15.7	19.6	39.2	15.7	80.4	25.5	7.8	2.0	2.0	0.0
	高校生	63	20.6	1.6	6.3	14.3	17.5	39.7	7.9	82.5	33.3	6.3	3.2	3.2	1.6
	大学生・大学院生・～	20	15.0	0.0	10.0	20.0	20.0	30.0	15.0	70.0	25.0	0.0	10.0	5.0	0.0
	働いている	9	22.2	0.0	22.2	0.0	33.3	44.4	11.1	88.9	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0
	就学・就労していない	4	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

6. 支援制度・サービスについて

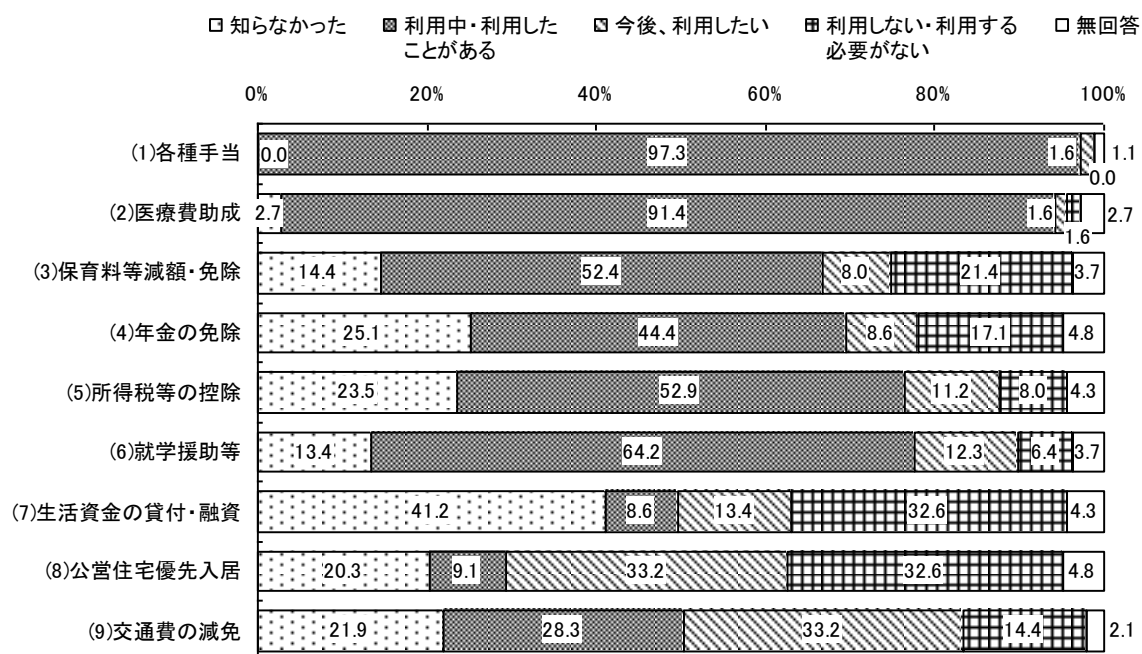
問 15 ひとり親家庭を支援する次の制度・サービスがありますが、①～④の各項目について認知度や利用の経験、今後の利用意向について、それぞれあてはまるものに○を付けてください。

①経済的支援

「利用中・利用したことがある」は、「各種手当」97.3%、「子どもの医療費助成」91.4%、9割以上があげている。次いで「就学援助・幼稚園就園奨励費等の補助」64.2%、「所得税・住民税の控除」52.9%、「保育所・学童クラブ・病児・病後児保育等利用料の減額・免除」52.4%、「国民年金保険料の免除」44.4%などの順である。

「知らなかった」は、「生活資金の貸付・融資」41.2%、「国民年金保険料の免除」25.1%、「所得税・住民税の控除」23.5%、「都営交通の無料パスやJR通勤定期券の割引など公共交通の減免」21.9%、「公営住宅への優先入居」20.3%などの順である。

「今後利用したい」は、「知らなかった」が比較的多い「公営住宅への優先入居」「都営交通の無料パスやJR通勤定期券の割引など公共交通の減免」がともに33.2%と多い。



子どもの年齢で見ると、就学前児童に「知らなかった」とする回答が多い。「生活資金の貸付・融資」については、就学前児童（0～2歳）で50.0%、就学前児童（3歳以上）で56.3%と2人に1人があげている。「就学援助等」も就学前児童（0～2歳）では50.0%である。

「今後利用したい」は「公営住宅への優先入居」は就学・就労していないを除いては、働いている44.4%、小学生36.5%、中学生35.3%の順である。「交通費の減免」は就学前児童（0～2歳）41.7%、小学生34.9%、就学前児童（3歳以上）34.4%などの順である。

単位：%

単位：%

	回答者数（人）	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答
(1)各種手当	187	0.0	97.3	1.6	0.0	1.1
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	0.0	100.0	0.0	0.0
	就学前児童〔3歳以上〕	32	0.0	96.9	3.1	0.0
	小学生	63	0.0	96.8	1.6	0.0
	中学生	51	0.0	98.0	0.0	0.0
	高校生	63	0.0	100.0	0.0	0.0
	大学生・大学院生・～	20	0.0	100.0	0.0	0.0
	働いている	9	0.0	100.0	0.0	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0
(2)医療費助成	187	2.7	91.4	1.6	1.6	2.7
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	8.3	75.0	0.0	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	0.0	90.6	6.3	0.0
	小学生	63	4.8	93.7	0.0	0.0
	中学生	51	5.9	92.2	0.0	0.0
	高校生	63	3.2	92.1	0.0	1.6
	大学生・大学院生・～	20	0.0	95.0	0.0	5.0
	働いている	9	0.0	100.0	0.0	0.0
	就学・就労していない	4	25.0	75.0	0.0	0.0
	その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0
(3)保育料等減額・免除	187	14.4	52.4	8.0	21.4	3.7
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	16.7	58.3	16.7	0.0
	就学前児童〔3歳以上〕	32	12.5	53.1	25.0	6.3
	小学生	63	9.5	63.5	7.9	14.3
	中学生	51	13.7	49.0	0.0	35.3
	高校生	63	15.9	44.4	0.0	36.5
	大学生・大学院生・～	20	30.0	35.0	0.0	30.0
	働いている	9	0.0	66.7	0.0	33.3
	就学・就労していない	4	25.0	50.0	0.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0
(4)年金の免除	187	25.1	44.4	8.6	17.1	4.8
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	33.3	33.3	16.7	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	34.4	25.0	15.6	15.6
	小学生	63	23.8	52.4	4.8	12.7
	中学生	51	25.5	41.2	3.9	19.6
	高校生	63	17.5	47.6	11.1	20.6
	大学生・大学院生・～	20	20.0	60.0	5.0	10.0
	働いている	9	0.0	66.7	0.0	11.1
	就学・就労していない	4	25.0	75.0	0.0	0.0
	その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0
(5)所得税等の控除	187	23.5	52.9	11.2	8.0	4.3
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	33.3	41.7	16.7	0.0
	就学前児童〔3歳以上〕	32	21.9	43.8	21.9	6.3
	小学生	63	23.8	57.1	11.1	3.2
	中学生	51	15.7	52.9	11.8	11.8
	高校生	63	15.9	61.9	9.5	11.1
	大学生・大学院生・～	20	25.0	60.0	0.0	10.0
	働いている	9	22.2	55.6	11.1	0.0
	就学・就労していない	4	25.0	50.0	25.0	0.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0

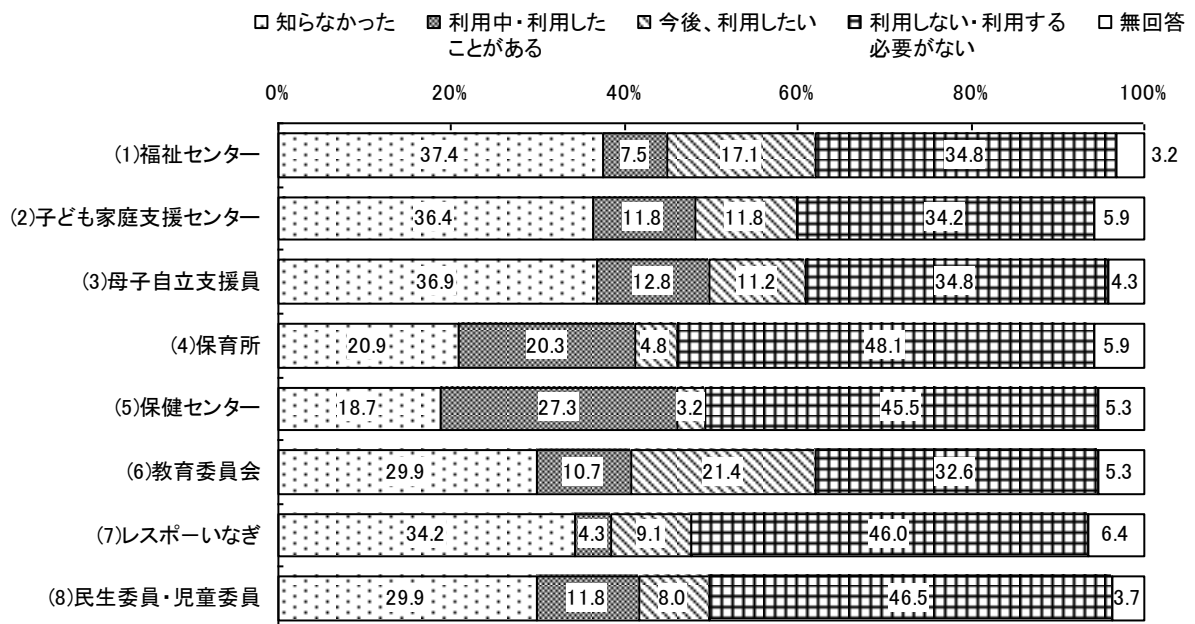
	回答者数（人）	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答
(6)就学援助等	187	13.4	64.2	12.3	6.4	3.7
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	50.0	16.7	16.7	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	25.0	37.5	18.8	12.5
	小学生	63	12.7	65.1	14.3	3.2
	中学生	51	7.8	84.3	2.0	2.0
	高校生	63	4.8	76.2	9.5	6.3
	大学生・大学院生・～	20	10.0	60.0	10.0	15.0
	働いている	9	0.0	88.9	11.1	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	75.0	25.0	0.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0
(7)生活資金の貸付・融資	187	41.2	8.6	13.4	32.6	4.3
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	50.0	8.3	8.3	25.0
	就学前児童〔3歳以上〕	32	56.3	6.3	0.0	31.3
	小学生	63	42.9	7.9	14.3	31.7
	中学生	51	39.2	7.8	21.6	29.4
	高校生	63	36.5	12.7	17.5	28.6
	大学生・大学院生・～	20	40.0	20.0	5.0	35.0
	働いている	9	11.1	44.4	33.3	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	25.0	25.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0
(8)公営住宅優先入居	187	20.3	9.1	33.2	32.6	4.8
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	25.0	8.3	25.0	33.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	31.3	12.5	25.0	21.9
	小学生	63	22.2	9.5	36.5	28.6
	中学生	51	15.7	15.7	35.3	29.4
	高校生	63	15.9	11.1	23.8	42.9
	大学生・大学院生・～	20	30.0	10.0	15.0	45.0
	働いている	9	0.0	22.2	44.4	33.3
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0
(9)交通費の減免	187	21.9	28.3	33.2	14.4	2.1
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	25.0	0.0	41.7	25.0
	就学前児童〔3歳以上〕	32	28.1	25.0	34.4	9.4
	小学生	63	17.5	34.9	34.9	11.1
	中学生	51	21.6	29.4	33.3	13.7
	高校生	63	17.5	33.3	30.2	15.9
	大学生・大学院生・～	20	20.0	35.0	20.0	25.0
	働いている	9	11.1	44.4	33.3	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	50.0	25.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0

②相談機関・相談窓口

「利用中・利用したことがある」は、「保健センター」27.3%、「保育所（子育て相談）」20.3%、「母子自立支援員（市役所福祉部）」12.8%、「子ども家庭支援センター（子どもと家庭の総合相談）」11.8%などの順である。

「知らなかった」は、「福祉センター（ひとり親家庭カウンセリング相談）」37.4%、「母子自立支援員」36.9%、「子ども家庭支援センター」36.4%、「稲城市発達支援センター レスポーいなぎ」34.2%、「教育委員会（教育相談、就学相談等）」「民生委員・児童委員」ともに29.9%が比較的多い。

「今後利用したい」は、「教育委員会」21.4%、「福祉センター」17.1%、「子ども家庭支援センター」11.8%、「母子自立支援員」11.2%の順である。



「今後、利用したい」で比較的多くあげられた「教育委員会」を子どもの年齢で見ると、高校生及び大学生・大学院生を除いては、いずれも20%以上あげている。

単位：%

	回答者数(人)	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(1)福祉センター	187	37.4	7.5	17.1	34.8	3.2	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	12	25.0	0.0	25.0	41.7	8.3
	就学前児童[3歳以上]	32	34.4	6.3	31.3	25.0	3.1
	小学生	63	44.4	3.2	19.0	31.7	1.6
	中学生	51	33.3	5.9	17.6	39.2	3.9
	高校生	63	38.1	12.7	9.5	38.1	1.6
	大学生・大学院生・～	20	35.0	15.0	0.0	50.0	0.0
	働いている	9	33.3	11.1	22.2	33.3	0.0
	就学・就労していない	4	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(2)子ども家庭支援センター	187	36.4	11.8	11.8	34.2	5.9	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	12	41.7	0.0	8.3	33.3	16.7
	就学前児童[3歳以上]	32	31.3	15.6	25.0	18.8	9.4
	小学生	63	39.7	9.5	12.7	34.9	3.2
	中学生	51	29.4	15.7	11.8	39.2	3.9
	高校生	63	36.5	14.3	6.3	38.1	4.8
	大学生・大学院生・～	20	35.0	20.0	0.0	45.0	0.0
	働いている	9	11.1	11.1	22.2	44.4	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(3)母子自立支援員	187	36.9	12.8	11.2	34.8	4.3	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	12	41.7	16.7	0.0	25.0	16.7
	就学前児童[3歳以上]	32	28.1	12.5	15.6	40.6	3.1
	小学生	63	42.9	9.5	11.1	34.9	1.6
	中学生	51	31.4	13.7	13.7	39.2	2.0
	高校生	63	33.3	17.5	7.9	34.9	6.3
	大学生・大学院生・～	20	35.0	25.0	0.0	40.0	0.0
	働いている	9	22.2	22.2	33.3	11.1	11.1
	就学・就労していない	4	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(4)保育所	187	20.9	20.3	4.8	48.1	5.9	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	12	16.7	41.7	8.3	16.7	16.7
	就学前児童[3歳以上]	32	25.0	25.0	21.9	18.8	9.4
	小学生	63	28.6	20.6	3.2	44.4	3.2
	中学生	51	17.6	23.5	2.0	51.0	5.9
	高校生	63	17.5	11.1	1.6	65.1	4.8
	大学生・大学院生・～	20	10.0	5.0	0.0	85.0	0.0
	働いている	9	22.2	11.1	0.0	66.7	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

単位：%

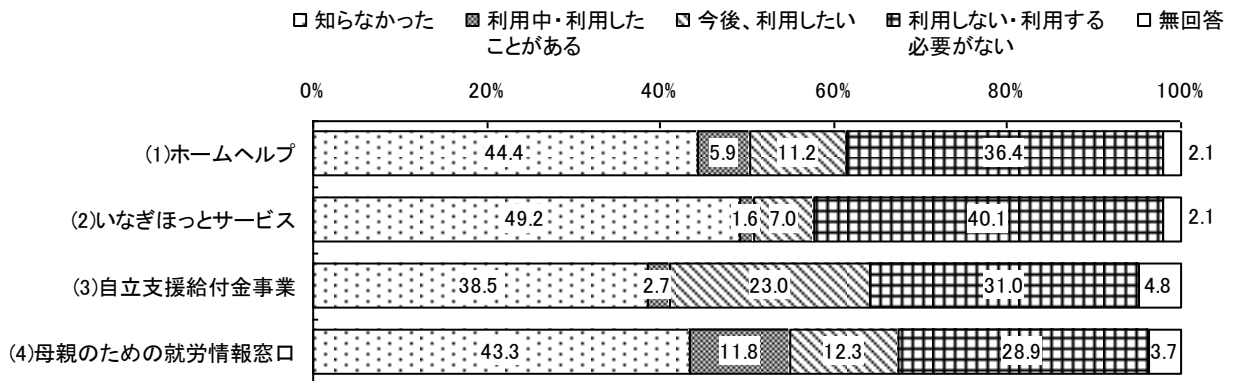
	回答者数(人)	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(5)保健センター	187	18.7	27.3	3.2	45.5	5.3	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	12	25.0	33.3	8.3	25.0	8.3
	就学前児童[3歳以上]	32	18.8	46.9	6.3	21.9	6.3
	小学生	63	23.8	25.4	0.0	49.2	1.6
	中学生	51	15.7	25.5	3.9	51.0	3.9
	高校生	63	14.3	20.6	3.2	55.6	6.3
	大学生・大学院生・～	20	10.0	25.0	0.0	65.0	0.0
	働いている	9	11.1	22.2	0.0	55.6	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(6)教育委員会	187	29.9	10.7	21.4	32.6	5.3	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	12	41.7	0.0	25.0	16.7	16.7
	就学前児童[3歳以上]	32	28.1	9.4	28.1	28.1	6.3
	小学生	63	33.3	9.5	28.6	27.0	1.6
	中学生	51	27.5	19.6	21.6	29.4	2.0
	高校生	63	28.6	11.1	12.7	41.3	6.3
	大学生・大学院生・～	20	25.0	5.0	15.0	55.0	0.0
	働いている	9	22.2	22.2	22.2	22.2	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(7)レスポ-いなぎ	187	34.2	4.3	9.1	46.0	6.4	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	12	66.7	8.3	0.0	8.3	16.7
	就学前児童[3歳以上]	32	28.1	3.1	25.0	34.4	9.4
	小学生	63	33.3	4.8	12.7	47.6	1.6
	中学生	51	33.3	11.8	5.9	45.1	3.9
	高校生	63	33.3	3.2	4.8	52.4	6.3
	大学生・大学院生・～	20	30.0	0.0	5.0	65.0	0.0
	働いている	9	22.2	11.1	0.0	55.6	11.1
	就学・就労していない	4	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(8)民生委員・児童委員	187	29.9	11.8	8.0	46.5	3.7	
子ども年齢	就学前児童[0～2歳]	12	50.0	8.3	0.0	33.3	8.3
	就学前児童[3歳以上]	32	50.0	12.5	9.4	25.0	3.1
	小学生	63	36.5	9.5	6.3	46.0	1.6
	中学生	51	21.6	13.7	11.8	49.0	3.9
	高校生	63	17.5	17.5	4.8	55.6	4.8
	大学生・大学院生・～	20	25.0	5.0	0.0	70.0	0.0
	働いている	9	11.1	33.3	11.1	44.4	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

③生活・就労支援

「利用中・利用したことがある」は、「母親のための就労情報窓口（調布国領しごと情報広場マザーズコーナー等）」11.8%以外は1ケタ台である。

「知らなかった」は、「有償家事援助（いなぎほっとサービス）」49.2%、「ひとり親家庭ホームヘルプサービス」44.4%、「母親のための就労情報窓口」43.3%、「自立支援給付金事業」38.5%、いずれも多い。

「今後利用したい」は、「自立支援給付金事業」23.0%、「母親のための就労情報窓口」12.3%、「ひとり親家庭ホームヘルプサービス」11.2%、「有償家事援助」7.0%である。



子どもの年齢でみると、「母親のための就労情報窓口（調布国領しごと情報広場マザーズコーナー等）」を除いては、いずれも「知らなかった」は就学前児童に多い。

単位：%

	回答者数（人）	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(1)ホームヘルプ	187	44.4	5.9	11.2	36.4	2.1	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	66.7	0.0	8.3	25.0	0.0
	就学前児童〔3歳以上〕	32	53.1	6.3	15.6	21.9	3.1
	小学生	63	41.3	7.9	15.9	33.3	1.6
	中学生	51	39.2	3.9	5.9	49.0	2.0
	高校生	63	44.4	7.9	4.8	39.7	3.2
	大学生・大学院生・～	20	40.0	10.0	5.0	45.0	0.0
	働いている	9	22.2	33.3	0.0	44.4	0.0
	就学・就労していない	4	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(2)いなぎほっとサービス	187	49.2	1.6	7.0	40.1	2.1	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	58.3	0.0	8.3	33.3	0.0
	就学前児童〔3歳以上〕	32	62.5	0.0	6.3	28.1	3.1
	小学生	63	49.2	1.6	7.9	39.7	1.6
	中学生	51	41.2	0.0	7.8	49.0	2.0
	高校生	63	49.2	0.0	3.2	44.4	3.2
	大学生・大学院生・～	20	45.0	5.0	10.0	40.0	0.0
	働いている	9	44.4	0.0	0.0	55.6	0.0
	就学・就労していない	4	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

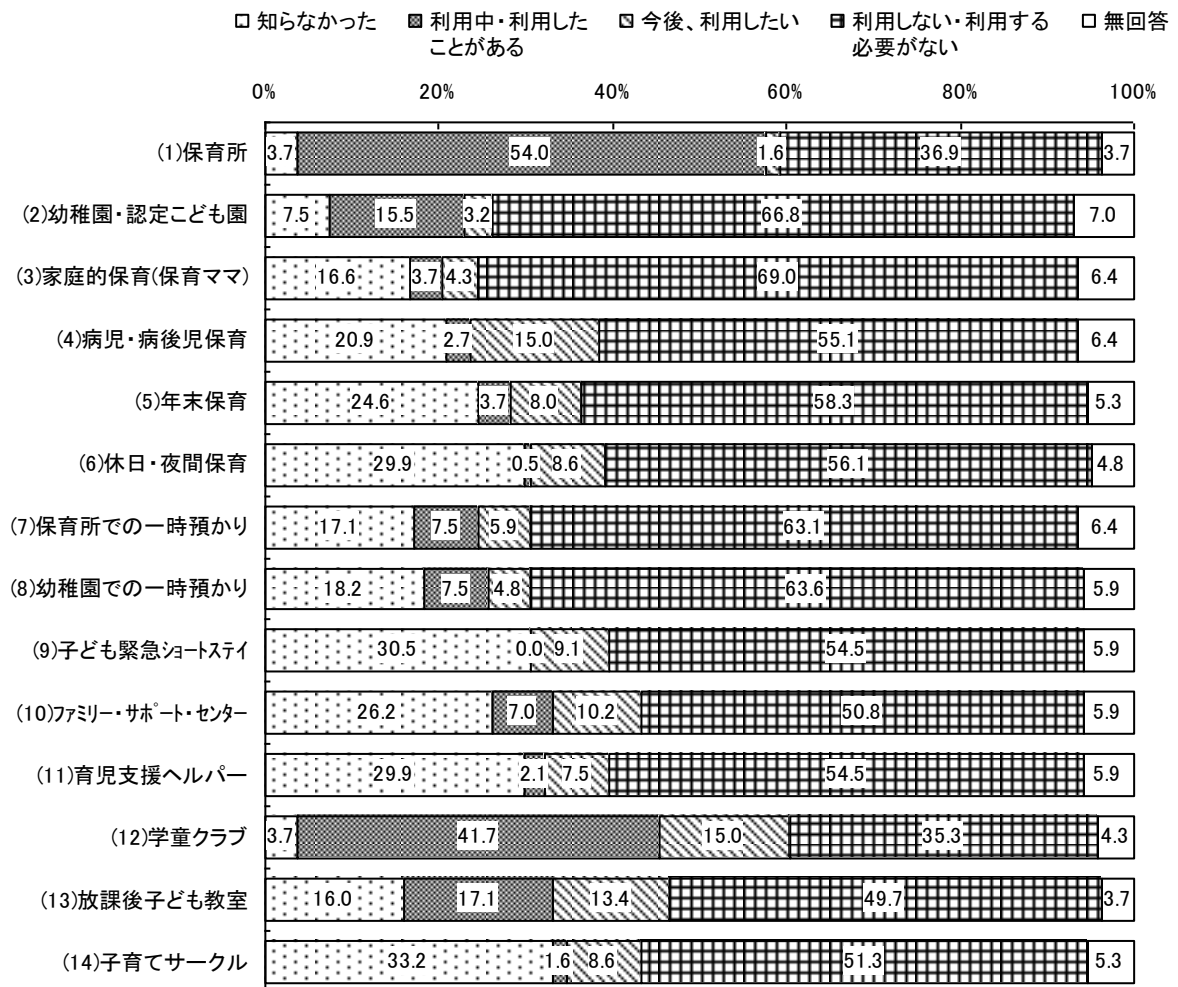
	回答者数（人）	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(3)自立支援給付金事業	187	38.5	2.7	23.0	31.0	4.8	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	50.0	0.0	16.7	25.0	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	43.8	6.3	25.0	18.8	6.3
	小学生	63	36.5	1.6	33.3	25.4	3.2
	中学生	51	29.4	2.0	27.5	35.3	5.9
	高校生	63	34.9	3.2	15.9	39.7	6.3
	大学生・大学院生・～	20	45.0	5.0	15.0	35.0	0.0
	働いている	9	33.3	0.0	44.4	22.2	0.0
	就学・就労していない	4	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(4)母親のための就労情報窓口	187	43.3	11.8	12.3	28.9	3.7	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	33.3	25.0	8.3	25.0	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	46.9	9.4	12.5	21.9	9.4
	小学生	63	47.6	9.5	19.0	22.2	1.6
	中学生	51	33.3	15.7	15.7	33.3	2.0
	高校生	63	44.4	7.9	6.3	36.5	4.8
	大学生・大学院生・～	20	50.0	10.0	10.0	30.0	0.0
	働いている	9	44.4	11.1	22.2	22.2	0.0
	就学・就労していない	4	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

④保育・子育て支援事業

「利用中・利用したことがある」は、「保育所」54.0%、「学童クラブ」41.7%が、「放課後の居場所事業「放課後子ども教室」とともに17.1%、「幼稚園・認定こども園」15.5%などを大きく引き離している。

「知らなかった」は、「子育てサークルによる子育て支援活動（NPOを含む）」33.2%、「子ども緊急ショートステイ事業（宿泊を伴う短期間の預かり）」30.5%、「休日・夜間保育事業」「育児支援ヘルパー」とともに29.9%、「ファミリー・サポート・センター」26.2%、「年末保育事業」24.6%、「病児・病後児保育事業」20.9%などの順である。

「今後利用したい」は、「病児・病後児保育事業」「学童クラブ」とともに15.0%、「放課後の居場所事業「放課後子ども教室」」13.4%、「ファミリー・サポート・センター」10.2%などである。



「知らなかった」を子どもの年齢で見ると、「病児・病後児保育」及び「年末保育」は就学前児童（0～2歳）に比較的多く、就学前児童（3歳以上）に多いのは、「保育所での一時預かり」「幼稚園での一時預かり」「子ども緊急ショートステイ」「ファミリー・サポート・センター」である。

「今後、利用したい」を就学前児童で見ると、「学童クラブ」は0～2歳で66.7%、3歳以上で56.3%、「病児・病後児保育」については0～2歳で41.7%、3歳以上40.6%と他の保育・子育て支援事業を大きく上回る。

単位：%

単位：%

	回答者数(人)	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(1)保育所	187	3.7	54.0	1.6	36.9	3.7	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	0.0	66.7	16.7	16.7	0.0
	就学前児童〔3歳以上〕	32	6.3	78.1	3.1	12.5	0.0
	小学生	63	3.2	60.3	0.0	33.3	3.2
	中学生	51	3.9	43.1	0.0	49.0	3.9
	高校生	63	1.6	44.4	0.0	49.2	4.8
	大学生・大学院生・～	20	10.0	30.0	0.0	60.0	0.0
	働いている	9	0.0	55.6	0.0	44.4	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(2)幼稚園・認定こども園	187	7.5	15.5	3.2	66.8	7.0	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	0.0	8.3	25.0	58.3	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	9.4	21.9	3.1	50.0	15.6
	小学生	63	11.1	19.0	0.0	63.5	6.3
	中学生	51	7.8	15.7	2.0	68.6	5.9
	高校生	63	6.3	11.1	1.6	74.6	6.3
	大学生・大学院生・～	20	10.0	15.0	0.0	75.0	0.0
	働いている	9	22.2	0.0	0.0	66.7	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(3)家庭の保育(保育ママ)	187	16.6	3.7	4.3	69.0	6.4	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	8.3	0.0	8.3	75.0	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	9.4	12.5	6.3	59.4	12.5
	小学生	63	19.0	4.8	1.6	69.8	4.8
	中学生	51	13.7	3.9	5.9	70.6	5.9
	高校生	63	17.5	0.0	3.2	73.0	6.3
	大学生・大学院生・～	20	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0
	働いている	9	11.1	0.0	0.0	77.8	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(4)病児・病後児保育	187	20.9	2.7	15.0	55.1	6.4	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	25.0	8.3	41.7	16.7	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	18.8	9.4	40.6	18.8	12.5
	小学生	63	19.0	6.3	11.1	60.3	3.2
	中学生	51	11.8	3.9	11.8	68.6	3.9
	高校生	63	22.2	1.6	4.8	66.7	4.8
	大学生・大学院生・～	20	40.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	働いている	9	11.1	11.1	0.0	77.8	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(5)年末保育	187	24.6	3.7	8.0	58.3	5.3	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	33.3	8.3	25.0	25.0	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	25.0	3.1	18.8	37.5	15.6
	小学生	63	20.6	6.3	3.2	65.1	4.8
	中学生	51	13.7	3.9	9.8	68.6	3.9
	高校生	63	23.8	1.6	4.8	63.5	6.3
	大学生・大学院生・～	20	30.0	0.0	0.0	70.0	0.0
	働いている	9	22.2	0.0	0.0	66.7	11.1
	就学・就労していない	4	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

	回答者数(人)	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(6)休日・夜間保育	187	29.9	0.5	8.6	56.1	4.8	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	33.3	0.0	25.0	33.3	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	34.4	0.0	18.8	34.4	12.5
	小学生	63	27.0	1.6	4.8	61.9	4.8
	中学生	51	19.6	0.0	9.8	66.7	3.9
	高校生	63	27.0	0.0	4.8	61.9	6.3
	大学生・大学院生・～	20	35.0	0.0	0.0	65.0	0.0
	働いている	9	22.2	0.0	0.0	66.7	11.1
	就学・就労していない	4	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(7)保育所での一時預かり	187	17.1	7.5	5.9	63.1	6.4	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	0.0	16.7	16.7	58.3	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	25.0	6.3	15.6	37.5	15.6
	小学生	63	14.3	7.9	1.6	71.4	4.8
	中学生	51	13.7	3.9	5.9	72.5	3.9
	高校生	63	15.9	9.5	3.2	65.1	6.3
	大学生・大学院生・～	20	30.0	0.0	0.0	70.0	0.0
	働いている	9	11.1	11.1	0.0	66.7	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(8)幼稚園での一時預かり	187	18.2	7.5	4.8	63.6	5.9	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	0.0	0.0	25.0	66.7	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	31.3	0.0	9.4	43.8	15.6
	小学生	63	15.9	15.9	0.0	63.5	4.8
	中学生	51	11.8	7.8	5.9	70.6	3.9
	高校生	63	15.9	4.8	3.2	69.8	6.3
	大学生・大学院生・～	20	20.0	10.0	0.0	70.0	0.0
	働いている	9	22.2	0.0	0.0	66.7	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(9)子ども緊急ショートステイ	187	30.5	0.0	9.1	54.5	5.9	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	8.3	0.0	33.3	50.0	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	34.4	0.0	18.8	31.3	15.6
	小学生	63	30.2	0.0	7.9	57.1	4.8
	中学生	51	23.5	0.0	9.8	62.7	3.9
	高校生	63	31.7	0.0	4.8	57.1	6.3
	大学生・大学院生・～	20	35.0	0.0	0.0	65.0	0.0
	働いている	9	33.3	0.0	0.0	55.6	11.1
	就学・就労していない	4	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(10)ファミリー・サポート・センター	187	26.2	7.0	10.2	50.8	5.9	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	16.7	0.0	25.0	50.0	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	34.4	3.1	31.3	15.6	15.6
	小学生	63	28.6	6.3	7.9	52.4	4.8
	中学生	51	17.6	5.9	5.9	66.7	3.9
	高校生	63	23.8	6.3	3.2	60.3	6.3
	大学生・大学院生・～	20	30.0	10.0	0.0	60.0	0.0
	働いている	9	22.2	11.1	0.0	55.6	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

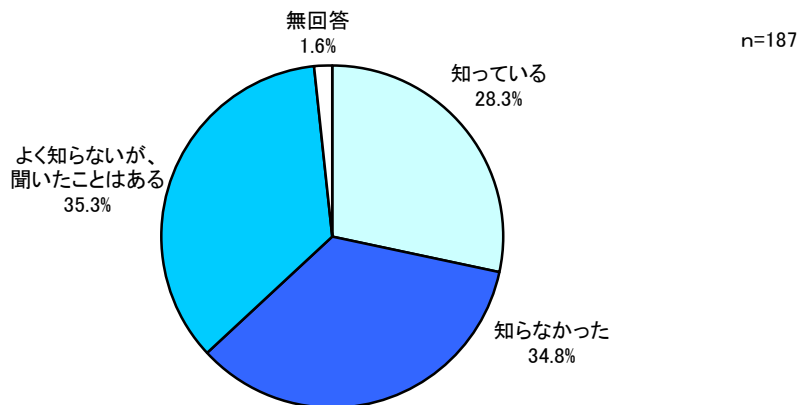
	回答者数（人）	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(11)育児支援ヘルパー	187	29.9	2.1	7.5	54.5	5.9	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	33.3	0.0	8.3	50.0	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	37.5	3.1	15.6	28.1	15.6
	小学生	63	33.3	1.6	4.8	55.6	4.8
	中学生	51	19.6	0.0	7.8	68.6	3.9
	高校生	63	25.4	3.2	3.2	61.9	6.3
	大学生・大学院生・～	20	25.0	5.0	0.0	70.0	0.0
	働いている	9	11.1	11.1	0.0	66.7	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(12)学童クラブ	187	3.7	41.7	15.0	35.3	4.3	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	0.0	8.3	66.7	16.7	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	9.4	28.1	56.3	3.1	3.1
	小学生	63	3.2	55.6	7.9	31.7	1.6
	中学生	51	2.0	47.1	2.0	47.1	2.0
	高校生	63	0.0	46.0	0.0	49.2	4.8
	大学生・大学院生・～	20	5.0	45.0	5.0	45.0	0.0
	働いている	9	11.1	44.4	0.0	44.4	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

単位：%

	回答者数（人）	知らなかった	利用中・利用したことがある	今後、利用したい	利用しない・利用する必要がない	無回答	
(13)放課後子ども教室	187	16.0	17.1	13.4	49.7	3.7	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	41.7	8.3	16.7	25.0	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	28.1	21.9	37.5	9.4	3.1
	小学生	63	3.2	42.9	14.3	38.1	1.6
	中学生	51	7.8	15.7	3.9	70.6	2.0
	高校生	63	15.9	7.9	3.2	68.3	4.8
	大学生・大学院生・～	20	15.0	20.0	0.0	65.0	0.0
	働いている	9	11.1	22.2	0.0	66.7	0.0
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
(14)子育てサークル	187	33.2	1.6	8.6	51.3	5.3	
子ども年齢	就学前児童〔0～2歳〕	12	41.7	0.0	16.7	33.3	8.3
	就学前児童〔3歳以上〕	32	50.0	0.0	15.6	21.9	12.5
	小学生	63	36.5	0.0	12.7	47.6	3.2
	中学生	51	27.5	2.0	3.9	62.7	3.9
	高校生	63	25.4	3.2	3.2	61.9	6.3
	大学生・大学院生・～	20	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0
	働いている	9	22.2	0.0	0.0	66.7	11.1
	就学・就労していない	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問 16 あなたは「成年後見制度」をご存知ですか。（1つに○）

「知っている」28.3%、「知らなかった」34.8%、「よく知らないが、聞いたことはある」35.3%である。



※「成年後見制度」：判断能力が不十分な成年者（知的障害者、精神障害者、認知症の高齢者等）が不利益を被らないように家庭裁判所に申し立てをし、その方を援助してくれる人（「後見人」）を付け、財産管理や福祉サービスの利用などを任せる制度です。

7. 自由記入内容のまとめ

市の今後の「ひとり親支援」施策への意見等を、自由記入方式でたずねた。その内容を項目別にまとめると、以下のようなになる。

分類	件数
手当、助成	15
子どもの進学について	15
住宅について	11
経済的困窮	6
相談	5
窓口、手続きについて	4
保育、学童など	4
不安	3
仕事について	3
サービスについて	3
アンケートについて	3
その他家庭の問題	2
その他	4

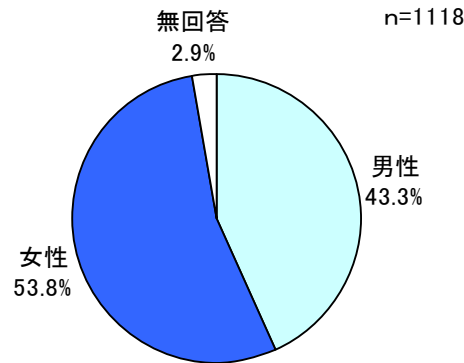
VII 「保健医療調査」の結果

◆ 調査の結果

1 あなたご自身のことについて

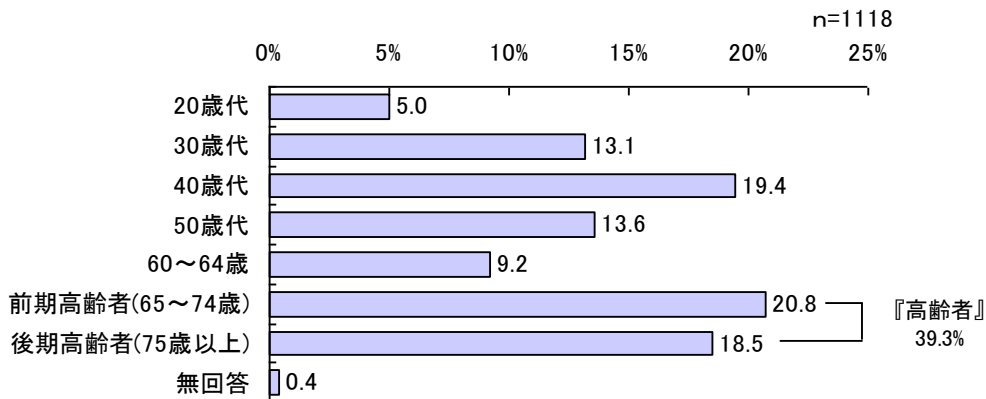
ア あなたの性別は。(1つに○)

「女性」53.8%、「男性」43.3%であり、女性がやや上回る。



イ あなたの年齢は。(平成 29 年 2 月 1 日現在)

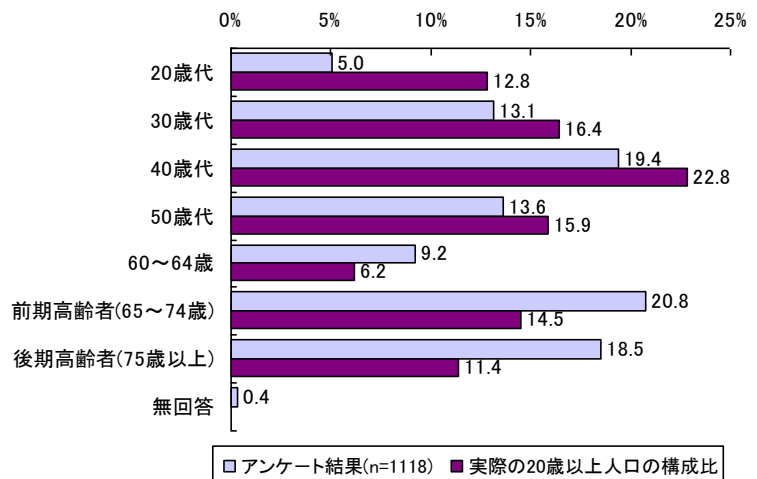
「前期高齢者 (65～74 歳)」20.8%、「後期高齢者 (75 歳以上)」18.5%、「40 歳代」19.4%などで多く、65 歳以上の高齢者が 4 割を占める。「20 歳代」は 5.0%となっている。



実際の人口構成との比較

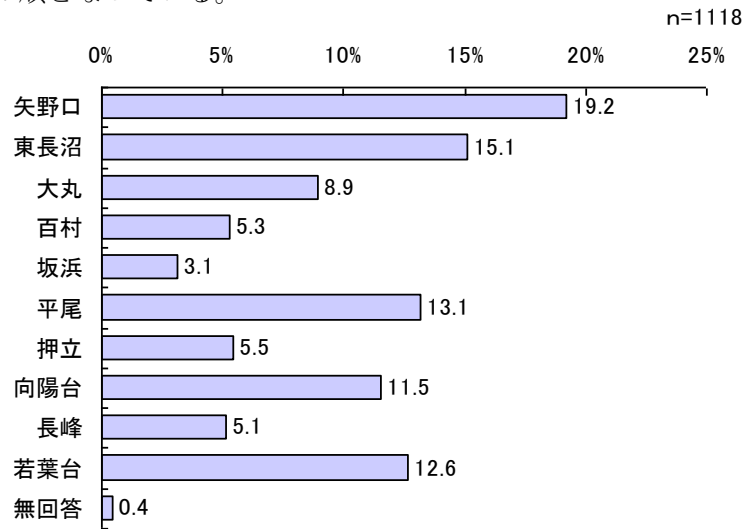
実際の 20 歳以上人口 (平成 29 年 3 月 1 日現在 71,046 人) における各年代の構成比と比較すると、50 歳代以下では、実際の構成比をアンケート結果が下回る。特に 20 歳代で乖離が大きい。

一方、65 歳以上の高齢者では、実際の構成比をアンケート結果が上回る。



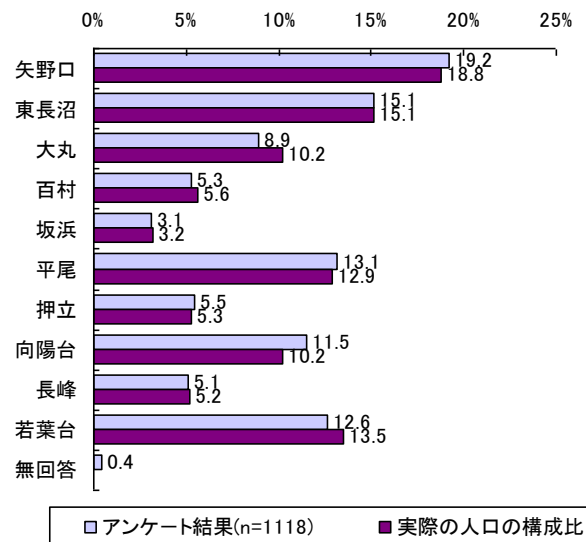
ウ あなたのお住まいの地区は。(1つに○)

「矢野口」19.2%が最も多く、次いで「東長沼」15.1%、「平尾」13.1%、「若葉台」12.6%、「向陽台」11.5%、などの順となっている。

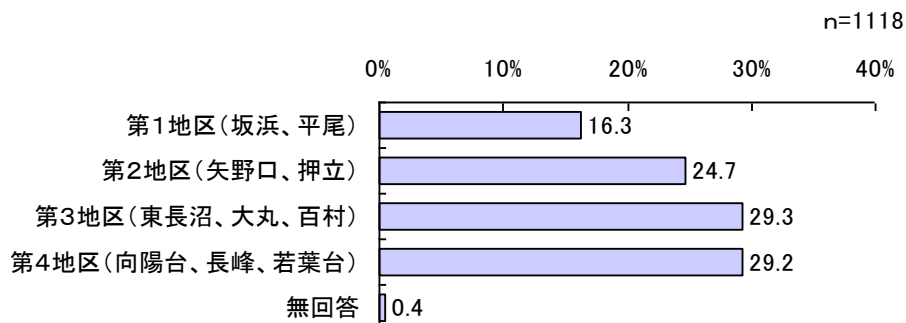


実際の人口構成との比較

実際の地区別人口（平成 29 年 3 月 1 日現在）の構成比と比較すると、アンケート結果と実際の人口構成比は、概ね同程度の値となっている。

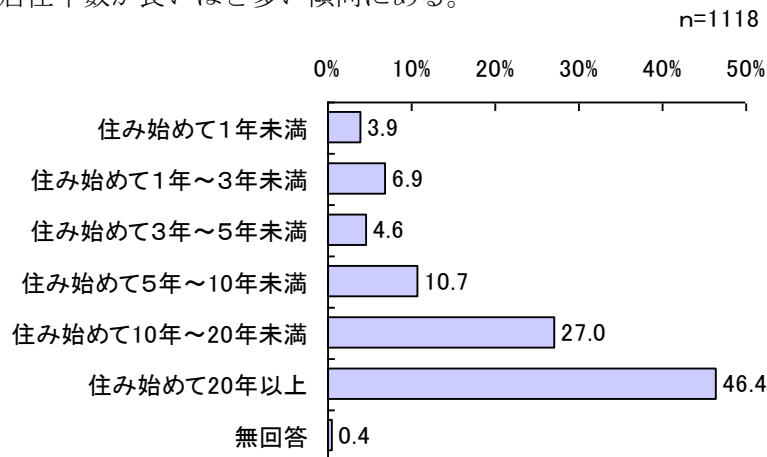


日常生活圏域別に再集計したところ、第3地区（東長沼、大丸、百村）29.3%、第4地区（向陽台、長峰、若葉台）29.2%がほぼ同程度で多くなっている。次いで、第2地区（矢野口、押立）24.7%、最も少ないのは第1地区（坂浜、平尾）の16.3%である。



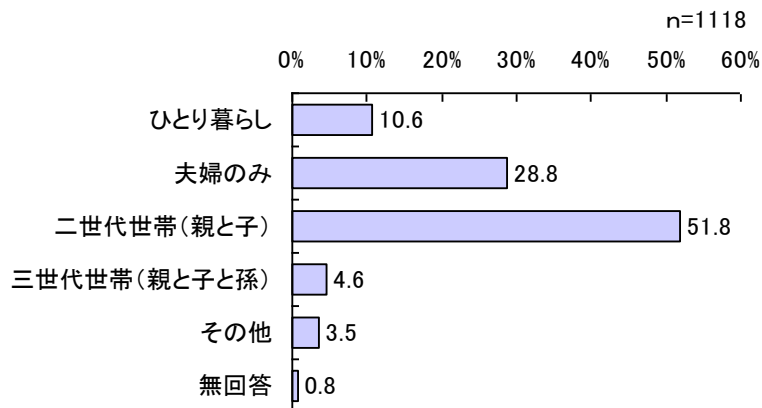
エ 稲城市に何年住んでいますか。(1つに○)

「住み始めて20年以上」との回答が最も多く46.4%と4割以上を占める。次いで「住み始めて10年～20年未満」27.0%、「住み始めて5年～10年未満」10.7%など、高年齢層の回答が多いことを受け、居住年数が長いほど多い傾向にある。



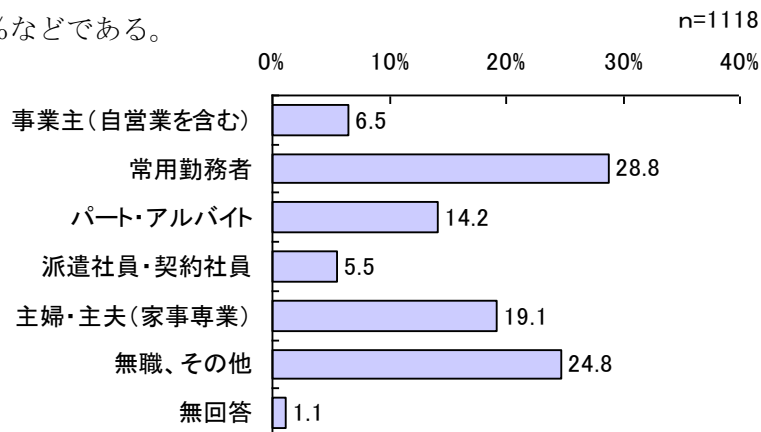
オ 家族構成は。(1つに○)

「二世世代世帯 (親と子)」の51.8%が最も多く半数を超える。次いで「夫婦のみ」28.8%、「ひとり暮らし」10.6%などの順であり、「三世世代世帯 (親と子と孫)」は4.6%とわずかである。



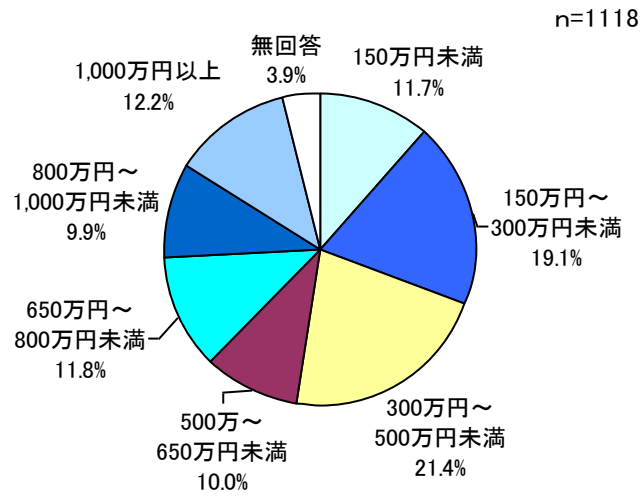
カ あなたの職業は。(1つに○)

「常用勤務者」28.8%、「無職、その他」24.8%、「主婦・主夫 (家事専業)」19.1%、「パート・アルバイト」14.2%などである。



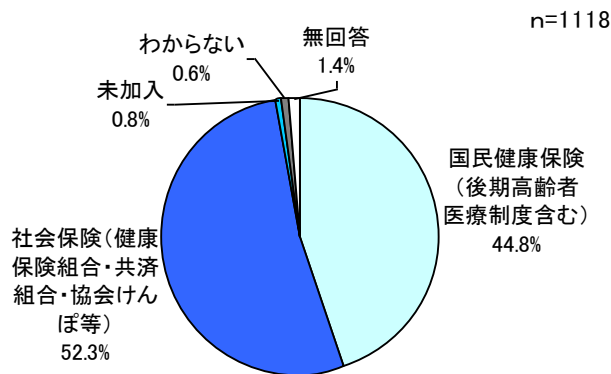
キ あなたの世帯の世帯収入(年収)は次のどれにあたりますか。(1つに○)

「150万円未満」11.7%、「150万円～300万円未満」19.1%、「300万円～500万円未満」21.4%など、『500万円未満』との回答が半数以上を占める一方で、「1,000万円以上」も1割程度となっている。



ク あなたの加入している健康保険は何ですか。(1つに○)

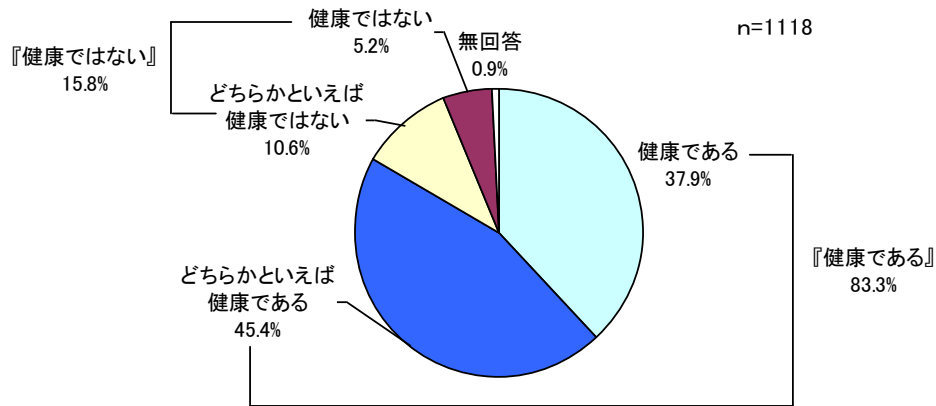
「社会保険(健康保険組合・共済組合・協会けんぽ等)」52.3%が「国民健康保険(後期高齢者医療制度含む)」44.8%をやや上回る。「わからない」「未加入」はいずれも1%未満である。



2 健康状態や健康管理について

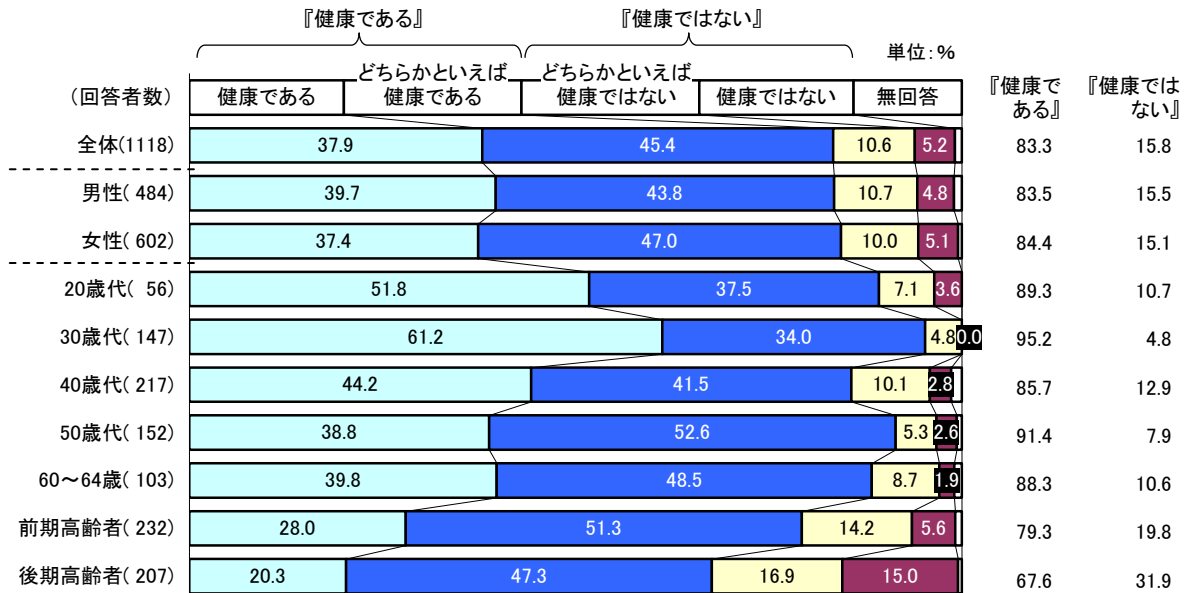
問1 あなたは、現在のご自分の健康状態をどのように思われますか。(1つに○)

「健康である」37.9%、「どちらかといえば健康である」45.4%、これらを合わせた『健康である』は83.3%と8割を超える。



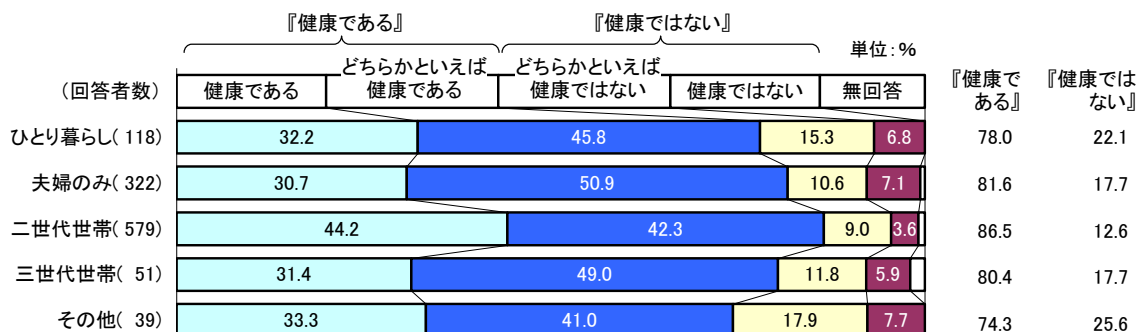
【性別・年齢別】

『健康である』は、男女ともに8割台とほぼ同じである。年代では30歳代及び50歳代が9割を超え、20歳代、40歳代及び60～64歳は8割台、前期高齢者は7割台後半、後期高齢者6割台となっている。



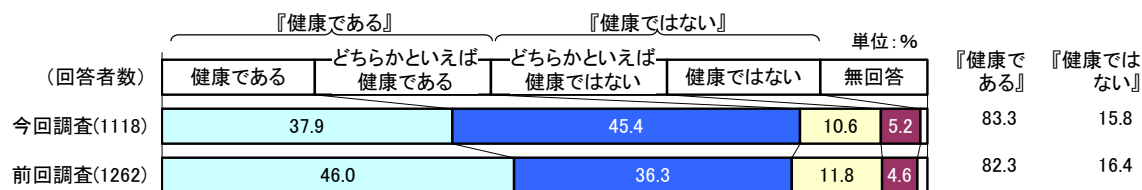
【家族構成別】

『健康である』は、二世帯世帯が8割代後半、夫婦のみ、三世帯世帯が8割台前半であるが、特に二世帯世帯では「健康である」割合が4割台と突出している。ひとり暮らし、その他世帯では7割台となっている。



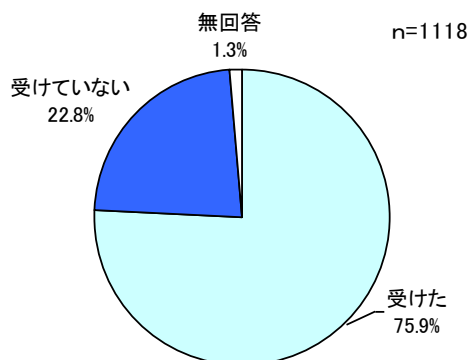
前回調査との比較

「健康である」が8.1ポイント減であるが、「どちらかといえば健康である」が9.1ポイント増であることから、それらを合わせた『健康である』の割合は、ともに8割台前半と大きな差は見られない。



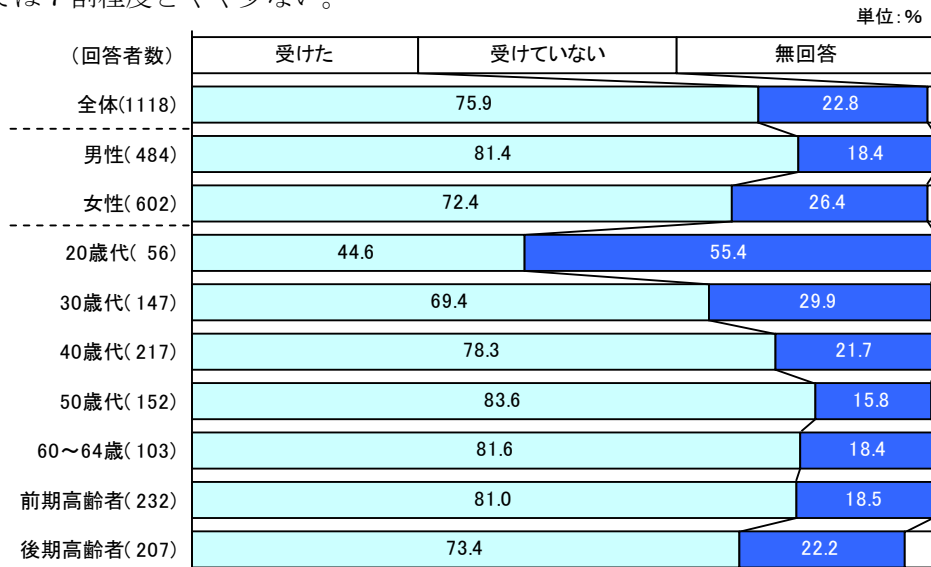
問2 あなたは、最近1年以内に健康診査（がん検診を含む）や人間ドックを受けましたか。
(1つに○)

「受けた」が75.9%と大半が、4人に1人は「受けていない」としている。



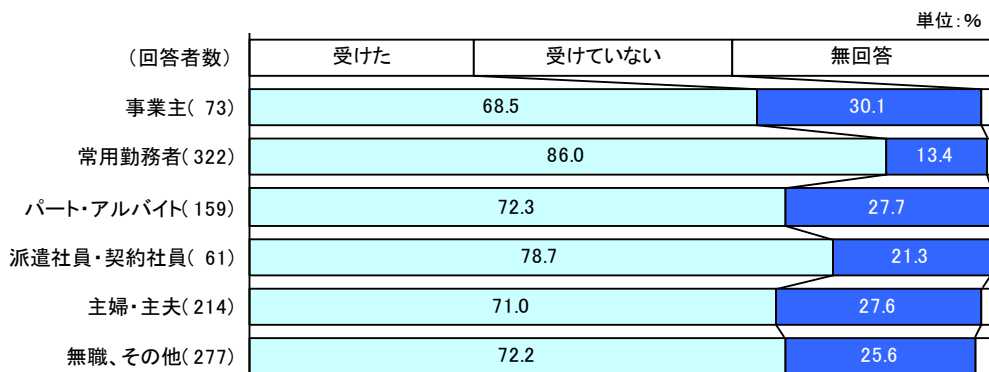
【性別・年齢別】

「受けた」は男性が女性を上回り、年代でみると20歳代では「受けていない」が半数以上を占めている。40歳代から前期高齢者では、「受けた」が8割程度となっているが、30歳代と後期高齢者では7割程度とやや少ない。



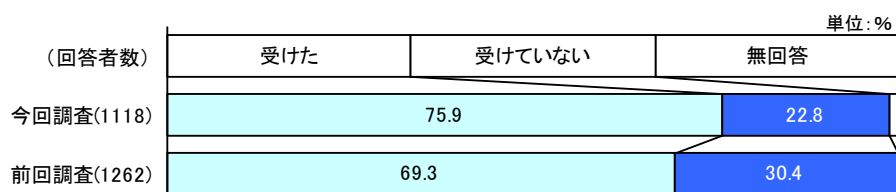
【職業別】

「受けた」は常用勤務者が最も多く8割台後半、次いで、派遣社員・契約社員の7割台後半、パート・アルバイト、無職・その他、主婦・主夫はいずれも7割台前半となっている。「受けた」が最も少ないのは、事業主の6割台後半である。



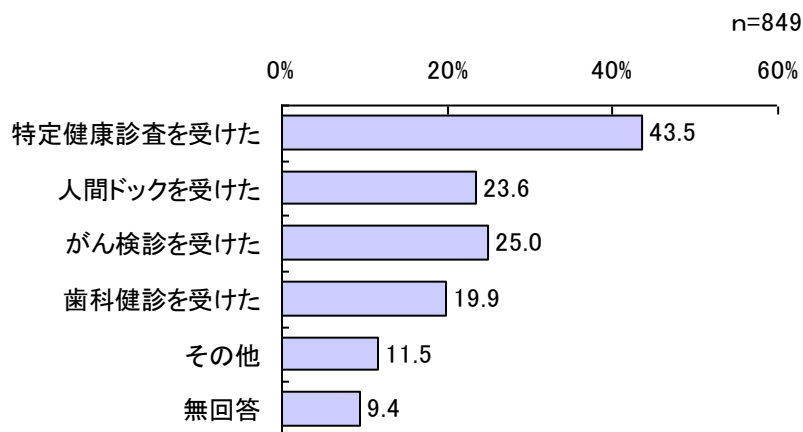
前回調査との比較

「受けた」が6.6ポイント増、「受けていない」は7.6ポイント減となっている。



問2-1 (問2で「受けた」とお答えの方へ)どのような健康診査を受けましたか。(1つに○)

「特定健康診査を受けた」が43.5%と最も多く、次いで「がん検診を受けた」25.0%、「人間ドックを受けた」23.6%、「歯科健診を受けた」19.9%などの順となっている。



【性別・年齢別・職業別】

「特定健康診査」は、男女ともに最も多くあげられている。次いで、男性は「人間ドック」、女性は「がん検診」が多くなっている。年代でみると40歳以上ではいずれも「特定健康診査」が最も多く、20歳代では「その他」、30歳代では「人間ドック」との回答が多くなっている。

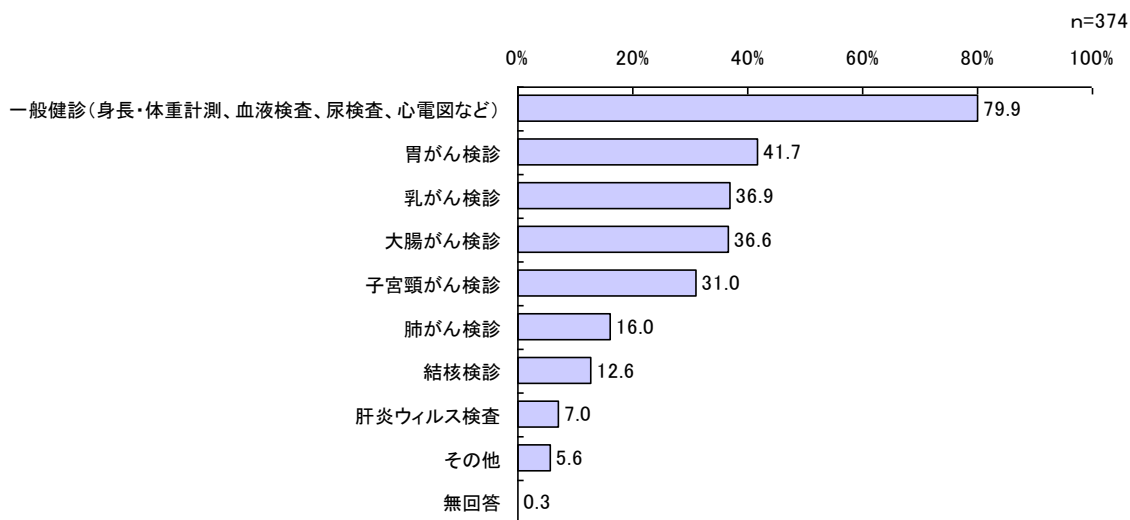
職業別では、常用勤務者を除き「特定健康診査」は事業主とパート・アルバイトで6割台と特に多く、派遣社員・契約社員で5割台半ば、主婦・主夫、無職・その他で4割台となっている。常用勤務者は、「人間ドック」と「特定健康診査」が同程度である。「がん検診」は主婦・主夫、パート・アルバイトで4割程度、「歯科健診」は主婦・主夫、事業主、パート・アルバイト、無職・その他で2割台となっている。

単位: %

		回答者数(人)	特定健康診査を受けた	人間ドックを受けた	がん検診を受けた	歯科健診を受けた	その他	無回答
全体		849	43.5	23.6	25.0	19.9	11.5	9.4
性	男性	394	42.9	28.9	15.2	16.5	12.2	8.6
	女性	436	45.0	19.3	33.7	22.7	11.0	8.9
年齢	20歳代	25	0.0	12.0	24.0	20.0	44.0	20.0
	30歳代	102	0.0	33.3	22.5	19.6	21.6	20.6
	40歳代	170	54.7	23.5	29.4	18.2	9.4	1.2
	50歳代	127	57.5	37.8	26.0	16.5	4.7	1.6
	60~64歳	84	50.0	29.8	33.3	22.6	7.1	3.6
	前期高齢者	188	62.8	20.7	24.5	21.8	8.5	3.2
後期高齢者	152	28.3	7.2	17.1	21.1	13.2	27.0	
職業	事業主	50	64.0	16.0	8.0	26.0	6.0	12.0
	常用勤務者	277	32.9	34.3	17.0	12.6	16.2	8.7
	パート・アルバイト	115	60.9	14.8	39.1	20.9	7.8	2.6
	派遣社員・契約社員	48	54.2	27.1	25.0	8.3	8.3	4.2
	主婦・主夫	152	44.7	21.7	41.4	26.3	6.6	9.9
	無職、その他	200	40.0	16.0	20.5	26.0	12.5	15.0

問2-2 (問2-1で「人間ドックを受けた」「がん検診を受けた」とお答えの方へ)何を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

「一般健診」が79.9%と大半であるが、次いで「胃がん検診」41.7%、「乳がん検診」36.9%、「大腸がん検診」36.6%、「子宮頸がん検診」31.0%、「肺がん検診」16.0%などである。



【性別・年齢別】

「一般健診」はいずれの属性でも7割以上の方が受診している。性別では、「乳がん検診」「子宮頸がん検診」など女性を中心に実施する項目以外は、大きな差は見られない。

年齢別では、20歳代では「子宮頸がん検診」、40歳代では「乳がん検診」、60～64歳では「胃がん検診」「大腸がん検診」がいずれも5割を超えている。また、前期高齢者では「胃がん検診」「大腸がん検診」「肺がん検診」「結核検診」など、多くの項目で他の年代の回答を上回る。

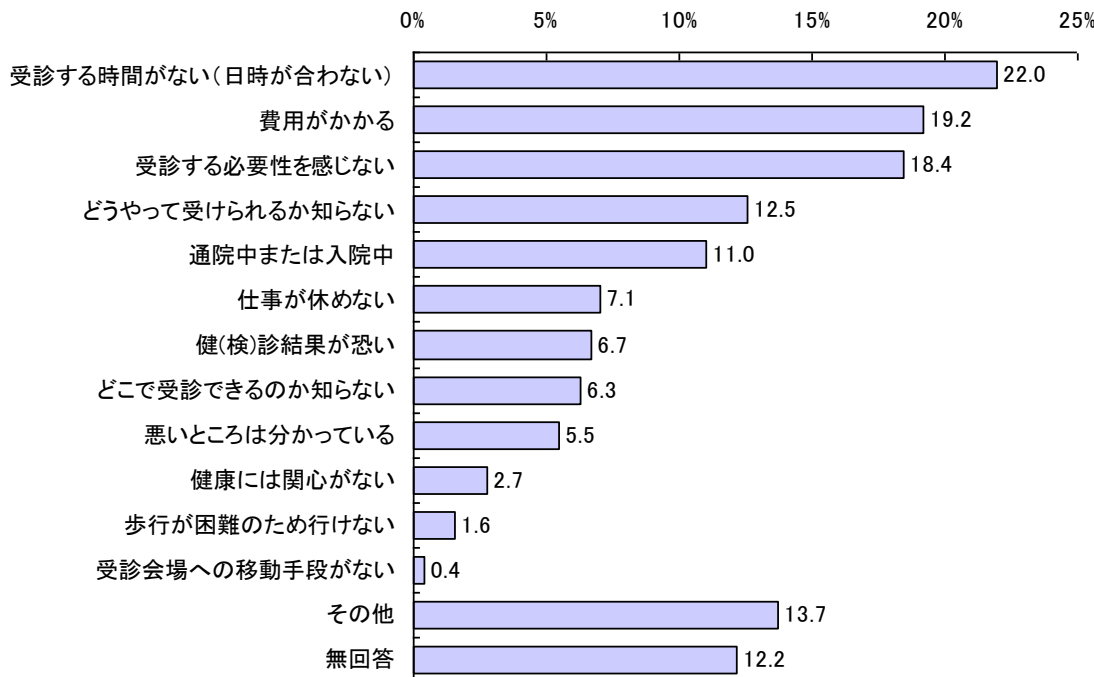
単位: %

	回答者数(人)	一般健診(身長・体重計測、血液検査、尿検査、心電図など)	結核検診	胃がん検診	大腸がん検診	肺がん検診	乳がん検診	子宮頸がん検診	肝炎ウイルス検査	その他	無回答
全体	374	79.9	12.6	41.7	36.6	16.0	36.9	31.0	7.0	5.6	0.3
性	男性	161	85.1	11.2	41.0	36.6	14.3	0.6	5.0	8.1	0.0
	女性	207	75.4	14.0	42.0	36.7	16.4	66.2	8.2	3.4	0.5
年齢	20歳代	9	77.8	0.0	0.0	0.0	11.1	55.6	0.0	0.0	0.0
	30歳代	54	85.2	0.0	14.8	5.6	0.0	31.5	0.0	3.7	1.9
	40歳代	82	80.5	8.5	40.2	31.7	19.5	56.1	43.9	9.8	2.4
	50歳代	72	87.5	12.5	47.2	30.6	18.1	45.8	38.9	8.3	6.9
	60～64歳	47	78.7	19.1	51.1	51.1	14.9	36.2	29.8	4.3	10.6
	前期高齢者	76	73.7	23.7	55.3	55.3	23.7	27.6	13.2	10.5	3.9
	後期高齢者	34	70.6	11.8	44.1	58.8	17.6	8.8	11.8	5.9	11.8

問2-3 (問2で「2. 受けていない」とお答えの方へ) どのような理由で受けなかったのですか。
(あてはまるものすべてに○)

最も多い理由は「受診する時間がない(日時が合わない)」22.0%、次いで「費用がかかる」19.2%、「受診する必要性を感じない」18.4%、「どうやって受けられるか知らない」12.5%、「通院中または入院中」11.0%などが主な回答となっている。

n=255



【性別・年齢別】

男性で多い回答は、「受診する必要性を感じない」「仕事が休めない」、女性で多い回答は「費用がかかる」「どうやって受けられるか知らない」である。

年齢別では、20歳代と後期高齢者では「受診する必要性を感じない」、30～50歳代では「受診する時間がない」、60～64歳と前期高齢者では「通院中または入院中」が最も多くあげられている。30～40歳代では「費用がかかる」が3割台と他の年代に比べ多くなっている。「どうやって受けられるか知らない」との回答は、若い世代ほど多い傾向にある。

単位: %

	回答者数(人)	受診する時間がない(日時が合わない)	仕事が休めない	受診会場への移動手段がない	歩行が困難のため行けない	どこで受診できるのか知らない	費用がかかる	健(検)診結果が怖い	悪いところは分かっている	通院中または入院中	受診する必要性を感じない	健康には関心がない	どうやって受けられるか知らない	その他	無回答	
全体	255	22.0	7.1	0.4	1.6	6.3	19.2	6.7	5.5	11.0	18.4	2.7	12.5	13.7	12.2	
性	男性	89	24.7	12.4	1.1	1.1	13.5	2.2	5.6	13.5	27.0	3.4	9.0	10.1	10.1	
	女性	159	21.4	4.4	0.0	1.9	8.2	22.6	9.4	10.1	12.6	2.5	13.2	16.4	13.8	
年齢	20歳代	31	16.1	9.7	0.0	0.0	19.4	19.4	0.0	0.0	29.0	3.2	32.3	9.7	12.9	
	30歳代	44	36.4	15.9	2.3	0.0	9.1	36.4	4.5	2.3	9.1	4.5	18.2	13.6	9.1	
	40歳代	47	34.0	12.8	0.0	0.0	4.3	34.0	12.8	2.1	4.3	19.1	10.6	12.8	6.4	
	50歳代	24	33.3	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	4.2	16.7	16.7	25.0	8.3	
	60～64歳	19	15.8	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	21.1	21.1	31.6	15.8	0.0	5.3	15.8	0.0
	前期高齢者	43	16.3	4.7	0.0	0.0	2.3	11.6	7.0	14.0	23.3	18.6	2.3	4.7	14.0	9.3
	後期高齢者	46	2.2	0.0	0.0	6.5	2.2	4.3	0.0	4.3	19.6	21.7	0.0	4.3	10.9	30.4

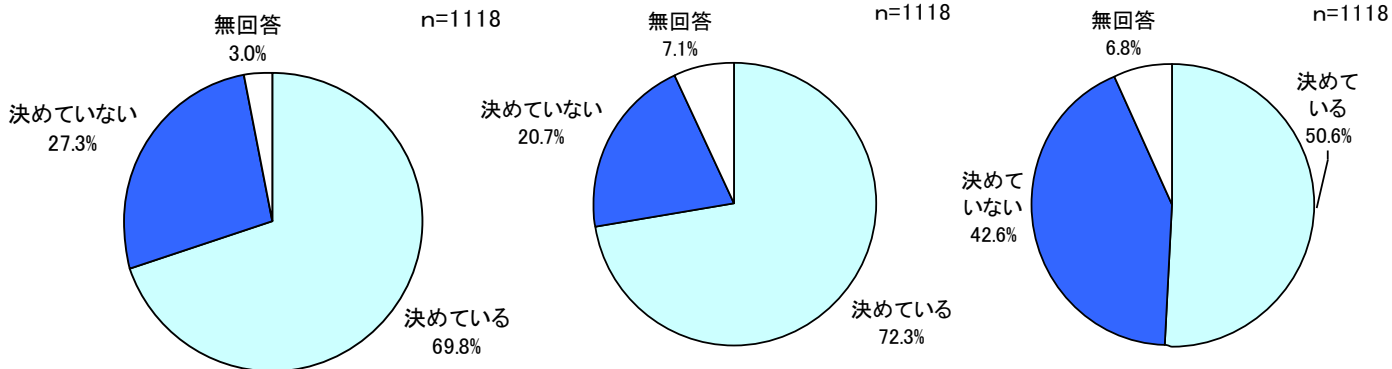
問3 あなたは、主なかかりつけのお医者さん、歯医者さん、薬局を決めていますか。(それぞれ1つずつに〇)

かかりつけを「決めている」のは医師が69.8%、歯科医72.3%、薬局50.6%である。

かかりつけのお医者さんは

かかりつけの歯医者さんは

かかりつけの薬局は



【性別・年齢別】

かかりつけを「決めている」割合は、いずれの項目も男性に比べ女性で多くなっている。

年齢別で見ると、いずれの項目も年齢が高くなるほど「決めている」割合が高い傾向にある。

(回答者数)	【医師】 単位:%			【歯科医】 単位:%			【薬局】 単位:%		
	決めている	決めていない	無回答	決めている	決めていない	無回答	決めている	決めていない	無回答
全体(1118)	69.8	27.3		72.3	20.7		50.6	42.6	
男性(484)	64.0	32.2		66.3	25.6		44.4	46.5	
女性(602)	73.6	24.1		77.4	17.3		55.0	40.4	
20歳代(56)	50.0	46.4		55.4	39.3		33.9	62.5	
30歳代(147)	50.3	46.9		54.4	40.8		28.6	66.7	
40歳代(217)	57.6	39.6		69.6	26.7		38.7	57.6	
50歳代(152)	63.8	32.2		72.4	21.7		38.8	53.9	
60~64歳(103)	74.8	23.3		82.5	13.6		50.5	42.7	
前期高齢者(232)	79.7	17.2		83.6	9.5		63.4	27.6	
後期高齢者(207)	92.8	4.8		75.4	10.1		78.3	13.0	

【居住地区別】

居住地区別では、「決めている」割合は、いずれの項目も第1地区（坂浜・平尾）が最も多くなっている。

(回答者数)	【医師】 単位:%			【歯科医】 単位:%			【薬局】 単位:%		
	決めている	決めていない	無回答	決めている	決めていない	無回答	決めている	決めていない	無回答
第1地区(182)	75.8	22.5		75.3	17.0		54.9	39.0	
第2地区(276)	70.3	28.3		69.6	22.5		50.0	45.7	
第3地区(328)	68.6	28.4		72.6	20.1		49.7	42.1	
第4地区(327)	67.3	28.1		73.4	21.4		50.2	42.5	

【職業別】

職業別では、「決めている」割合は、いずれの項目も常用勤務者が他の職業に比べて少なくなっている。特に薬局は、6割以上が「決めていない」としている。

(回答者数)	【医師】 単位:%			【歯科医】 単位:%			【薬局】 単位:%		
	決めている	決めていない	無回答	決めている	決めていない	無回答	決めている	決めていない	無回答
事業主(73)	78.1	21.9		87.7	6.8		54.8	35.6	
常用勤務者(322)	50.9	44.4		58.1	36.3		28.0	65.8	
パート・アルバイト (159)	71.1	25.8		73.6	19.5		43.4	48.4	
派遣社員・契約社員 (61)	60.7	32.8		70.5	19.7		39.3	47.5	
主婦・主夫(214)	77.1	20.6		82.2	14.0		63.1	32.7	
無職、その他(277)	85.2	13.7		76.9	12.3		73.3	20.6	

前回調査との比較

医師・歯科医・薬局ともに「決めている」割合が増加している。特に薬局では13.8ポイント増と大幅な増加となっている。

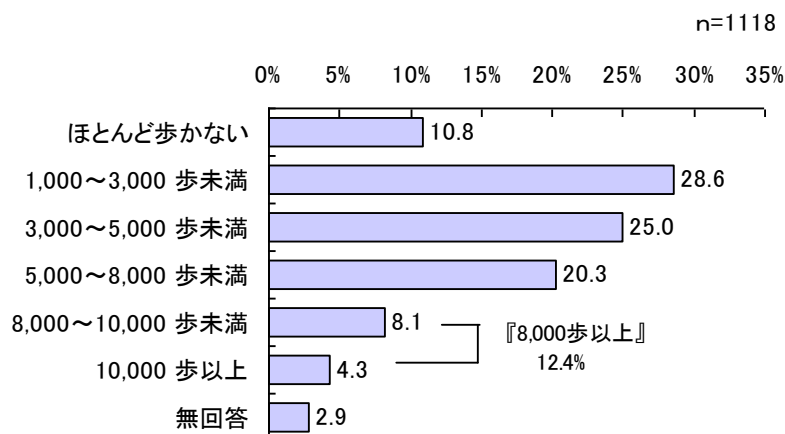
(回答者数)	【医師】 単位:%			【歯科医】 単位:%			【薬局】 単位:%		
	決めている	決めていない	無回答	決めている	決めていない	無回答	決めている	決めていない	無回答
今回調査(1118)	69.8	27.3		72.3	20.7		50.6	42.6	
前回調査(1262)	61.9	35.3		64.9	27.0		36.8	54.2	

3 身体活動・運動について

問4 日常の運動の状況について、次の①～③にお答えください。

① あなたは、1日あたり何歩くらい歩きますか。(1つに○)

「1,000～3,000 歩未満」の28.6%が最も多く、次いで「3,000～5,000 歩未満」25.0%、「5,000～8,000 歩未満」20.3%の順となっており、都が目標とする『8000歩以上』との回答は1割程度にとどまる。



【性別・年齢別・運動の頻度別】

女性に比べ男性で歩く歩数が多い傾向にある。

年齢別で見ると、前期高齢者までは年代ごとの歩数の差は見られないが、後期高齢者では「ほとんど歩かない」が2割と他の年代を大きく上回る。

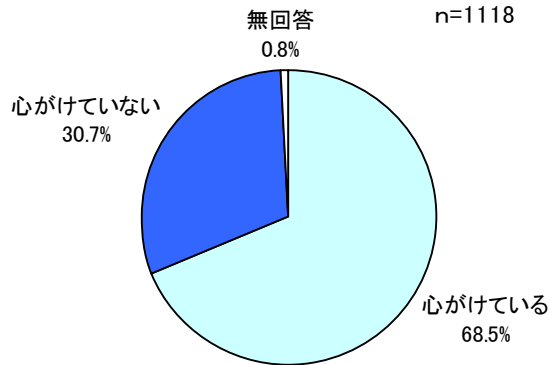
運動を行う頻度別に見ると、運動の頻度が高い人ほど、歩く歩数が多い傾向にある。

単位: %

		回答者数 (人)	ほとんど歩かない	1,000～3,000歩未満	3,000～5,000歩未満	5,000～8,000歩未満	8,000～10,000歩未満	10,000歩以上	無回答
全体		1,118	10.8	28.6	25.0	20.3	8.1	4.3	2.9
性	男性	484	8.7	21.9	25.2	23.6	11.2	6.8	2.7
	女性	602	12.3	33.2	25.1	18.4	5.8	2.3	2.8
年齢	20歳代	56	12.5	23.2	25.0	25.0	10.7	3.6	0.0
	30歳代	147	10.9	29.9	23.1	19.0	12.2	2.7	2.0
	40歳代	217	11.1	25.3	26.3	23.0	6.9	3.7	3.7
	50歳代	152	5.9	26.3	26.3	23.0	10.5	7.2	0.7
	60～64歳	103	7.8	33.0	20.4	27.2	4.9	5.8	1.0
	前期高齢者	232	6.5	26.7	29.7	19.0	9.5	6.5	2.2
	後期高齢者	207	20.3	34.3	20.8	13.5	3.9	1.0	6.3
運動の頻度	ほとんどしていない	538	18.2	32.7	23.0	16.2	6.5	1.5	1.9
	月に1～2回程度	66	0.0	42.4	30.3	18.2	6.1	3.0	0.0
	週に1回程度	194	7.2	32.0	23.2	23.2	8.2	3.1	3.1
	週に2回以上	304	2.6	17.1	28.6	27.0	11.8	10.5	2.3

問4 ② あなたは、通勤・通学・家事など日常生活の中で、意識的に身体を動かすように心がけていますか。(1つに○)

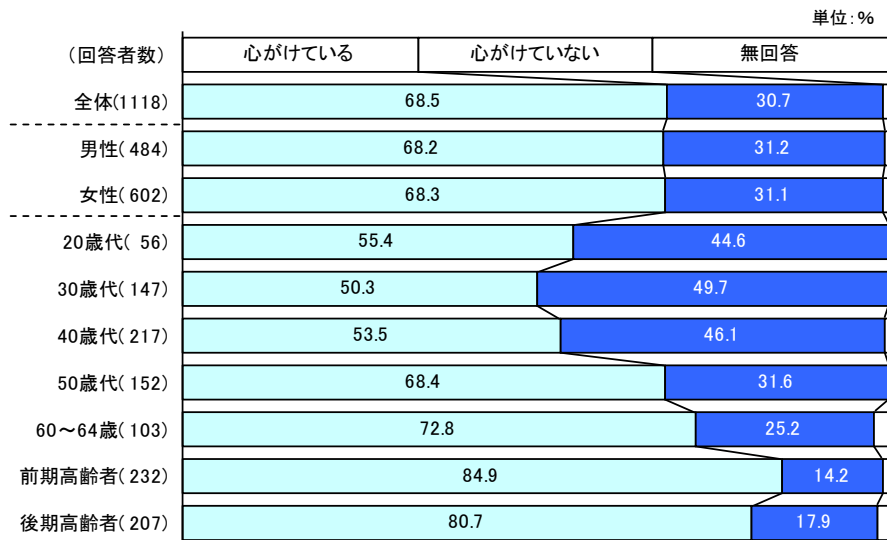
「心がけている」68.5%が、「心がけていない」30.7%を大きく上回る。



【性別・年齢別】

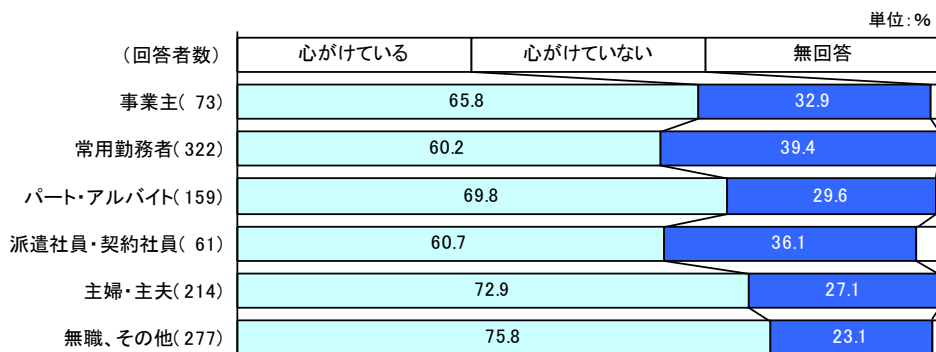
「心がけている」割合は、性別で差は見られない。

年齢別で見ると、20～40歳代までは、「心がけている」と「心がけていない」がほぼ拮抗しているが、50歳代以上では年齢が高くなるほど「心がけている」割合が多い傾向にあり、高齢者では、8割以上が「心がけている」としている。



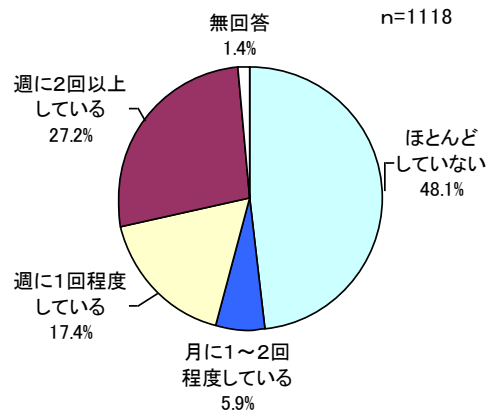
【職業別】

「心がけている」割合は、いずれの職業においても6割以上となっているが、主婦・主夫及び無職・その他では7割以上と特に多い。



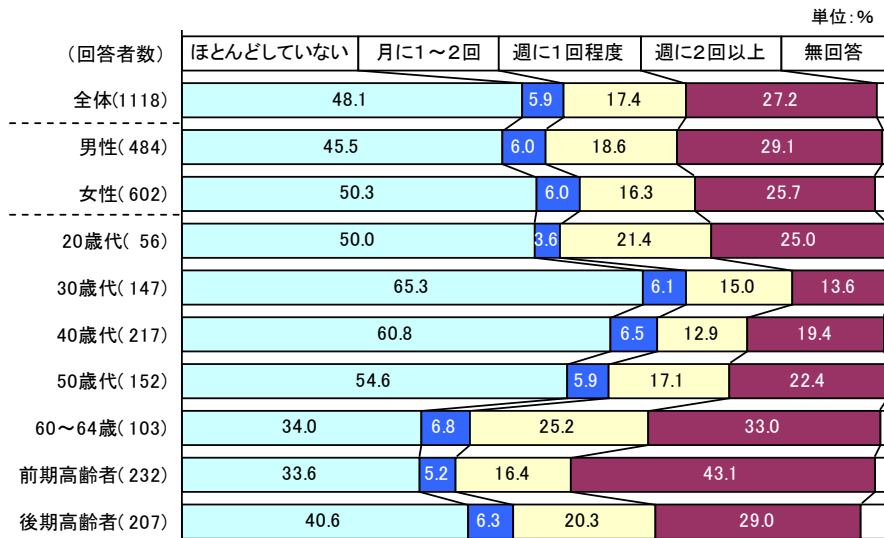
問4 ③ あなたは、1日30分以上の運動をしていますか。(1つに○)

「ほとんどしていない」との回答が48.1%と半数近くを占める。次いで、「週2回以上している」27.2%、「週に1回程度している」17.4%などの順である。



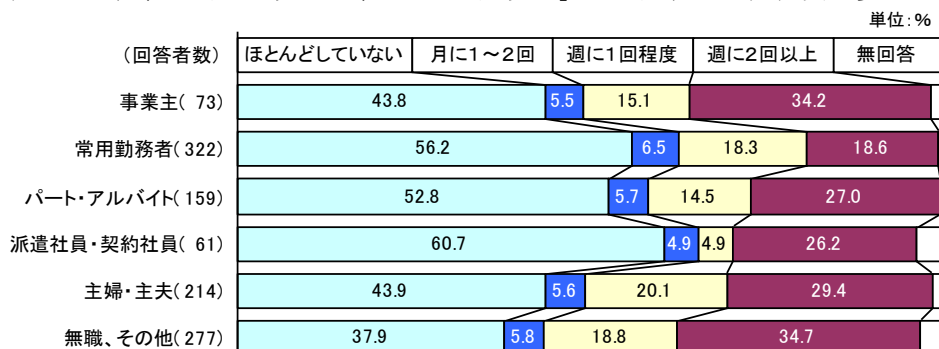
【性別・年齢別】

男女ともに「ほとんどしていない」が最も多いが、女性に比べ男性で運動をしている人が多くなっている。年齢別では、20~50歳代までは、「ほとんどしていない」との回答が半数を超えており、特に30~40歳代の働き盛りの世代で6割を超えて多くになっている。一方で、60~64歳、前期高齢者では、「ほとんどしていない」との回答は3割台に止まり、前期高齢者では、「週に2回以上」とのが4割を超えるなど、運動週間をもつ人が多くなっている。



【職業別】

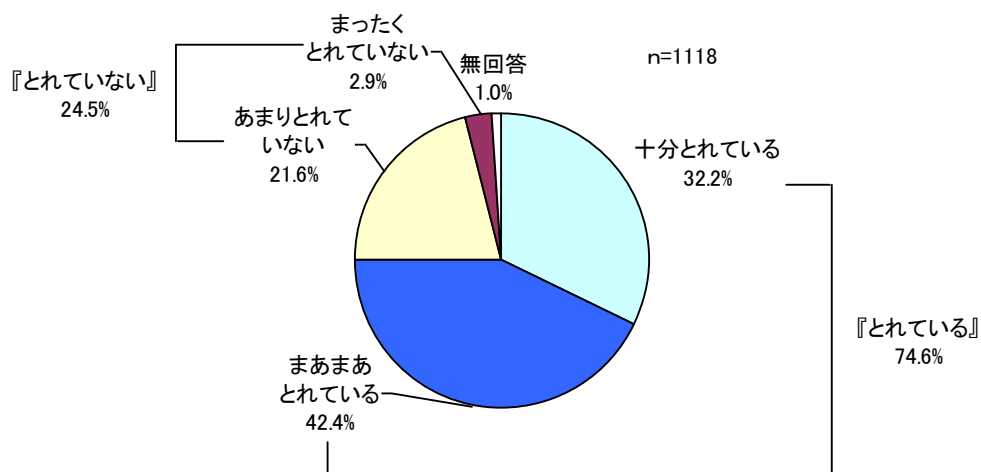
派遣社員・契約社員と常用勤務者では、「ほとんどしていない」との回答が半数を超えるが、事業主、無職・その他、主婦・主夫では、「週に2回以上」との回答が3割程度と多くなっている。



4 休養、こころの健康について

問5 ここ1ヶ月間、あなたは休養が十分とれていると感じていますか。(1つに○)

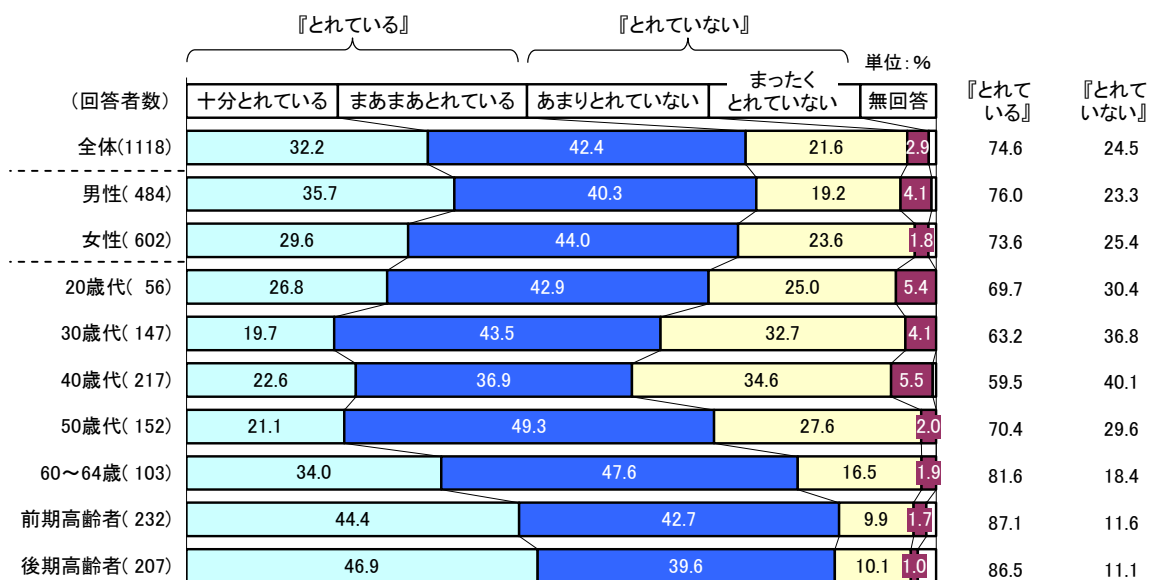
「十分とれている」32.2%、「十分ではないがとれている」42.4%を合わせた『とれている』は74.6%である。



【性別・年齢別】

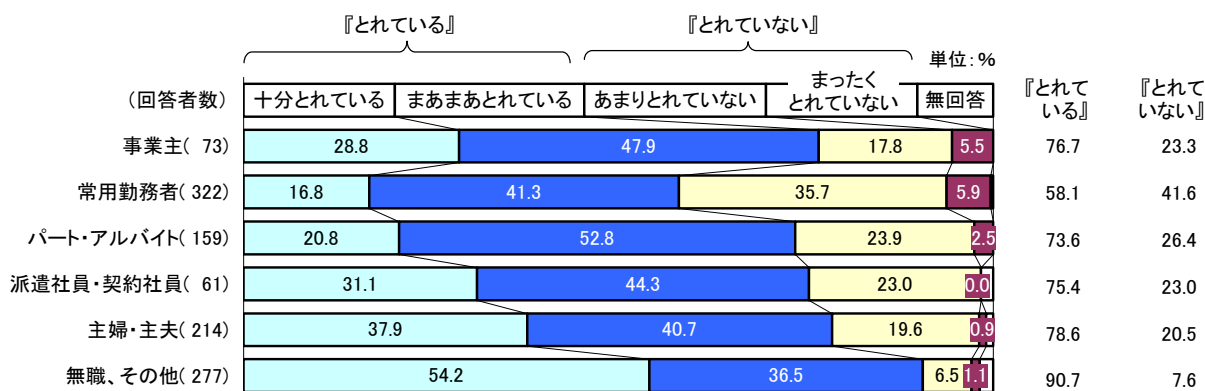
「十分とれている」との回答は、男性が女性を上回る。

年齢別に見ると、「十分にとれている」との回答は、60歳以上では年齢に比例して多くなり、最も少ないのは30歳代の19.7%である。「あまりとれていない」と「まったくとれていない」を合わせた『とれていない』は40歳代で4割を超えるなど、他の年代を上回る。



【職業別】

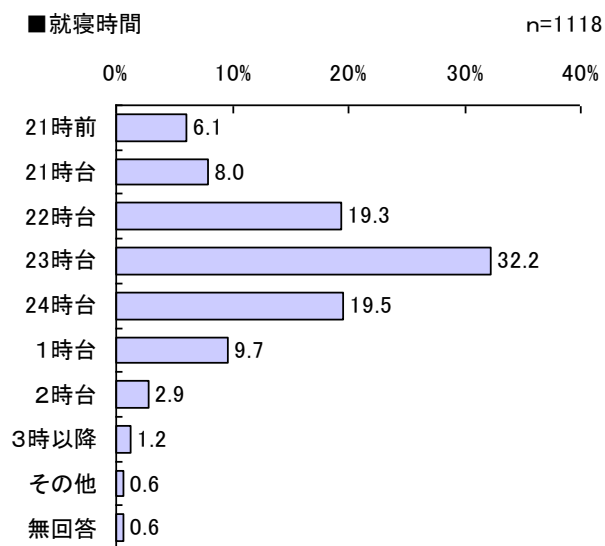
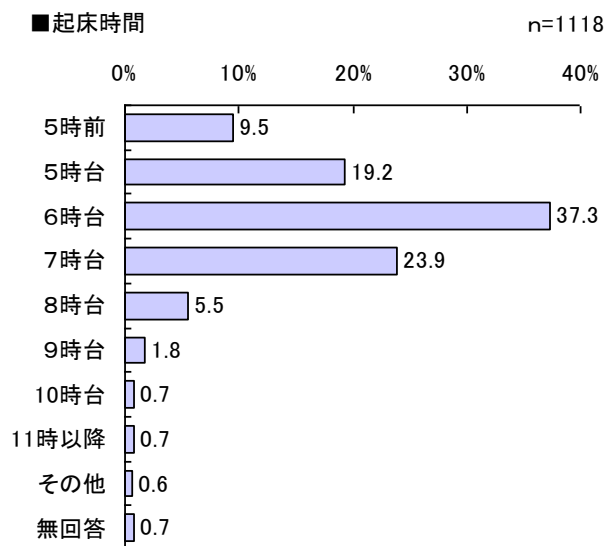
「十分とれている」との回答は、無職・その他で最も多く、半数を超える。反対に、常用勤務者では1割台にとどまり、それと符号するように『とれていない』割合は4割を超え、他の職業を大きく上回る。



問6 あなたの普段の起床時間を教えてください。(1つに○)

問7 あなたの普段の就寝時間を教えてください。(1つに○)

起床時間は、「6時台」37.3%が最も多く、「7時台」23.9%、「5時台」19.2%などの順となっている。就寝時間については、「23時台」32.2%が最も多く、次いで「24時台」が19.5%、「22時台」が19.3%と同程度である。

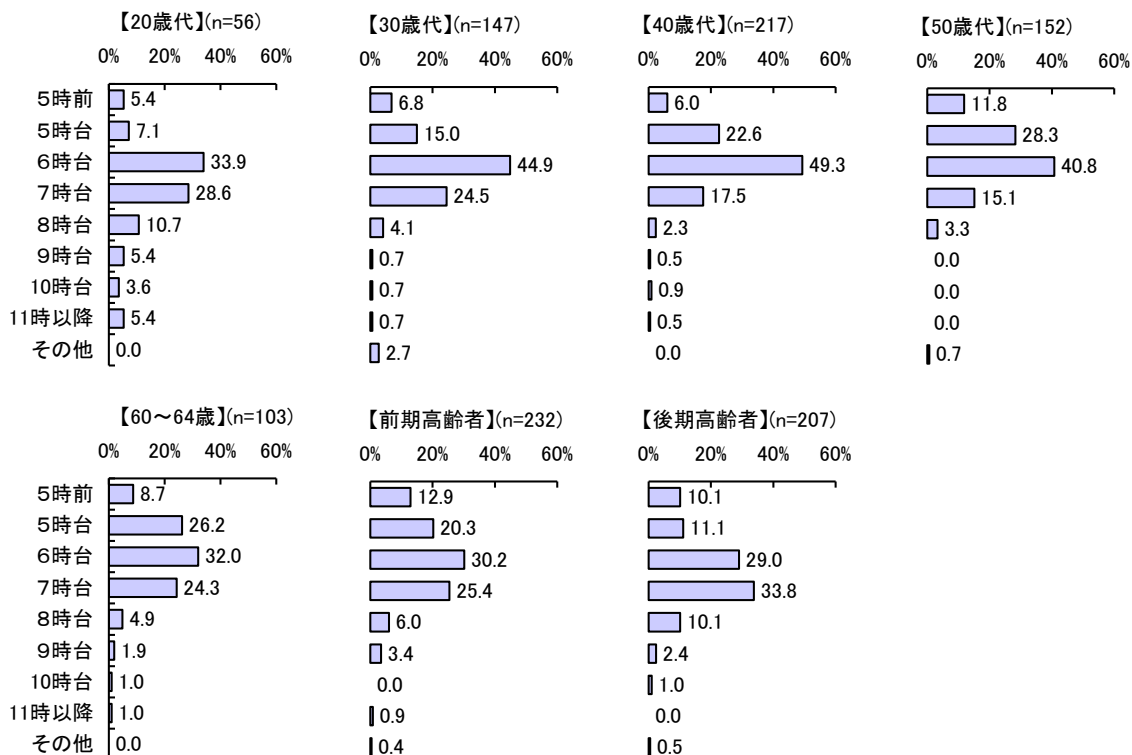


【年齢別】

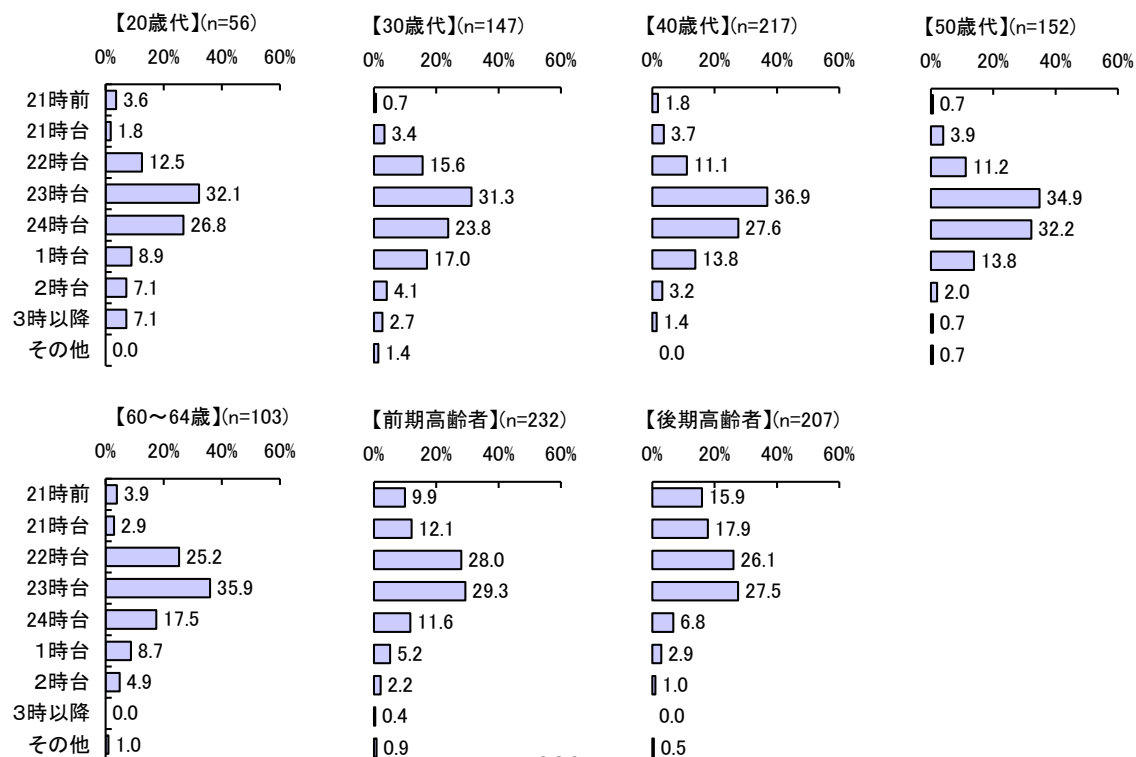
起床時間は、後期高齢者を除き「6時台」との回答が最も多い。後期高齢者は「7時台」となっている。一方、20歳代では、9時以降との回答も一定程度いるなど、他の年代に比べると起床時間は多様である。

就寝時間については、「23時台」との回答が最も多いが、60歳以上では「22時台」との回答も多く、高齢者ではともに2割台後半と拮抗している。起床時間と呼応するように、20歳代では、「2時台」「3時台」がともに7.1%と他の年代を大きく上回る。

■起床時間

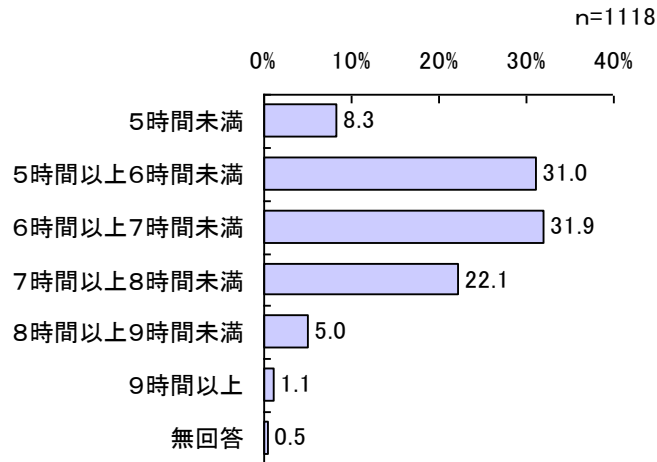


■就寝時間



問8 ここ1ヶ月間、あなたの平均睡眠時間はどのくらいでしたか。(1つに○)

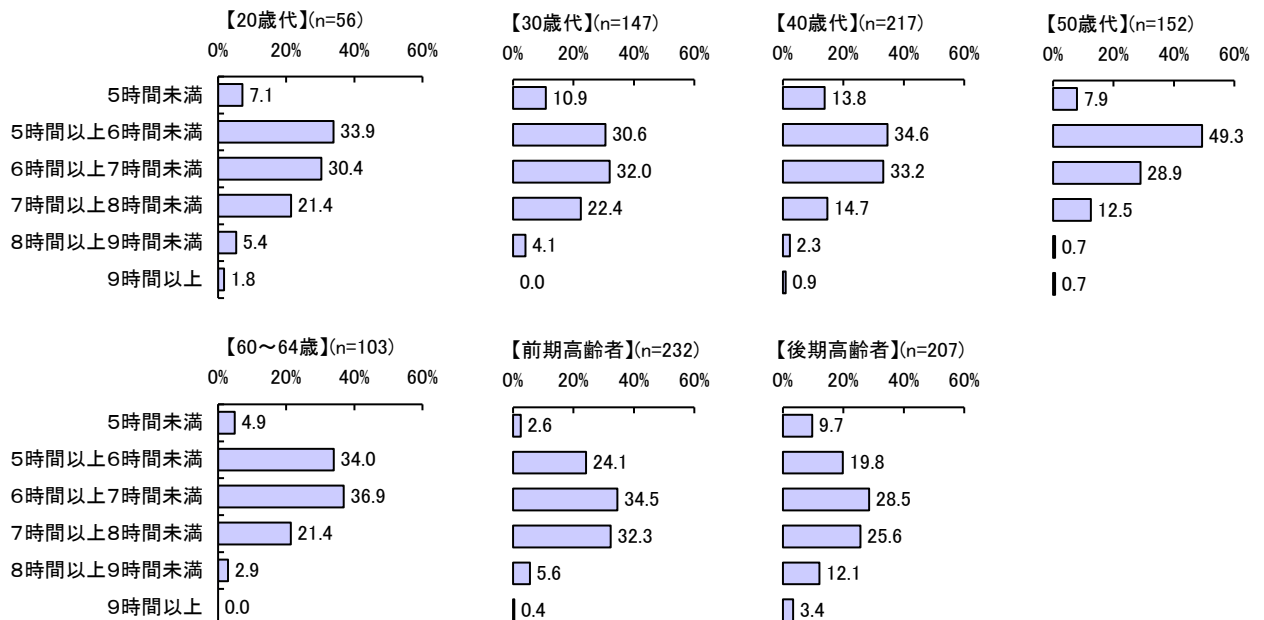
「6時間以上7時間未満」31.9%と「5時間以上6時間未満」31.0%がほぼ同程度である。次いで「7時間以上8時間未満」22.1%などが主な回答となっている。



【年齢別】

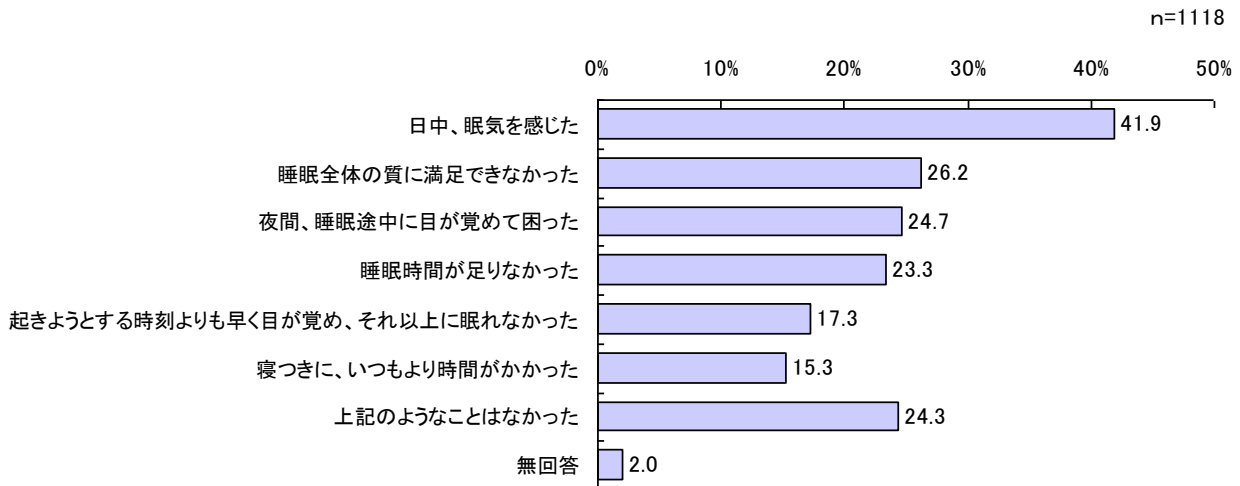
20歳代と50歳代では「5時間以上6時間未満」との回答が最も多く、特に50歳代では5割近い。30～40歳代及び60～64歳では「5時間以上6時間未満」と「6時間以上7時間未満」との回答が拮抗している。問5で休養が十分に『とれていない』との回答が4割を超える40歳代では、「5割未満」との回答が13.8%と、他の年代を上回る。

後期高齢者では、「5時間未満」が1割弱、「8時間以上9時間未満」「9時間以上」など長い睡眠を取る人も1割以上など、睡眠時間は多様である。



問9 睡眠の質についておたずねします。あなたはこの1か月間に、次のようなことが週3回以上ありましたか。(あてはまるものすべてに○)

「日中、眠気を感じた」41.9%が他を大きく上回る。次いで、「睡眠全体の質に満足できなかった」26.2%、「夜間、睡眠途中で目が覚めて困った」24.7%、「睡眠時間が足りなかった」23.3%などが、あまり差がなく続く。「上記のようなことはなかった」は、24.3%と、4人に1人となっている。



【性別・年齢別】

「上記のようなことはなかった」との回答は、男性が女性を上回る。一方、「日中、眠気を感じた」や「寝つきに、いつもより時間がかかった」との回答は女性が男性を上回るなど、睡眠の質に課題を感じている人は、女性に多い。

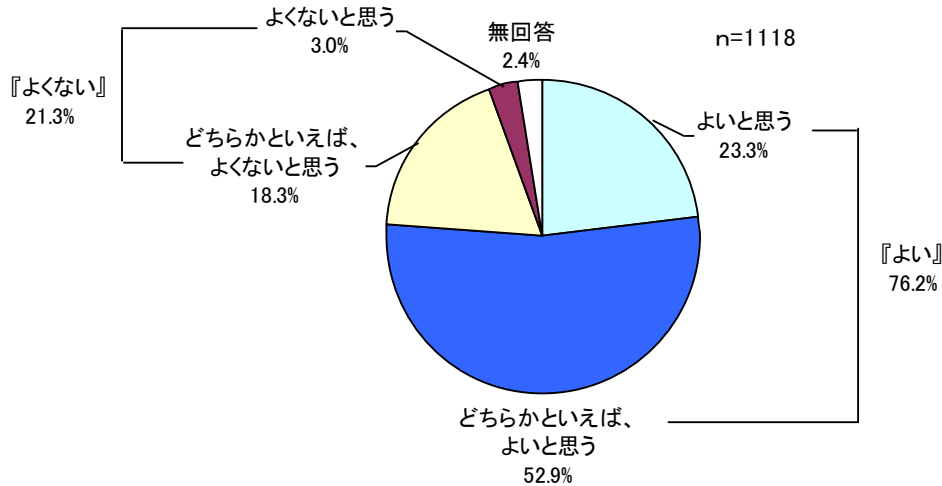
年齢別で見ると、「寝つきに時間がかかった」「睡眠途中で目が覚めた」「起きようとする時刻よりも早く目が覚める」などの回答は年齢が高いほど多い傾向にある。「日中、眠気を感じた」は20～50歳代、「睡眠全体の質に満足できなかった」は20～30歳代、「睡眠時間が足りなかった」は30～40歳代で他の年代に比べ多くなっている。

単位：%

		回答者数(人)	寝つきに、いつもより時間がかかった	夜間、睡眠途中で目が覚めて困った	起きようとする時刻よりも早く目が覚め、それ以上に眠れなかった	睡眠時間が足りなかった	睡眠全体の質に満足できなかった	日中、眠気を感じた	上記のようなことはなかった	無回答
全体		1,118	15.3	24.7	17.3	23.3	26.2	41.9	24.3	2.0
性	男性	484	11.8	25.2	17.1	23.1	23.6	36.0	29.5	2.1
	女性	602	17.9	23.3	17.6	23.8	27.9	47.3	20.6	1.5
年齢	20歳代	56	19.6	23.2	5.4	23.2	35.7	57.1	19.6	0.0
	30歳代	147	14.3	22.4	7.5	36.7	34.0	47.6	19.7	0.0
	40歳代	217	9.7	19.4	16.1	35.0	28.6	44.7	21.7	1.4
	50歳代	152	10.5	15.8	15.8	29.6	26.3	51.3	19.1	1.3
	60～64歳	103	16.5	24.3	17.5	26.2	25.2	33.0	28.2	1.9
	前期高齢者	232	15.5	31.9	19.8	9.1	23.7	35.3	33.2	1.7
	後期高齢者	207	23.7	30.9	27.1	12.1	18.4	35.3	24.2	4.3

問 10 あなたは、普段のこころの状態をどのように感じていますか。(1つに○)

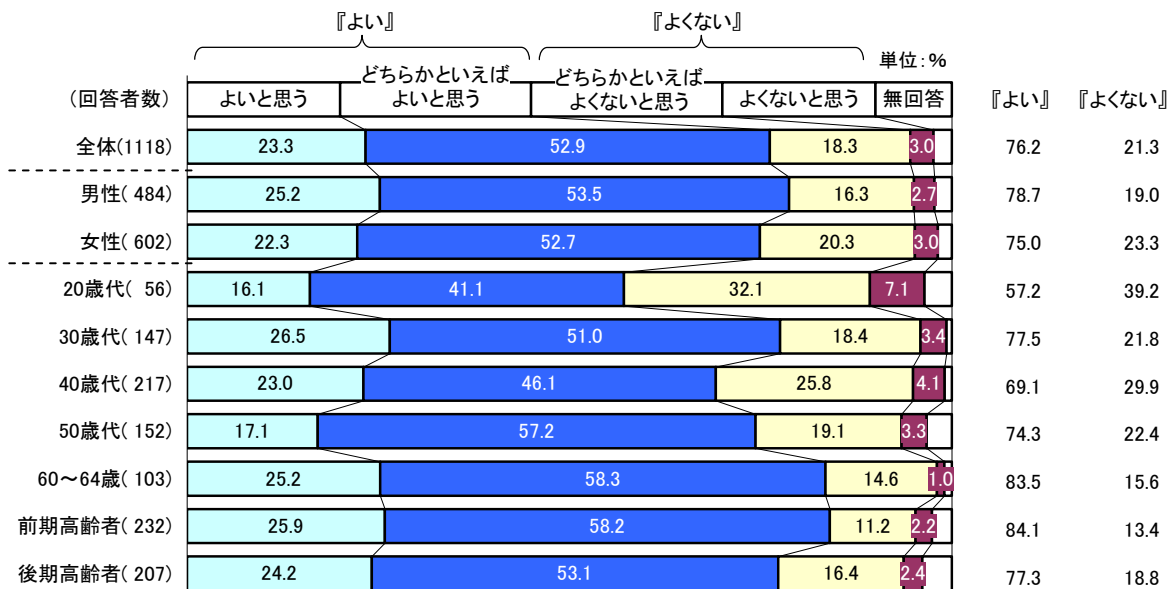
「よいと思う」23.3%と「どちらかといえば、よいと思う」52.9%を合わせた『よい』は76.2%と7割以上を占める。



【性別・年齢別】

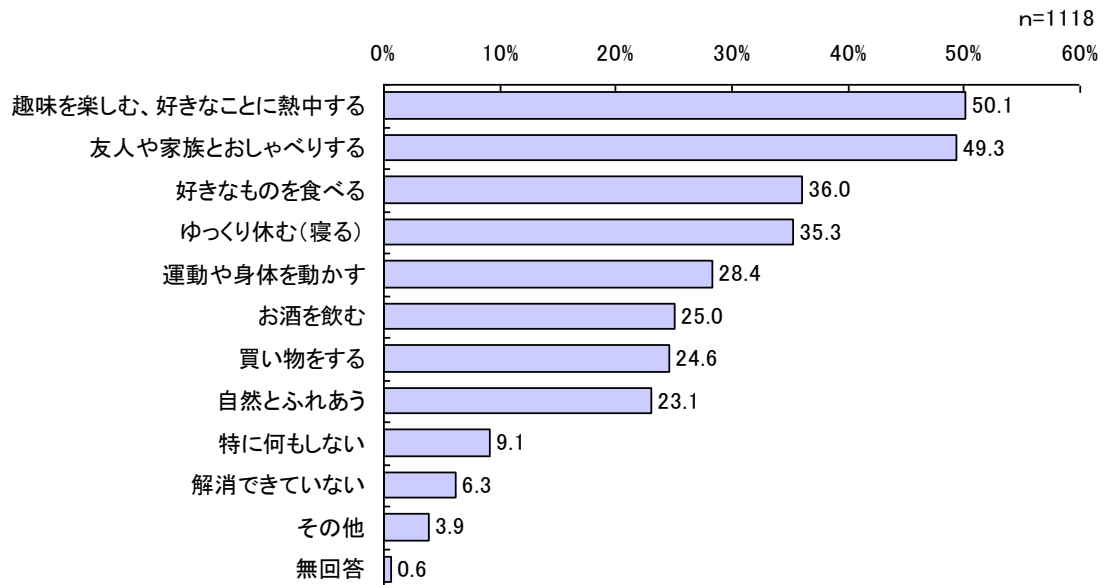
『よい』との回答は、男性が女性をやや上回る。

年齢別では、『よい』との回答は、60～64歳及び前期高齢者で8割を超え、他の年代を上回る。一方で、20歳代では『よい』との回答が5割台にとどまるとともに、「よくないと思う」との回答が他の年代を大きく上回るなど、心の状態がよくないと感じている人が多い。



問 11 あなたは、悩みやストレスを感じた時にどのように解消していますか。(あてはまるものすべてに○)

「趣味を楽しむ、好きなことに熱中する」50.1%、「友人や家族とおしゃべりする」49.3%が5割近くと多く、次いで「好きなものを食べる」36.0%、「ゆっくり休む(寝る)」35.3%が3割台、「運動や身体を動かす」28.4%などが主なところであり。一方で、「解消できていない」との回答は6.3%となっている。



【性別・年齢別】

男性は「趣味」「運動」「お酒を飲む」、女性は「おしゃべり」「食べる」「買い物」など性別による差が見られる。

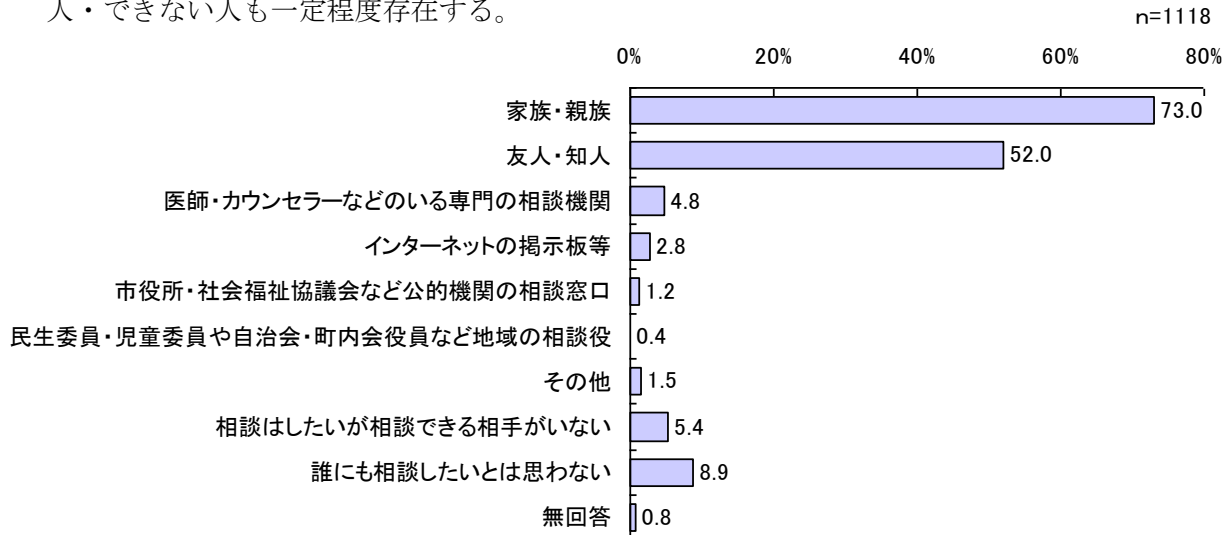
年齢別では、「自然とふれあう」「運動」は比較的高年齢層に多く、「食べる」「お酒を飲む」「休む」「買い物」などは比較的若い層に多く見られた。一方で、20歳代では「趣味」「ゆっくり休む」「食べる」「買い物」「運動」など多くの項目があげられており、特に「ゆっくり休む」は6割を超えるなど、突出して多い。

単位: %

		回答者数(人)	友人や家族とおしゃべりする	趣味を楽しむ、好きなことに熱中する	自然とふれあう	運動や身体を動かす	好きなものを食べる	お酒を飲む	ゆっくり休む(寝る)	買い物をする	特に何もしない	解消できていない	その他	無回答
全体		1,118	49.3	50.1	23.1	28.4	36.0	25.0	35.3	24.6	9.1	6.3	3.9	0.6
性	男性	484	32.4	53.9	24.6	35.7	22.9	35.5	34.9	10.5	11.2	5.0	3.7	0.4
	女性	602	63.5	47.2	21.9	22.6	46.7	16.3	35.7	35.7	7.6	7.3	4.0	0.5
年齢	20歳代	56	55.4	67.9	17.9	30.4	50.0	21.4	64.3	39.3	1.8	8.9	1.8	1.8
	30歳代	147	62.6	49.0	15.6	18.4	57.8	34.0	46.3	32.0	6.1	7.5	1.4	0.0
	40歳代	217	55.3	46.1	20.7	27.6	49.8	30.4	46.1	30.0	7.8	10.1	3.7	0.0
	50歳代	152	44.1	55.9	21.1	33.6	39.5	25.7	38.2	23.7	6.6	4.6	5.3	0.7
	60~64歳	103	58.3	60.2	25.2	35.9	30.1	28.2	33.0	20.4	3.9	6.8	2.9	0.0
	前期高齢者	232	44.8	53.9	32.3	34.1	23.7	22.4	23.3	21.1	11.6	3.4	4.3	0.0
後期高齢者	207	36.7	37.2	22.7	22.2	16.9	14.5	20.3	16.9	16.4	4.8	5.8	1.9	

問 12 あなたは、悩みやこころの問題（ストレスや病気など）について相談できる人や相談できる場所がありますか。（あてはまるものすべてに○）

「家族・親族」73.0%が圧倒的に多く、次いで「友人・知人」52.0%である。「誰にも相談したいとは思わない」8.9%、「相談はしたいが相談できる相手がいない」5.4%など、相談しない人・できない人も一定程度存在する。



【性別・年齢別】

男女ともに「家族・親族」との回答が最も多いが、「友人・知人」との回答は、女性が男性を大きく上回る。一方で、男性は、「誰にも相談したいとは思わない」が1割を超えるなど多くなっている。

年齢別では、いずれの年代も「家族・親族」を最も多くあげているが、30歳代では8割を超えるなど特に多い。「友人・知人」との回答は、20～30歳代の若い世代で6割を超え、多くなっている。一方で、「相談はしたいが相談できる人はいない」は20歳代、「誰にも相談したいとは思わない」は40～50歳代で1割を超えるなど、他の年代を上回る。

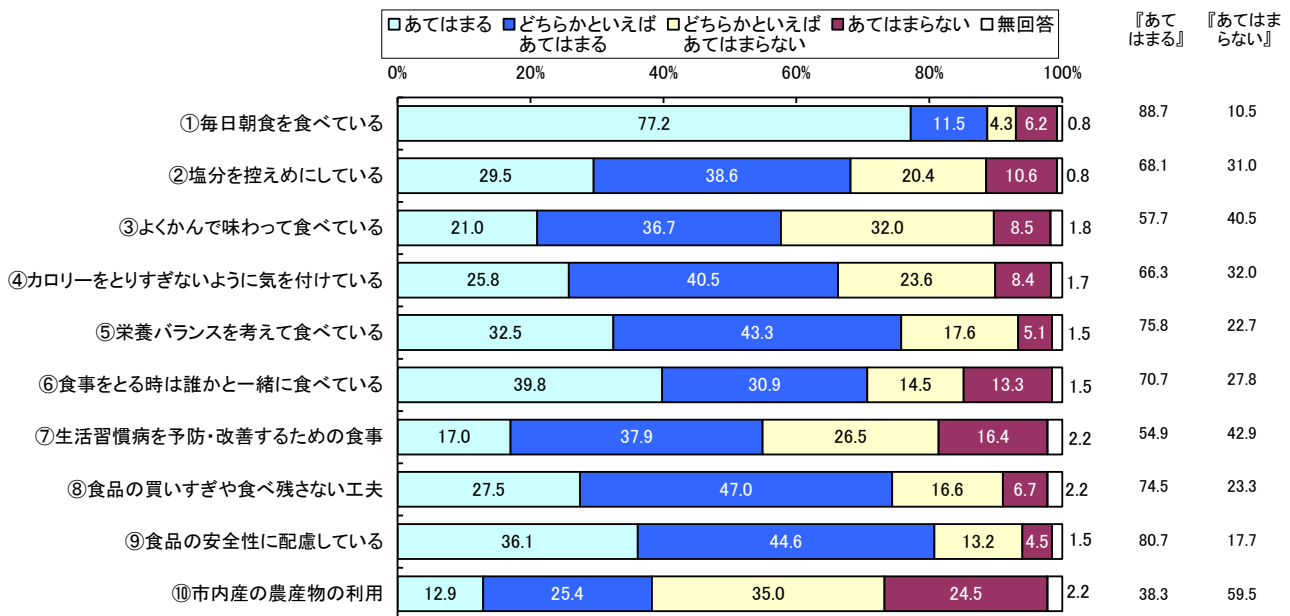
単位: %

		回答者数 (人)	家族・親族	友人・知人	市役所・社会福祉協議会など公的機関の相談窓口	民生委員・児童委員や自治会・町内会役員など地域の相談役	医師・カウンセラーなどのいる専門の相談機関	インターネットの掲示板等	その他	相談はしたいが相談できる相手がいない	誰にも相談したいとは思わない	無回答
全体		1,118	73.0	52.0	1.2	0.4	4.8	2.8	1.5	5.4	8.9	0.8
性	男性	484	68.6	38.4	1.4	0.2	5.4	2.5	1.4	6.6	13.6	1.0
	女性	602	76.4	62.8	0.8	0.3	4.2	3.2	1.7	4.2	5.1	0.5
年齢	20歳代	56	62.5	64.3	0.0	0.0	0.0	8.9	1.8	10.7	0.0	1.8
	30歳代	147	84.4	60.5	2.0	0.0	2.0	1.4	1.4	6.8	5.4	0.0
	40歳代	217	67.7	54.8	0.5	0.0	3.7	4.6	1.4	6.9	11.1	0.5
	50歳代	152	69.7	53.3	0.0	0.0	6.6	4.6	0.0	4.6	12.5	0.7
	60～64歳	103	76.7	56.3	0.0	1.9	2.9	2.9	1.0	2.9	9.7	1.0
	前期高齢者	232	75.4	49.6	1.7	0.0	6.0	0.9	0.9	4.3	8.6	0.4
	後期高齢者	207	71.0	39.1	2.4	0.5	7.7	1.0	3.9	3.9	8.7	1.4

5 食生活について

問 13 あなたは日頃、食生活の中で気をつけていることがありますか。①～⑩の各項目について、あてはまるかどうかお答えください。(それぞれ1つに○)

食生活の中で気をつけていることとして『あてはまる』（「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」）が多いのは、「①毎日朝食を食べている」88.7%、「⑨食品の安全性に配慮している」80.7%、「⑤栄養バランスを考えて食べている」75.8%、「⑧食品の買いすぎや食べ残さない工夫」74.5%、「⑥食事をする時は誰かと一緒に食べている」70.7%などである。



【性別・年齢別】

『あてはまる』との回答は全ての項目で、女性が男性を上回る。年齢別では、多くの項目で若い世代に比べ、高齢層で『あてはまる』との回答が多い傾向にある。「①毎日朝食を食べている」については、50歳代以上では9割を超えるのに対し、20歳代では7割台にとどまる。

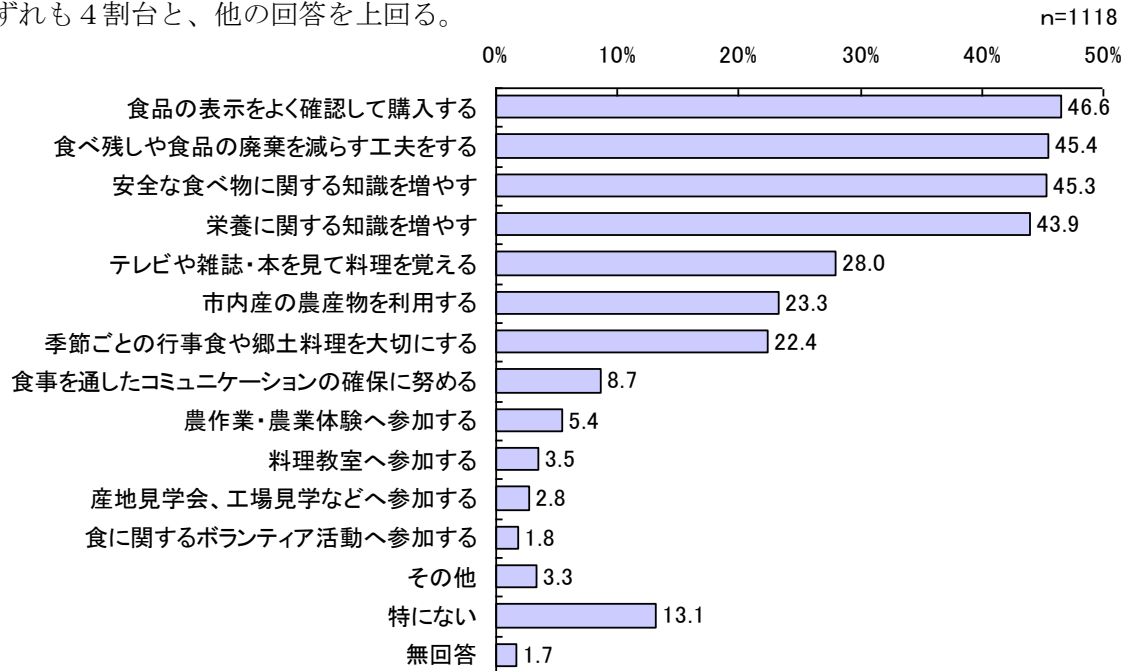
『あてはまる』

単位：%

		回答者数（人）	①毎日朝食を食べている	②塩分を控えめにしている	③よくかんで味わって食べている	④カロリーをとりすぎないように気をつけている	⑤栄養バランスを考えて食べている	⑥食事をする時は誰かと一緒に食べている	⑦生活習慣病を予防・改善するための食事	⑧食品の買いすぎや食べ残さない工夫	⑨食品の安全性に配慮している	⑩市内産の農産物の利用
全体		1,118	88.7	68.2	57.7	66.3	75.8	70.7	54.9	74.4	80.8	38.3
性	男性	484	83.5	61.6	50.2	60.5	68.8	68.0	50.6	69.8	74.8	31.8
	女性	602	93.2	73.1	63.3	70.8	81.7	73.6	58.0	78.1	85.7	43.2
年齢	20歳代	56	76.8	28.6	48.2	51.8	53.6	64.3	35.7	64.3	62.5	19.6
	30歳代	147	83.7	49.0	42.2	51.0	70.1	71.4	36.1	73.5	71.4	21.8
	40歳代	217	83.4	55.8	47.5	53.9	67.7	70.5	37.8	75.1	77.9	33.6
	50歳代	152	91.4	73.0	52.6	73.0	75.7	67.8	57.9	67.1	80.3	30.3
	60～64歳	103	93.2	81.6	58.3	75.7	84.5	73.8	64.1	77.7	86.4	45.6
	前期高齢者	232	94.0	78.4	67.7	74.6	81.9	74.6	69.0	78.4	89.2	50.9
後期高齢者	207	91.8	84.1	74.9	75.4	84.5	68.6	69.6	76.8	84.5	48.3	

問 14 あなたは、食生活を健全で豊かなものにするために、今後どのようなことをしていきたいですか。（あてはまるものすべてに○）

「食品の表示をよく確認して購入する」46.6%、「食べ残しや食品の廃棄を減らす工夫をする」45.4%、「安全な食べ物に関する知識を増やす」45.3%、「栄養に関する知識を増やす」43.9%がいずれも4割台と、他の回答を上回る。



【性別・年齢別】

性別では、回答の割合はほとんどの項目で女性が男性を上回る。男性が女性を上回るのは「特にない」のみであり、食生活への関心は女性の方が高いことがうかがえる。

年齢別においても、多くの項目で若い世代に比べ高齢層で回答の割合が高くなっている。「栄養に関する知識を増やす」については、30～40歳代の子育て世代における関心が高い。

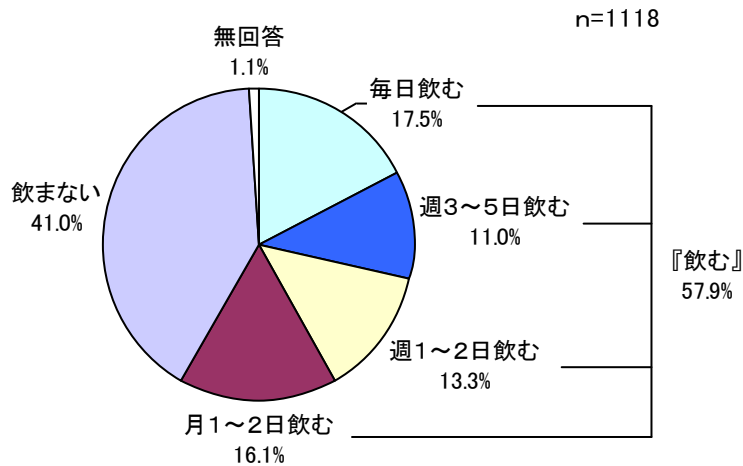
単位: %

	回答者数 (人)	栄養に関する知識を増やす	安全な食べ物に関する知識を増やす	食品の表示をよく確認して購入する	テレビや雑誌・本を見て料理を覚える	料理教室へ参加する	食事を通したコミュニケーションの確保に努める	農作業・農業体験へ参加する	産地見学会、工場見学などへ参加する	季節ごとの行事食や郷土料理を大切に する	市内産の農産物を利用する	食べ残しや食品の廃棄を減らす工夫をする	食に関するボランティア活動へ参加する	その他	特にない	無回答	
		全体	1,118	43.9	45.3	46.6	28.0	3.5	8.7	5.4	2.8	22.4	23.3	45.4	1.8	3.3	13.1
性	男性	484	41.7	41.1	38.4	15.1	2.3	7.0	6.0	2.5	14.9	17.4	38.0	1.0	2.7	19.8	1.2
	女性	602	46.3	49.2	53.7	38.2	4.7	10.1	5.0	3.2	28.4	28.4	51.5	2.5	3.5	7.8	1.3
年齢	20歳代	56	41.1	32.1	32.1	30.4	8.9	5.4	5.4	3.6	19.6	7.1	33.9	0.0	5.4	14.3	1.8
	30歳代	147	50.3	32.7	36.7	32.0	5.4	10.9	5.4	2.0	29.3	15.0	38.8	2.0	1.4	12.2	0.7
	40歳代	217	50.2	45.6	42.9	24.4	5.1	10.6	6.9	5.1	30.0	19.8	47.0	1.8	3.2	11.5	0.9
	50歳代	152	45.4	42.8	44.7	21.1	3.9	7.9	3.3	2.0	20.4	21.7	47.4	3.3	2.0	14.5	1.3
	60～64歳	103	45.6	57.3	50.5	35.0	1.9	9.7	3.9	1.0	19.4	34.0	48.5	0.0	1.9	6.8	0.0
	前期高齢者	232	37.1	48.7	53.0	29.3	2.2	6.5	5.2	3.9	19.4	30.6	48.7	1.7	3.4	14.2	2.2
後期高齢者	207	39.6	50.2	54.1	28.5	1.0	8.7	5.8	1.0	16.9	25.1	45.9	1.9	5.8	15.9	2.9	

6 飲酒について

問 15 あなたは、お酒をどのくらいの頻度で飲みますか。(1つに○)

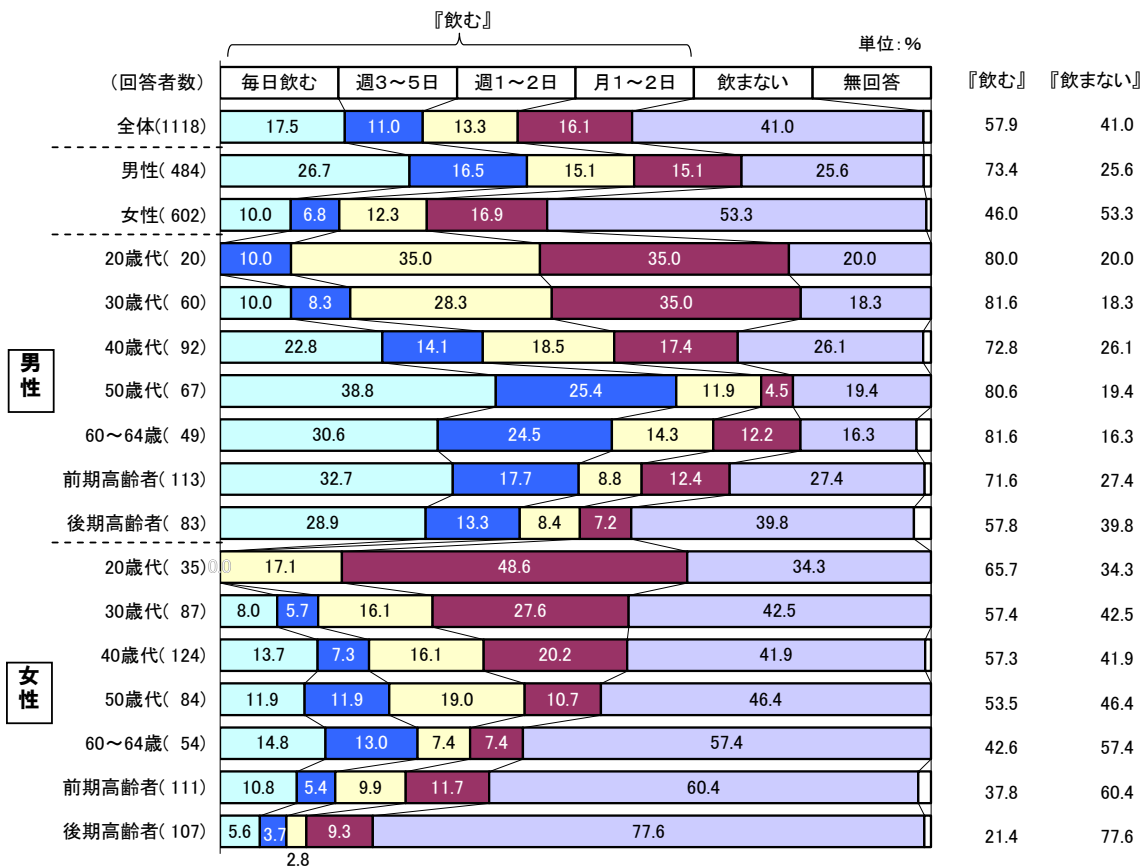
「飲まない」41.0%が最も多いものの、「毎日飲む」17.5%、「週3～5日飲む」11.0%、「週1～2日飲む」13.3%、「月1～2回飲む」16.1%を合わせた『飲む』は57.9%と6割近い。



【性別・性×年齢別】

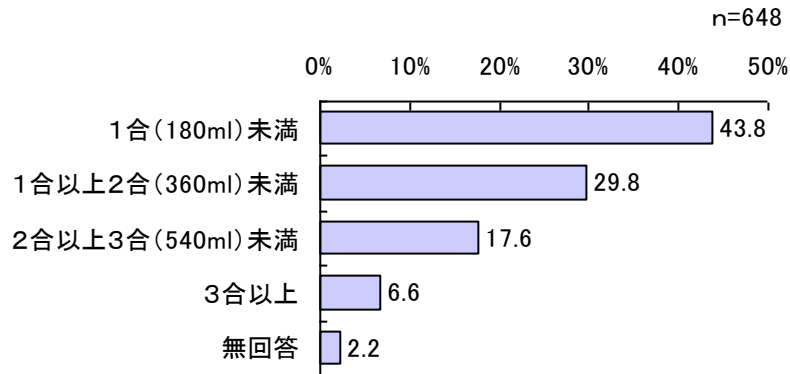
『飲む』との回答は、女性4割台に対し男性が7割台と性別で大きな差がある。特に男性は、「毎日飲む」との回答が2割を超える。

男女それぞれを年齢別で見ると、男女ともに20歳代では「毎日飲む」との回答がなく、若い世代ほどお酒を飲む頻度が少なくなっている。一方で、50歳代の男性では「毎日飲む」との回答が4割近くと他の属性を大きく上回るなど、飲酒の頻度は性別・年齢別で大きな差が見られる。



問 15-1 (問 15 で『飲む』とお答えの方へ) お酒を飲む日は1日あたり、どれくらいの量を飲みますか。日本酒(清酒)に換算した量でお答えください。(1つに○)

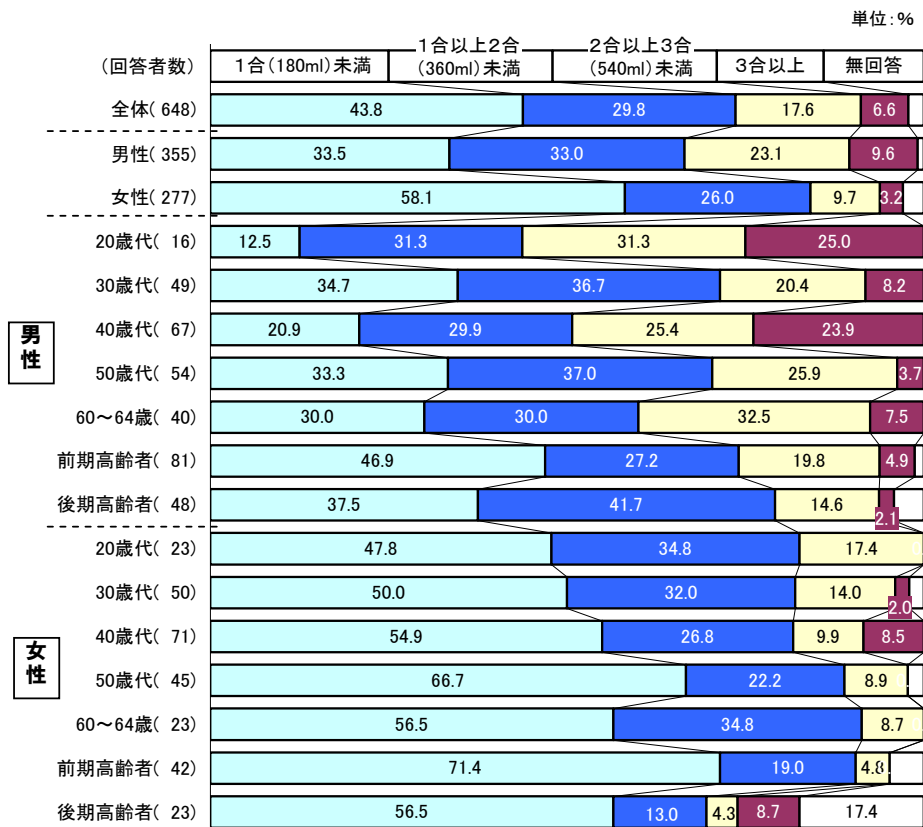
「1合(180ml)未満」が43.8%と最も多い。次いで「1合以上2合(360ml)未満」29.8%、「2合以上3合(540ml)未満」17.6%の順である。「3合以上」の多量飲酒をする人は6.6%にとどまる。



【性別・性×年齢別】

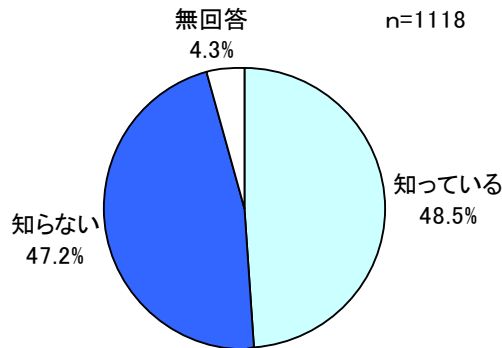
「1合(180ml)未満」は、男性が3割台に対し、女性は6割弱と、男性の方が1日あたりのお酒の量が多くなっている。

男女それぞれを年齢別で見ると、男女ともに年齢が高くなるほど、「1合(180ml)未満」との回答が多い傾向にあるが、20歳代と40歳代の男性では「3合以上」との回答が2割を超えるなど、他の属性を大きく上回る。



問 16 飲酒の適量は1日に日本酒1合程度だということを知っていますか。(1つに○)

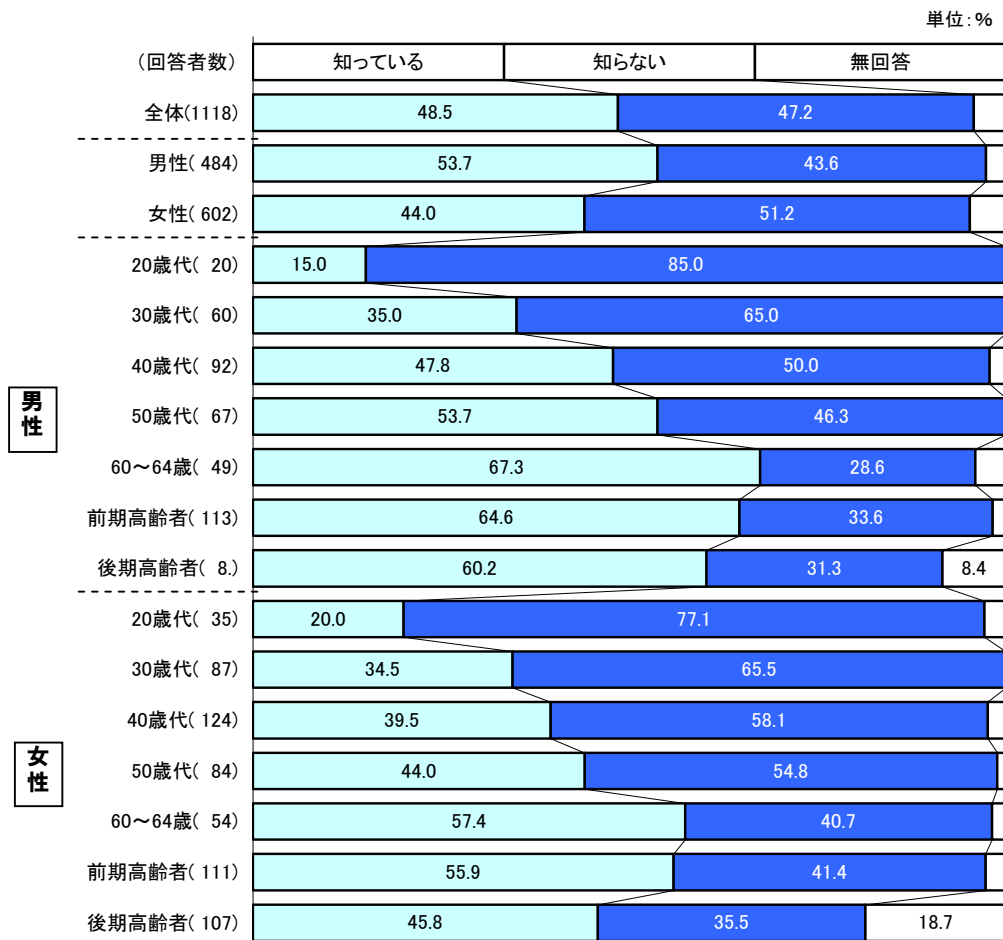
「知っている」48.5%、「知らない」47.2%と同程度となっている。



【性別・性×年齢別】

「知っている」との回答は、男性が女性を上回る。

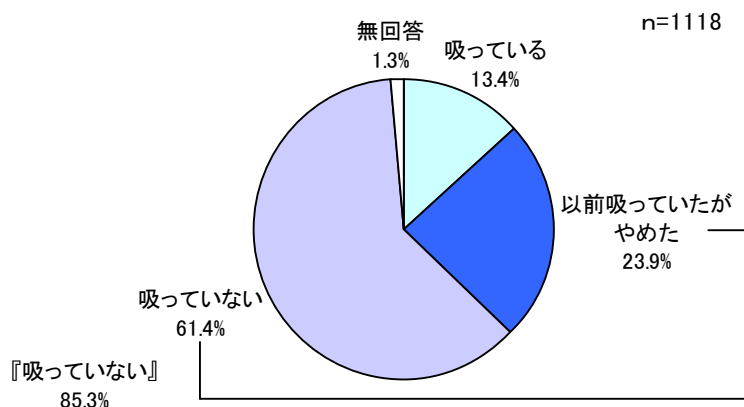
男女それぞれを年齢別で見ると、男女ともに60～64歳代までは年齢が高くなるにつれて「知っている」との回答が多くなっている。男女ともに20歳代で「知っている」割合が他の年齢と比べて大きく下回る。



7 喫煙について

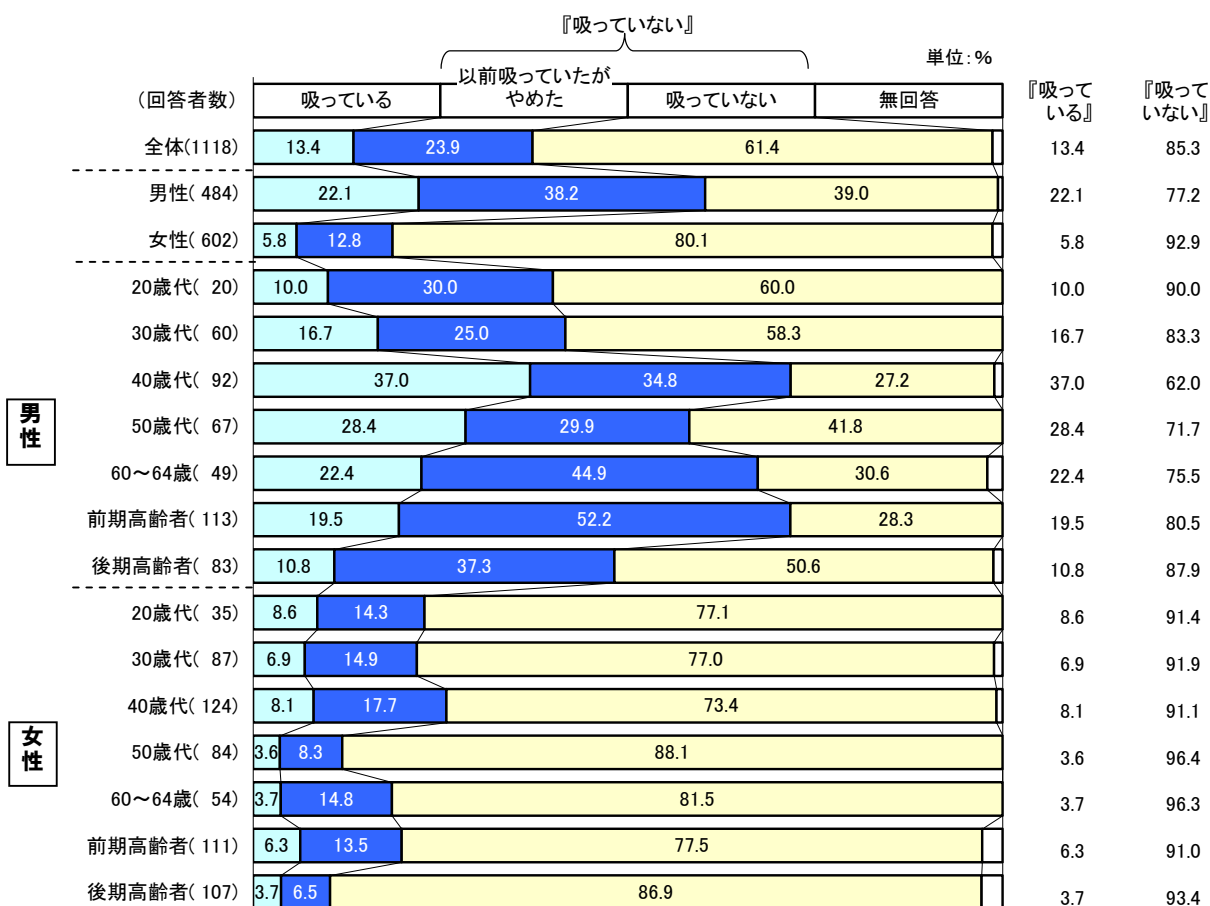
問 17 あなたはたばこを吸っていますか。(1つに○)

「吸っていない」が 61.4%と 6 割以上を占める。「以前は吸っていたがやめた」23.9%と合わせると、85.3%であり、8 割以上の人々が『吸っていない』としている。



【性別・性×年齢別】

「吸っていない」との回答は、女性が 8 割に対し男性が 4 割と、女性が男性を大きく上回る。男女それぞれを年齢別で見ると、「吸っている」との回答は 40 歳代男性が最も多く、4 割近くに達する。一方で、60～64 歳及び前期高齢者の男性では半数近い人が男性では「以前吸っていたがやめた」としている。女性はいずれの年代も「吸っていない」が 7 割以上を占める。



前回調査との比較

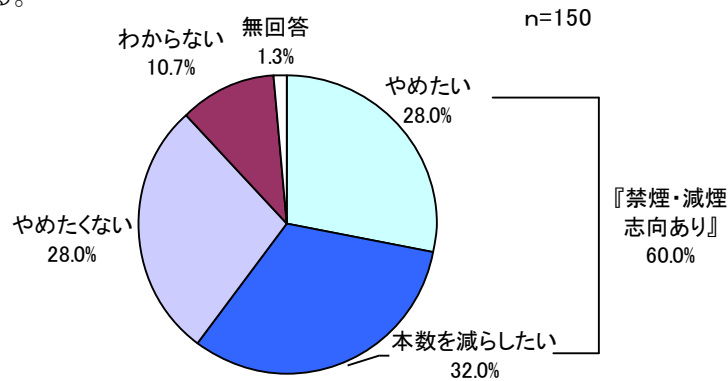
「以前吸っていたがやめた」は6.7ポイント増となっており、それに合わせ「吸っている」は。特に薬局では13.8増と大幅な増加となっている。

(回答者数)	『吸っていない』				『吸っている』	『吸っていない』
	吸っている	以前吸っていたがやめた	吸っていない	無回答		
今回調査(1118)	13.4	23.9	61.4		13.4	85.3
前回調査(1262)	18.1	17.2	61.1		18.1	78.3

単位: %

問 17-1 (問 17 で「1. 吸っている」とお答えの方へ) たばこをやめたいと思いますか。
(1つに○)

「本数を減らしたい」が32.0%で最も多い。「やめたい」と「やめたくない」がともに28.0%と拮抗しているが、「やめたい」と「本数を減らしたい」を合わせた『禁煙・減煙志向あり』の回答は6割となっている。



【性別・年齢別】

「やめたい」との回答は、女性が男性をやや上回る。

年齢別では、「やめたい」との回答は20歳代が4割と最も多く、『禁煙・減煙志向あり』が8割となっている。60~64歳代では、「やめたい」は1割未満にとどまる一方で、「本数を減らしたい」は5割を超え、他の年齢を大きく上回る。

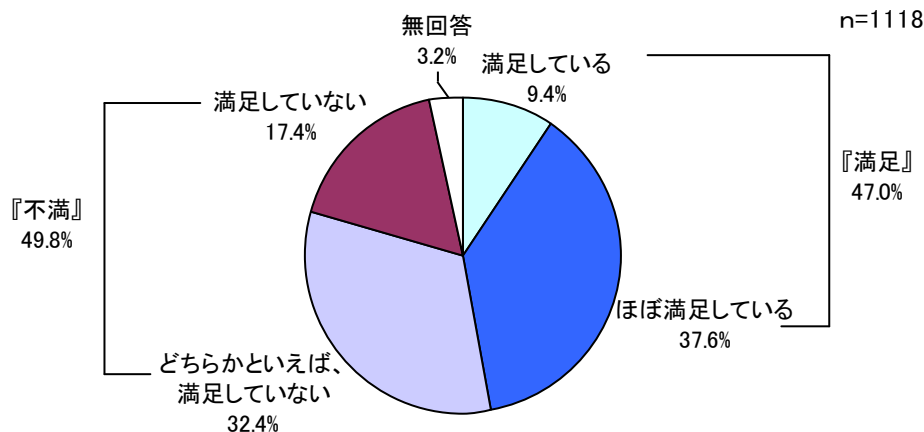
(回答者数)	『禁煙・減煙志向あり』				『禁煙・減煙』
	やめたい	本数を減らしたい	やめたくない	わからない	
全体(150)	28.0	32.0	28.0	10.7	60.0
男性(107)	27.1	33.6	27.1	12.1	60.7
女性(35)	31.4	28.6	28.6	8.6	60.0
20歳代(5)	40.0	40.0	20.0		80.0
30歳代(16)	37.5	18.8	12.5	31.3	56.3
40歳代(45)	24.4	35.6	33.3	6.7	60.0
50歳代(22)	27.3	27.3	31.8	13.6	54.6
60~64歳(13)	7.7	53.8	30.8	7.7	61.5
前期高齢者(32)	34.4	28.1	25.0	12.5	62.5
後期高齢者(14)	28.6	35.7	28.6		64.3

単位: %

8 歯や口腔の健康について

問 18 歯や口腔の状態について満足していますか。(1つに○)

「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足』が 47.0%、「満足していない」「どちらかといえば満足していない」を合わせた『不満』が 49.8%と、『不満』が『満足』をやや上回る。



【性別・年齢別】

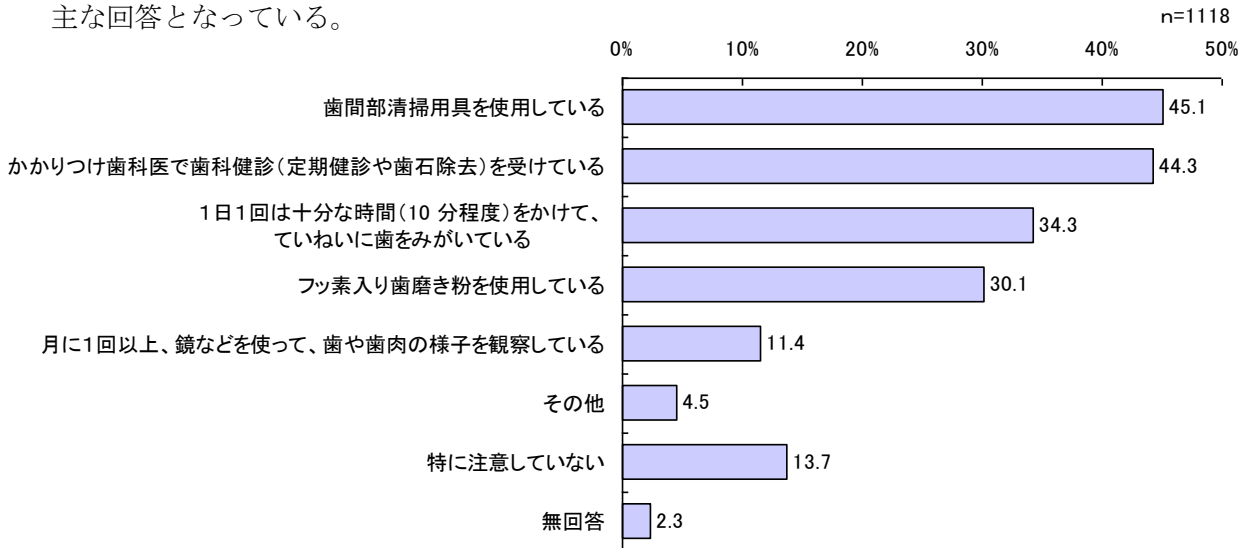
『満足』は、男女ともに4割台半ばと性別による差は見られない。

年齢別では、『満足』は30歳代が最も少なく4割を下回る。60歳以上の高年齢層では『満足』が5割を超え、満足度が高くなっている。

(回答者数)	『満足』		『不満』		無回答	『満足』	『不満』
	満足している	ほぼ満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない			
全体(1118)	9.4	37.6	32.4	17.4		47.0	49.8
男性(484)	8.5	38.4	32.6	18.0		46.9	50.6
女性(602)	9.6	36.7	33.2	17.1		46.3	50.3
20歳代(56)	7.1	41.1	35.7	16.1		48.2	51.8
30歳代(147)	8.2	31.3	39.5	20.4		39.5	59.9
40歳代(217)	4.6	39.2	37.3	16.6		43.8	53.9
50歳代(152)	5.3	40.8	33.6	18.4		46.1	52.0
60~64歳(103)	13.6	37.9	28.2	16.5		51.5	44.7
前期高齢者(232)	11.6	38.8	29.7	16.4		50.4	46.1
後期高齢者(207)	14.0	36.2	25.6	17.9		50.2	43.5

問 19 あなたは日頃、歯や口腔の健康のためにどのようなことに注意していますか。(あてはまるものすべてに○)

「歯間部清掃用具を使用している」45.1%、「かかりつけ歯科医で歯科検診（定期健診や歯石除去）を受けている」44.3%が4割台で多く、次いで「1日1回は十分な時間（10分程度）をかけて、ていねいに歯をみがいている」34.3%、「フッ素入り歯磨き粉を使用している」30.1%が主な回答となっている。



【性別・年齢別】

女性は「歯間部清掃用具の使用」が最も多く、次いで「かかりつけ歯科医で歯科検診」「フッ素入り歯磨き粉の使用」などが多くあげられている。男性は、「かかりつけ歯科医で歯科検診」「十分な時間をかけて歯磨き」「歯間部清掃用具の使用」がいずれも3割台で同程度となっているが、ほとんどの項目で女性の回答の割合を下回り、「特に注意していない」が2割を占める。

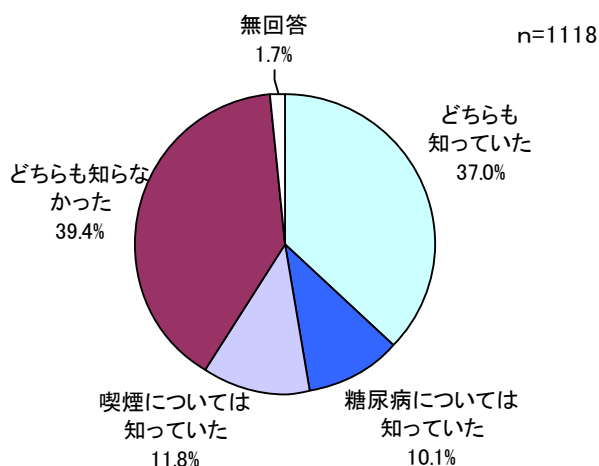
年齢別で見ると、20～40歳代では「歯間部清掃用具の使用」、50歳以上では「かかりつけ歯科医で歯科検診」が最も多くなっている。60～64歳では、「かかりつけ歯科医で歯科検診」「歯間部清掃用具の使用」がともに5割台後半から6割近くと他の年齢を大きく上回り、歯や口腔の健康への高い関心がうかがえる。

単位: %

		回答者数(人)	1日1回は十分な時間(10分程度)をかけて、ていねいに歯をみがいている	月に1回以上、鏡などを使って、歯や歯肉の様子を観察している	かかりつけ歯科医で歯科検診(定期健診や歯石除去)を受けている	歯間部清掃用具を使用している	フッ素入り歯磨き粉を使用している	その他	特に注意していない	無回答
全体		1,118	34.3	11.4	44.3	45.1	30.1	4.5	13.7	2.3
性	男性	484	36.8	9.1	37.6	36.2	22.7	2.9	20.0	1.7
	女性	602	32.2	13.1	49.8	52.7	36.4	5.1	8.8	2.5
年齢	20歳代	56	32.1	14.3	25.0	39.3	28.6	3.6	23.2	0.0
	30歳代	147	34.7	17.0	34.0	42.2	36.1	2.0	19.7	0.7
	40歳代	217	36.4	18.4	40.1	47.9	38.2	1.4	12.9	0.9
	50歳代	152	28.3	9.2	45.4	44.1	31.6	3.3	13.8	0.7
	60～64歳	103	37.9	5.8	61.2	58.3	24.3	3.9	6.8	1.0
	前期高齢者	232	31.9	9.1	50.0	49.6	26.3	6.0	13.4	3.0
	後期高齢者	207	37.7	6.3	46.4	35.3	24.2	9.2	11.6	5.8

問 20 あなたは、糖尿病・喫煙が歯周病のリスクを高めることを知っていましたか。(1つに○)

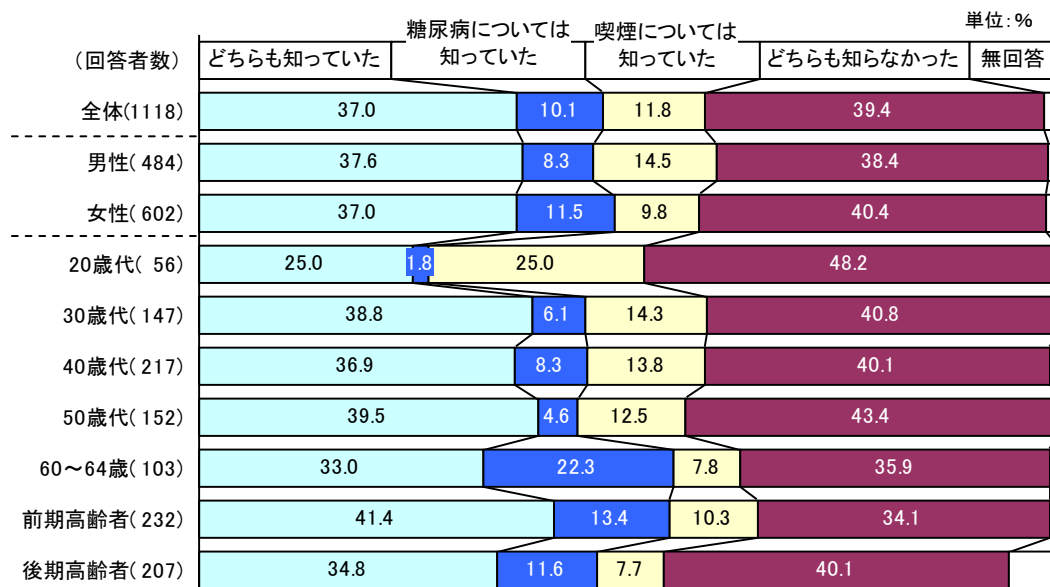
「どちらも知らなかった」39.4%と「どちらも知っていた」37.0%がほぼ同程度となっている。



【性別・年齢別】

男女ともに「どちらも知らなかった」と「どちらも知っていた」が同程度であり、性別による差は見られない。

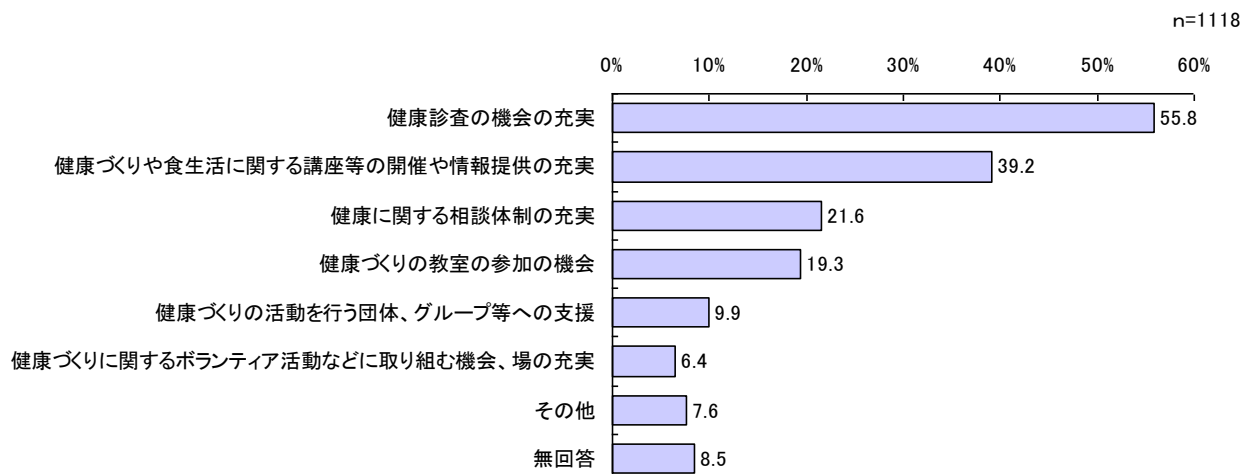
年齢別では、「どちらも知っていた」は前期高齢者の4割台が最も多く、20歳代では2割台と他の年齢に比べ少なくなっている。一方で、20歳代では「喫煙については知っていた」が25%と他の年齢を大きく上回る。



9 健康づくりの取組・施設等について

問 21 あなたが健康な生活を送っていく上で、どのようなことが充実するとよいと思いますか。（3つまでに○）

「健康診査の機会の充実」55.8%が最も多く、次いで「健康づくりや食生活に関する講座等の開催や情報提供の充実」39.2%が主な回答であり、やや差があつて「健康に関する相談体制の充実」21.6%、「健康づくりの教室の参加の機会」19.3%などが続く。



【性別・年齢別】

男女ともに「健康診査の機会の充実」「健康づくりや食生活に関する講座等の開催や情報提供の充実」が多くあげられており、多くの項目で性別による差は見られないが、「健康づくりの教室の参加の機会」のみ、女性が男性の回答を5ポイント以上上回る。

年齢別では、20～30歳代の若い世代と60～64歳で「健康診査の機会の充実」、40歳代～前期高齢者は「健康づくりの教室の参加の機会」、50歳代～前期高齢者は「健康づくりや食生活に関する講座等の開催や情報提供の充実」が他の年代に比べ多くなっている。

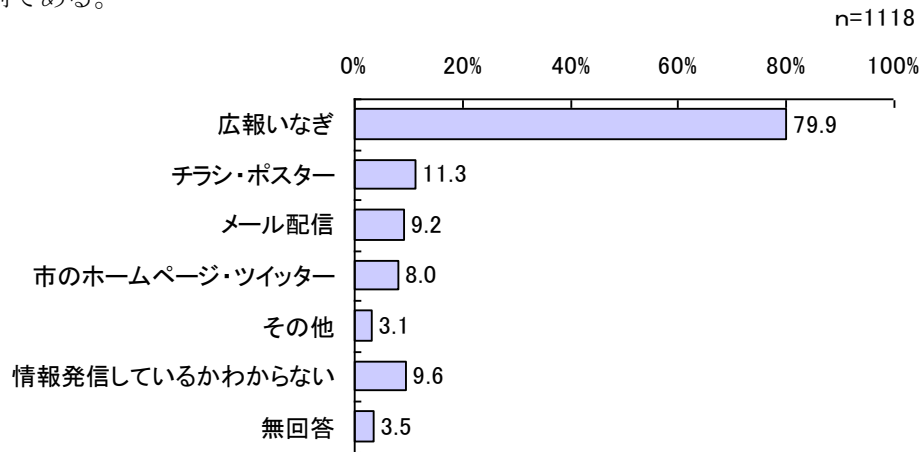
単位：%

		回答者数（人）	健康づくりや食生活に関する講座等の開催や情報提供の充実	健康に関する相談体制の充実	健康診査の機会の充実	健康づくりの活動を行う団体、グループ等への支援	健康づくりに関するボランティア活動などに取り組む機会、場の充実	健康づくりの教室の参加の機会	その他	無回答
全体		1,118	39.2	21.6	55.8	9.9	6.4	19.3	7.6	8.5
性	男性	484	40.1	22.5	55.0	9.5	6.8	15.7	7.9	7.4
	女性	602	39.2	20.9	57.1	10.0	6.1	22.3	7.3	8.6
年齢	20歳代	56	39.3	17.9	60.7	8.9	3.6	8.9	10.7	1.8
	30歳代	147	36.7	15.6	70.7	6.8	5.4	12.9	5.4	3.4
	40歳代	217	34.6	20.7	56.2	8.8	6.5	23.5	7.8	4.6
	50歳代	152	42.8	27.0	56.6	10.5	3.3	23.0	10.5	4.6
	60～64歳	103	51.5	22.3	60.2	14.6	10.7	24.3	5.8	3.9
	前期高齢者	232	41.4	19.4	51.3	12.1	11.2	21.1	5.2	12.9
	後期高齢者	207	34.8	26.1	46.4	8.2	2.9	15.0	9.7	17.4

問 22 稲城市では、健康づくりに関する各種事業を実施しています。

(1) 市で行う健康づくりに関する事業の情報を得る方法は何ですか。

「広報いなぎ」79.9%が圧倒的に多い。「チラシ・ポスター」「メール配信」「市のホームページ・ツイッター」との回答はいずれも1割程度となっている。また、「情報発信しているかわからない」も約1割である。



【性別・年齢別】

性別による大きな差は見られないが「広報いなぎ」は女性に、「情報発信しているかわからない」と「市のホームページ・ツイッター」は男性にやや多い。

年齢別で見ると、40歳代～前期高齢者では「広報いなぎ」が8割以上と多くなっている。30歳代は「市のホームページ・ツイッター」や「メール配信」が他の年齢に比べやや多い。20歳代は、「情報発信しているかわからない」が3割台と他の年齢を大きく上回る一方で、「チラシ・ポスター」との回答もやや多い。

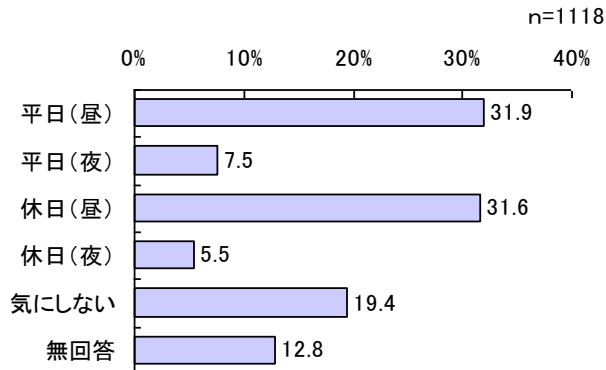
単位: %

		回答者数(人)	広報いなぎ	市のホームページ・ツイッター	メール配信	チラシ・ポスター	その他	情報発信しているかわからない	無回答
全体		1,118	79.9	8.0	9.2	11.3	3.1	9.6	3.5
性	男性	484	77.3	11.2	7.4	11.4	3.1	12.0	3.3
	女性	602	82.4	5.8	10.8	11.5	2.8	7.8	3.0
年齢	20歳代	56	44.6	10.7	0.0	17.9	8.9	32.1	0.0
	30歳代	147	75.5	15.0	17.0	12.9	3.4	13.6	0.0
	40歳代	217	80.6	8.8	16.6	8.8	1.8	10.1	2.3
	50歳代	152	81.6	10.5	9.9	9.9	2.0	11.2	0.7
	60～64歳	103	90.3	11.7	5.8	12.6	2.9	5.8	1.0
	前期高齢者	232	87.1	3.9	6.0	12.1	4.7	3.0	3.4
	後期高齢者	207	78.3	2.4	3.4	10.6	1.9	7.7	10.6

問 22 (2) 市で行う健康づくりの事業に関して、どのような事業に参加してみたいと思いますか。

① 開催日

「平日（昼）」と「休日（昼）」との回答が3割台が多い。また、「気にしない」との回答も2割程度となっている。



【性別・年齢別】

「平日（昼）」は女性、「休日（昼）」と「気にしない」は男性に多くなっている。

年齢別でみると、年齢が高くなるほど「平日（昼）」との回答が多く、20～50 歳代の現役世代で「休日（昼）」との多くなっている。

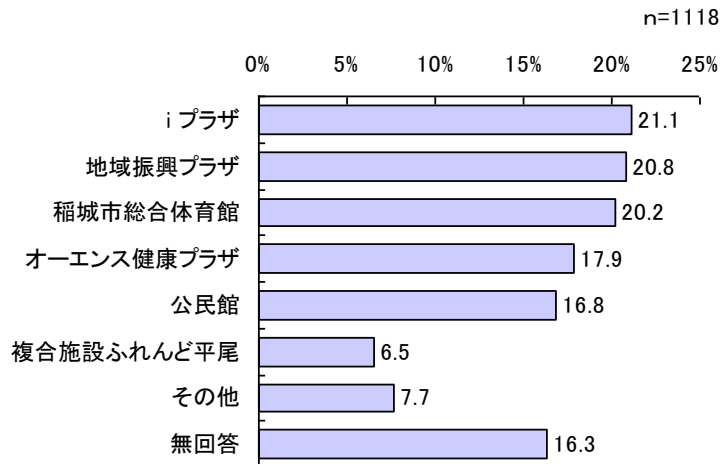
職業別では、主婦・主夫では「平日（昼）」が7割と他の職業と比べ突出して多い。同様に常用勤務者は、「休日（昼）」が6割台半ばと他の職業を大きく上回る。

単位: %

		回答者数 (人)	平日 (昼)	平日 (夜)	休日 (昼)	休日 (夜)	気に しない	無 回答
全体		1,118	31.9	7.5	31.6	5.5	19.4	12.8
性	男性	484	17.1	7.9	36.0	8.3	27.3	11.2
	女性	602	43.4	7.6	28.6	3.5	13.3	13.1
年齢	20歳代	56	16.1	14.3	51.8	3.6	19.6	0.0
	30歳代	147	18.4	11.6	52.4	7.5	13.6	9.5
	40歳代	217	22.1	10.6	46.5	12.9	16.6	7.4
	50歳代	152	23.0	11.2	46.7	7.9	17.1	5.3
	60～64歳	103	41.7	7.8	31.1	2.9	18.4	5.8
	前期高齢者	232	47.0	4.3	11.2	2.2	25.4	15.1
	後期高齢者	207	41.5	0.5	7.7	0.0	21.7	30.0
職業	事業主	73	16.4	13.7	19.2	6.8	32.9	17.8
	常用勤務者	322	4.0	13.0	65.5	11.5	14.0	5.0
	パート・アルバイト	159	38.4	8.2	34.0	5.0	16.4	10.1
	派遣社員・契約社員	61	9.8	18.0	39.3	8.2	21.3	16.4
	主婦・主夫	214	70.1	1.4	12.1	0.9	12.6	9.8
	無職、その他	277	40.4	1.8	7.9	1.4	28.2	23.1

② 場 所

「i プラザ」「地域振興プラザ」「稲城市総合体育館」がともに2割台前半でほぼ同程度となっている。次いで「オーエンス健康プラザ」「公民館」などの順である。



【性別・年齢別・圏域別】

性別による差は見られない。

年齢別で見ると、「i プラザ」は20歳代及び40～50歳代、「オーエンス健康プラザ」は30～64歳までの現役世代に多くあげられている。また、前期高齢者は「複合施設ふれんど平尾」、20歳代と後期高齢者では「公民館」との回答も多い。

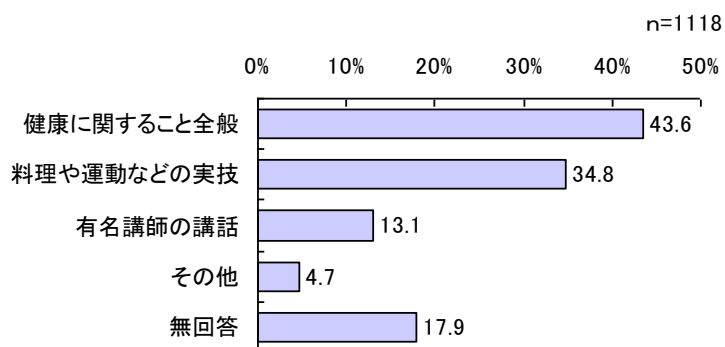
圏域別で見ると、第1地区（坂浜、平尾）は「複合施設ふれんど平尾」に4割台と集中しており、他の施設の回答の割合は低い。第2地区（矢野口、押立）は「地域振興プラザ」「公民館」との回答が多い。第3地区（東長沼、大丸、百村）は「地域振興プラザ」「オーエンス健康プラザ」「公民館」など、他の地区に比べ選択されている施設が多い。第4地区（向陽台、長峰、若葉台）は、「i プラザ」と「稲城市総合体育館」に集中している。

単位：%

	回答者数 (人)	地域振興 プラザ	i プラザ	ラ ー オ ー エ ン ス 健 康 プ ラ ザ	平 尾 複 合 施 設 ふ れ ん ど	公 民 館	稲 城 市 総 合 体 育 館	そ の 他	無 回 答	
全 体	1,118	20.8	21.1	17.9	6.5	16.8	20.2	7.7	16.3	
性	男 性	484	19.4	20.2	17.6	6.4	14.3	22.3	9.1	16.5
	女 性	602	22.3	22.3	18.4	6.8	18.9	19.3	6.6	15.0
年 齢	20歳代	56	16.1	30.4	14.3	0.0	30.4	25.0	8.9	5.4
	30歳代	147	16.3	23.8	28.6	6.8	17.0	17.7	7.5	16.3
	40歳代	217	22.6	30.4	24.0	6.0	12.9	27.2	4.6	10.6
	50歳代	152	19.7	30.3	21.1	2.6	18.4	25.0	8.6	7.2
	60～64歳	103	31.1	27.2	20.4	4.9	15.5	22.3	9.7	5.8
	前期高齢者	232	22.0	13.8	12.1	10.8	12.9	21.6	9.1	18.5
	後期高齢者	207	17.9	5.8	7.7	7.7	21.3	7.7	7.7	33.8
圏 域	第1地区	182	6.0	17.6	6.6	39.0	8.8	12.1	11.0	20.9
	第2地区	276	32.2	9.1	16.7	0.0	26.1	10.5	8.3	19.2
	第3地区	328	32.9	7.6	24.4	0.6	21.0	16.2	7.6	18.9
	第4地区	327	7.3	47.1	18.7	0.0	9.2	37.3	5.5	8.3

③ 内容

「健康に関すること全般」43.6%が最も多く、次いで「料理や運動などの実技」34.8%となっている。



【性別・年齢別】

「料理や運動などの実技」は女性が男性を大きく上回る。反対に「健康に関すること全般」は男性が女性をやや上回る。

年齢別で見ると、「料理や運動などの実技」は若い世代ほど多くあげる傾向にあり、「有名講師の講話」についても同様に、20～30歳代の若い世代で2割近くと多くなっている。

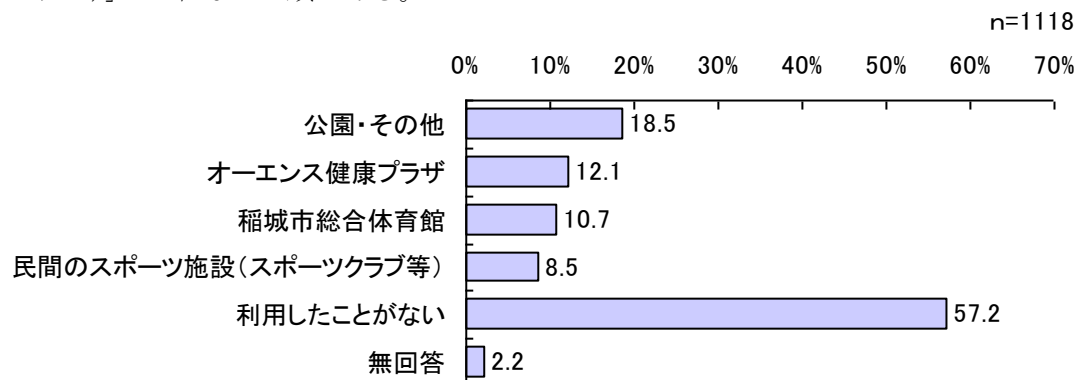
50歳代から前期高齢者では、「健康に関すること全般」が多くなっている。

単位: %

		回答者数 (人)	有名講師の講話	料理や運動などの 実技	健康に関すること 全般	その他	無回答
全体		1,118	13.1	34.8	43.6	4.7	17.9
性	男性	484	13.8	27.5	47.5	5.0	18.0
	女性	602	12.6	41.0	40.9	4.7	16.8
年齢	20歳代	56	19.6	51.8	42.9	1.8	5.4
	30歳代	147	19.0	51.0	29.3	3.4	17.7
	40歳代	217	17.5	45.6	36.9	2.8	13.8
	50歳代	152	13.2	35.5	49.3	5.9	10.5
	60～64歳	103	14.6	39.8	54.4	7.8	6.8
	前期高齢者	232	8.6	25.0	53.4	5.2	16.8
	後期高齢者	207	6.8	15.9	40.6	5.3	36.7

問 23 あなたは、ご自身の健康づくりのために、次の施設を利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

「利用したことがない」が 57.2%と 6 割近い。利用した施設としては、「公園・その他」18.5%、「オーエンス健康プラザ」12.1%、「稲城市総合体育館」10.7%、「民間のスポーツ施設（スポーツクラブ）」8.5%などの順である。



【性別・年齢別・圏域別】

男性の「公園・その他」が女性をやや上回るが、性別による大きな差は見られない。

年齢別では、いずれの年代も「利用したことがない」が最も多いが、20歳代と後期高齢者では6割台と他の年代に比べ多くなっている。30～40歳代の子育て世代では「公園・その他」、50～60歳代では「民間のスポーツ施設」、また30～50歳代は「オーエンス健康プラザ」がやや多い。

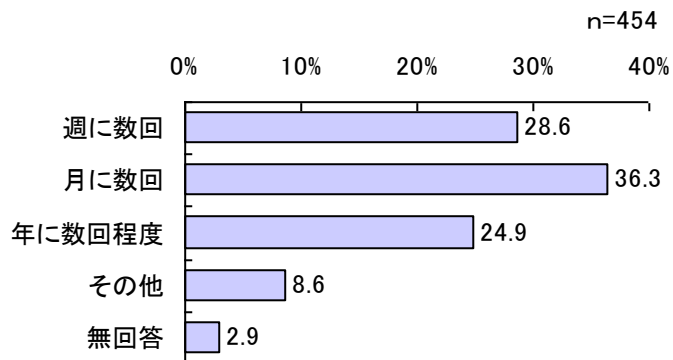
圏域別では、第4地区のみ「利用したことがない」が5割を下回り、いずれの施設も回答の割合が多くなっている。特に、「稲城市総合体育館」は他の地区を大きく上回る。

単位：%

		回答者数（人）	オーエンス健康プラザ	稲城市総合体育館	民間のスポーツ施設（スポーツクラブ等）	公園・その他	利用したことがない	無回答
全体		1,118	12.1	10.7	8.5	18.5	57.2	2.2
性	男性	484	11.6	10.7	7.4	20.7	57.9	2.3
	女性	602	12.5	11.1	9.5	16.8	56.8	1.8
年齢	20歳代	56	7.1	16.1	1.8	10.7	69.6	0.0
	30歳代	147	16.3	5.4	6.1	27.2	51.7	1.4
	40歳代	217	14.3	12.4	6.0	22.1	55.3	0.0
	50歳代	152	14.5	15.1	15.1	15.8	52.6	1.3
	60～64歳	103	11.7	13.6	14.6	16.5	55.3	0.0
	前期高齢者	232	11.2	12.5	10.8	19.4	54.7	2.6
	後期高齢者	207	7.7	4.8	4.3	12.1	67.6	6.3
圏域	第1地区	182	5.5	6.6	7.1	13.7	67.0	2.7
	第2地区	276	13.0	5.4	5.4	14.5	66.7	1.1
	第3地区	328	11.6	6.7	9.8	18.3	56.4	3.7
	第4地区	327	15.6	21.7	10.7	24.5	45.0	0.9

問 23-1 (問 23 で『利用している』とお答えの方へ) あなたは、どれくらいの頻度でそれらの施設を利用しますか。(あてはまるすべてに○)

「月に数回」36.3%、「週に数回」28.6%、「年に数回程度」24.9%などの順である。



【性別・年齢別・圏域別】

女性は「週に数回」、男性は「月に数回」が最も多く、女性の方が施設を利用する頻度は高い傾向にある。

年齢別では、20歳代は「年に数回程度」、30～50歳代は「月に数回」、60歳以上は「週に数回」との回答が最も多く、年齢が高いほど施設の利用頻度が高い傾向にある。

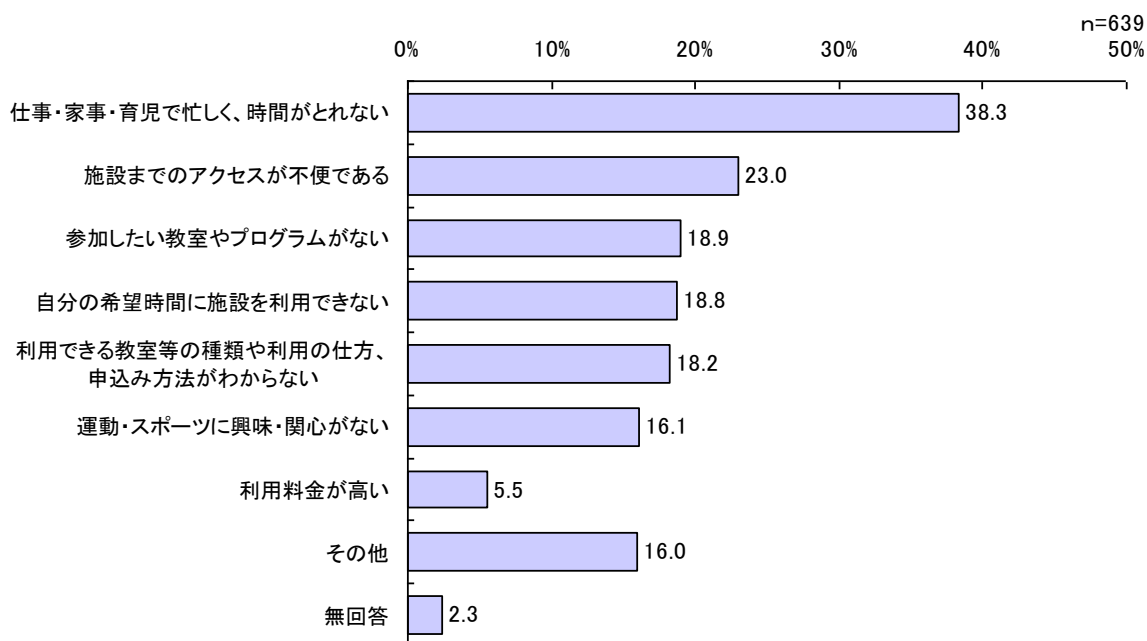
圏域別では、第1地区（坂浜、平尾）と第3地区（東長沼、大丸、百村）では「週に数回」と「月に数回」がともに3割台、第2地区（矢野口、押立）では「年に数回程度」と「年に数回程度」が3割台、第4地区（向陽台、長峰、若葉台）では、「月に数回程度」が4割弱と、施設の利用頻度は地区により差が見られる。

単位: %

		回答者数 (人)	週に 数回	月に 数回	年に 数回 程度	その 他	無 回答
全体		454	28.6	36.3	24.9	8.6	2.9
性	男性	193	25.9	45.1	23.3	6.2	1.6
	女性	249	30.1	29.3	26.9	10.4	4.0
年齢	20歳代	17	17.6	35.3	47.1	0.0	0.0
	30歳代	69	17.4	40.6	31.9	10.1	1.4
	40歳代	97	13.4	42.3	35.1	8.2	2.1
	50歳代	70	25.7	31.4	28.6	12.9	1.4
	60～64歳	46	34.8	34.8	23.9	6.5	0.0
	前期高齢者	99	42.4	33.3	11.1	8.1	7.1
	後期高齢者	54	48.1	31.5	13.0	7.4	3.7
圏域	第1地区	55	36.4	34.5	20.0	9.1	1.8
	第2地区	89	18.0	34.8	30.3	12.4	5.6
	第3地区	131	32.8	33.6	21.4	8.4	4.6
	第4地区	177	28.8	39.0	26.6	6.8	0.6

問 23-2 (問 23 で「利用したことがない」とお答えの方へ) あなたが健康づくりのための施設を利用しない理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

「仕事・家事・育児で忙しく、時間がとれない」38.3%が他の回答を上回る。次いで、やや差があり「施設までのアクセスが不便である」23.0%、「参加したい教室やプログラムがない」18.9%、「自分の希望時間に施設を利用できない」18.8%、「利用できる教室等の種類や利用の仕方、申込み方法がわからない」18.2%などが続く。



【性別・年齢別・圏域別】

女性は「仕事・家事・育児で忙しく、時間がとれない」「施設までのアクセスが不便である」「自分の希望時間に施設を利用できない」が男性を上回り、男性は「利用できる教室等の種類や利用の仕方、申込み方法がわからない」が女性をやや上回る。

年齢別では、20歳～64歳では「仕事・家事・育児で忙しく、時間がとれない」が最も多くあげられている。前期高齢者では「施設までのアクセスが不便である」「参加したい教室やプログラムがない」「仕事・家事・育児で忙しく、時間がとれない」が2割台で同率であり、利用しない理由は多様である。後期高齢者は「運動・スポーツに興味・関心がない」となっている。「施設までのアクセスが不便である」については、40歳代のみ3割台と多い。

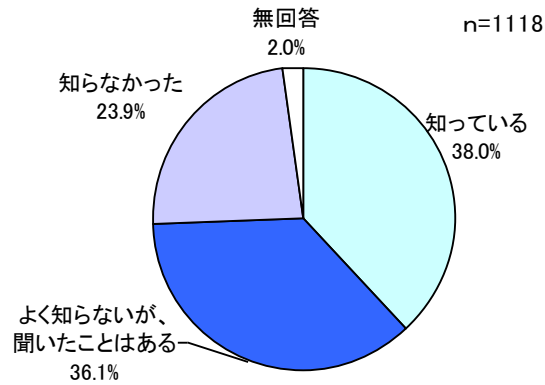
圏域別では、第1地区（坂浜、平尾）のみ「施設までのアクセスが不便である」、その他の地区は「仕事・家事・育児で忙しく、時間がとれない」が最も多くあげられている。

単位：％

		回答者数（人）	自分の希望時間に施設を利用できない	施設までのアクセスが不便である	参加したい教室やプログラムがない	利用できる教室等の種類や利用の仕方、申込み方法がわからない	仕事・家事・育児で忙しく、時間がとれない	運動・スポーツに興味・関心がない	利用料金が高い	その他	無回答
全体		639	18.8	23.0	18.9	18.2	38.3	16.1	5.5	16.0	2.3
性	男性	280	16.1	17.5	19.3	21.1	32.5	17.9	6.4	17.1	2.9
	女性	342	21.3	27.2	17.5	15.5	43.9	14.0	5.0	15.5	1.8
年齢	20歳代	39	23.1	12.8	17.9	28.2	51.3	17.9	7.7	12.8	0.0
	30歳代	76	13.2	27.6	14.5	15.8	64.5	14.5	2.6	6.6	1.3
	40歳代	120	26.7	30.8	18.3	19.2	57.5	11.7	11.7	10.8	0.0
	50歳代	80	28.8	22.5	20.0	23.8	51.3	10.0	8.8	16.3	0.0
	60～64歳	57	29.8	26.3	22.8	19.3	42.1	12.3	5.3	10.5	0.0
	前期高齢者	127	11.8	22.8	22.8	15.7	22.8	20.5	2.4	18.9	3.1
	後期高齢者	140	10.0	15.7	16.4	14.3	9.3	21.4	2.1	25.7	7.1
圏域	第1地区	122	20.5	37.7	16.4	20.5	32.0	15.6	3.3	15.6	5.7
	第2地区	184	20.7	26.1	21.2	16.8	41.3	15.2	6.0	15.2	1.6
	第3地区	185	18.4	17.3	19.5	19.5	35.1	18.9	5.4	16.2	1.1
	第4地区	147	15.6	13.6	17.0	16.3	44.2	14.3	6.8	17.0	2.0

問 24 あなたは「成年後見制度」をご存知ですか。(1つに○)

「知っている」38.0%と「よく知らないが、聞いたことはある」36.1%がほぼ同程度、「知らなかった」は23.9%である。



【性別・年齢別・圏域別】

男女ともに「知っている」と「よく知らないが聞いたことはある」が3割台であり、性別による大きな差は見られない。

年齢別では、60～64歳の5割台をピークに「知っている」との回答が、年齢が高くなるにつれ多くなる傾向にある。後期高齢者の「知っている」は3割台となっている。

(回答者数)	よく知らないが			
	知っている	聞いたことはある	知らなかった	無回答
全体(1118)	38.0	36.1	23.9	2.0
男性(484)	36.4	35.7	25.6	2.3
女性(602)	39.2	36.4	22.9	2.5
20歳代(56)	17.9	26.8	55.4	0.0
30歳代(147)	25.2	38.8	36.1	0.0
40歳代(217)	33.2	37.8	28.1	0.0
50歳代(152)	38.8	38.8	20.4	0.0
60～64歳(103)	52.4	31.1	15.5	0.0
前期高齢者(232)	49.6	38.4	10.8	0.2
後期高齢者(207)	36.7	33.3	24.2	0.8

10 自由記入内容のまとめ

市の今後の「保健福祉」施策への意見等を、自由記入方式でたずねた。その内容を項目別にまとめると、以下のようになる。

分類	件数
健康増進施設の充実や利便性向上	39
感想・感謝、その他	22
アンケートについて	20
政策・施策について	18
自身の健康状態や健康増進について	15
市立病院、医療機関について	12
健康についての悩み・相談体制の充実	11
健康づくり講座・イベントへの要望	11
公共交通機関への要望	11
健康づくりに関する情報発信の充実	9
広報いなぎへのご意見	7
仲間づくり・コミュニティの活性化	7
食生活、食育について	5
喫煙について	1

